

男女共同参画市民アンケート調査
報告書

令和3年12月

呉市

はじめに

呉市では、男女共同参画社会の実現に向け、平成13(2001)年12月に「くれ男女共同参画推進条例」を策定しました。この条例に基づき、平成15(2003)年3月に「くれ男女共同参画基本計画」を策定し、現在は、平成30(2018)年3月に策定した、同基本計画(第3次)改定版に基づいて、様々な施策、事業に取り組んでいます。

この第3次基本計画(改定版)の実施期間が、令和4(2022)年度で満了となることから、次期基本計画を策定する必要があります。

そこで次期計画の策定に必要となるデータや、男女共同参画の推進、女性の職業生活における活躍に対する市民ニーズを調査し、分析するため、今回の市民アンケート調査を実施しました。

皆さまの貴重なご意見を踏まえ、より充実した計画とするとともに、市民や事業者の皆さまに、男女共同参画の推進について理解を深めていただき、ご協力いただくための参考データとして利用するなど、有効に活用してまいります。

最後になりましたが、調査の実施にあたり、ご協力いただきました市民の皆さまに厚くお礼を申し上げます。

令和3(2021)年12月

呉市 市民部 人権・男女共同参画課

目 次

I. 調査の概要

1. 調査の概要	3
(1) 調査の目的	3
(2) 調査対象者及び調査方法	3
(3) 抽出方法の詳細	3
(4) 調査内容	4
(5) 回収結果	4
2. 本報告書の見方について	4
(1) 集計・分析点における留意点	4
(2) 標本誤差について	5
(3) 集計結果の有意性について	5
3. 回答者の属性	6

II. 調査結果のまとめ

1. 家庭生活における男女共同参画について	8
2. 職場における男女共同参画について	8
3. 地域活動，市民活動における男女共同参画について	10
4. 仕事と家庭生活，地域活動，市民活動の両立について	11
5. 子育てについて	12
6. 男女の人権の尊重について	13
7. 男女共同参画等について	14

III. 調査結果の詳細

1. 家庭生活における男女共同参画について	16
(1) 「男は仕事，女は家庭」という考え方（固定的性別役割分担意識）について	16
(2-1) 家庭での役割分担について	19
(2-2) 家庭での役割分担に対する満足度について	32
2. 職場における男女共同参画について	34
(3) 一般的に女性が職業をもつことについて	34
(4) 雇用者の職場の現状について〔複数回答〕	36
(5-1) 管理職への昇進意向について	38
(5-2) 管理職への昇進意向に必要な状況について〔複数回答〕	40
(6) 女性が出産後も同じ職場で働き続けるために必要なことについて〔複数回答〕	42
(7) 育児・介護休業制度を利用する男性が少ない理由について〔複数回答〕	44
(8) 仕事と家庭を両立できる職場環境をつくるために必要なことについて〔複数回答〕	48
3. 地域活動，市民活動における男女共同参画について	50
(9-1) 地域活動や市民活動への参加状況について	50
(9-2) 活動に参加していない理由について〔複数回答〕	54

(10) 地域活動等の現状について〔複数回答〕	56
4. 仕事と家庭生活, 地域活動・市民活動の両立について	58
(11) 生活における優先度で現実がいちばん近いものについて	58
(12) 男性が家事, 育児, 介護等に参加していくために必要なことについて〔複数回答〕	69
5. 子育てについて	73
(13) 子どもの育て方について	73
(14) 子どもに受けさせたい教育(最終学歴)について	84
(15) 父親が子育てに関わることについて〔複数回答〕	86
6. 男女の人権の尊重について	88
(16) 男女の地位について	88
(17) 配偶者や恋人の間で行われた場合, 暴力だと思う行為について	97
(18-1) 配偶者や恋人の間で行われる暴力だと思う行為の経験について	109
(18-2) 配偶者や恋人間の暴力に関する相談状況について〔複数回答〕	112
(19-1) 職場・学校・地域でのセクシュアル・ハラスメントの経験について	113
(19-2) 職場・学校・地域でセクシュアル・ハラスメントされた場合の相談状況について 〔複数回答〕	116
7. 男女共同参画の取り組みについて	118
(20) 男女共同参画に関連する言葉や法律の認知度について	118
(21) 男女共同参画を推進する上で, 力を入れて取り組むべきことについて 〔複数回答〕	131

IV. 自由回答の一覧

1. 自由回答の記入状況	133
2. 分野別意見数	133
3. 自由意見(要約)一部抜粋	134

<資料>

◇調査票

I. 調査の概要

1. 調査の概要

(1) 調査の目的

男女共同参画の推進や、女性の職業生活における活躍に対する市民の意識やニーズを調査し、分析することで、今後の男女共同参画施策の参考とする。

(2) 調査対象者及び調査方法

調査対象	市内に居住する満18歳以上の男女
標本数	2,500
抽出方法	層化無作為抽出法
抽出台帳	住民基本台帳
調査方法	郵送による配布・回収（はがきによる礼状兼督促状を1回送付）
調査期間	令和3年7月28日（水）～9月10日（金）
調査地区	呉市全域

(3) 抽出方法の詳細

①呉市内を、支所を置いていない中央部の区域及び支所管轄区域の18地区に区分し、それぞれを層として計18層（地区）に区分した。

- ・中央 ・吉浦 ・警固屋 ・阿賀 ・広 ・仁方
- ・宮原 ・天応 ・昭和 ・郷原 ・下蒲刈 ・川尻
- ・音戸 ・倉橋 ・蒲刈 ・安浦 ・豊浜 ・豊

②対象者の抽出は、各地区ともに母集団の構成比と同一率とすると調査対象者数が非常に少なくなる地区がある。そのため、上記の各地区（層）には最小60標本、人口規模に応じて最大500標本を配分し、無作為抽出した。各地区（層）における標本数は、下表のとおりである。

地区名	満18歳以上の人口 (母数集団数)	標本数	地区名	満18歳以上の人口 (母数集団数)	標本数
中央	42,675	500	下蒲刈	1,226	60
吉浦	8,527	110	川尻	7,183	90
警固屋	3,829	60	音戸	9,951	125
阿賀	12,777	160	倉橋	4,592	60
広	37,588	450	蒲刈	1,428	60
仁方	5,378	70	安浦	9,016	115
宮原	6,181	80	豊浜	1,172	60
天応	3,303	60	豊	1,563	60
昭和	27,688	320	合計	187,884	2,500
郷原	3,807	60			

(4) 調査内容

- ①家庭生活における男女共同参画について
- ②職場における男女共同参画について
- ③地域活動、市民活動における男女共同参画について
- ④仕事と家庭生活、地域活動・市民活動の両立について
- ⑤子育てについて
- ⑥男女の人権の尊重について
- ⑦男女共同参画等について

(5) 回収結果

	票数	回収率
配布票数	2, 500	—
回収票数	1, 060	42.40%
有効票数	1, 057	42.28%

2. 本報告書の見方について

(1) 集計・分析点における留意点

- ①比率はすべて百分率(%)で表し、小数点第2位以下を四捨五入して算出した。したがって、端数処理のため、合計が100%を上下する場合がある。
- ②「複数回答」とある設問は、1人の回答者が2つ以上の回答を出してもよい設問である。したがって、各回答の合計比率が100%を超える場合がある。
- ③母数となるべき実数は、「n=〇〇〇」として掲載し、各比率はnを100%として算出した。
- ④無回答(回答不明)を除いて集計を行った。そのため区分ごとの標本数の合計(例えば、性別の合計、年代別の合計)が全体の標本数と一致しないことがある。
- ⑤回収されたデータと母集団調査対象の構成比をほぼ同じにするため、ウェイトバックによるサンプル補正集計を行った。このため、報告書内に記載する集計上のサンプル数と、前述1. 調査の概要(5) 回収結果に記載の有効票数とは異なる。また、端数処理の関係でサンプル数と内訳の合計が一致しない場合がある。
※ウェイトとは、各地区の母集団(人口)に対する抽出率を一律とするため、各地区回収数に重み付けとして乗じる係数のこと。抽出率が一律となるように補正することを、ウェイトバックという。
- ⑥本調査と同様の内容の設問を含む、以下の国、呉市の過去調査との比較分析も適宜行っている。ただし、各調査によって調査方法やたずね方、選択肢等に違いが見られる場合もあり、この比較結果のみで単純に「呉市の方が高い・低い」というような結論を導き出すことはできない。しかし、全国と比べた場合の市民の男女共同参画社会に関する意識の位置付けや、意識変化を傾向として大まかに把握することは、今後の男女共同参画社会に関する市の施策を進めるために重要であると考えられる。

調査名	実施主体	調査年月
呉市男女共同参画市民アンケート調査	呉市市民部人権センター	平成23年6~8月
呉市男女共同参画市民アンケート調査	呉市市民部人権センター	平成28年6~7月
男女共同参画社会に関する世論調査	内閣府男女共同参画局	令和元年9月
女性の活躍推進に関する世論調査	内閣府男女共同参画局	平成26年8~9月

(2) 標本誤差について

本調査は、その調査対象となる母集団（呉市に居住する満18歳以上の男女）から一部を抽出した標本（サンプル）の比率、平均、標準偏差等を調べ、これらの値から母集団の比率や平均を推測する、いわゆる「標本調査」である。

したがって、母集団に対する「標本誤差」が生じることになる。

標本誤差は以下の数式で統計学的に算出される（信頼度は95%として信頼区間を算出）。

$$b = \pm 1.96 \sqrt{\frac{N-n}{N-1} \times \frac{P(1-P)}{n}}$$

b = 信頼度95%の標本誤差
 N = 母集団数 (=満18歳以上の男女187,884人)
 n = 有効回答数
 P = 回答比率

【今回の調査における標本誤差早見表】

回答比率(p) 有効回答数(n)	10%または 90%程度	20%または 80%程度	30%または 70%程度	40%または 60%程度	50%程度
100票	±6.0%	±8.0%	±9.1%	±9.7%	±10.0%
500票	±2.6%	±3.5%	±4.0%	±4.3%	±4.4%
1,000票	±1.8%	±2.5%	±2.8%	±3.0%	±3.1%
1,057票	±1.8%	±2.4%	±2.8%	±3.0%	±3.0%
1,500票	±1.5%	±2.0%	±2.3%	±2.5%	±2.5%

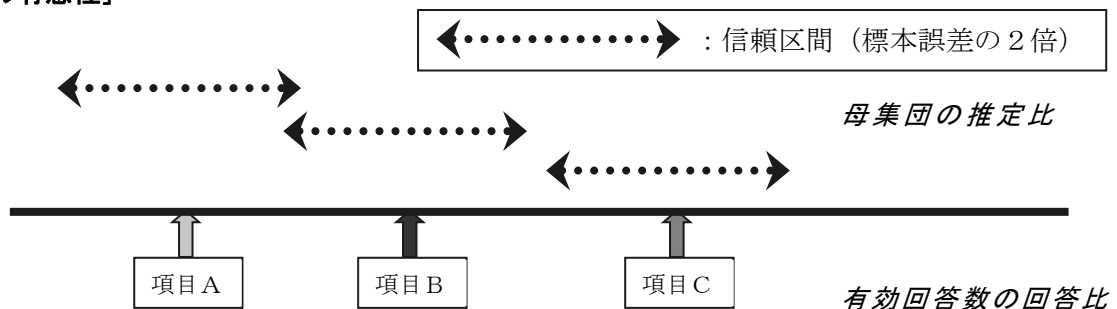
(3) 集計結果の有意性について

前述のとおり、本調査では、母集団への標本誤差が必ず生じる。そのため、どの程度まで意識調査結果に基づく評価ができるのかという有意性が重要な課題となってくる。

本調査で、有効回答数が1,057票であった場合、回答比率がちょうど50%の時の標本誤差は±3.0%となる。したがって、意識調査結果で得た50%という集計結果を実際の母集団の傾向として評価する際には、50%ではなく、50±3.0% (=47.0%~53.0%) という一定の幅を持った値（信頼区間）として取り扱う必要がある。そのため、調査結果の評価をする場合、少なくとも評価対象となる項目の回答比率の差が標本誤差の2倍以上でなければ意味をなさない、つまり有意性を持たないことになる。評価・分析にあたっては信頼区間未満（本調査では6.0%未満）の差異は切り捨てて考える必要がある。

クロス集計はカイ二乗検定により有意水準5%以下は、差異についてコメントを掲載した。

【結果の有意性】



※この場合、項目Cについては、項目A、項目Bそれぞれよりも有意に高いといえるが、項目Bは項目Aよりも有意に高いとはいえない。

3. 回答者の属性

以下の件数はウェイトバック後集計値を示しているため、端処理関係で全体（計）と内訳の件数の合計が一致しない場合がある。

(1) 性別

項目	件数	割合(%)
男性	416	40.8
女性	597	58.5
答えたくない	6	0.6
計	1,020	100.0

(2) 年代

項目	件数	割合(%)
18～29歳	73	7.0
30歳代	91	8.7
40歳代	141	13.5
50歳代	159	15.2
60歳代	217	20.8
70歳以上	362	34.7
計	1,043	100.0

(3) 性年代別

項目		件数	割合(%)
男性	18～29歳	31	3.0
	30歳代	41	4.0
	40歳代	53	5.3
	50歳代	54	5.4
	60歳代	92	9.0
	70歳以上	143	14.1
女性	18～29歳	39	3.9
	30歳代	48	4.7
	40歳代	84	8.3
	50歳代	99	9.7
	60歳代	117	11.6
	70歳以上	208	20.5
答えたくない		6	0.6
計		1,017	100.0

(4) 職業

項目	件数	割合(%)
自営業	58	5.6
家族従事者	14	1.3
正社員・正職員	284	27.5
派遣・契約社員	38	3.7
パートタイマー・アルバイト	153	14.8
家事専業	134	13.0
学生	24	2.3
無職	300	29.0
その他	29	2.8
計	1,034	100.0

(5) 婚姻状況

項目	件数	割合(%)
結婚している	732	70.7
結婚していたが離別・死別した	142	13.7
結婚していない	162	15.6
計	1,036	100.0

(6) 家族構成

項目	件数	割合(%)
1人世帯	140	13.9
夫婦のみの世帯	332	32.9
親と子の世帯	322	32.0
3世代家族(親と子と孫)	45	4.5
母子・父子世帯(60歳未満)	43	4.3
母子・父子世帯(60歳以上)	51	5.0
その他親族と同居の世帯	61	6.0
その他	14	1.3
計	1,007	100.0

(7) 居住地区

項 目	件数	割合(%)
中央	238	22.7
吉浦	47	4.5
警固屋	21	2.0
阿賀	71	6.8
広	209	20.0
仁方	30	2.9
宮原	34	3.3
天応	18	1.8
昭和	154	14.7
郷原	21	2.0
下蒲刈	7	0.7
川尻	40	3.8
音戸	55	5.3
倉橋	26	2.4
蒲刈	8	0.8
安浦	50	4.8
豊浜	7	0.6
豊	9	0.8
計	1,046	100.0

(8) 夫婦の就業状況

項 目	件数	割合(%)
共働き家庭	320	43.7
夫のみ就業家庭	136	18.5
妻のみ就業家庭	50	6.8
夫・妻ともに働いていない	206	28.2
その他	20	2.7
計	732	100.0

(9) 夫婦の就業状況(詳細)

項 目	件数	割合(%)
共に自営業	44	6.1
共に正社員・正職員	75	10.3
夫が正社員・正職員, 妻が非正社員・正職員	127	17.3
その他の共働き家庭	73	10.0
夫が正社員, 妻が非就業	93	12.7
夫が非正社員, 妻が非就業	31	4.3
夫が自営業, 妻が非就業	12	1.6
妻のみ就業家庭	50	6.8
夫・妻ともに働いていない	206	28.2
その他	20	2.7
計	732	100.0

II. 調査結果のまとめ

1. 家庭生活における男女共同参画について

(1) 「男は仕事、女は家庭」という考え方（固定的性別役割分担意識）について

【全体】では、「賛成する」と「どちらかといえば賛成する」を合わせた『賛成派』は20.5%、「反対する」と「どちらかといえば賛成しない」を合わせた『反対派』は66.3%である。『反対派』が『賛成派』を45.8ポイント上回り、その差は前回調査(平成28年 33.4ポイント)より大きくなっている。また『賛成派』は全国調査(令和元年 35.0%)より14.5ポイント低い。

【性別】では、男女とも『賛成派』は前回調査(平成28年)より減少している(男性31.3%→26.7%、女性24.1%→16.3%)。

【性年代別】では、すべての年代で『反対派』が『賛成派』を上回っており、女性30歳代(91.5%)、女性18～29歳(86.9%)で特に高い。

(2-1) 家庭での役割分担について

現在結婚している方のみ(「該当しない」の回答を除く)の回答で、【全体】では、「キ 生活費を得ること」は「主に夫(62.0%)」が最も高く、「ク 重大事項の決定(高額な商品や土地・家屋の購入など)」は「夫・妻で半々(42.2%)」と「主に夫(36.2%)」がともに高い。その他の家庭での役割は「主に妻」が最も高い。

【年代別】では、「キ 生活費を得ること」は、40歳代と50歳代で「主に夫」がそれぞれ69.7%、67.2%と他の年代より高く、これより年代が上がるほど「主に夫」の比率は低くなっている。

「ク 重大事項の決定」は、40歳代で「夫・妻で半々」が52.8%と他の年代より高い。

(2-2) 家庭での役割分担に対する満足度について

現在結婚している方のみ(「該当しない」の回答を除く)の回答で、【全体】では、「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせた『満足層』は78.6%、「不満である」と「どちらかといえば不満である」を合わせた『不満層』が21.3%であり、『満足層』が『不満層』を57.3ポイント上回っている。

【性別】では、男女とも『満足層』が『不満層』を上回るが、男性は『満足層』が96.7%と女性(65.0%)より31.7ポイント高い。

【性・年代別】では、30歳以上のどの年代においても、男性の方が女性より『満足層』が高く、女性の方が『不満層』が高い。

2. 職場における男女共同参画について

(3) 一般的に女性が職業をもつことについて

【全体】では、『家事優先型』が28.8%、『職業継続型』が27.7%、『再就職型』が22.4%である。『職業継続型』は前回調査(平成28年 19.9%)より7.8ポイント増加し、『再就職型』は前回調査(平成28年 29.3%)より6.9ポイント減少している。

【性別】では、男女とも前回調査より『職業継続型』が増加し、『再就職型』が減少した。

【年代別】では、30歳代は『家事優先型』が43.3%と他の年代より高く、『再就職型』が6.6%と低い。40歳代と50歳代は『職業継続型』がそれぞれ37.3%、32.7%と他の年代より高い。

(4) 雇用者の職場の現状について〔複数回答〕

現在お勤めしている方みの回答で、【全体】では、「あてはまるものはない(60.1%)」が最も高く、「仕事の内容・分担に男女差がある(24.3%)」、「募集・採用・配属に男女差がある(18.5%)」が続く。

【性別】では、男性は「仕事の内容・分担に男女差がある(35.2%)」が20.0ポイント、「募集・採用・配属に男女差がある(21.3%)」が5.2ポイント、それぞれ女性より高い。女性は「あてはまるものはない(68.1%)」が16.9ポイント男性より高い。

(5-1) 管理職への昇進意向について

現在お勤めしている方みの回答で、【全体】では、「昇進したい」と「どちらかといえば昇進したい」を合わせた『昇進意向あり』が35.8%、昇進したくない」と「どちらかといえば昇進したくない」を合わせた『昇進意向なし』が64.1%であり、『昇進意向なし』が『昇進意向あり』を28.3ポイント上回っている。

【性別】では、男性は『昇進意向あり(48.6%)』と『昇進意向なし(51.5%)』で意見が2つに分かれている。一方、女性は『昇進意向なし(75.2%)』が『昇進意向あり(24.7%)』を50.5ポイントと大きく上回っている。また、女性は『昇進意向なし』が男性より23.7ポイント高い。

【年代別】では、18～29歳では、『昇進意向あり(59.3%)』が他の年代より高い。

(5-2) 管理職への昇進意向に必要な状況について〔複数回答〕

前問で『昇進意向なし』を選択した方みの回答で、【全体】では、「管理職の仕事が魅力あるものに思えれば(39.0%)」が最も高い。

【性別】では、男性は「管理職の仕事が魅力あるものに思えれば(43.7%)」が女性(36.3%)より7.4ポイント高い。女性は「家族の理解・協力があれば(25.3%)」が男性(4.5%)より20.8ポイント、「育児・介護などが必要なくなれば(21.9%)」が男性(2.2%)より19.7ポイント、「休業・休暇がとりやすければ(36.4%)」が男性(26.4%)より10.0ポイント、それぞれ高い。

【性年代別】では、男性30歳代は「管理職の仕事が魅力あるものに思えれば(69.3%)」が他の年代より高い。女性40歳代、男性30歳代、女性30歳代は、「休業・休暇がとりやすければ」がそれぞれ約4割と他の年代より高い。男女とも40代以下の各年代で「長時間労働がなければ」が高く、また男女とも若年層ほど「給与額が自分の希望に合うなら」が高い。

女性40歳代は「家族の理解・協力があれば(40.6%)」、男性60歳代は「どのような状況でも昇進したいと思わない(50.4%)」が他の年代より高くなっている。

(6) 女性が出産後も同じ職場で働き続けるために必要なことについて〔複数回答〕

【全体】では、「保育所、認定こども園、幼稚園、放課後児童会など、子どもを預けられる環境整備(84.6%)」が最も高く、「男性の家事参加への理解・意識改革(58.8%)」、「職場における育児・介護との両立支援制度の充実(58.0%)」が続く。

【性別】では、女性は「男性の家事参加への理解・意識改革(65.6%)」が男性(51.1%)より14.5ポイント、「職場における育児・介護との両立支援制度の充実(62.1%)」が男性(52.4%)より9.7ポイント、「介護支援サービスの充実(46.1%)」が男性(37.9%)より8.2ポ

イント、それぞれ高くなっており、男女差が大きい。

【年代別】では、全ての年代で「保育所、認定こども園、幼稚園、放課後児童会など、子どもを預けられる環境整備」が最も高い。18～29歳は「男性の家事参加への理解・意識改革(72.7%)」、「女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革(58.7%)」、「男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革(54.6%)」、「育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取扱いの禁止(45.9%)」がそれぞれ他の年代より高い。30歳代は「短時間勤務制度や在宅勤務(テレワーク)などの実施(54.7%)」、60歳未満の各年代は「家事・育児支援サービスの充実(それぞれ4割強)」、60歳代と50歳代は「介護支援サービスの充実(それぞれ52.5%、48.9%)」が他の年代より高い。

(7) 育児・介護休業制度を利用する男性が少ない理由について〔複数回答〕

【全体】では、「職場に迷惑がかかると思うから(65.7%)」が最も高く、「休業取得に対し、職場の理解が得られないから(51.5%)」、「収入減になるから(44.7%)」、「仕事が忙しくて利用できないから(43.3%)」、「制度利用後の待遇面が心配だから(41.7%)」が続く。

【性別】では、女性は「休業取得に対し、職場の理解が得られないから(58.7%)」が16.6ポイント、「制度利用後の待遇面が心配だから(46.1%)」が10.9ポイント、「会社で制度を利用した前例がない、男性が取得した前例がないから(39.0%)」が12.0ポイント、「子育てや介護は、女性の役割だと思うから(25.4%)」が19.2ポイント、それぞれ男性より高い。

【年代別】では、18～29歳と40歳代は「職場に迷惑がかかると思うから」がそれぞれ74.6%、73.6%と他の年代より高く、18～29歳と30歳代は「会社で制度を利用した前例がない、男性が取得した前例がないから」がそれぞれ53.2%、48.3%と他の年代より高い。18～29歳は「休業取得に対し、職場の理解が得られないから(68.6%)」、「収入減になるから(61.2%)」、「男性が育児・介護休業を取得できることを知らないから(26.1%)」が他の年代より高く、30歳代は、「仕事が忙しくて利用できないから(55.7%)」が他の年代より高くなっている。

(8) 仕事と家庭を両立できる職場環境をつくるために必要なことについて〔複数回答〕

【全体】では、「有給休暇等を取得しやすい企業風土をつくること(48.3%)」が最も高く、「育児・介護休業制度を利用しやすくすること(43.2%)」、「経営者や管理職の意識を改革すること(34.8%)」、「在宅勤務やフレックスタイム制度等、柔軟な働き方ができる勤務制度を導入すること(29.8%)」が続く。

【性別】では、男性は「育児・介護休業中の給付金を充実すること(32.2%)」が女性(22.2%)より10.0ポイント高く、女性は「在宅勤務やフレックスタイム制度等、柔軟な働き方ができる勤務制度を導入すること(34.6%)」が男性(24.6%)より10.0ポイント高い。

【年代別】では、18～29歳と60歳代は「育児・介護休業制度を利用しやすくすること」がそれぞれ51.4%、50.3%と他の年代より高い。30歳代は「有給休暇等を取得しやすい企業風土をつくること(63.5%)」が他の年代より高い。

3. 地域活動、市民活動における男女共同参画について

(9-1) 地域活動や市民活動への参加状況について

【全体】では、「参加していない(71.4%)」が「参加している(28.6%)」を42.8ポイント上回っている。前回調査(平成28年)との比較では、「参加している」が6.0ポイント減少し、

前々回調査結果(平成23年 27.2%)とほぼ同様の値となっている。

【性別】では、女性は「参加している(30.4%)」が男性(25.9%)より4.5ポイント高い。

【年代別】では、女性18～29歳、男性18～29歳は「参加している」がそれぞれ5.3%、7.2%と特に低い。女性60歳代、女性50歳代は、「参加している」がそれぞれ38.5%、36.9%と他の年代より高く、また男性の同年代よりも高い。

(9-2) 活動に参加していない理由について〔複数回答〕

前問で「参加していない」を選択した方のみの回答で、【全体】では、「きっかけがないから(38.4%)」、「忙しく、時間がとれないから(36.5%)」が高く、「情報がないから(27.8%)」、「関心がないから(27.6%)」が続く。

【性別】では、男性は「関心がないから(30.8%)」が女性(24.8%)より6.0ポイント高い。

【性年代別】では、男性30歳代、男性50歳代、女性18～29歳は、女性40歳代は、「きっかけがないから」が他の年代より高く、男性50歳代、女性18～29歳、女性30歳代は、「情報がないから」が他の年代より高い。男性18～29歳、男性50歳代、女性30歳代、女性50歳代、女性60歳代は、それぞれ「忙しく、時間がとれないから」が5割以上と他の年代より高い。

(10) 地域活動等の現状について〔複数回答〕

【全体】では、「団体の会長に男性がつき、女性は補助的役職につく慣行がある(30.2%)」が最も高く、「男性の参加が少ない(26.4%)」、「男女が平等に活動している(24.3%)」、「女性は役員等の責任のある仕事につきたがらない(20.8%)」が続く。

【性別】では、女性は「活動の準備や後かたづけ等は、女性がやる慣行がある(22.6%)」が男性(13.6%)より9.0ポイント、「女性は役員等の責任のある仕事につきたがらない(23.7%)」が男性(17.0%)より6.7ポイント、それぞれ高い。

【年代別】では、40歳代は「団体の会長に男性がつき、女性は補助的役職につく慣行がある(48.8%)」、70歳以上は「男性の参加が少ない(34.3%)」と「男女が平等に活動している(31.9%)」、60歳代と70歳以上は「女性は役員等の責任のある仕事につきたがらない(それぞれ26.0%)」が他の年代より高くなっている。

4. 仕事と家庭生活、地域活動、市民活動の両立について

(11) 生活における優先度について

「優先している」「どちらかといえば優先している」を合わせた『優先している(優先する)』と、「優先していない」「どちらかといえば優先していない」を合わせた『優先していない(優先しない)』で分けた場合、【全体】では、「仕事」「家庭生活」「個人の時間」は【現実】【理想】の優先度とも『優先している(優先する)』が『優先していない(優先しない)』より高い。

一方、「地域活動やボランティアなどの市民活動での活動時間」は、【現実】は『優先していない』が『優先している』より高く、【理想】では「どちらともいえない(41.6%)」が最も高く、『優先する(29.7%)』と『優先しない(28.7%)』は意見が分かれている。

また、【現実】【理想】で優先度の差が最も大きいのは、「個人の時間」であり、【理想(75.5%)】が【現実(46.7%)】より28.8ポイント高い。「家庭生活」は16.4ポイント、「地域活動やボランティアなどの市民活動での活動時間」は14.2ポイント、それぞれ【理想】が【現実】より

高い。「仕事」は【現実(63.2%)】と【理想(59.5%)】で優先度の差が見られない。

【性別】では、「仕事」の『優先している(優先する)』は、男性では【現実(74.5%)】より【理想(65.8%)】が低く、女性では【現実(55.4%)】と【理想(55.7%)】で差は見られない。

「家庭生活」の『優先している(優先する)』は、【現実】では女性(70.7%)が男性(56.0%)より高く、【理想】では男女差は見られない。

「個人の時間」は、【理想】では男女差は見られないが、【現実】で『優先していない』は女性(31.8%)が男性(19.1%)より高い。「地域活動やボランティアなどの市民活動での活動時間」は、【現実】【理想】で男女差は見られない。

(12) 男性が家事、育児、介護等に参加していくために必要なことについて〔複数回答〕

【全体】では、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくすること(45.1%)」が最も高く、「仕事以外の時間を多く持てるような勤務制度を普及させること(37.5%)」が、「男性の家事参加に対して抵抗感をなくすこと(33.6%)」が続く。

【性別】では、男性は「仕事以外の時間を多く持てるような勤務制度を普及させること(42.4%)」が女性(34.4%)より8.0ポイント高く、女性は「男性の家事参加に対して抵抗感をなくすこと(37.7%)」が男性(27.3%)より10.4ポイント高い。

5. 子育てについて

(13) 子どもの育て方について

「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせた『賛成派』が高いものは、【全体】では、「イ 男女とも身の回りの家事ができるように育てる(97.9%)」、「ア 男女とも経済的自立ができるように育てる(97.6%)」、「オ 性別に関わらず子どもの個性を大切に育てる(96.5%)」、「ウ 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる(51.8%)」で、いずれも「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせた『反対派』を大きく上回っている。一方、「エ 男は仕事、女は家庭を守るように育てる」については『反対派(68.3%)』が『賛成派(19.5%)』を上回っている。

【性別】では、「ウ 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」について、男性は『賛成派(61.1%)』が女性(46.0%)より15.1ポイント高い。

【性年代別】では、「ウ 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」について、男性は全ての年代で『賛成派』が『反対派』を上回っており、また、男性70歳以上、男性40歳代、男性30歳代は、『賛成派』がそれぞれ71.6%、64.5%、60.2%と、他の年代より高い。

女性は、女性18~29歳と女性30歳代で『反対派』が『賛成派』を上回っており、それぞれ『反対派』の値は56.7%、49.5%と他の年代より高い。

(14) 子どもに受けさせたい教育（最終学歴）について

【全体】では子どもが「男の子の場合」「女の子の場合」とも最も高いのは「大学」だが、「男の子の場合(70.4%)」が「女の子の場合(60.1%)」より10.3ポイント高い。また「短期大学、各種学校、専修学校」は、子どもが「女の子の場合(19.6%)」が「男の子の場合(7.8%)」より11.8ポイント高くなっている。

【年代別】では、40歳代、60歳代、70歳以上は、「短期大学、各種学校、専修学校」について、「女の子の場合」が「男の子の場合」より10ポイント以上高い。また、「大学」について、

60歳代、70歳以上は、「男の子の場合」が「女の子の場合」より10ポイント以上高く、差が大きい。

(15) 父親が子育てに関わることについて〔複数回答〕

【全体】では、「父親も育児を行うことは当然だ(73.7%)」が最も高く、「子どもに良い影響を与える(67.9%)」が「父親自身に良い影響を与える(55.1%)」,「仕事と両立させることは、現実として難しい(31.9%)」が続く。

【性別】では、女性は「父親自身に良い影響を与える(61.7%)」が男性(45.8%)より15.9ポイント,「子どもに良い影響を与える(71.9%)」が男性(62.8%)より9.1ポイント,それぞれ高い。一方、男性は「仕事と両立させることは、現実として難しい(37.3%)」が女性(28.5%)より8.8ポイント,「育児は女性の方が向いている(12.7%)」が女性(6.1%)より6.6ポイント,それぞれ高くなっている。

6. 男女の人権の尊重について

(16) 男女の平等について

【全体】では、「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせた『男性優遇』が高いものは、高い順に「キ 政治や政策決定の場(74.5%)」,「イ 就職や職場(71.7%)」,「ク 社会全体(68.9%)」,「カ 社会の通念や慣習(68.6%)」,「ア 家庭生活(51.0%)」,「オ 法律や制度(41.7%)」である。また、『平等である』は「エ 学校教育(64.8%)」が最も高く,「ウ 地域活動(36.5%)」が続く。

【性別】では、いずれの事柄においても『男性優遇』の回答は女性が5.0~14.3ポイント男性を上回り,また「平等である」の回答は男性が6.4~17.8ポイント女性を上回っている。

「オ 法律や制度」で『男性優遇』の回答は女性(47.6%)が男性(33.3%)より14.3ポイント高く,「平等である」の回答は男性(45.5%)が女性(27.7%)より17.8ポイント高くなっており,男女の差が最も大きい。

(17) 配偶者や恋人の間で行われた場合、暴力だと思ふ行為について

【全体】では、9割以上が「暴力だと思ふ」と回答しているのは「ウ 身体を傷つける可能性のある物等で殴る(98.6%)」と「足でける(93.2%)」である。一方,「キ 何を言っても長時間無視し続ける(64.4%)」と「ク 交友関係や携帯電話等を細かく監視する(66.3%)」は「暴力だと思ふ」が7割未満と低い。

【性別】では,「コ 大声でどなる」について,「暴力だと思ふ」は女性(79.2%)が男性(67.3%)より11.9ポイント高く,男女の差が最も大きくなっている。

(18-1) 配偶者や恋人の間で行われる暴力だと思ふ行為の経験について

【全体】では,「経験がある」が47.6%,「経験はない」は52.4%である。【性別】では,経験の有無については大きな差異はないが,男性は「ク 交友関係や電話・メール等を細かく監視する」を除き,「したことがある」が「されたことがある」より多く,女性は全ての行為で「されたことがある」が「したことがある」より多くなっている。

【性年代別】では,「経験がある」は女性40歳代(59.0%),男性50歳代(58.7%),男性70歳以上(56.6%)で他の年代より高い。

(18-2) 配偶者や恋人間の暴力に関する相談状況について〔複数回答〕

前問で配偶者や恋人間の暴力の経験がある方みの回答で、【全体】で最も高かったものは「どこ(だれ)にも相談しなかった(66.9%)」であり、「公的機関に相談した」は1.7%と少ない。

【性別】でも男女ともに「どこ(だれ)にも相談しなかった」が最も高く、また、男性(79.1%)が女性(57.4%)より21.7ポイント高い。女性は「友人・知人に相談した」が28.7%、「親族に相談した」が24.6%でいずれも男性(それぞれ11.1%, 9.9%)に比べて高い。

(19-1) 職場・学校・地域でのセクシュアル・ハラスメントについて

【全体】では「経験がある」が39.7%、「経験はない」が60.3%である。【性別】では、女性は「経験がある(46.6%)」が男性(30.7%)より15.9ポイント高い。【性年代別】では、女性40歳代(64.6%)、女性18~29歳(61.4%)、女性30歳代(53.5%)は、「経験がある」がそれぞれ他の年代より高く、男性50歳代(49.5%)と男性40歳代(46.6%)は他の男性の年代より高くなっている。

行為別では、各行為とも「経験はない」が「経験がある」より高いが、「経験がある」が多い行為としては「エ 容姿について傷つくようなことを言われた(全体:22.2%, 男性:18.9%, 女性:25.2%)」が全体、男女ともに最も高い。「ウ 「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた(全体:18.3%, 男性:14.4%, 女性:21.0%)」は全体、男性で2番目に高く、「ク 身体を触られた、または接触された(全体:15.3%, 男性:5.1%, 女性:22.8%)」は全体で3番目、女性で2番目に高い。

(19-2) 職場・学校・地域でセクシュアル・ハラスメントされた場合の相談状況について〔複数回答〕

前問で「職場」、「学校」、「地域」のうち、1つでも「経験がある」方みの回答で、【全体】で最も高いのは「どこ(だれ)にも相談していない(56.0%)」で、「友人・知人に相談した(27.3%)」、「親族に相談した(17.9%)」と続く。「公的機関に相談した」は2.0%と少ない。

【性別】でも男女ともに「どこ(だれ)にも相談していない」が最も高く、また、男性(67.6%)が女性(50.6%)より17.0ポイント高い。女性は「友人・知人に相談した」が34.2%、「親族に相談した」が20.9%でいずれも男性(それぞれ12.9%, 12.3%)に比べて高い。

7. 男女共同参画等について

(20) 男女共同参画等に関連する言葉や法律の認知度について

【全体】で最も認知度が高いものは「シ 選択的夫婦別姓」で、「内容まで知っている」と「聞いたことはあるが内容は知らない」を合わせた『知っている』は84.0%である。次に『知っている』が高いものとしては、「カ 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)(80.3%)」、「ク ジェンダー(70.5%)」、「オ 雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律(男女雇用機会均等法)(67.4%)」、「サ パートナーシップ制度(67.2%)」、「ア 男女共同参画社会(66.2%)」、「コ L G B T (60.9%)」が続く。

「知らない」が高いものとしては、「ウ 呉市男女共同参画都市宣言(74.1%)」、「イ くれ男女共同参画基本計画(71.6%)」、「エ 男女共同参画社会基本法(59.9%)」となっている。

【性別】では、「シ 選択的夫婦別姓」について、「内容まで知っている」が女性(40.7%)

は男性(31.3%)より9.4ポイント高い。

(21) 男女共同参画を推進する上で、力を入れて取り組むべきことについて〔複数回答〕

【全体】では、「子育て支援の充実(52.9%)」が最も高く、「男女共同参画に関する情報の提供(50.5%)」「高齢者や障害のある人への支援の充実(49.9%)」,「相談窓口の充実(48.5%)」が続く。

【性別】で女性が男性より高いものとしては、「相談窓口の充実(男性：45.3%, 女性：50.5%)」,「就職・再就職や起業等による女性の就業支援の充実(男性:32.3%, 女性:37.8%)」である。

【年代別】では、70歳以上を除く各年代(50歳代は「相談窓口の充実」52.7%と並び)で、「子育て支援の充実」と回答した割合が最も高い。

Ⅲ. 調査結果の詳細

1. 家庭生活における男女共同参画について

(1) 「男は仕事、女は家庭」という考え方（固定的性別役割分担意識）について

問1 「男は仕事、女は家庭」といった性別によって男女の役割を固定する考え方（固定的性別役割分担意識）についてあなたの考えを教えてください。○は1つだけ

『賛成派』 全体 20.5% 男性 26.7% 女性 16.3% ⇒ 男性の方が高い
 『反対派』 全体 66.3% 男性 61.0% 女性 70.2% ⇒ 女性の方が高い

※「賛成する」と「どちらかといえば賛成する」を合わせて『賛成派』、「反対する」と「どちらかといえば賛成しない」を合わせて『反対派』とする。

【全体】

「賛成する」と「どちらかといえば賛成する」を合わせた『賛成派』は20.5%、「反対する」と「どちらかといえば賛成しない」を合わせた『反対派』は66.3%であり、『反対派』が『賛成派』を45.8ポイント差と大きく上回っている。

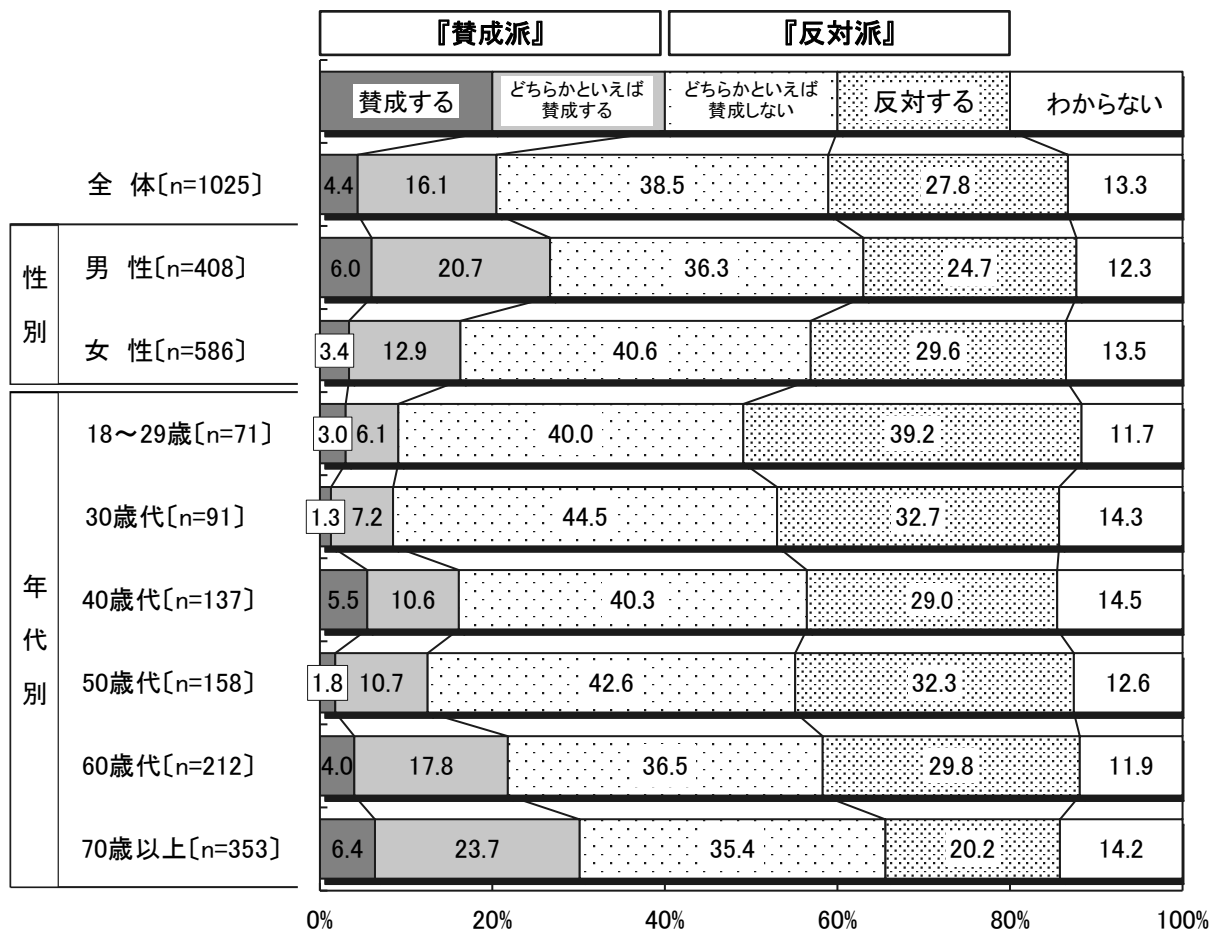
【性別】

男性は『賛成派』が26.7%、『反対派』が61.0%、女性は『賛成派』が16.3%、『反対派』が70.2%と、男女ともに『反対派』が『賛成派』を大きく上回っている。

【年代別】

18～29歳、30歳代は『反対派』がそれぞれ79.2%、77.2%と高い。どの年代も『反対派』が『賛成派』を上回っているが、70歳以上は『反対派』が55.6%と他の年代と比較して最も低い。

1-1 図 「男は仕事、女は家庭」という考え方について〔全体・性別・年代別〕

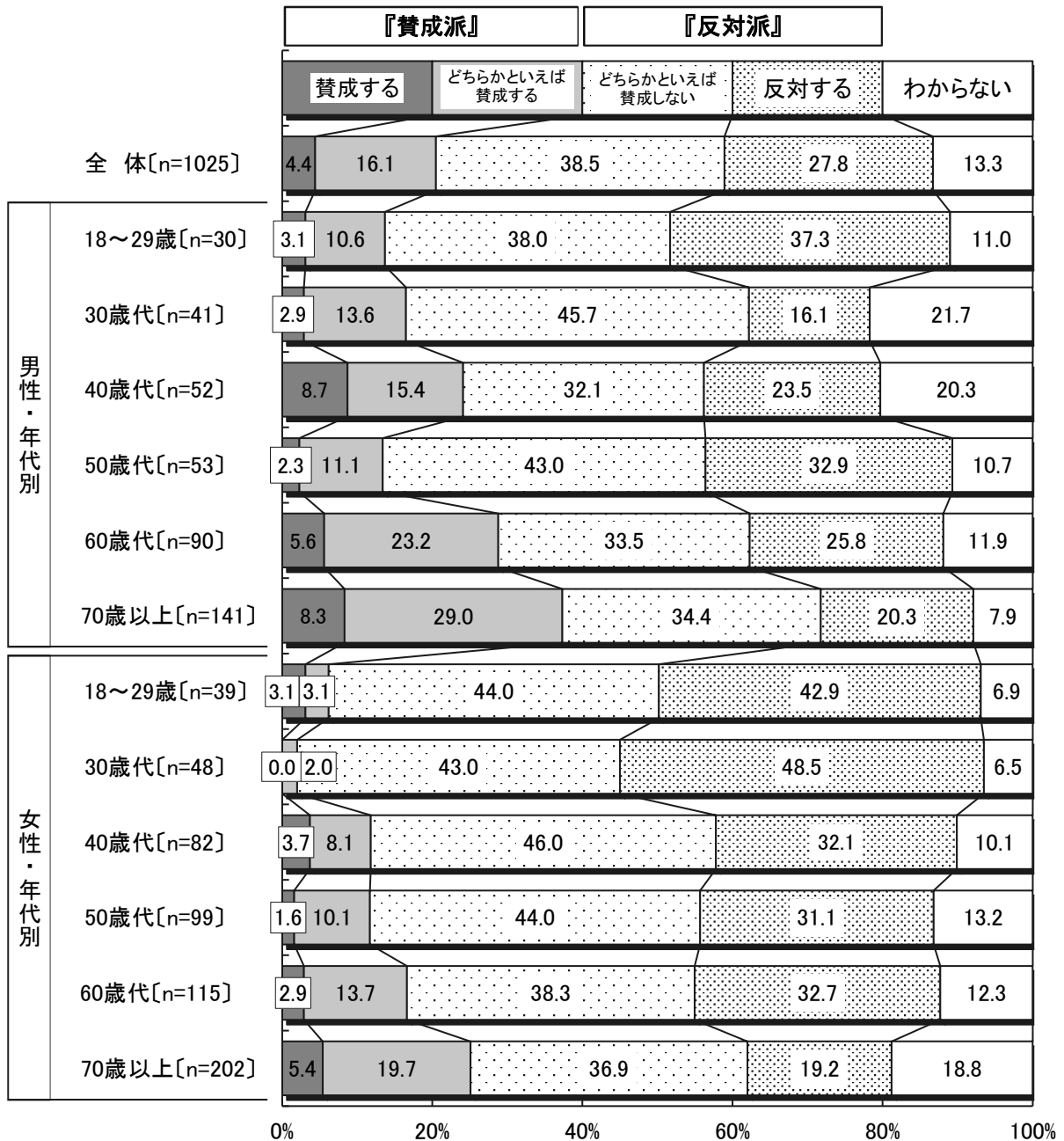


【性年代別】

すべての年代で『反対派』が『賛成派』を上回っている。

女性は若年層で『反対派』が高く、女性30歳代、女性18～29歳は『反対派』がそれぞれ91.5%、86.9%と高い。男性は、男性18～29歳、男性50歳代で『反対派』がそれぞれ75.3%、75.9%と他の男性の年代より高くなっている。

1-2 図 「男は仕事、女は家庭」という考え方について〔性年代別〕

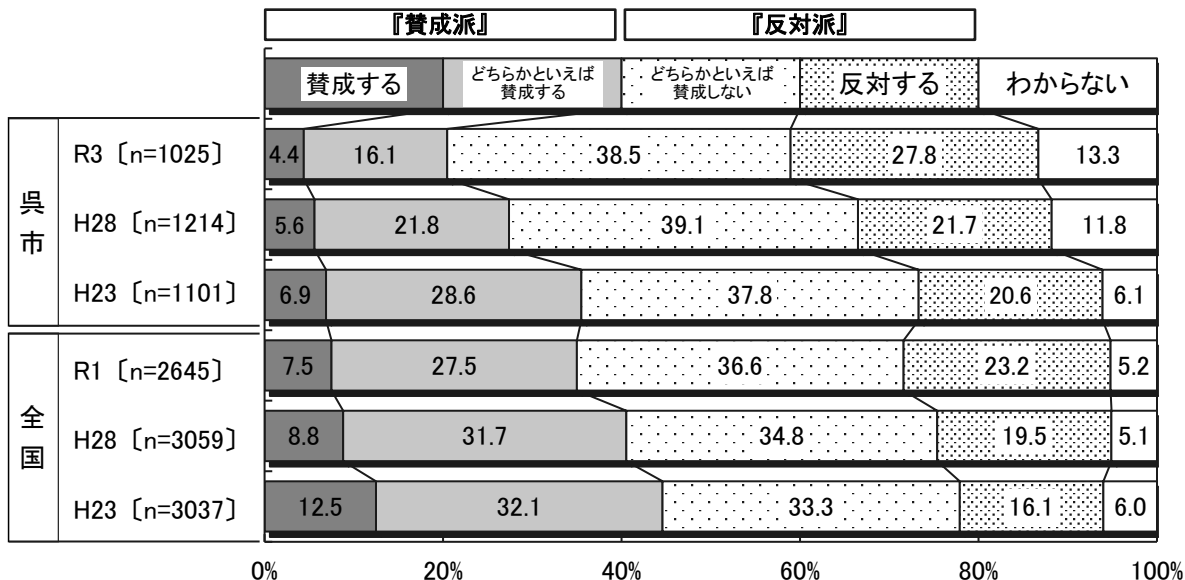


＜参考＞ 全国調査結果，呉市の過去の調査結果との比較

【全体】

平成28年実施の調査結果と比較すると、『賛成派』は、27.4%から20.5%と6.9ポイント減少している。また、令和元年全国調査の『賛成派』は35.0%であり、全国調査より『賛成派』は14.5ポイント低い。

◆「男は仕事，女は家庭」という考え方について 全国との比較〔全体〕

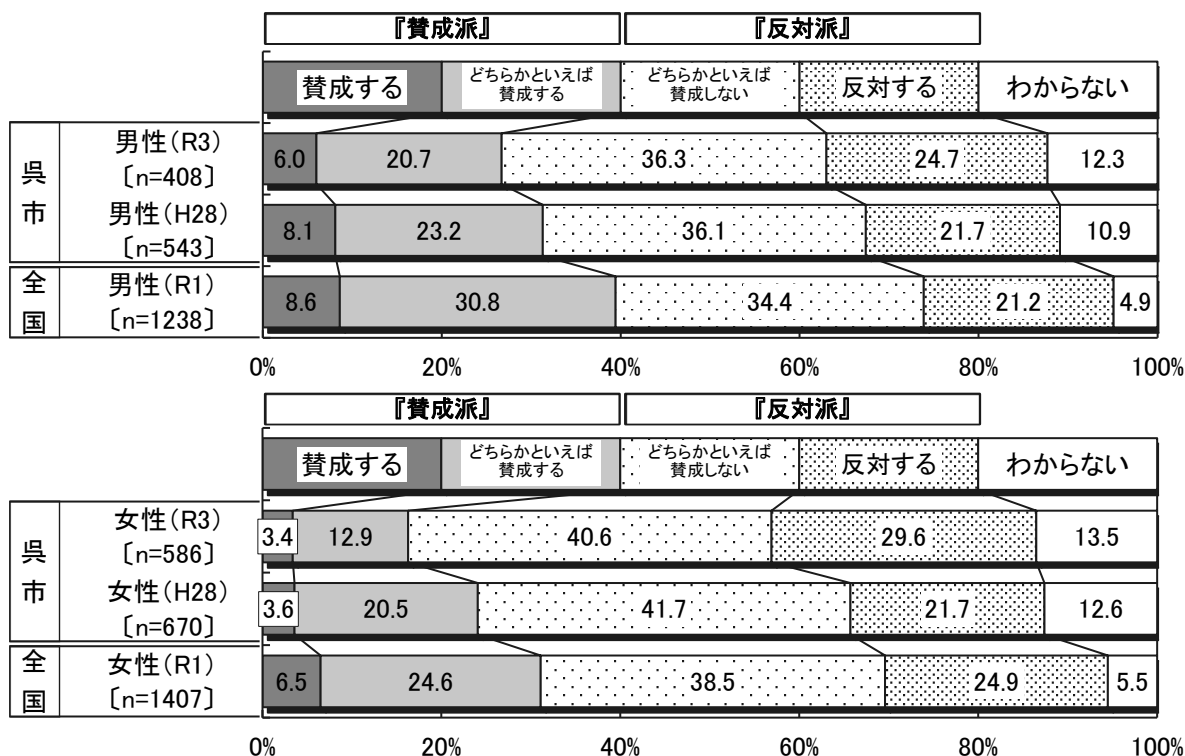


【性別】

平成28年実施の調査結果と比較すると、男女ともに『賛成派』は減少しており、男性は31.3%から26.7%に4.6ポイント、女性は24.1%から16.3%に7.8ポイント、それぞれ減少した。

全国調査との比較では、男性は12.7ポイント、女性は14.8ポイント、それぞれ全国調査より『賛成派』が低くなっている。

◆「男は仕事，女は家庭」という考え方について 全国との比較〔性別〕



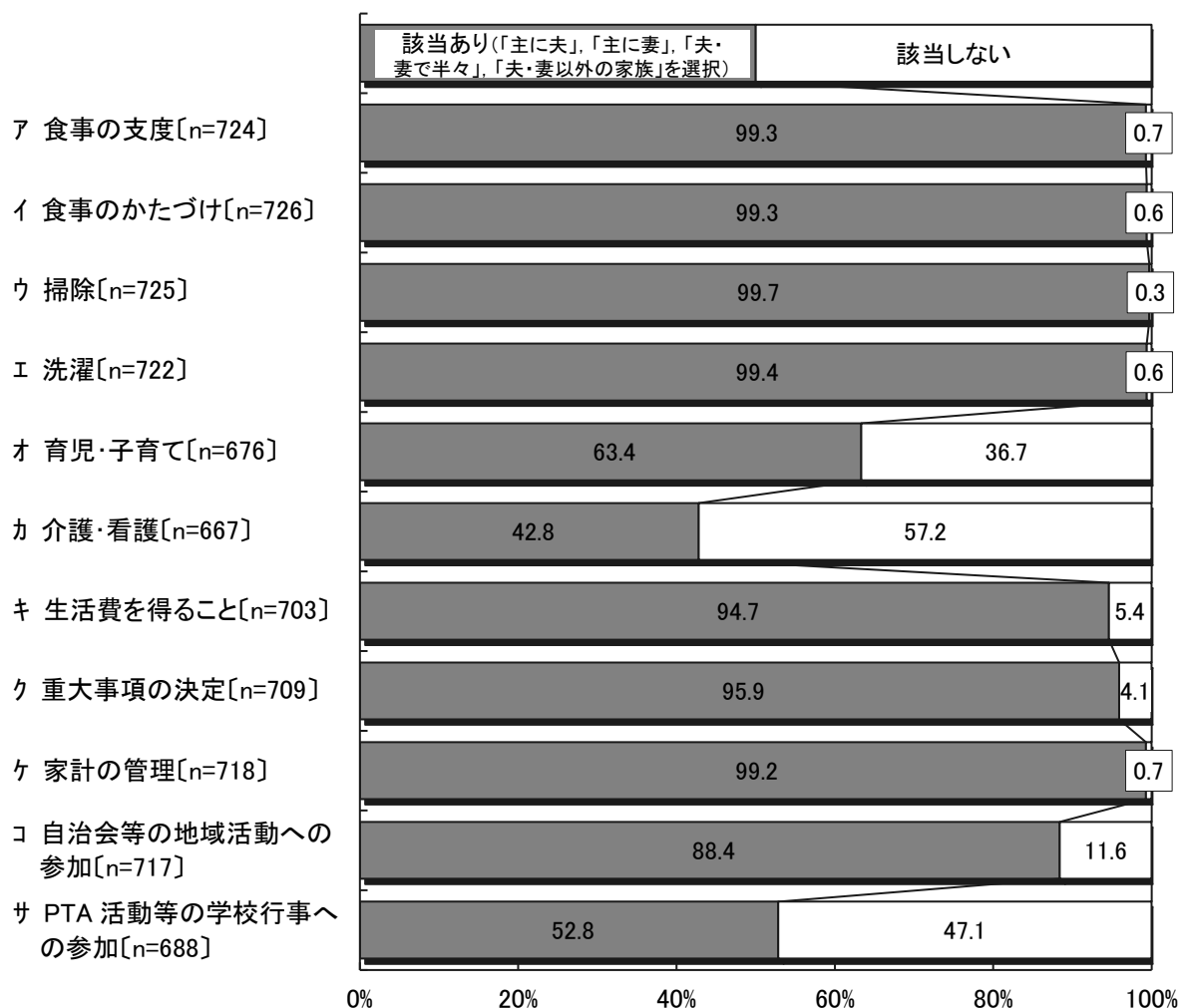
(2-1) 家庭での役割分担について

問2-1 あなたの家庭の役割分担は、どのようにしていますか。
それぞれについて1～6のいずれかに○

「該当しない」が高い⇒「介護・看護」57.2%、
「PTA活動等の学校行事への参加」47.1%、
「育児・子育て」36.7%、
「自治会等の地域活動への参加」11.6%
その他の7項目については、現在結婚している方の9割以上で該当

現在結婚している方のみ

2(1)-1図 家庭の役割分担について〔全体〕



「主に夫」⇒「生活費を得ること」
 「夫・妻で半々」「主に夫」が高い⇒「重大事項の決定（高額な商品の購入など）」
 「主に妻」⇒「食事の支度」「学校行事への参加」「洗濯」など9項目。
 依然として家庭での役割分担の大部分を「主に妻」が担当。

■「主に妻」が最も高い

ア	食事の支度	83.9%
サ	PTA活動等の学校行事への参加	79.1%
エ	洗濯	76.3%
イ	食事のかたづけ	71.8%
ケ	家計の管理	71.5%
ウ	掃除	67.0%
オ	育児・子育て	61.2%
カ	介護・看護	57.9%
コ	自治会等の地域活動への参加	51.0%

■「主に夫」が最も高い

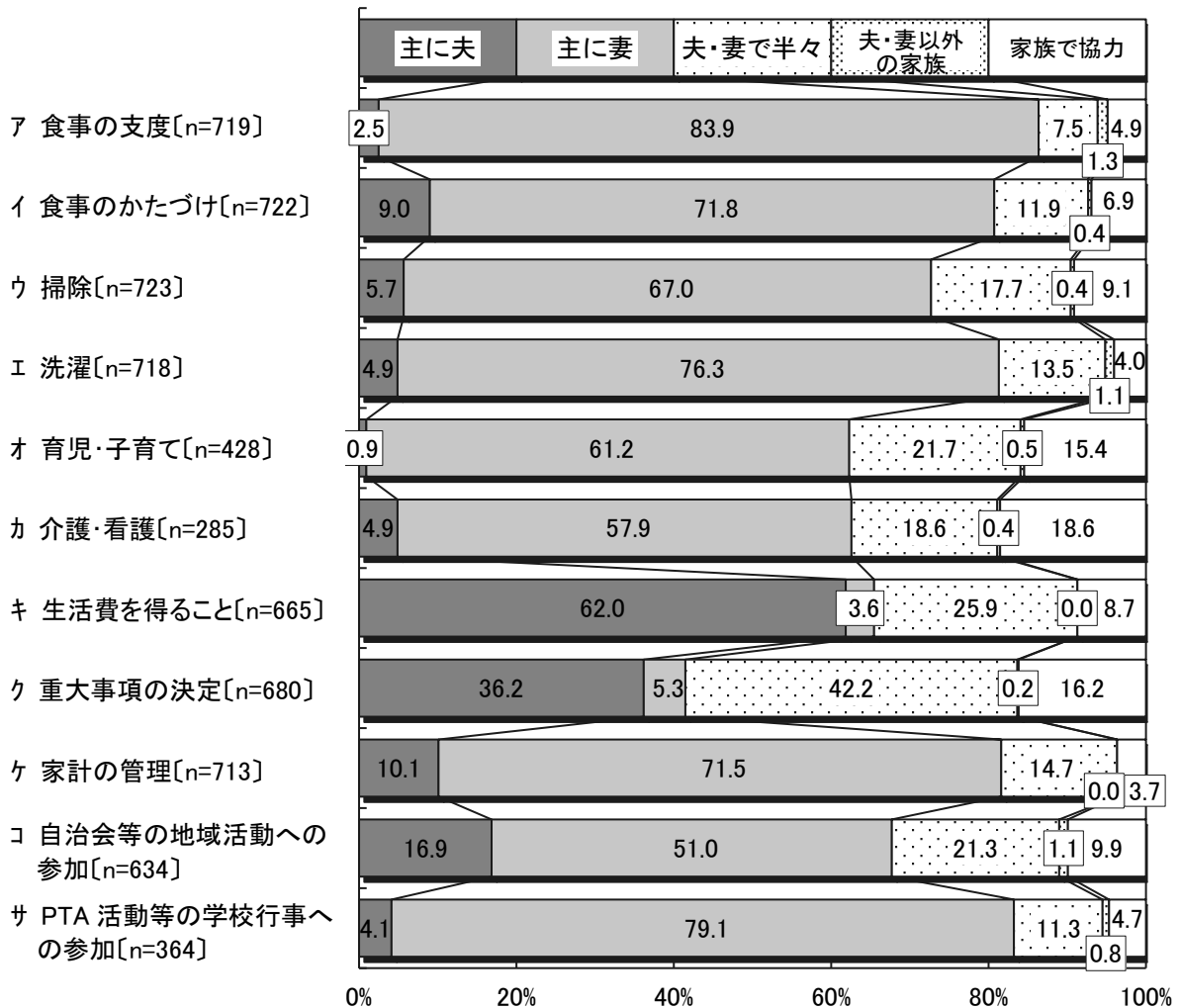
キ	生活費を得ること	62.0%
---	----------	-------

■「夫・妻で半々」「主に夫」が高い

ク	重大事項の決定 (高額な商品や土地・家屋の購入など)	
※	「夫・妻で半々」:	42.2%
※	「主に夫」:	36.2%

現在結婚している方のみ（「該当しない」と回答を除く）

2(1)-2図 家庭の役割分担について〔全体〕



ア 食事の支度

「主に妻」が83.9%と最も高い

【全体】

「主に妻」が83.9%と最も高く、「夫・妻で半々」が7.5%「家族で協力」が4.9%と続く。

【性別】

特に大きな差異はない。

【年代別】

特に大きな差異はない。

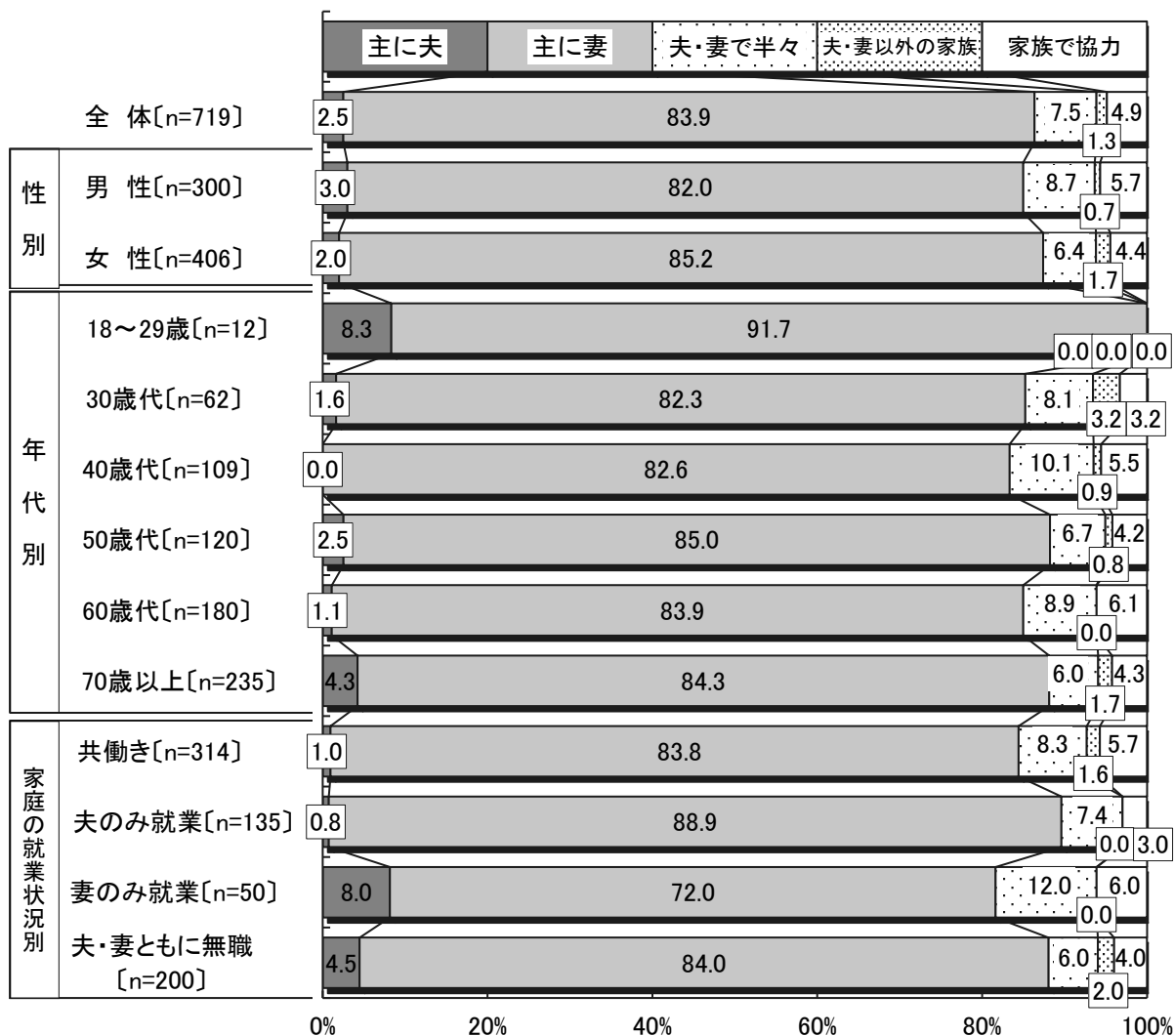
【家庭の就業状況別】

妻のみ就業家庭は、「主に夫」が8.0%と他の就業状況より高い。

夫のみ就業家庭は、「主に妻」が88.9%と他の就業状況より高い。

現在結婚している方のみ（「該当しない」と回答を除く）

2(1)~3図 家庭の役割分担について ア 食事の支度〔全体・性別・年代別・家庭の就業状況別〕



イ 食事のかたづけ

「主に妻」が71.8%と最も高い

【全体】

「主に妻」が71.8%と最も高く、「夫・妻で半々」が11.9%、「主に夫」が9.0%と続く。

【性別】

女性は、「主に妻」が76.1%と男性の65.8%より10.3ポイント高い。

【年代別】

30歳代は、「夫・妻で半々」が19.0%と他の年代より高い。

※18～29歳は、標本数が少ないので参考掲載、分析対象からは除外。

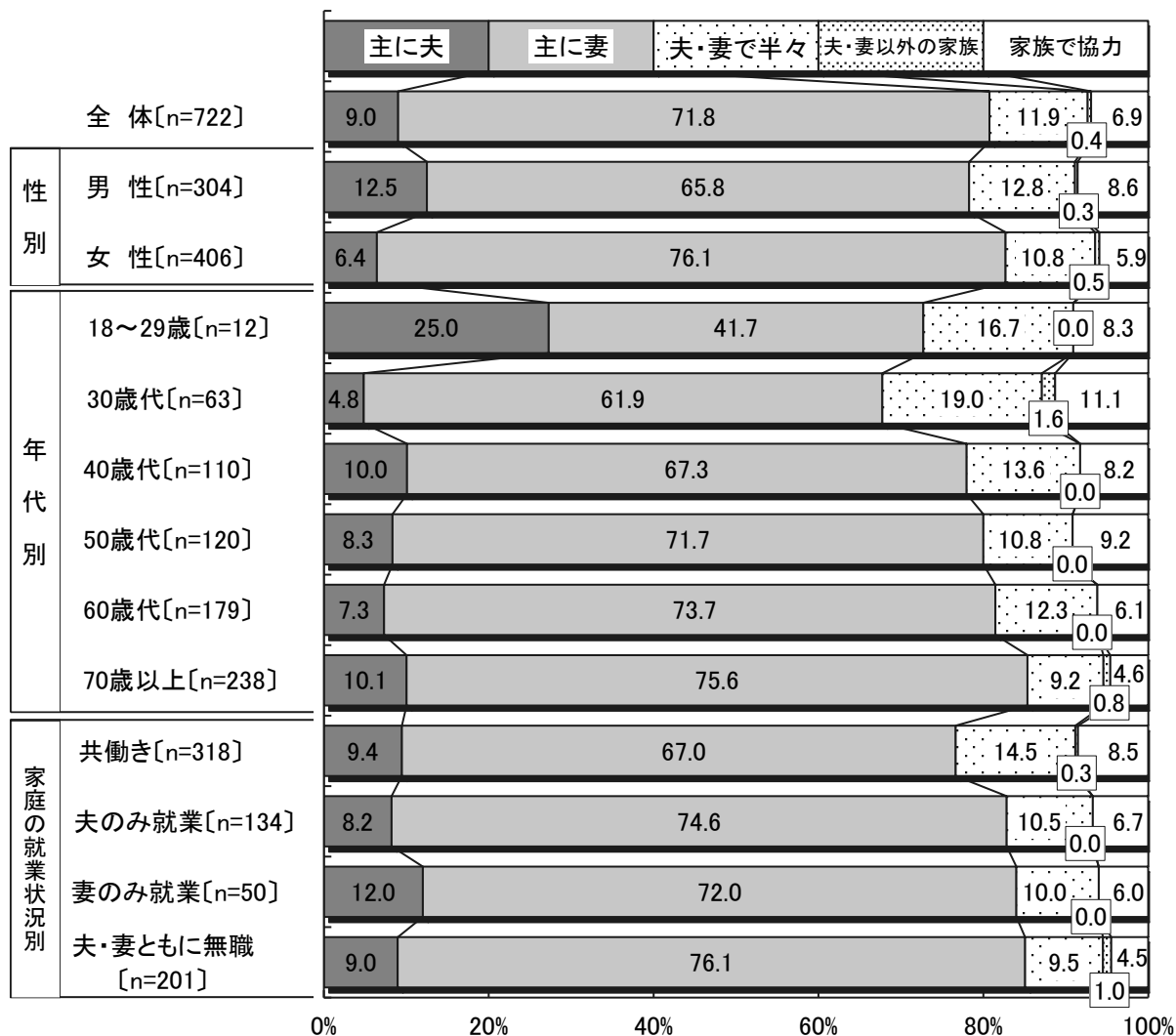
【家庭の就業状況別】

特に大きな差異はない。

現在結婚している方のみ（「該当しない」と回答を除く）

2(1)-4図 家庭の役割分担について イ 食事のかたづけ

〔全体・性別・年代別・家庭の就業状況別〕



ウ 掃除

「主に妻」が67.0%と最も高い

【全体】

「主に妻」が67.0%と最も高く、「夫・妻で半々」が17.7%、「家族で協力」が9.1%と続く。

【性別】

女性は、「主に妻」が72.3%と男性の60.6%より11.7ポイント高い。

男性は、「夫・妻で半々」が20.5%と女性の15.5%より5.0ポイント高い。

【年代別】

30歳代は、「夫・妻で半々」が25.4%と他の年代より高い。

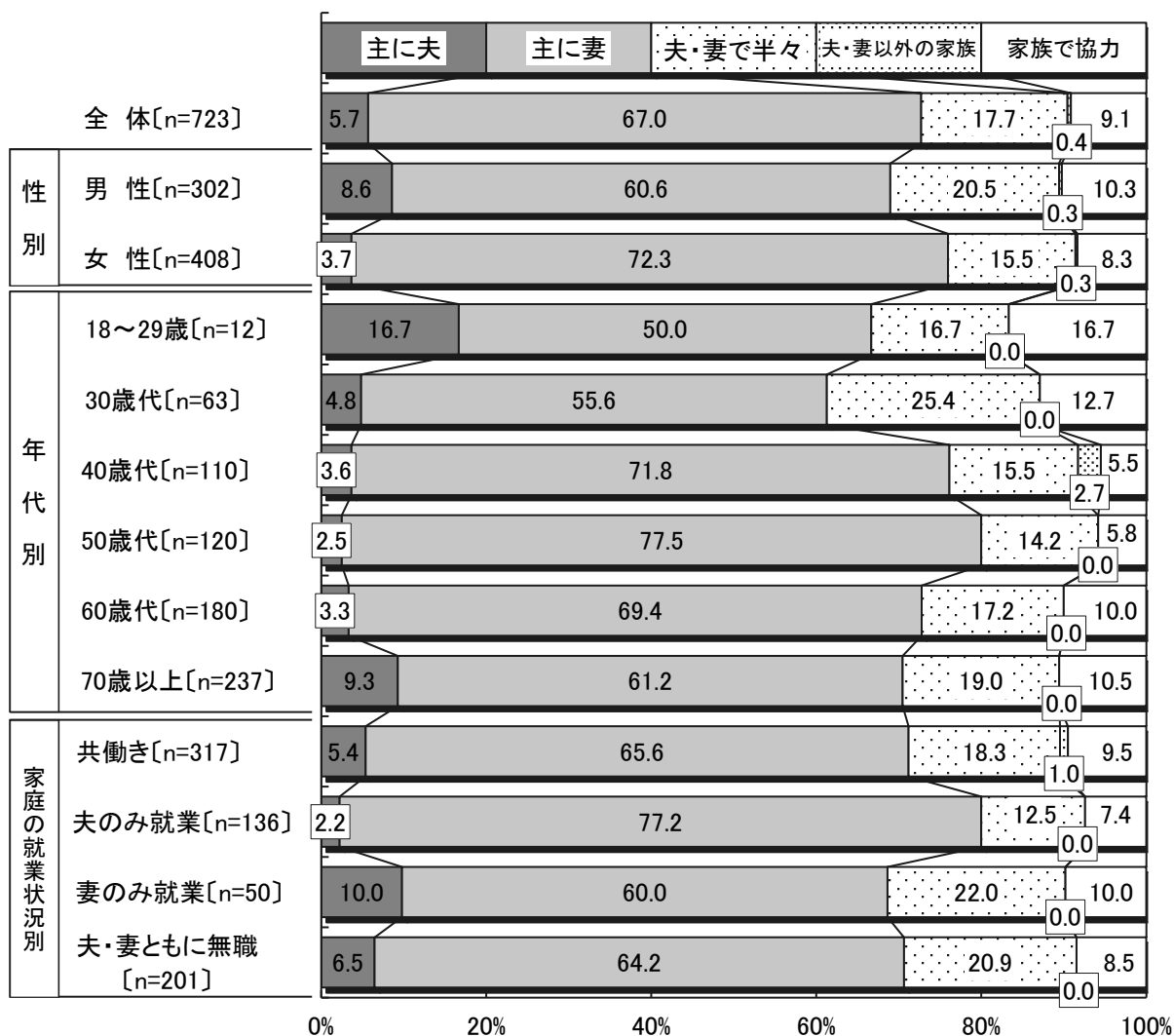
※18～29歳は、標本数が少ないので参考掲載、分析対象からは除外。

【家庭の就業状況別】

夫のみ就業家庭は、「主に妻」が77.2%と他の就業状況より高い。

現在結婚している方のみ（「該当しない」と回答を除く）

2(1)-5図 家庭の役割分担について ウ 掃除〔全体・性別・年代別・家庭の就業状況別〕



エ 洗濯

「主に妻」が76.3%と最も高い

【全体】

「主に妻」が76.3%と最も高く、「夫・妻で半々」が13.5%と続く。

【性別】

女性は、「主に妻」が79.8%と男性の72.7%より7.1ポイント高い。

【年代別】

30歳代は、「夫・妻で半々」が30.2%と40歳以上の他の年代より高い。

50歳以上の各年代は、「主に妻」が約8割と50歳未満の年代より高い。

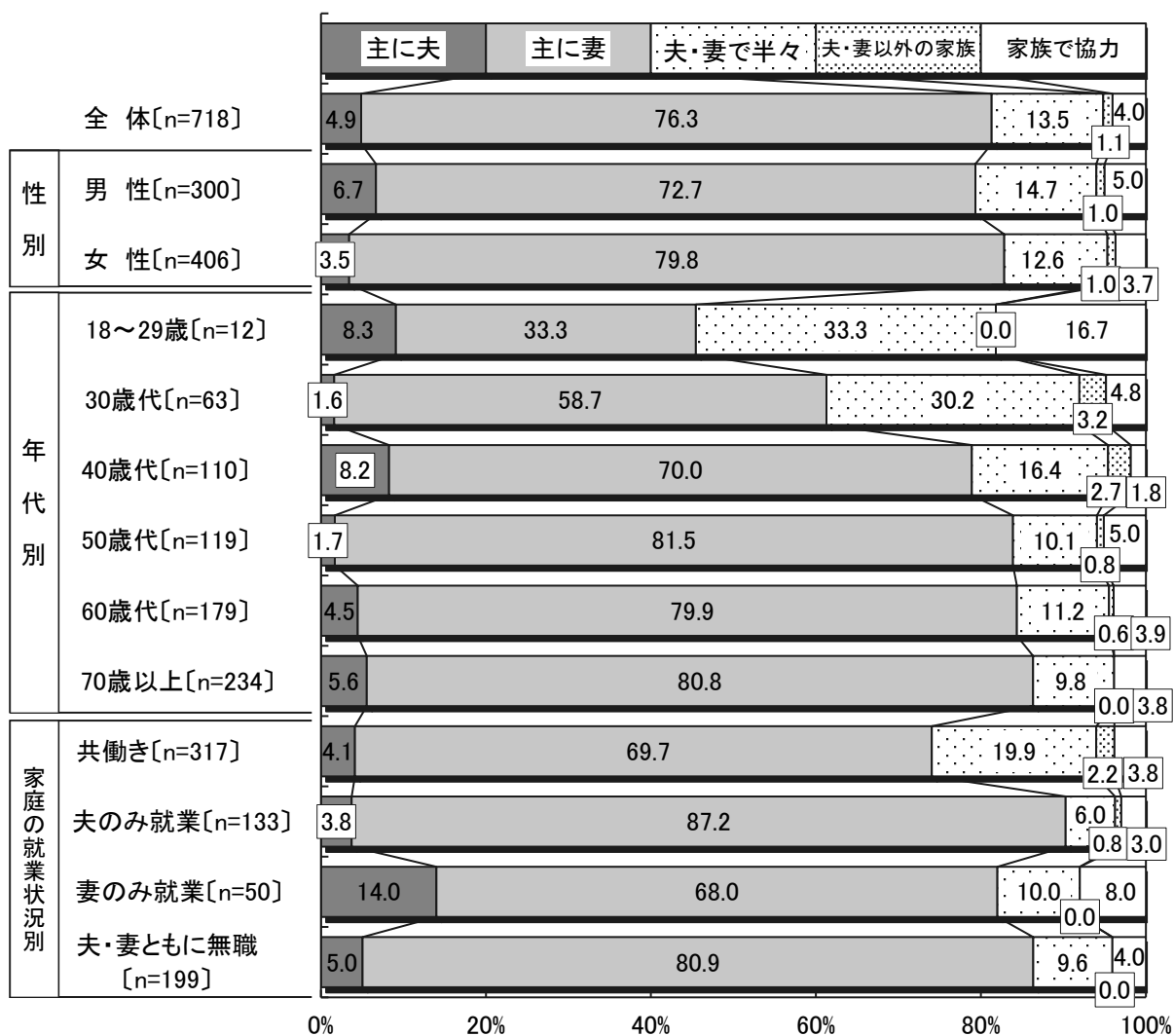
※18～29歳は、標本数が少ないので参考掲載、分析対象からは除外。

【家庭の就業状況別】

共働き家庭は「夫・妻で半々」が19.9%、夫のみ就業家庭は「主に妻」が87.2%、妻のみ就業家庭は「主に夫」が14.0%と、それぞれ他の就業状況より高い。

現在結婚している方のみ（「該当しない」と回答を除く）

2(1)-6図 家庭の役割分担について エ 洗濯〔全体・性別・年代別・家庭の就業状況別〕



オ 育児・子育て

「主に妻」が61.2%と最も高い

【全体】

「主に妻」が61.2%と最も高く、「夫・妻で半々」が21.7%、「家族で協力」が15.4%と続く。

【性別】

女性は、「主に妻」が64.1%と男性の56.9%より7.2ポイント高い。

【年代別】

40歳代と30歳代は、「夫・妻で半々」がそれぞれ37.0%、30.9%と50歳以上の他の年代より高い。 ※18～29歳は、標本数が少ないので参考掲載，分析対象からは除外。

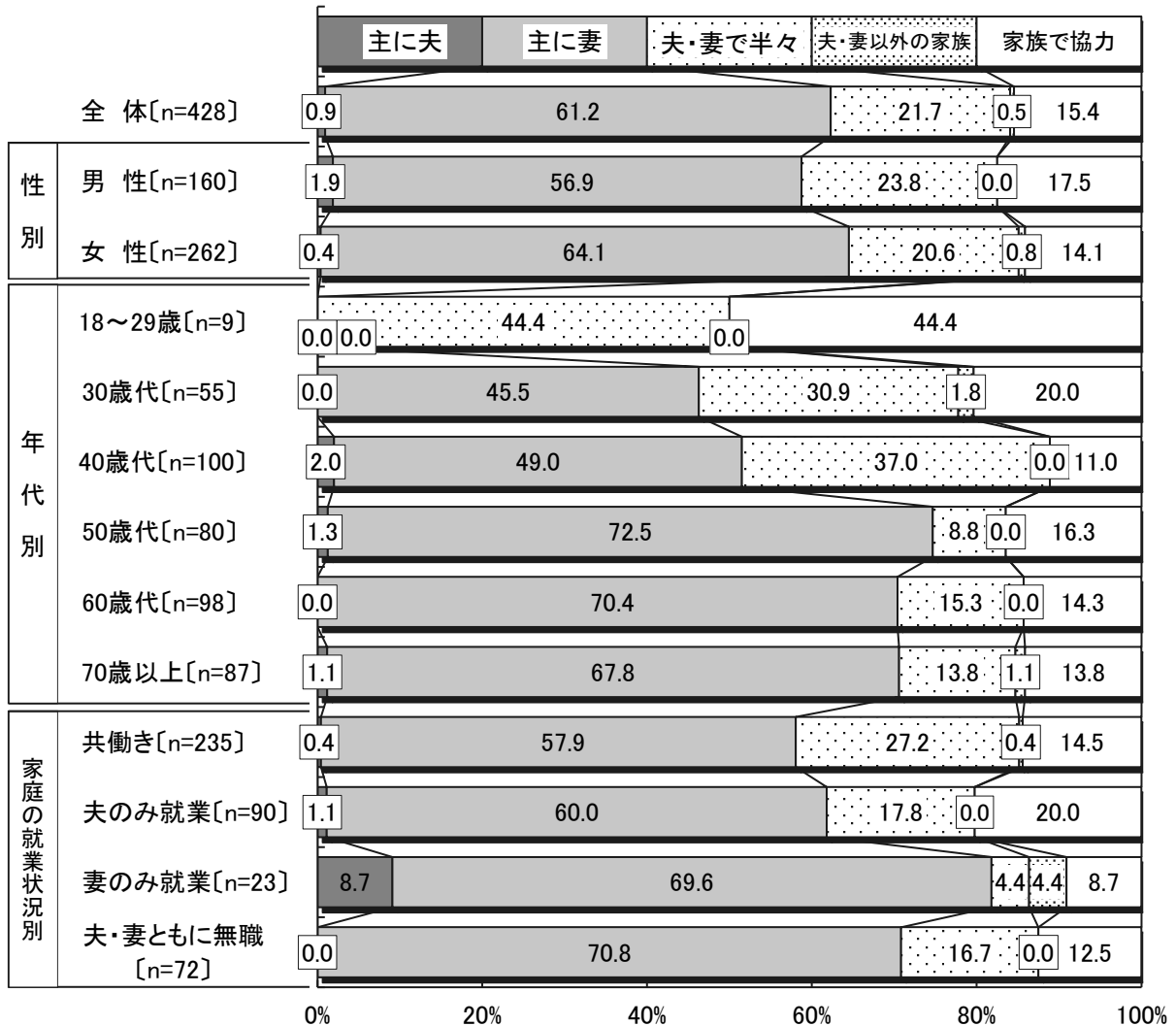
【家庭の就業状況別】

妻のみ就業家庭は、「主に夫」が8.7%と他の就業状況より高い。

共働き家庭は、「夫・妻で半々」が27.2%と他の就業状況より高い。

現在結婚している方のみ（「該当しない」と回答を除く）

2(1)-7図 家庭の役割分担について オ 育児・子育て【全体・性別・年代別・家庭の就業状況別】



カ 介護・看護

「主に妻」が57.9%と最も高い

【全体】

「主に妻」が57.9%と最も高く、「夫・妻で半々」と「家族で協力」がともに18.6%と続く。

【性別】

女性は、「主に妻」が65.2%と男性の45.1%より20.1ポイント高く、男性は、「主に夫」が11.8%と女性の1.1%より10.7ポイント高い。

【年代別】

40歳代は「主に妻」が72.5%、50歳代は「夫・妻で半々」が26.2%と、それぞれ他の年代より高い。

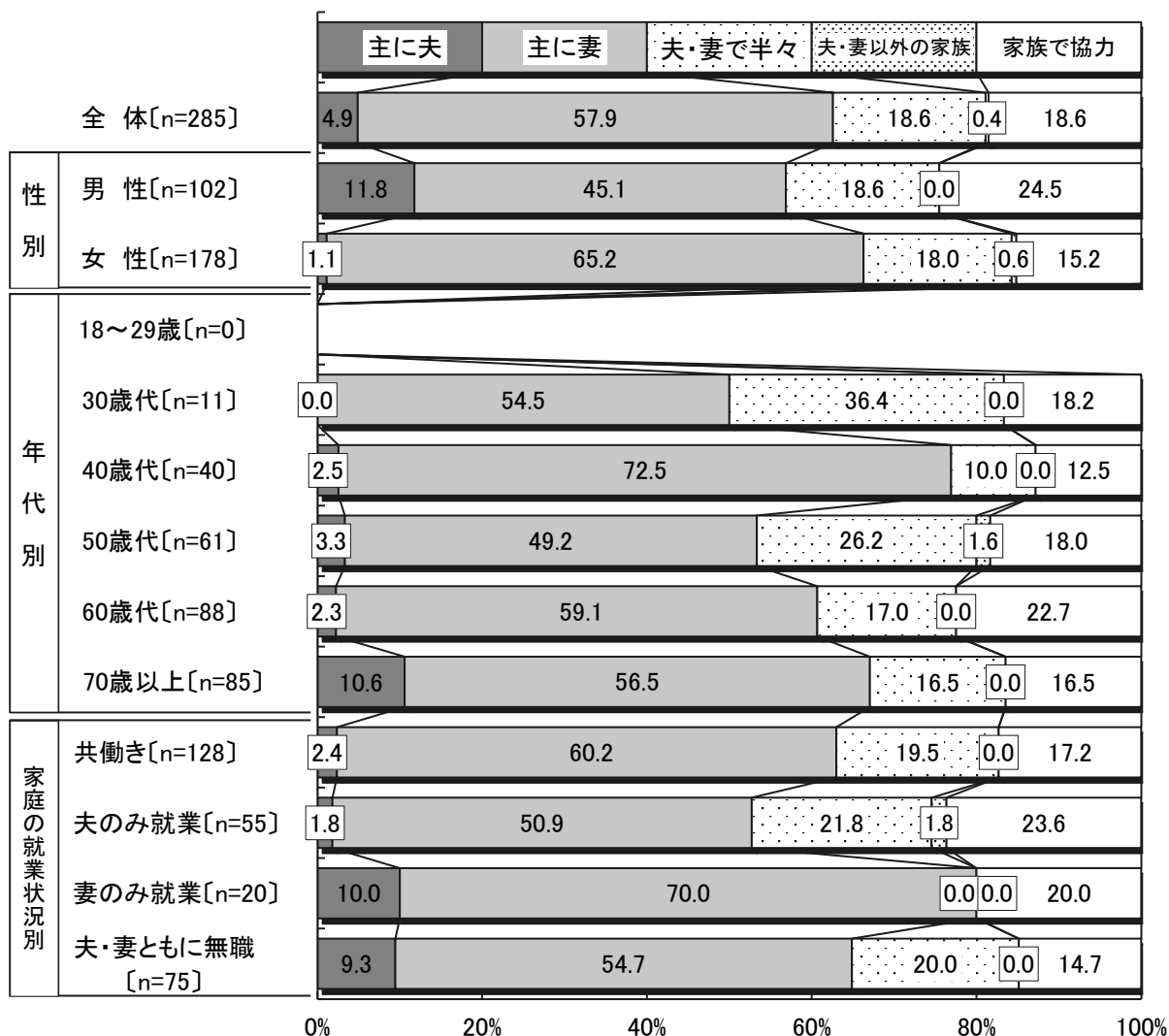
※30歳代は、標本数が少ないので参考掲載、分析対象からは除外。

【家庭の就業状況別】

妻のみ就業家庭は「主に妻」が70.0%、夫のみ就業家庭は「家族で協力」が23.6%と、それぞれ他の就業状況より高い。

現在結婚している方のみ（「該当しない」と回答を除く）

2(1)-8図 家庭の役割分担について カ 介護・看護【全体・性別・年代別・家庭の就業状況別】



キ 生活費を得ること

「主に夫」が62.0%と最も高い

【全体】

「主に夫」が62.0%と最も高く、「夫・妻で半々」が25.9%、「家族で協力」が8.7%と続く。

【性別】

特に大きな差異はない。

【年代別】

40歳代と50歳代は、「主に夫」がそれぞれ69.7%、67.2%と他の年代より高く、これより年代が上がるほど「主に夫」は低くなっている。

※18～29歳は、標本数が少ないので参考掲載、分析対象からは除外。

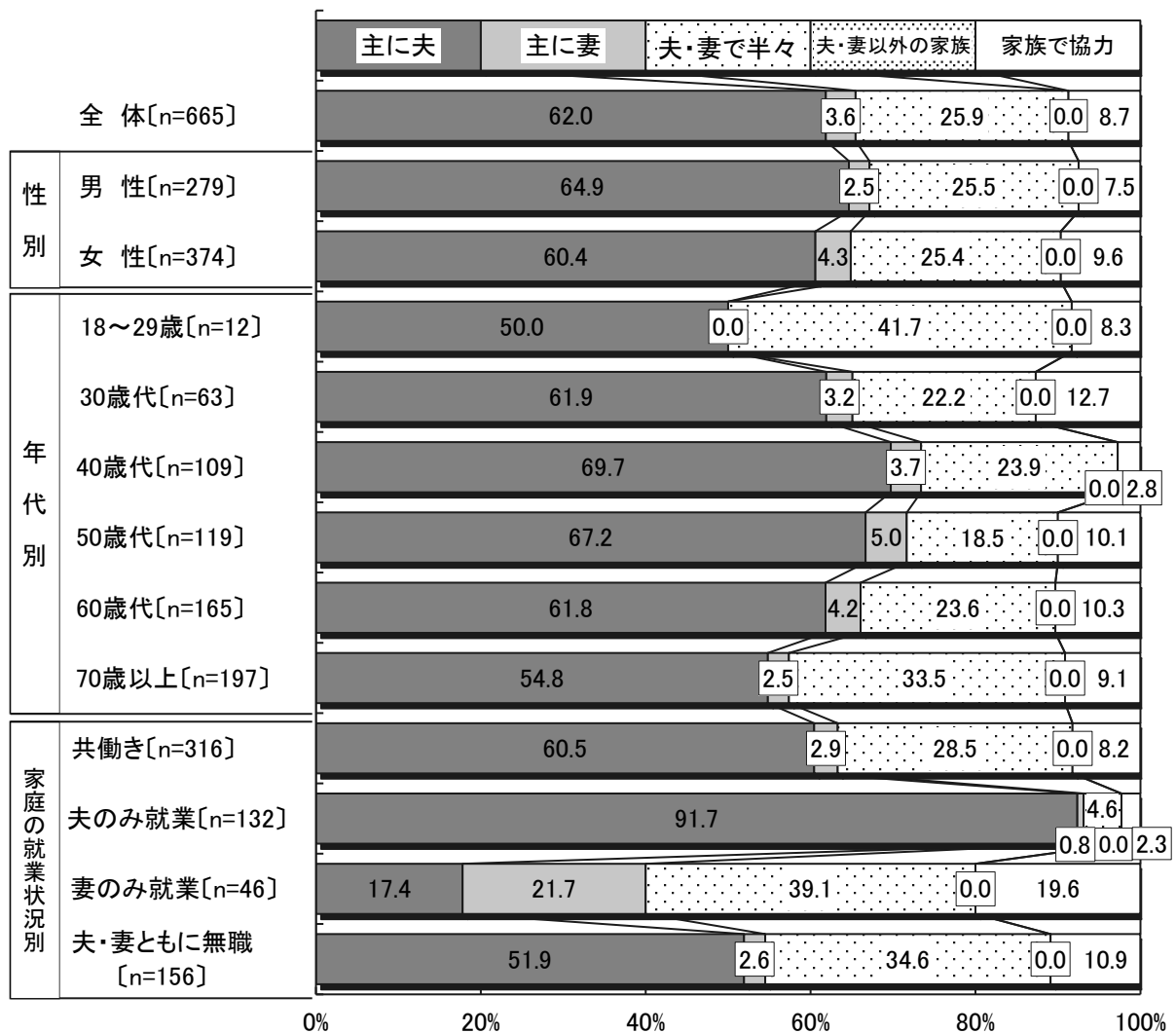
【家庭の就業状況別】

妻のみ就業家庭では、「主に妻」が21.7%、「夫・妻で半々」が39.1%、「家族で協力」が19.6%と、それぞれ他の就業状況より高い。

現在結婚している方のみ（「該当しない」と回答を除く）

2(1)-9図 家庭の役割分担について キ 生活費を得ること

【全体・性別・年代別・家庭の就業状況別】



ク 重大事項の決定（高額な商品や土地・家屋の購入など）

「夫・妻で半々」が42.2%、「主に夫」が36.2%とともに高い

【全体】

「夫・妻で半々」が42.2%、「主に夫」が36.2%とともに高く、「家族で協力」が16.2%と続く。

【性別】

特に大きな差異はない。

【年代別】

40歳代は、「夫・妻で半々」が52.8%と他の年代より高い。

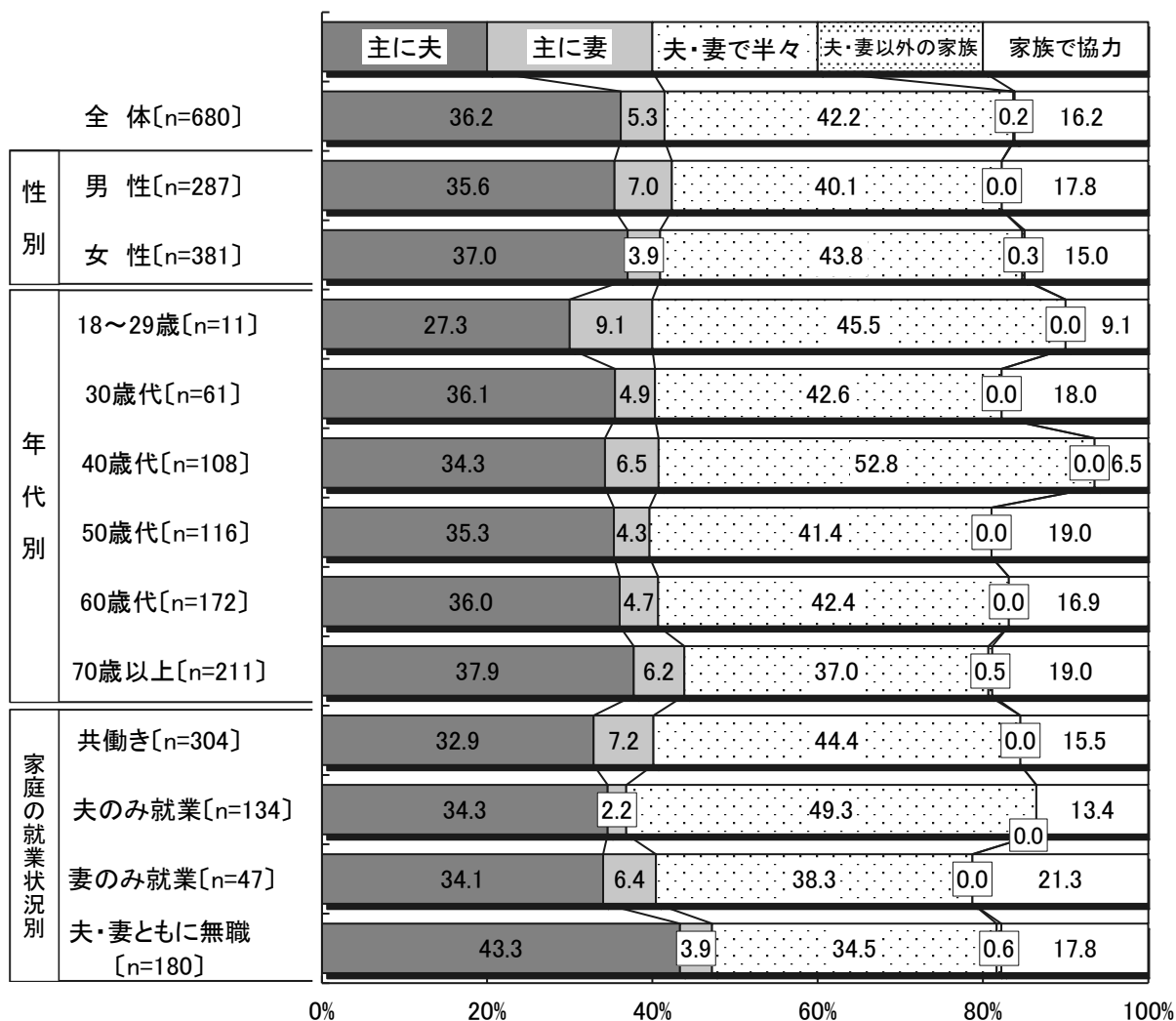
※18～29歳は、標本数が少ないので参考掲載、分析対象からは除外。

【家庭の就業状況別】

夫のみ就業家庭は「夫・妻で半々」が49.3%、妻のみ就業家庭は「家族で協力」が21.3%、夫・妻ともに無職家庭は「主に夫」が43.3%と、それぞれ他の就業状況より高い。

現在結婚している方のみ（「該当しない」と回答を除く）

2(1)-10図 家庭の役割分担について ク 重大事項の決定（高額な商品や土地・家屋の購入など）
〔全体・性別・年代別・家庭の就業状況別〕



ケ 家計の管理

「主に妻」が71.5%と最も高い

【全体】

「主に妻」が71.5%と最も高く、「夫・妻で半々」が14.7%、「主に夫」が10.1%と続く。

【性別】

特に大きな差異はない。

【年代別】

30歳代は、「夫・妻で半々」が27.4%と他の年代より高い。

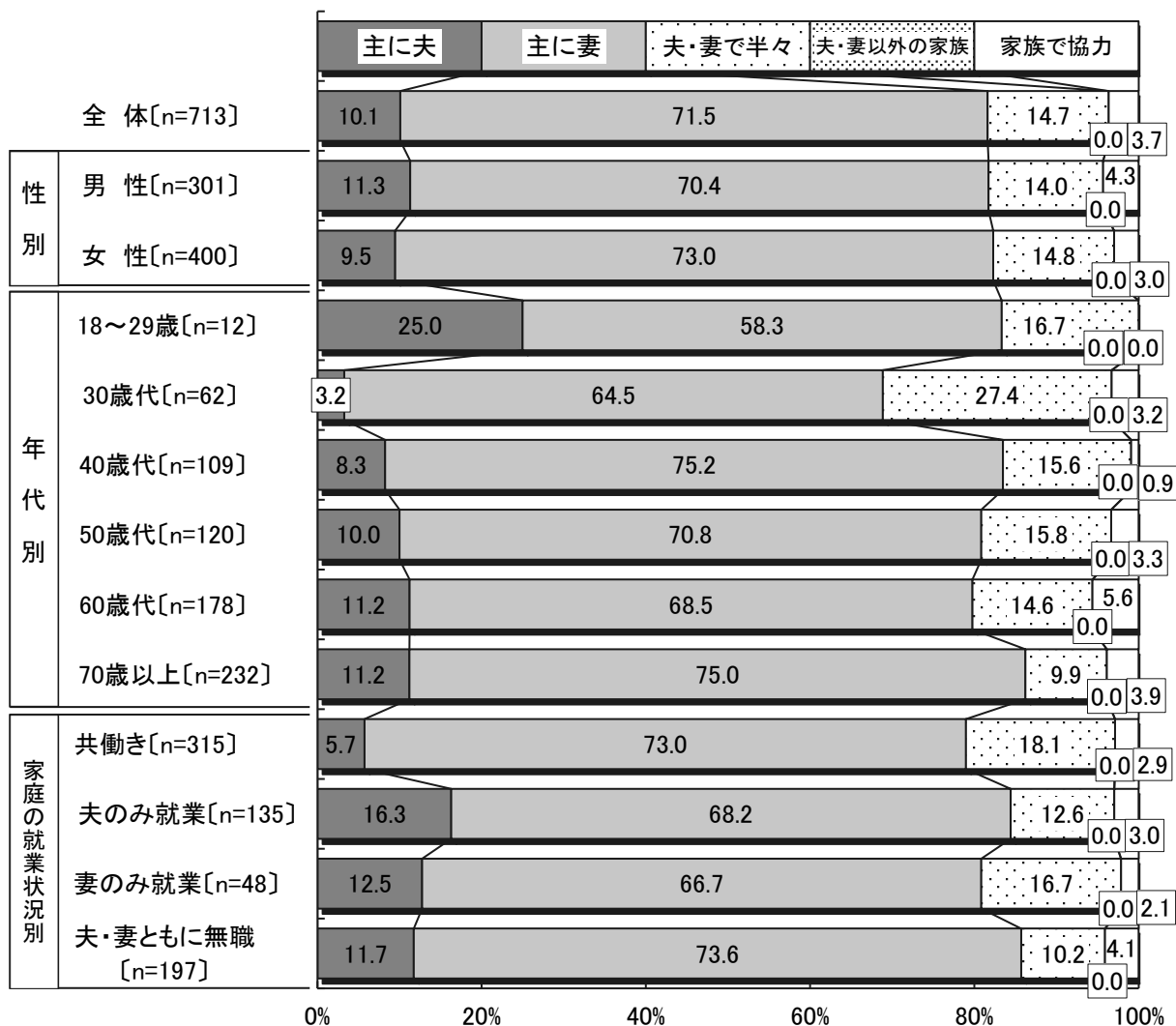
※18～29歳は、標本数が少ないので参考掲載、分析対象からは除外。

【家庭の就業状況別】

夫のみ就業家庭は、「主に夫」が16.3%と他の就業状況より高い。

現在結婚している方のみ（「該当しない」と回答を除く）

2(1)-11図 家庭の役割分担について ケ 家計の管理〔全体・性別・年代別・家庭の就業状況別〕



コ 自治会等の地域活動への参加

「主に妻」が51.0%と最も高い

【全体】

「主に妻」が51.0%と最も高く、「夫・妻で半々」が21.3%、「主に夫」が16.9%と続く。

【性別】

女性は、「主に妻」が57.4%と男性の43.0%より14.4ポイント高く、男性は、「主に夫」が22.1%と女性の12.8%より9.3ポイント高い。

【年代別】

40歳代は「夫・妻で半々」が27.3%、50歳代は「家族で協力」が16.4%、70歳以上は「主に夫」が25.3%と、それぞれ他の年代より高い。

※18～29歳は、標本数が少ないので参考掲載、分析対象からは除外。

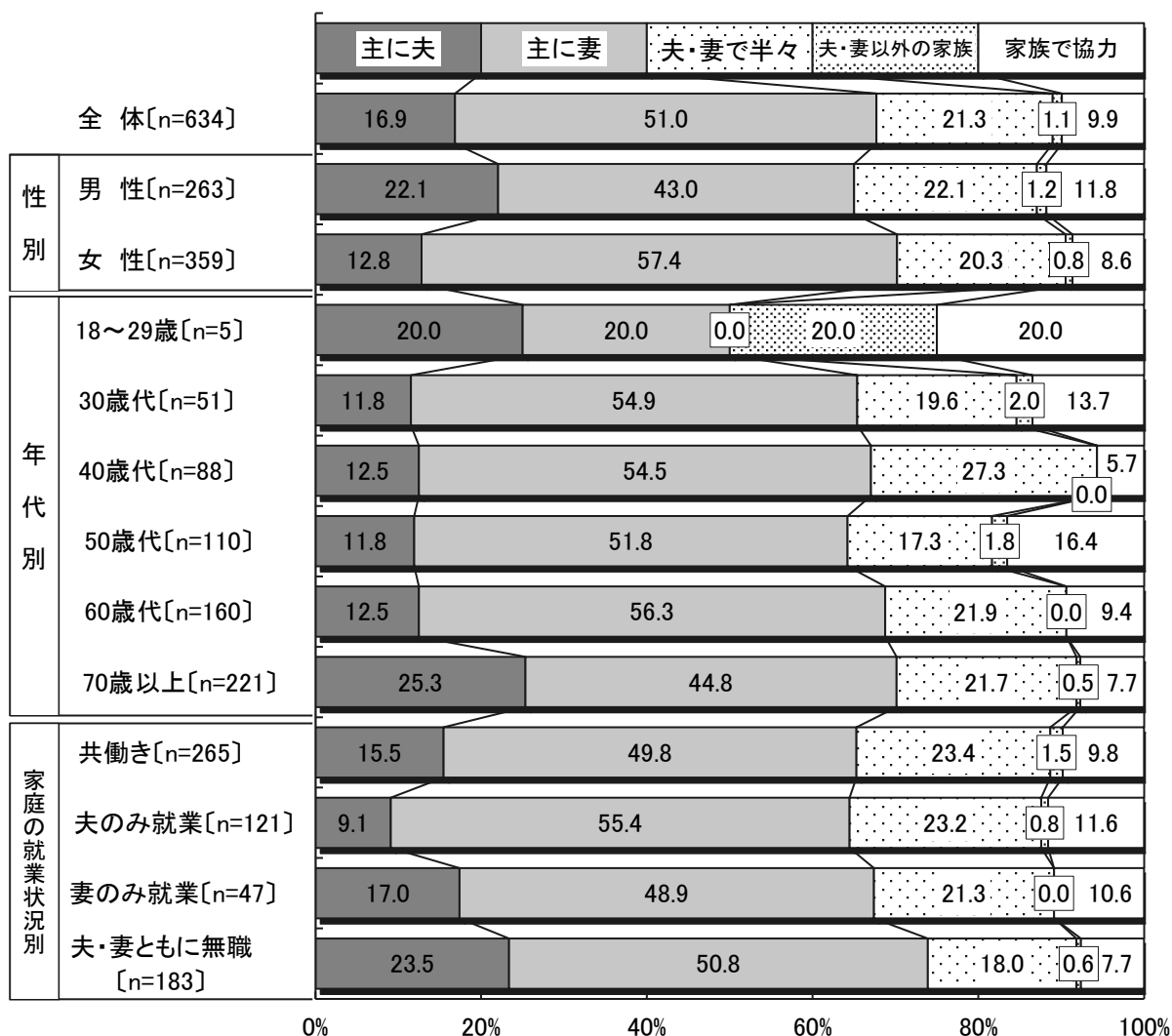
【家庭の就業状況別】

夫・妻ともに無職家庭は、「主に夫」が23.5%と他の就業状況より高い。

現在結婚している方のみ（「該当しない」と回答を除く）

2(1)-12図 家庭の役割分担について コ 自治会等の地域活動への参加

〔全体・性別・年代別・家庭の就業状況別〕



サ P T A活動等の学校行事への参加

「主に妻」が79.1%と最も高い

【全体】

「主に妻」が79.1%と最も高く、「夫・妻で半々」が11.3%と続く。

【性別】

女性は、「主に妻」が83.3%と男性の72.3%より11.0ポイント高い。

【年代別】

50歳代は、「主に妻」が86.3%と他の年代より高い。

※18～29歳は、標本数が少ないので参考掲載、分析対象からは除外。

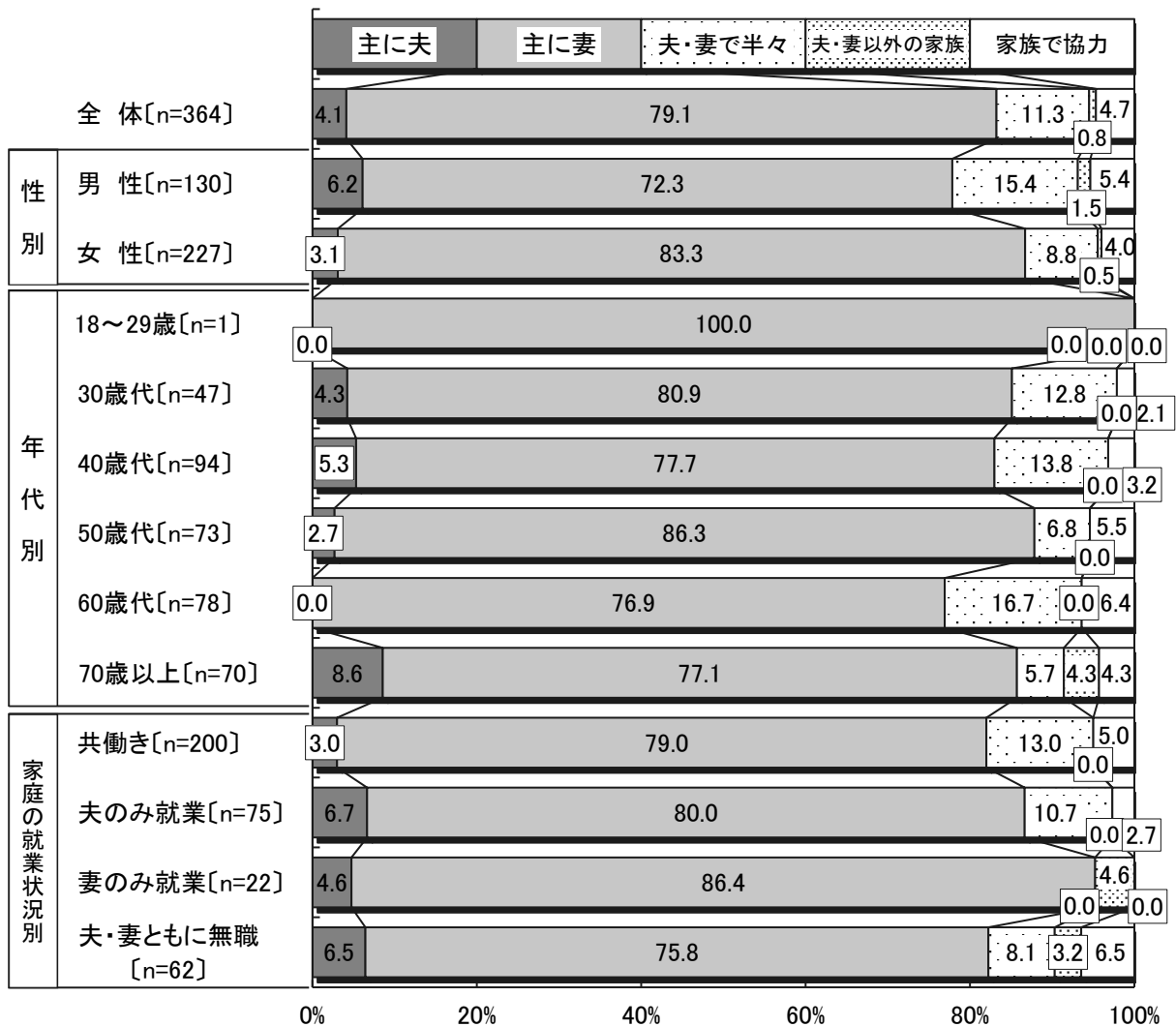
【家庭の就業状況別】

妻のみ就業家庭は、「主に妻」が86.4%と他の就業状況より高い。

現在結婚している方のみ（「該当しない」と回答を除く）

2(1)-13図 家庭の役割分担について サ P T A活動等の学校行事への参加

【全体・性別・年代別・家庭の就業状況別】



(2-2) 家庭での役割分担に対する満足度について

問2-2 あなたは家庭での役割分担について、どのように感じていますか。○は1つだけ

『満足層』 全体 78.6% 男性 96.7% 女性 65.0% ⇒ 男性の方が高い
 『不満層』 全体 21.3% 男性 3.4% 女性 34.9% ⇒ 女性の方が高い

※「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせて『満足層』, 「不満である」と「どちらかといえば不満である」を合わせて『不満層』とする。

【全体】

「満足している」と「どちらかといえば満足している」と合わせた『満足層』は78.6%, 「不満である」と「どちらかといえば不満である」を合わせた『不満層』は21.3%とあり, 『満足層』が『不満層』を57.3ポイント差と大きく上回っている。

【性別】

男女とも『満足層』が『不満層』を上回っているが, 男性は『満足層』が96.7%と女性の65.0%より31.7ポイント高く, 女性は『不満層』が34.9%と高い。

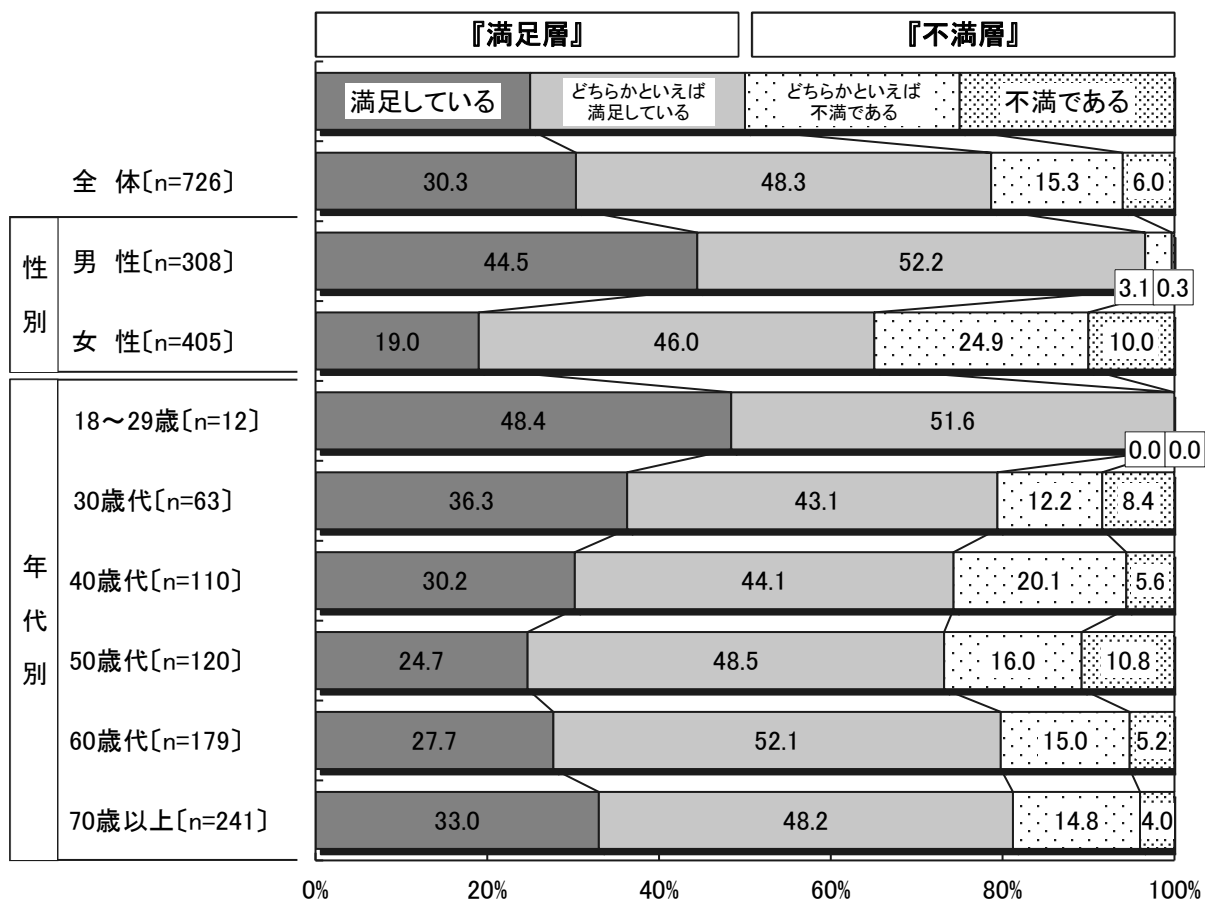
【年代別】

50歳代は, 『不満層』が26.8%と最も高い。

※18~29歳は, 標本数が少ないので参考掲載, 分析対象からは除外。

現在結婚している方のみ

2(2)-1図 家庭生活での役割分担に対する満足度について〔全体・性別・年代別〕



【性年代別】

30歳以上のどの年代においても、男性の方が女性より『満足層』が高く、女性の方が『不満層』が高い。

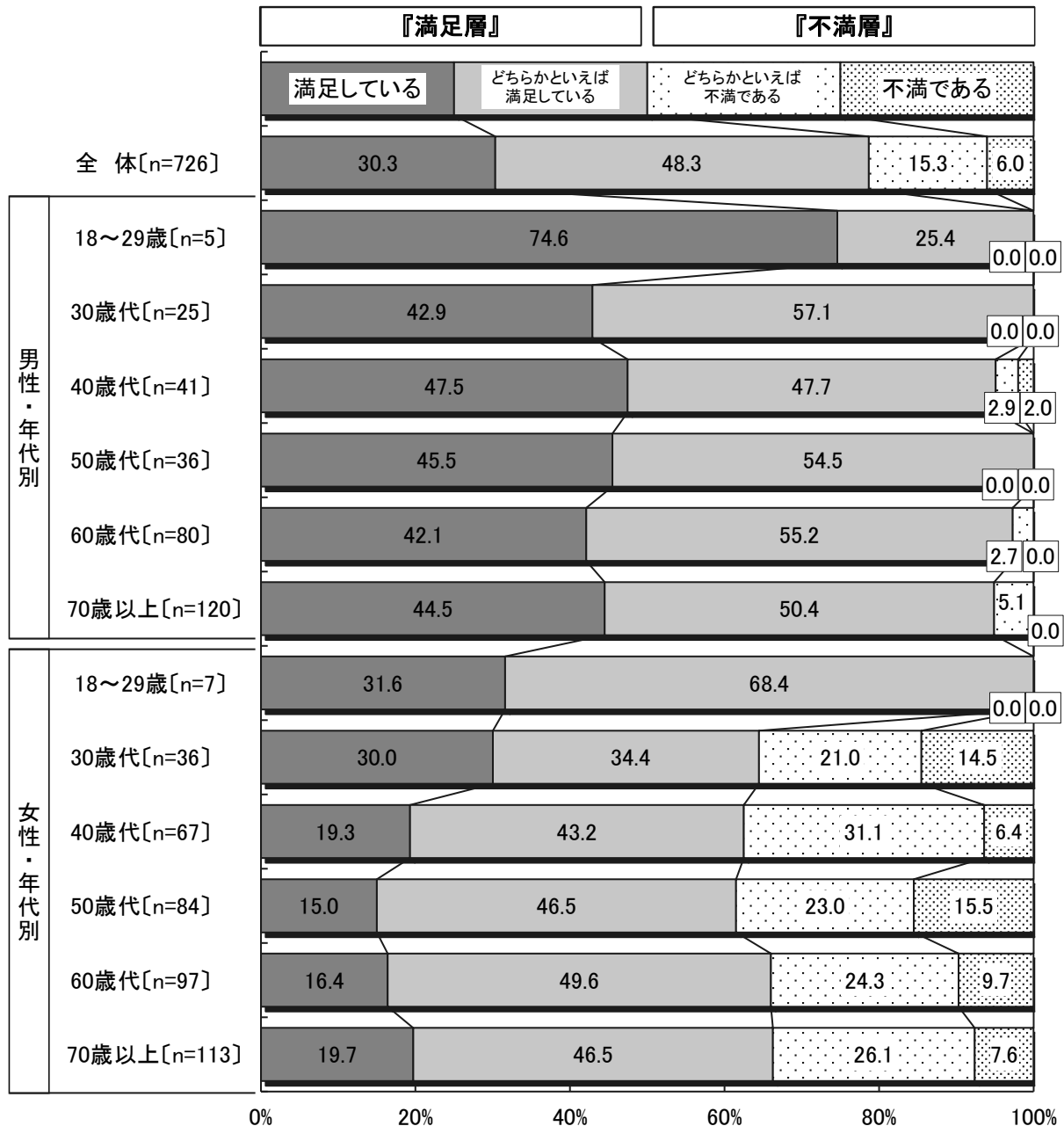
女性30歳代は、「満足している」が30.0%と他の女性の年代より高い。

女性50歳代と女性30歳代は、「不満である」がそれぞれ15.5%、14.5%と他の年代より高い。

※男性18～29歳、女性18～29歳は、標本数が少ないので参考掲載、分析対象からは除外。

現在結婚している方のみ

2(2)-2 図 家庭生活での役割分担に対する満足度について〔性年代別〕



2. 職場における男女共同参画について

(3) 一般的に女性が職業をもつことについて

問3 あなたは、一般的に女性が職業をもつことについて、どのように思いますか。

○は1つだけ

『家事優先型』 28.8%, 『職業継続型』 27.7%, 『再就職型』 22.4%,

- ※『専業主婦型』 女性は職業をもたない方がよい
- 『結婚退職型』 結婚するまでは、職業をもつ方がよい
- 『出産退職型』 子どもができるまでは職業をもち、子どもができたら辞める方がよい
- 『再就職型』 子どもができたら辞め、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
- 『家事優先型』 家事・育児に影響がない程度で、パートタイマーやアルバイトをする方がよい
- 『職業継続型』 結婚・出産に関わらず、ずっとフルタイムで職業を続ける方がよい

【全体】

『家事優先型』が28.8%、『職業継続型』が27.7%と高く、『再就職型』が22.4%と続く。

【性別】

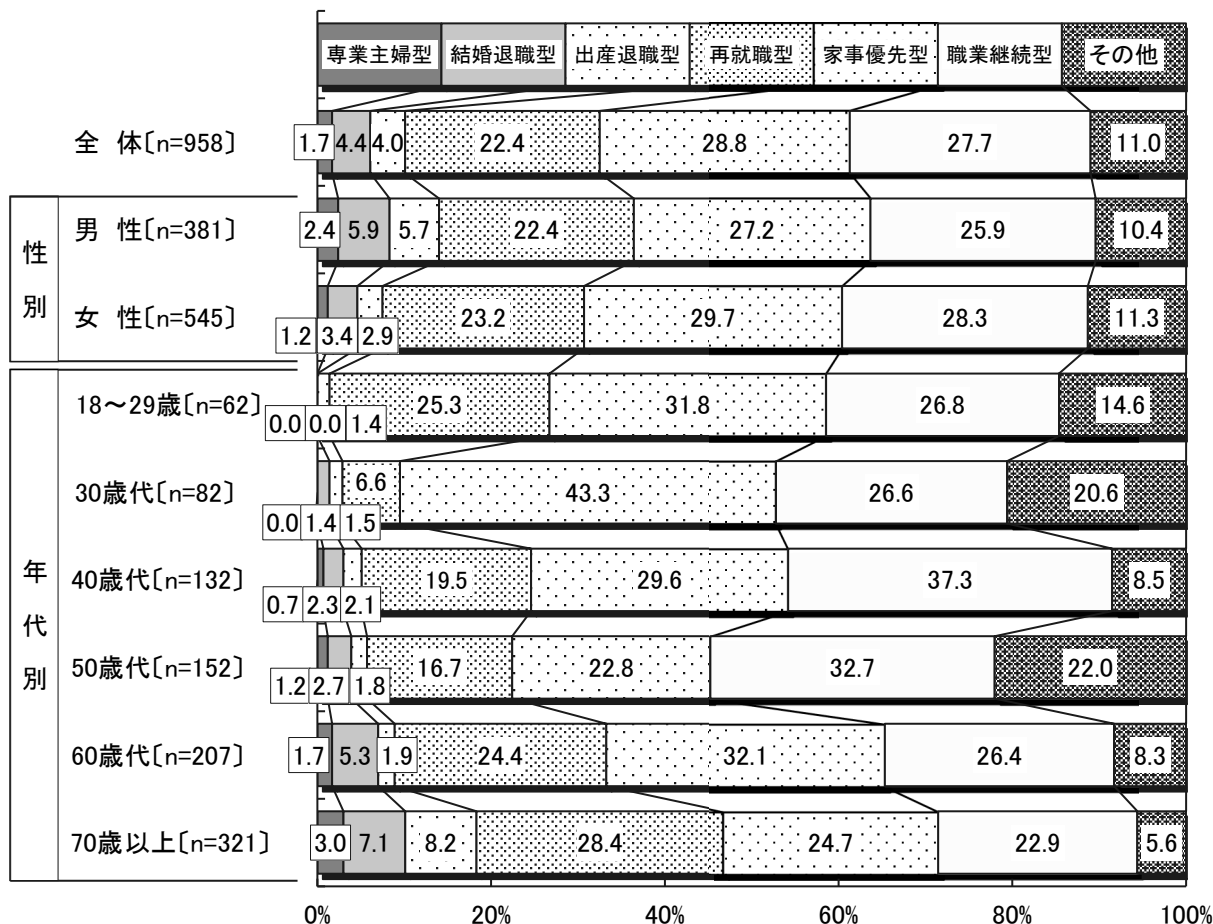
特に大きな差異はない。

【年代別】

30歳代は、『家事優先型』が43.3%と他の年代より高く、『再就職型』が6.6%と低い。

40歳代と50歳代は、『職業継続型』がそれぞれ37.3%、32.7%と他の年代より高い。

3-1図 女性が職業をもつことについて〔全体・性別・年代別〕

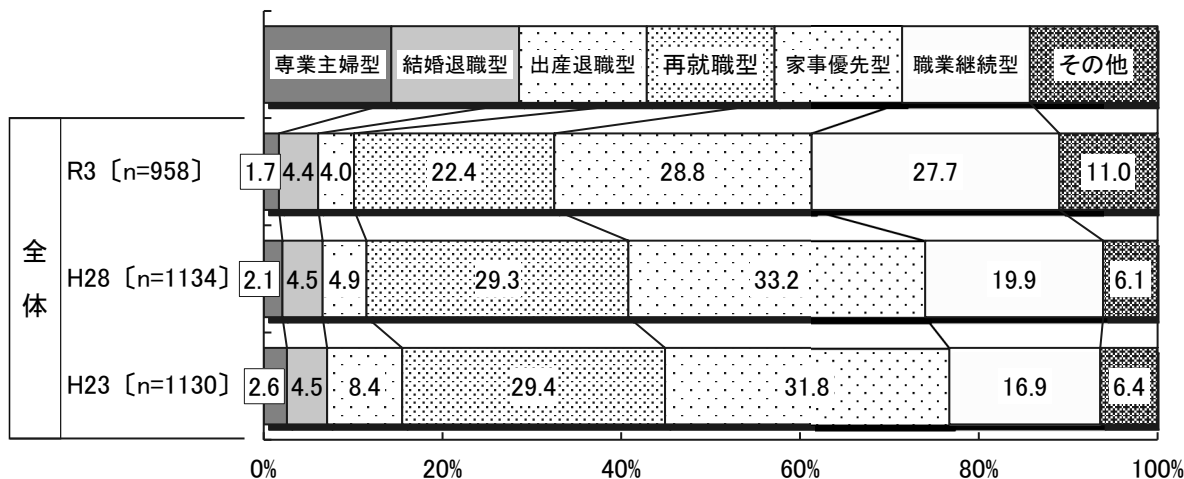


<参考> 過去の調査結果との比較

【全体・過去調査結果との比較】

平成28年実施の調査結果と比較すると、『職業継続型』は7.8ポイント増加し、『再就職型』が6.9ポイント減少している。『職業継続型』は平成23年実施調査結果との比較では10.8ポイント高く、平成23年実施結果との差が最も大きい。

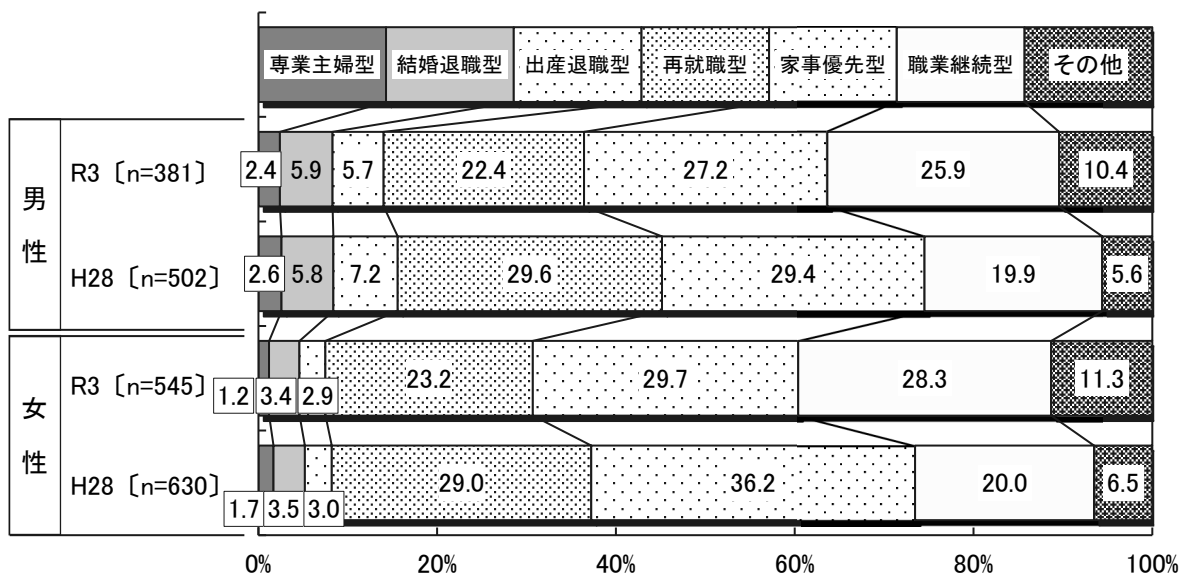
◆女性が職業をもつことについて 呉市過去調査との比較〔全体〕



【性別・過去調査結果との比較】

平成28年実施の調査結果と比較すると、男性、女性とも『職業継続型』が増加し、『再就職型』が減少している。

◆女性が職業をもつことについて 呉市過去調査との比較〔性別〕



(4) 雇用者の職場の現状について〔複数回答〕

問4 あなたの職場の現状にあてはまることは、次のうちどれですか。○はいくつでも

「あてはまるものはない」	60.1%
「仕事の内容・分担に男女差がある」	24.3%
「募集・採用・配属に男女差がある」	18.5%

【全体】

「あてはまるものはない」が60.1%と最も高く、「仕事の内容・分担に男女差がある」が24.3%、「募集・採用・配属に男女差がある」が18.5%、「能力・成果の評価に男女差がある」が9.9%と続く。

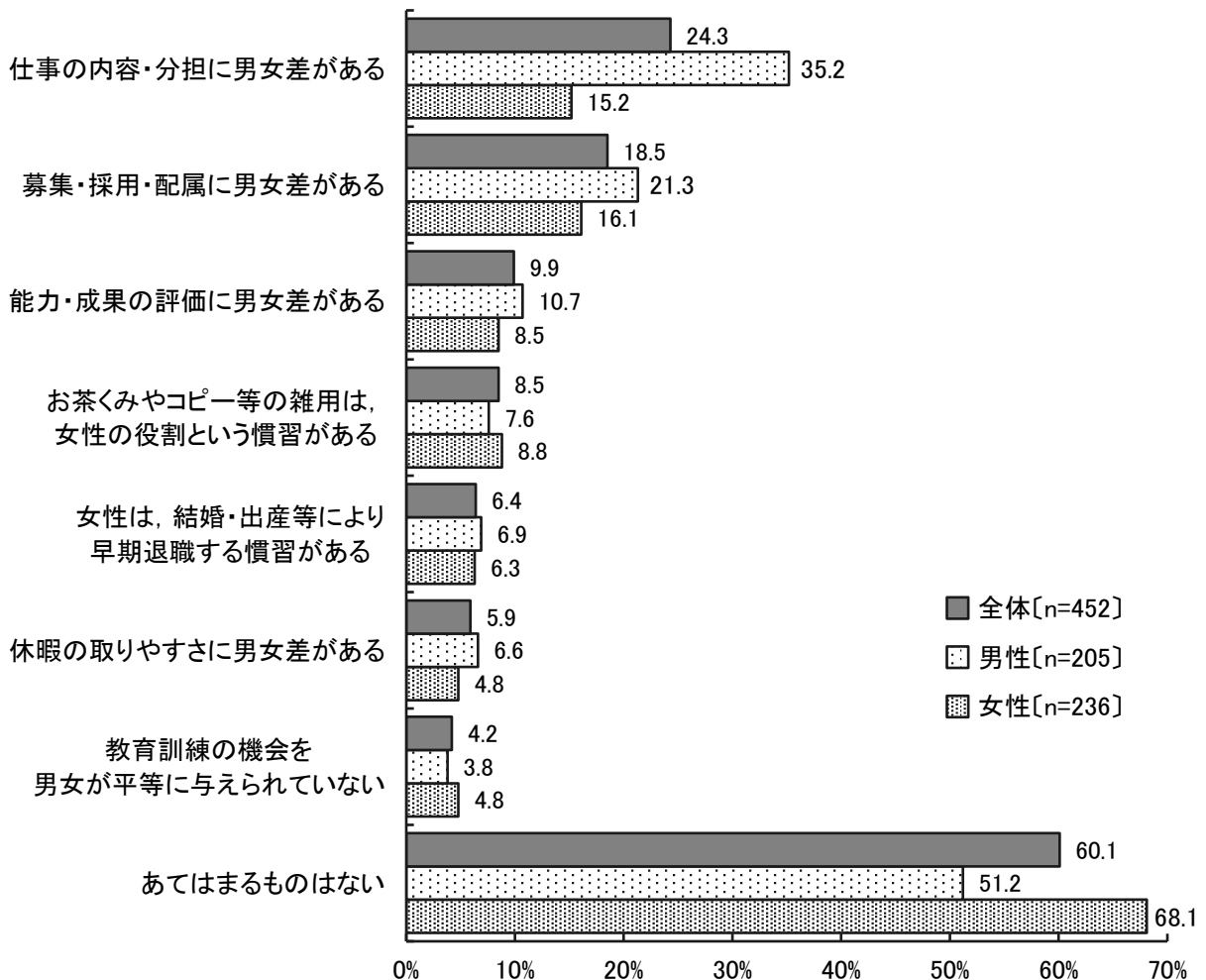
【性別】

男性は、「仕事の内容・分担に男女差がある」が35.2%と20.0ポイント、「募集・採用・配属に男女差がある」が21.3%と5.2ポイント、それぞれ女性より高い。

女性は、「あてはまるものはない」が68.1%と男性の51.2%より16.9ポイント高い。

お勤めしている方のみ

4-1図 雇用者の職場の現状について〔全体・性別〕



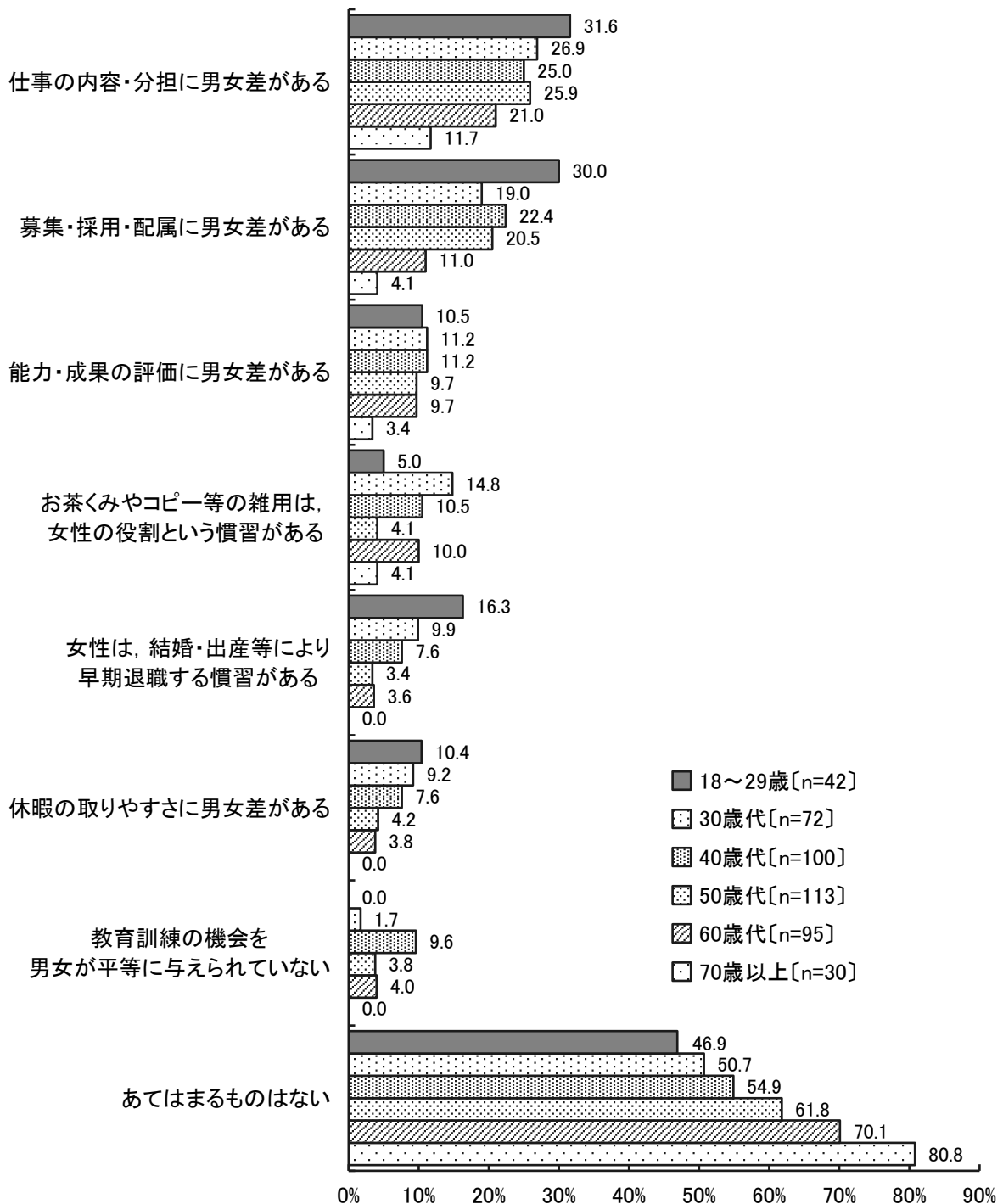
【年代別】

18～29歳では、「仕事の内容・分担に男女差がある」が31.6%、「募集・採用・配属に男女差がある」が30.0%、「女性は、結婚・出産等により早期退職する慣習がある」が16.3%と、それぞれ他の年代より高い。

30歳代では、「お茶くみやコピー等の雑用は、女性の役割という慣習がある」が14.8%、40歳代では、「教育訓練の機会を男女が平等に与えられていない」が9.6%と、それぞれ他の年代より高い。

お勤めしている方のみ

4-2図 雇用者の職場の現状について〔年代別〕



(5-1) 管理職への昇進意向について

問5-1 あなたは、管理職に昇進できるのであれば、昇進したいと思いますか。○は1つだけ

『昇進意向あり』 全体 35.8% 男性 48.6% 女性 24.7% ⇒ 男性の方が高い
 『昇進意向なし』 全体 64.1% 男性 51.5% 女性 75.2% ⇒ 女性の方が高い

※「昇進したい」と「どちらかといえば昇進したい」を合わせて『昇進意向あり』, 「昇進したくない」と「どちらかといえば昇進したくない」を合わせて『昇進意向なし』とする。

【全体】

「どちらかといえば昇進したくない」が33.7%と最も高く, 「昇進したくない」の30.4%と合わせた『昇進意向なし』が64.1%を占める。「どちらかといえば昇進したい」, 「昇進したい」を合わせた『昇進意向あり』は35.8%で, 『昇進意向なし』が『昇進意向あり』を28.3ポイント上回っている。

【性別】

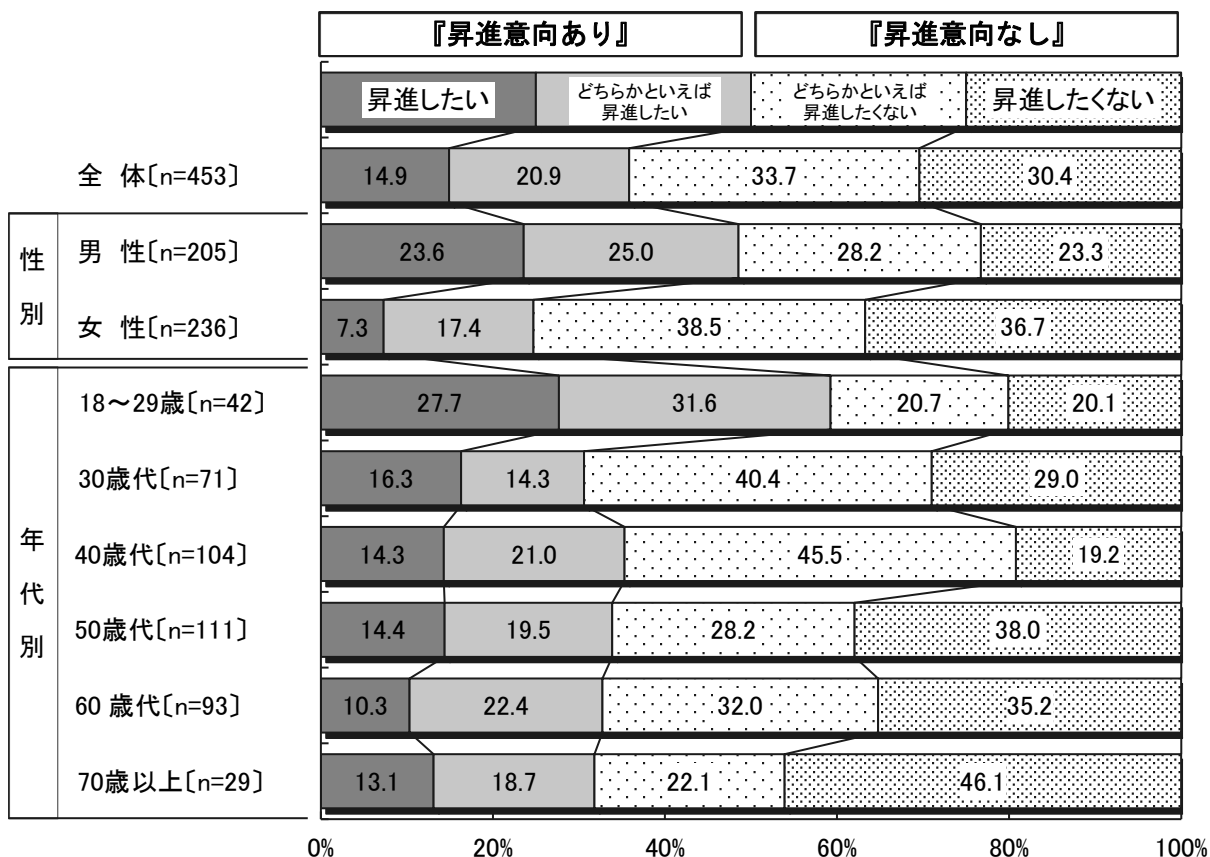
男性は『昇進意向あり』が48.6%, 『昇進意向なし』が51.5%と意見が2つに分かれている。一方, 女性は『昇進意向あり』が24.7%, 『昇進意向なし』が75.2%と, 『昇進意向なし』が『昇進意向あり』を50.5ポイントと大きく上回る。また, 『昇進意向なし』は男性より23.7ポイント高い。

【年代別】

18~29歳では, 『昇進意向あり』が59.3%と他の年代より高い。

お勤めしている方のみ

5(1)-1図 管理職への昇進意向について〔全体・性別・年代別〕



【性年代別】

どの年代においても、男性の方が女性より『昇進意向あり』が高い。

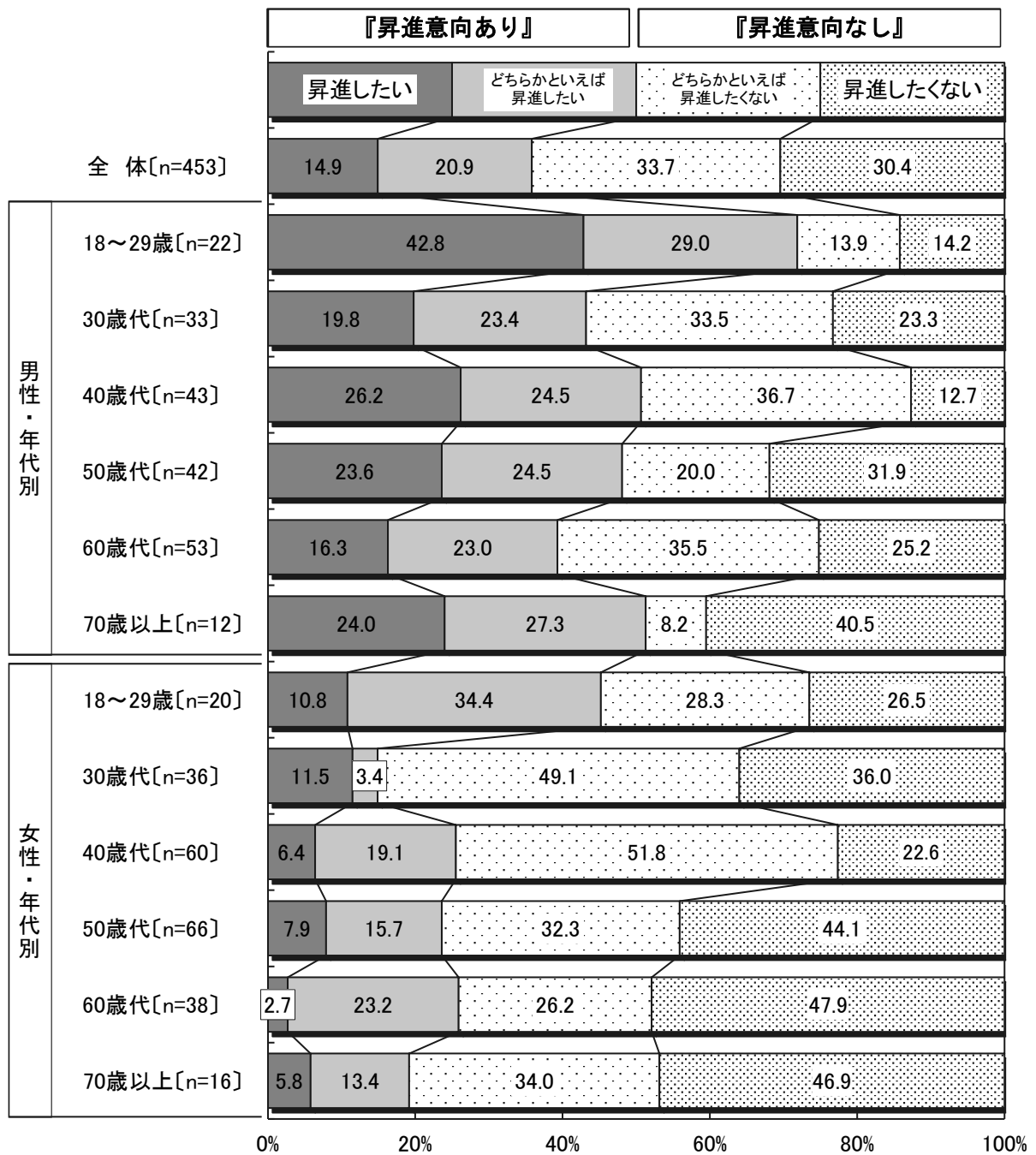
男性18～29歳は、「昇進したい」が42.8%と各年代の中で最も高く、『昇進意向あり』についても71.8%と最も高い。

女性18～29歳は、「どちらかといえば昇進したい」が34.4%と各年代の中で最も高く、『昇進意向あり』についても45.2%と女性の各年代の中で最も高い。

※男性70歳以上、女性70歳以上は、標本数が少ないので参考掲載、分析対象からは除外。

お勤めしている方のみ

5(1)-2図 管理職への昇進意向について〔性年代別〕



(5-2) 管理職への昇進意向に必要な状況について〔複数回答〕

問5-2 どのような状況が整えられたら昇進したいと思いますか。○はいくつでも

「管理職の仕事が魅力あるものに思えれば」	39.0%
「休業・休暇がとりやすければ」	33.2%
「長時間労働がなければ」	30.7%

【全体】

「管理職の仕事が魅力あるものに思えれば」が39.0%と最も高く、「休業・休暇がとりやすければ」が33.2%、「長時間労働がなければ」が30.7%、「給与額が自分の希望に合うなら」が28.4%、「どのような状況でも昇進したいと思わない」が28.3%と続く。

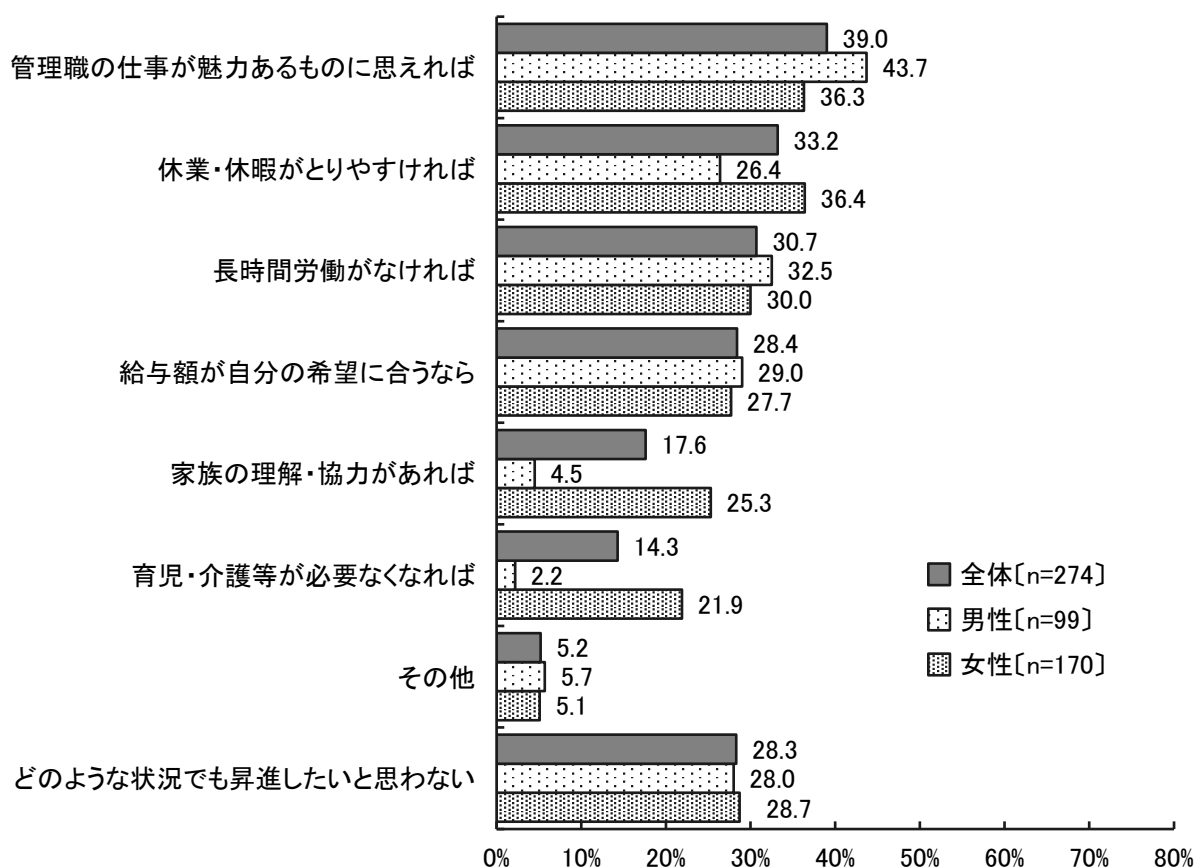
【性別】

男性は、「管理職の仕事が魅力あるものに思えれば」が43.7%と女性の36.3%より7.4ポイント高い。

女性は、「家族の理解・協力があれば」が25.3%と男性の4.5%より20.8ポイント、「育児・介護などが必要なくなれば」が21.9%と男性の2.2%より19.7ポイント、「休業・休暇がとりやすければ」が36.4%と男性の26.4%より10.0ポイント、それぞれ高い。

問5-1で「どちらかといえば昇進したくない」「昇進したくない」を選択した方のみ

5(2)-1図 管理職への昇進意向に必要な状況について〔全体・性別〕



【性年代別】

男性30歳代は、「管理職の仕事が魅力あるものに思えれば」が69.3%と他の年代より高い。

女性40歳代, 男性30歳代, 女性30歳代は、「休業・休暇がとりやすければ」がそれぞれ44.8%, 43.2%, 41.8%と他の年代より高い。男女とも40代以下の各年代で「長時間労働がなければ」が高くなっており, 「給与額が自分の希望に合うなら」についても, 男女とも若年層ほどが高い。

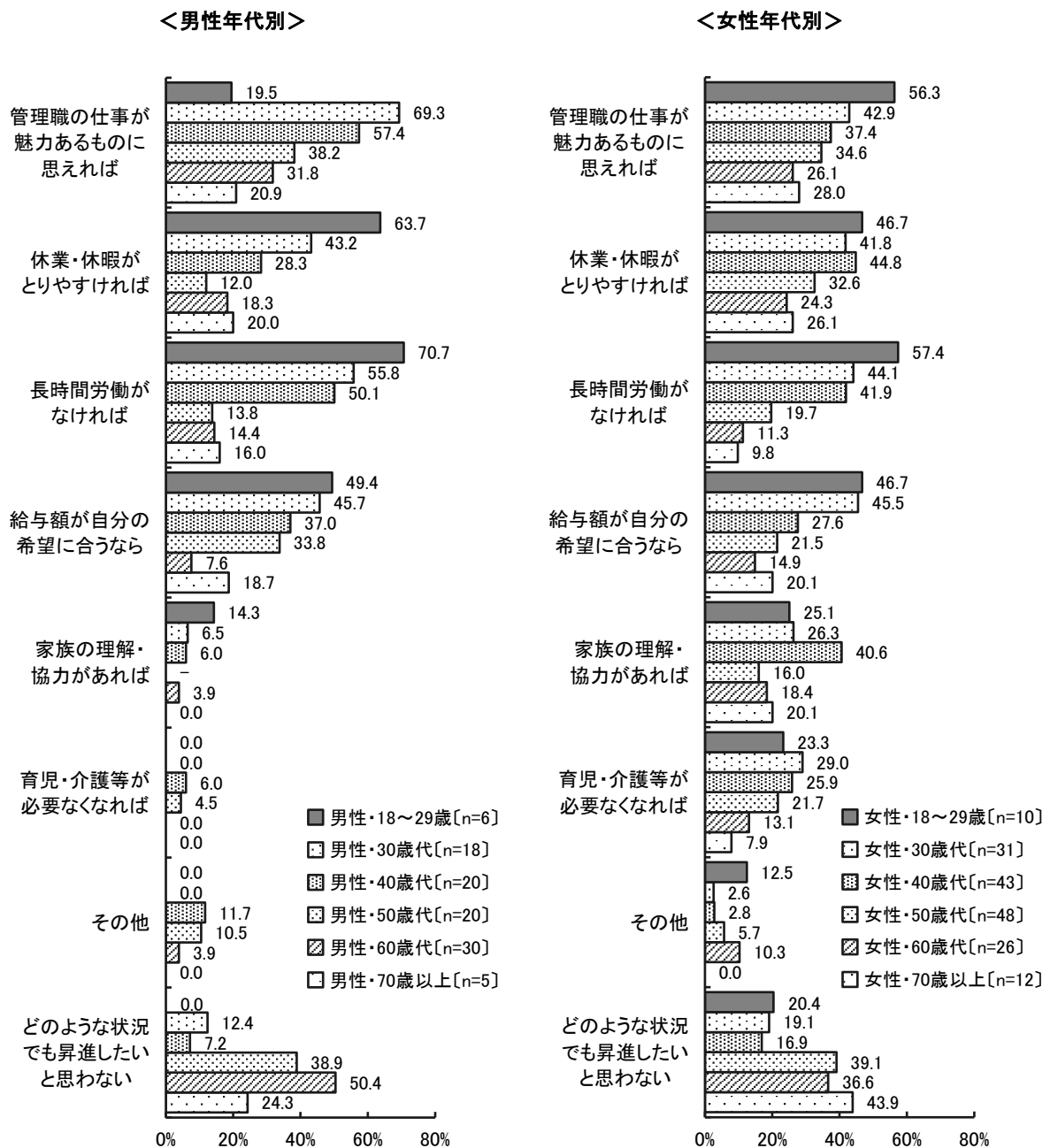
女性40歳代は, 「家族の理解・協力があれば」が40.6%と他の年代より高い。

男性60歳代は, 「どのような状況でも昇進したいと思わない」が50.4%と他の年代より高い。

※男性18~29歳, 男性70歳以上, 女性18~29歳, 女性70歳以上は, 標本数が少ないので参考掲載, 分析対象からは除外。

問5-1で「どちらかといえば昇進したくない」「昇進したくない」を選択した方のみ

5(2)-2図 どのような状況が整えられたら昇進したいと思うか〔性年代別〕



(6) 女性が出産後も同じ職場で働き続けるために必要なことについて〔複数回答〕

問6 あなたは、女性が出産後も離職せずと同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思えますか。○はいくつでも

「保育所，認定こども園，幼稚園，放課後児童会など，子どもを預けられる環境整備」	84.6%
「男性の家事参加への理解・意識改革」	58.8%
「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」	58.0%

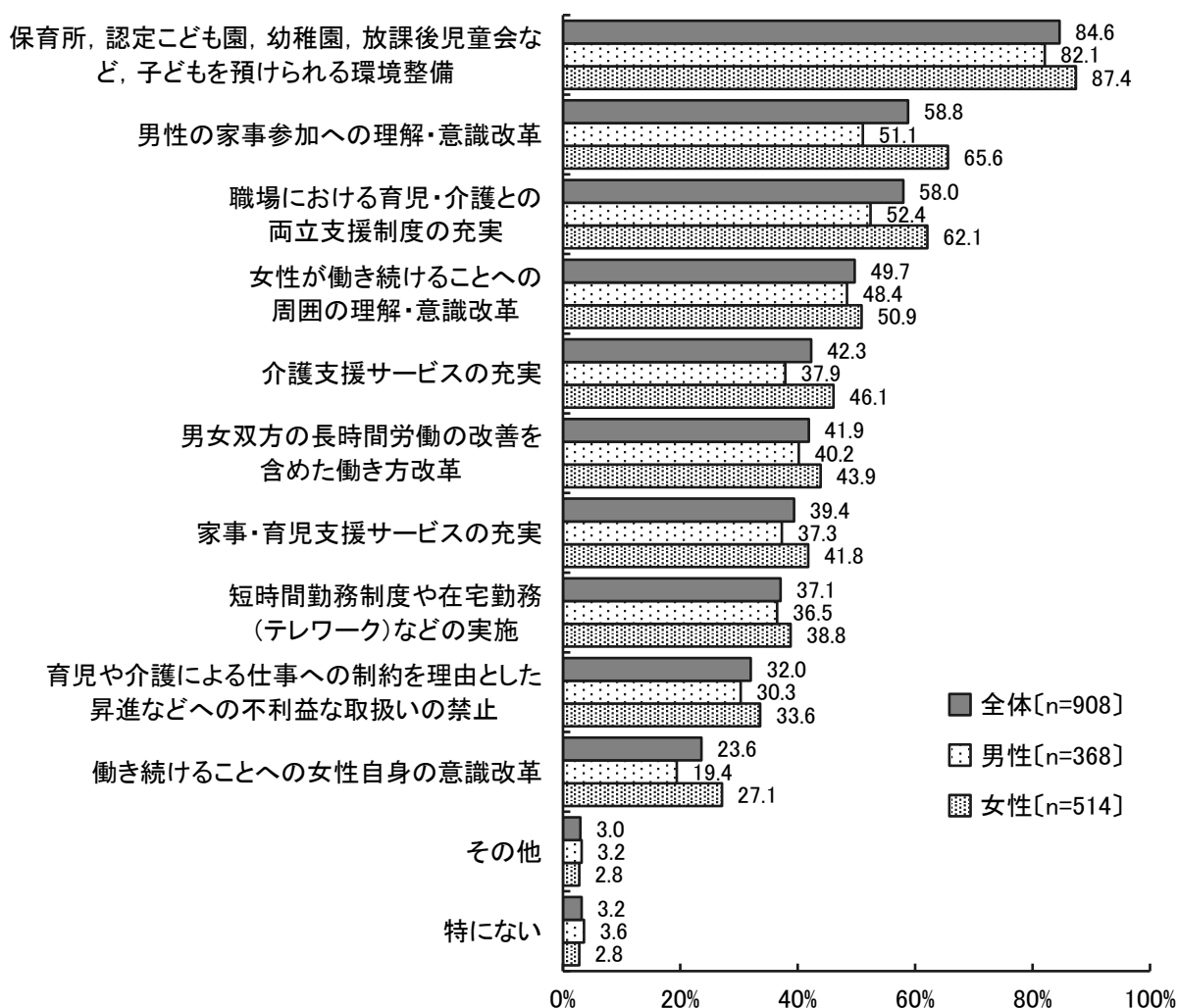
【全体】

「保育所，認定こども園，幼稚園，放課後児童会など，子どもを預けられる環境整備」が84.6%と最も高く、「男性の家事参加への理解・意識改革」が58.8%，「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」が58.0%と続く。

【性別】

女性が男性より特に高い項目としては、「男性の家事参加への理解・意識改革」が65.6%と男性の51.1%より14.5ポイント、「職場における育児・介護との両立支援制度の充実」が62.1%と男性の52.4%より9.7ポイント、「介護支援サービスの充実」が46.1%と男性の37.9%より8.2ポイント，それぞれ高くなっている。

6-1図 女性が出産後も働き続けるために必要なこと〔全体・性別〕



【年代別】

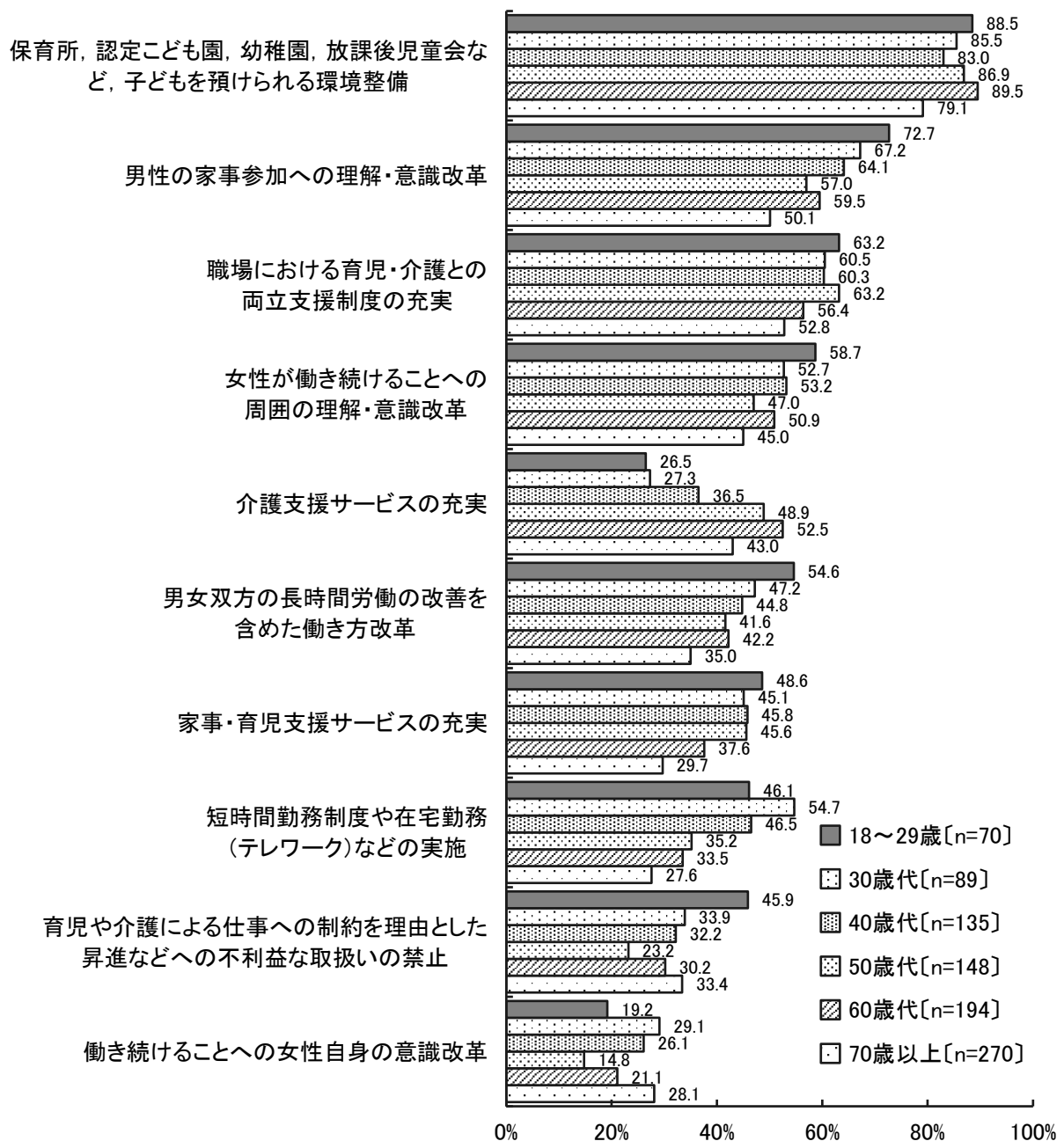
全ての年代で「保育所，認定こども園，幼稚園，放課後児童会など，子どもを預けられる環境整備」が最も高い。

18～29歳は、「男性の家事参加への理解・意識改革」が72.7%，「女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革」が58.7%，「男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革」が54.6%，「育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取扱いの禁止」が45.9%と，それぞれ他の年代より高い。

30歳代は、「短時間勤務制度や在宅勤務（テレワーク）などの実施」が54.7%と他の年代より高い。

60歳未満の各年代は、「家事・育児支援サービスの充実」がそれぞれ4割強と高く，60歳代と50歳代は、「介護支援サービスの充実」がそれぞれ52.5%，48.9%と他の年代より高い。

6-2図 女性が出産後も働き続けるために必要なこと〔年代別〕



(7) 育児・介護休業制度を利用する男性が少ない理由について〔複数回答〕

問7 育児・介護休業制度は、男女がともに取得できる制度ですが、男性の利用者が少ないのが現状です。その理由は何だと思いますか。○はいくつでも

「職場に迷惑がかかると思うから」	65.7%
「休業取得に対し、職場の理解が得られないから」	51.5%
「収入減になるから」	44.7%
「仕事が忙しくて利用できないから」	43.3%
「制度利用後の待遇面が心配だから」	41.7%

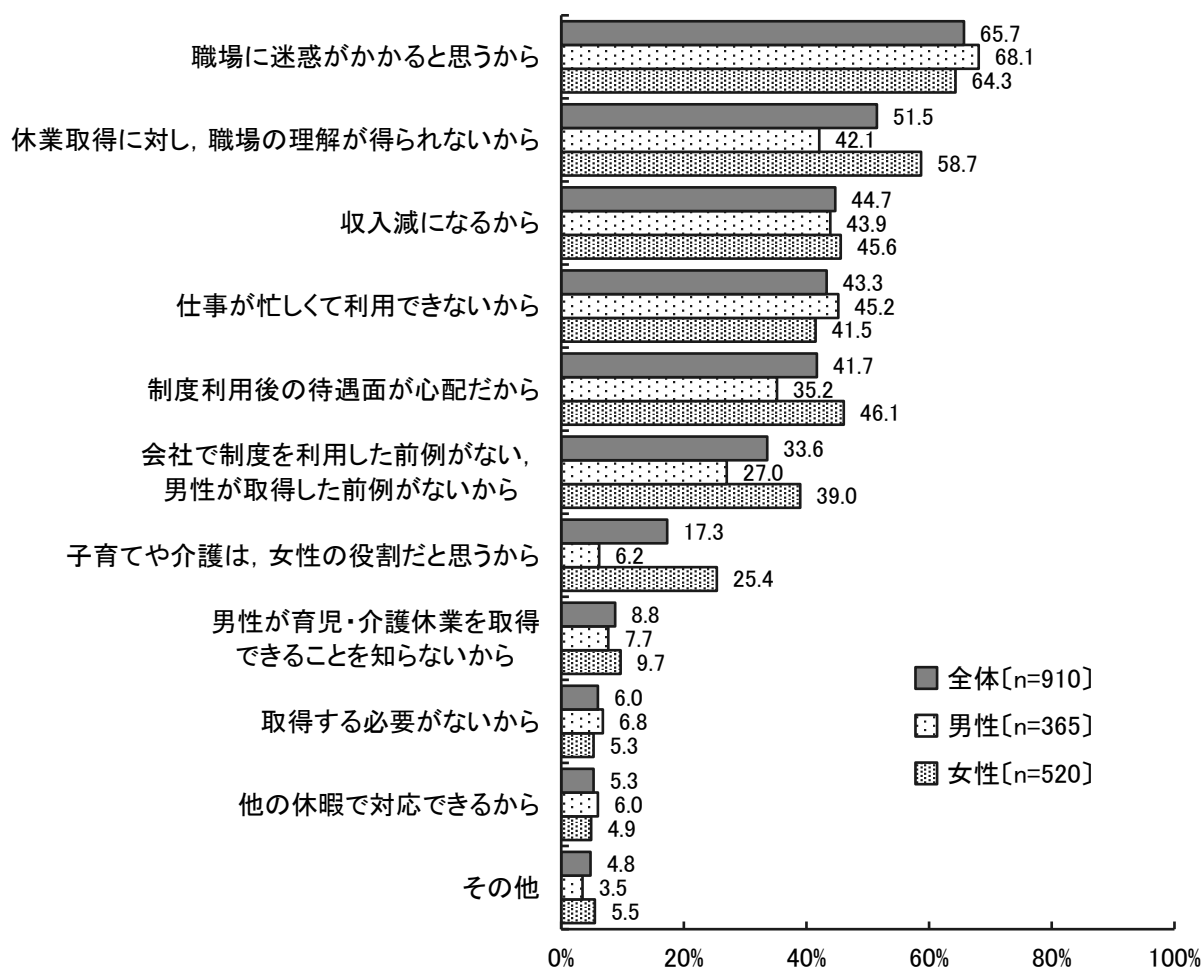
【全体】

「職場に迷惑がかかると思うから」が65.7%と最も高く、「休業取得に対し、職場の理解が得られないから」が51.5%、「収入減になるから」が44.7%、「仕事が忙しくて利用できないから」が43.3%、「制度利用後の待遇面が心配だから」が41.7%と続く。

【性別】

女性は、「休業取得に対し、職場の理解が得られないから」が58.7%と16.6ポイント、「制度利用後の待遇面が心配だから」が46.1%と10.9ポイント、「会社で制度を利用した前例がない、男性が取得した前例がないから」が39.0%と12.0ポイント、「子育てや介護は、女性の役割だと思ふから」が25.4%と19.2ポイント、それぞれ男性より目立って高い。

7-1図 育児・介護休業制度を利用する男性が少ない理由について〔全体・性別〕



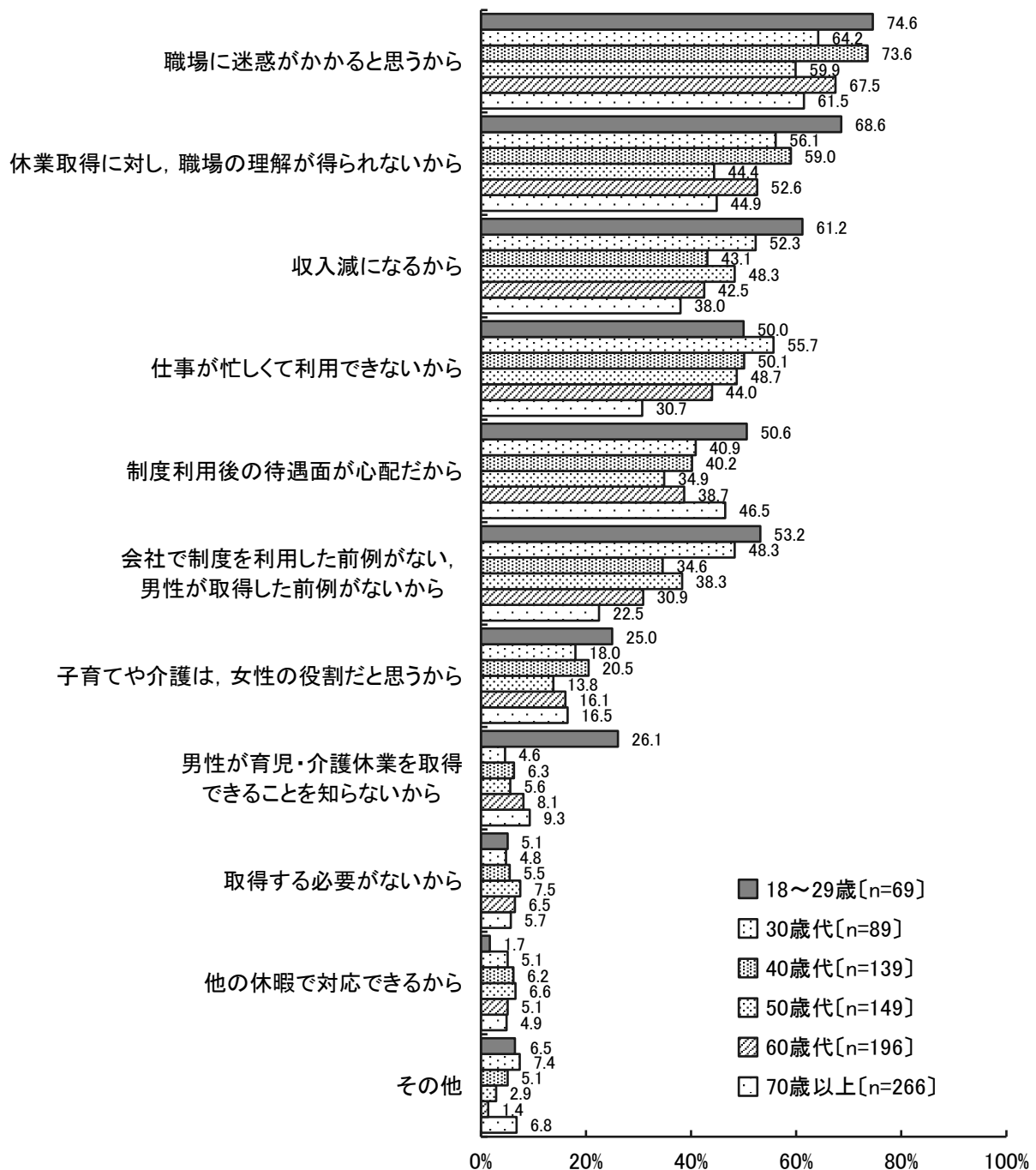
【年代別】

18～29歳と40歳代は、「職場に迷惑がかかると思うから」がそれぞれ74.6%、73.6%と他の年代より高く、18～29歳と30歳代は、「会社で制度を利用した前例がない、男性が取得した前例がないから」がそれぞれ53.2%、48.3%と他の年代より高い。

また、18～29歳は、「休業取得に対し、職場の理解が得られないから」が68.6%、「収入減になるから」が61.2%、「男性が育児・介護休業を取得できることを知らないから」が26.1%と、他の年代より高くなっている。

30歳代は、「仕事が忙しくて利用できないから」が55.7%と他の年代より高い。

7-2図 育児・介護休業制度を利用する男性が少ない理由について〔年代別〕

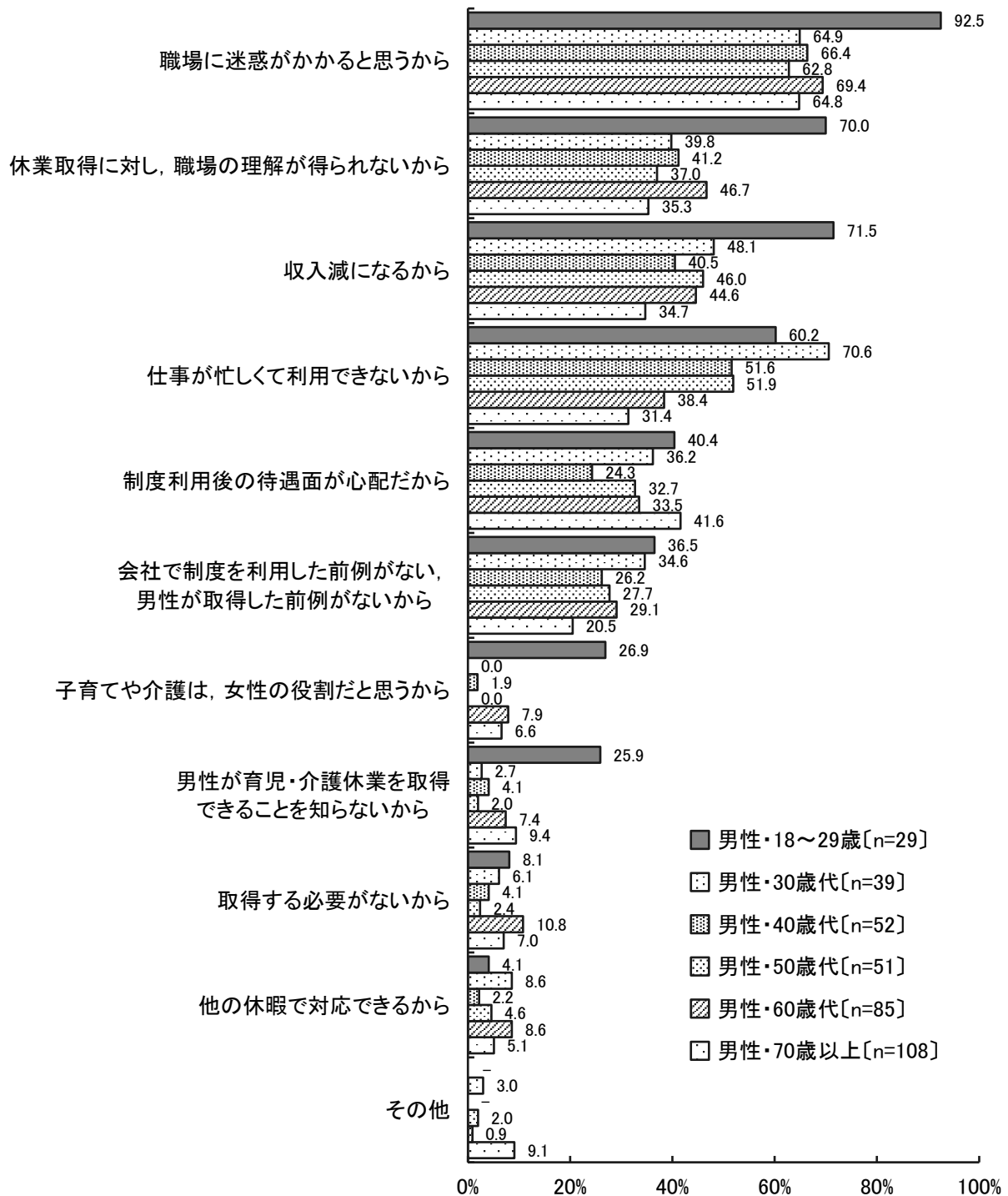


【男性年代別】

男性18～29歳は、「職場に迷惑がかかると思うから」が92.5%、「休業取得に対し、職場の理解が得られないから」が70.0%、「収入減になるから」が71.5%、「男性が育児・介護休業を取得できることを知らないから」が25.9%と、他の年代より高い。

男性30歳代と男性18～29歳は、「仕事が忙しくて利用できないから」がそれぞれ70.6%、60.2%と他の年代に比べ高くなっている。

7-3図 育児・介護休業制度を利用する男性が少ない理由について〔男性年代別〕



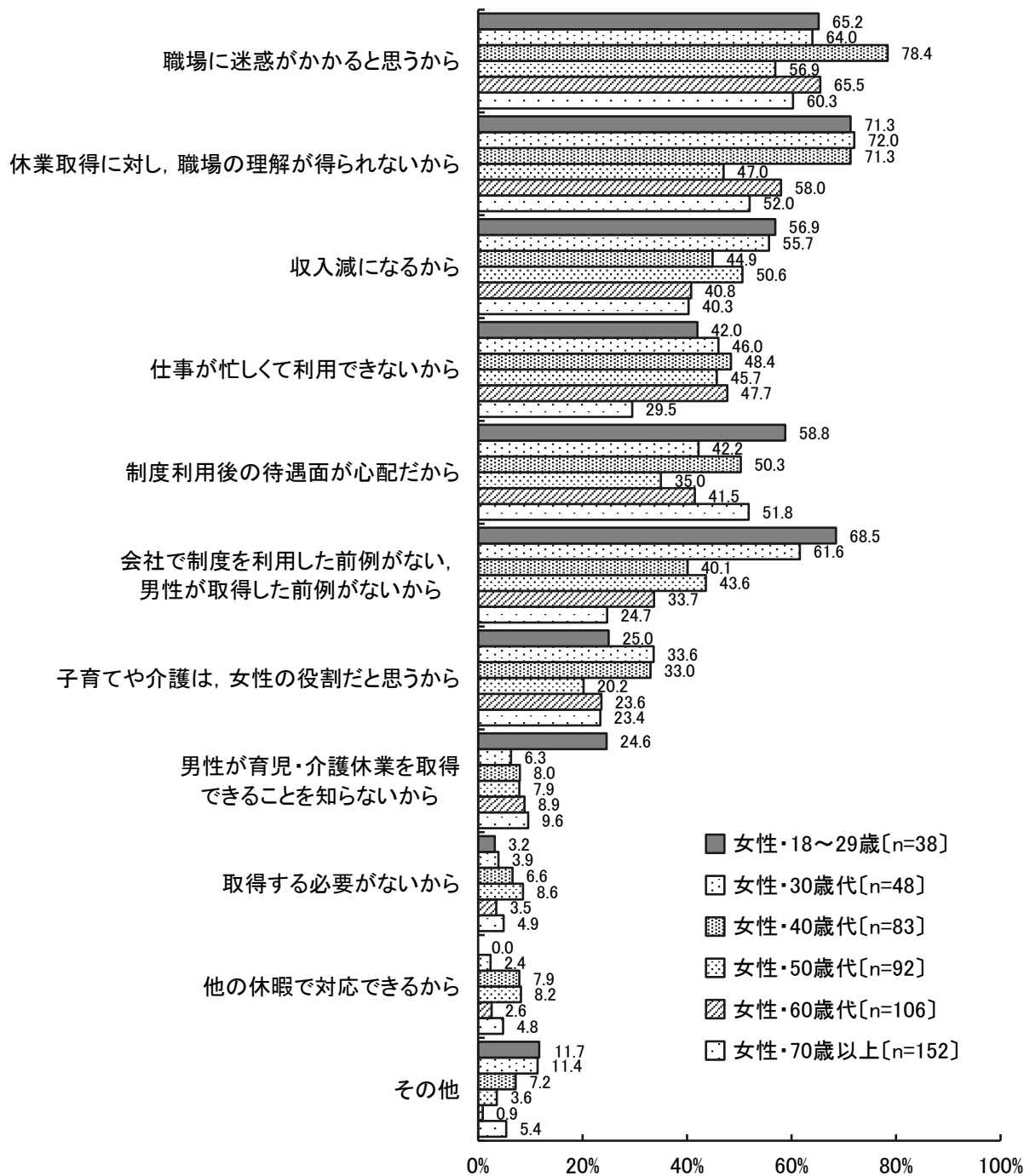
【女性年代別】

女性18～29歳，女性30歳代，女性40歳代は，「休業取得に対し，職場の理解が得られないから」がそれぞれ約7割と他の年代より高い。

女性18～29歳，女性30歳代は，「収入減になるから」がそれぞれ56.9%，55.7%と他の年代より高く，また，「会社で制度を利用した前例がない，男性が取得した前例がないから」についても，女性18～29歳が68.5%，女性30歳代が61.6%と他の年代より高い。

女性40歳代は，「職場に迷惑がかかると思うから」が78.4%と他の年代より高い。

7-4図 育児・介護休業制度を利用する男性が少ない理由について〔女性年代別〕



(8) 仕事と家庭を両立できる職場環境をつくるために必要なことについて〔複数回答〕

問8 男女がともに仕事と家庭を両立できる職場環境をつくるために、どのようなことが必要だと思いますか。○は3つまで

「有給休暇等を取得しやすい企業風土をつくること」	48.3%
「育児・介護休業制度を利用しやすくすること」	43.2%
「経営者や管理職の意識を改革すること」	34.8%
「在宅勤務やフレックスタイム制度等、柔軟な働き方ができる勤務制度を導入すること」	29.8%

【全体】

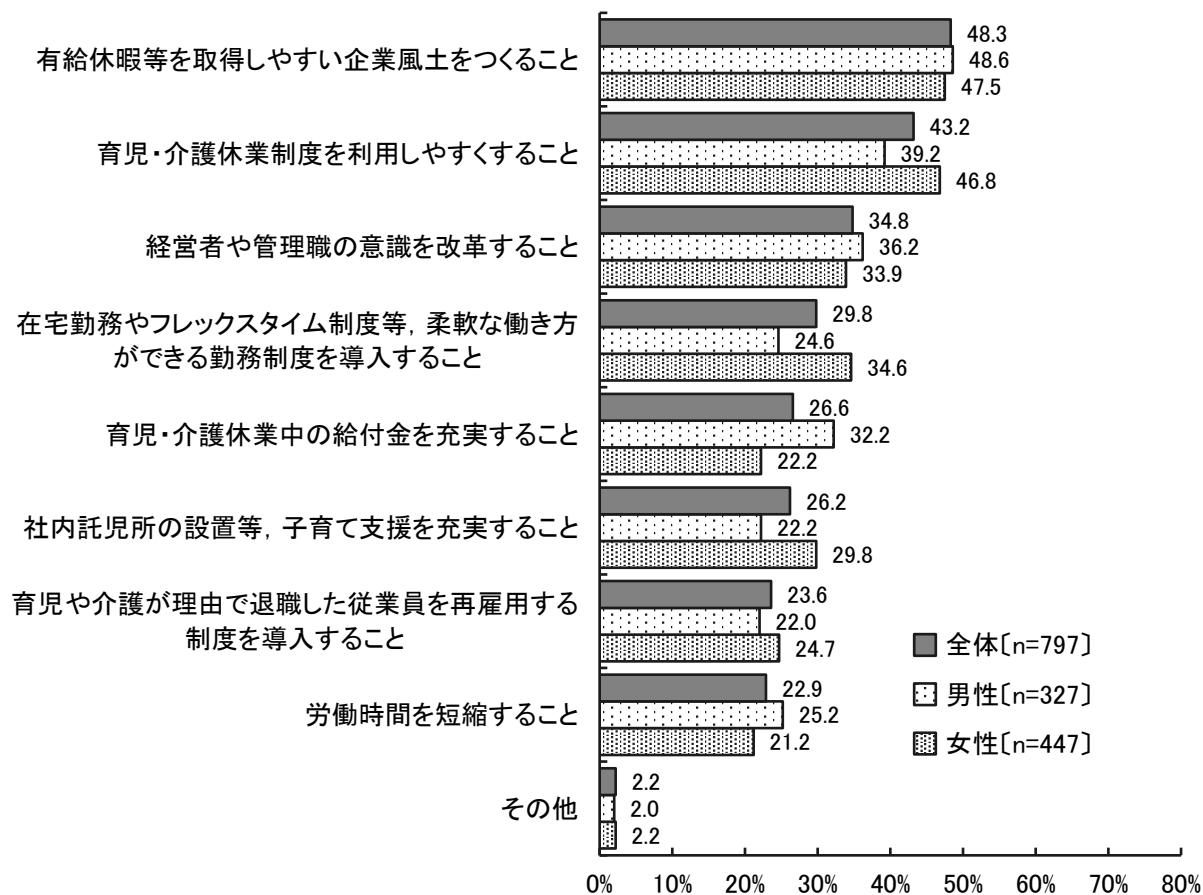
「有給休暇等を取得しやすい企業風土をつくること」が48.3%と最も高く、「育児・介護休業制度を利用しやすくすること」が43.2%、「経営者や管理職の意識を改革すること」が34.8%、「在宅勤務やフレックスタイム制度等、柔軟な働き方ができる勤務制度を導入すること」が29.8%と続く。

【性別】

男性は、「育児・介護休業中の給付金を充実すること」が32.2%と女性の22.2%より10.0ポイント高い。

女性は、「在宅勤務やフレックスタイム制度等、柔軟な働き方ができる勤務制度を導入すること」が34.6%と男性の24.6%より10.0ポイント高い。

8-1図 仕事と家庭を両立できる職場環境をつくるために必要なことについて〔全体・性別〕



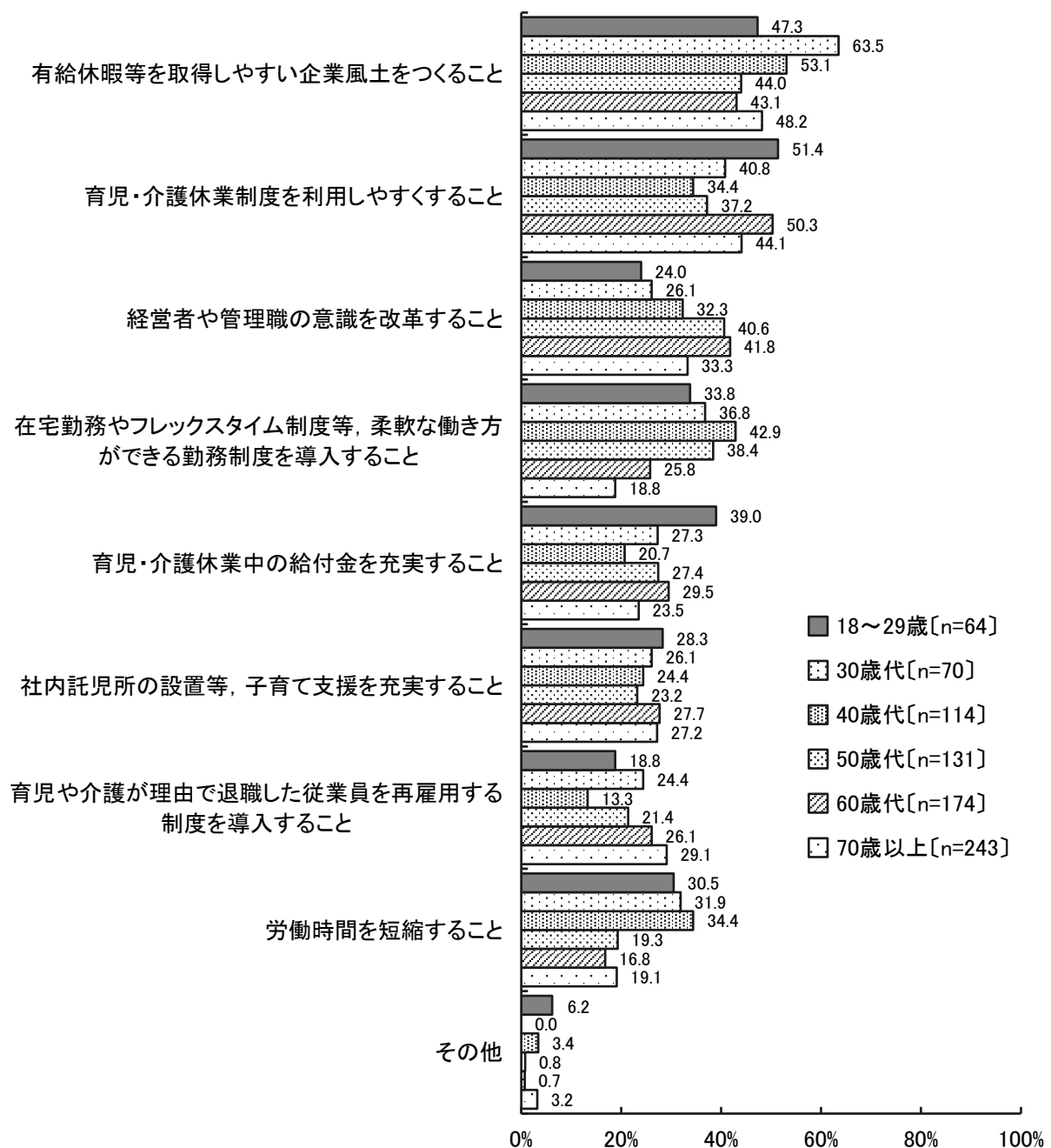
【年代別】

18～29歳と60歳代は、「育児・介護休業制度を利用しやすくすること」がそれぞれ51.4%、50.3%と他の年代より高く、18～29歳は、「育児・介護休業中の給付金を充実すること」についても39.0%と他の年代より高い。

30歳代は、「有給休暇等を取得しやすい企業風土をつくること」が63.5%と他の年代より高く、40歳代は、「在宅勤務やフレックスタイム制度等、柔軟な働き方ができる勤務制度を導入すること」が42.9%と高い。

50歳代と60歳代は、「経営者や管理職の意識を改革すること」がそれぞれ40.6%、41.8%と他の年代より高くなっている。

8-2図 仕事と家庭を両立できる職場環境をつくるために必要なことについて〔年代別〕



3. 地域活動，市民活動における男女共同参画について

(9-1) 地域活動や市民活動への参加状況について

問9-1 あなたは，地域活動や市民活動に現在参加していますか。○は1つだけ

「参加している」28.6%，「参加していない」71.4%
⇒「参加していない」が42.8ポイント高い

【全体・過去調査との比較】

「参加している」が28.6%，「参加していない」が71.4%と，「参加していない」が42.8ポイント高い。

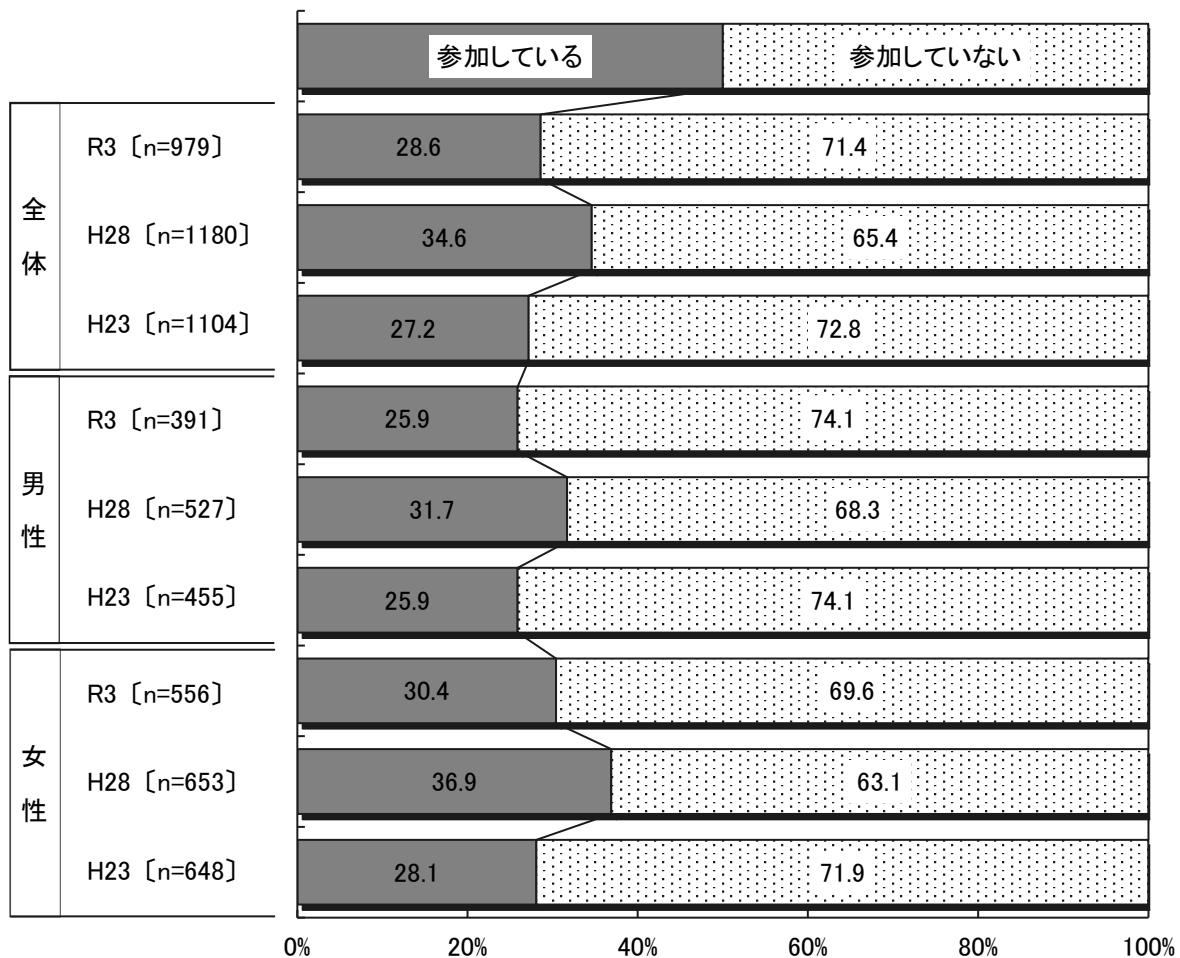
平成28年実施の調査結果との比較では，「参加している」が6.0ポイント減少し，ほぼ平成23年実施の調査結果（27.2%）と同様の値となっている。

【性別・過去調査との比較】

性別では，女性は「参加している」が30.4%と男性の25.9%より4.5ポイント高い。

平成28年実施の調査結果との比較では，男性は「参加している」が5.8ポイント，女性は6.5ポイント減少し，男女ともほぼ平成23年実施の調査結果と同様の値まで減少している。

9(1)-1図 地域活動，市民活動の参加について [全体・性別・過去調査との比較]



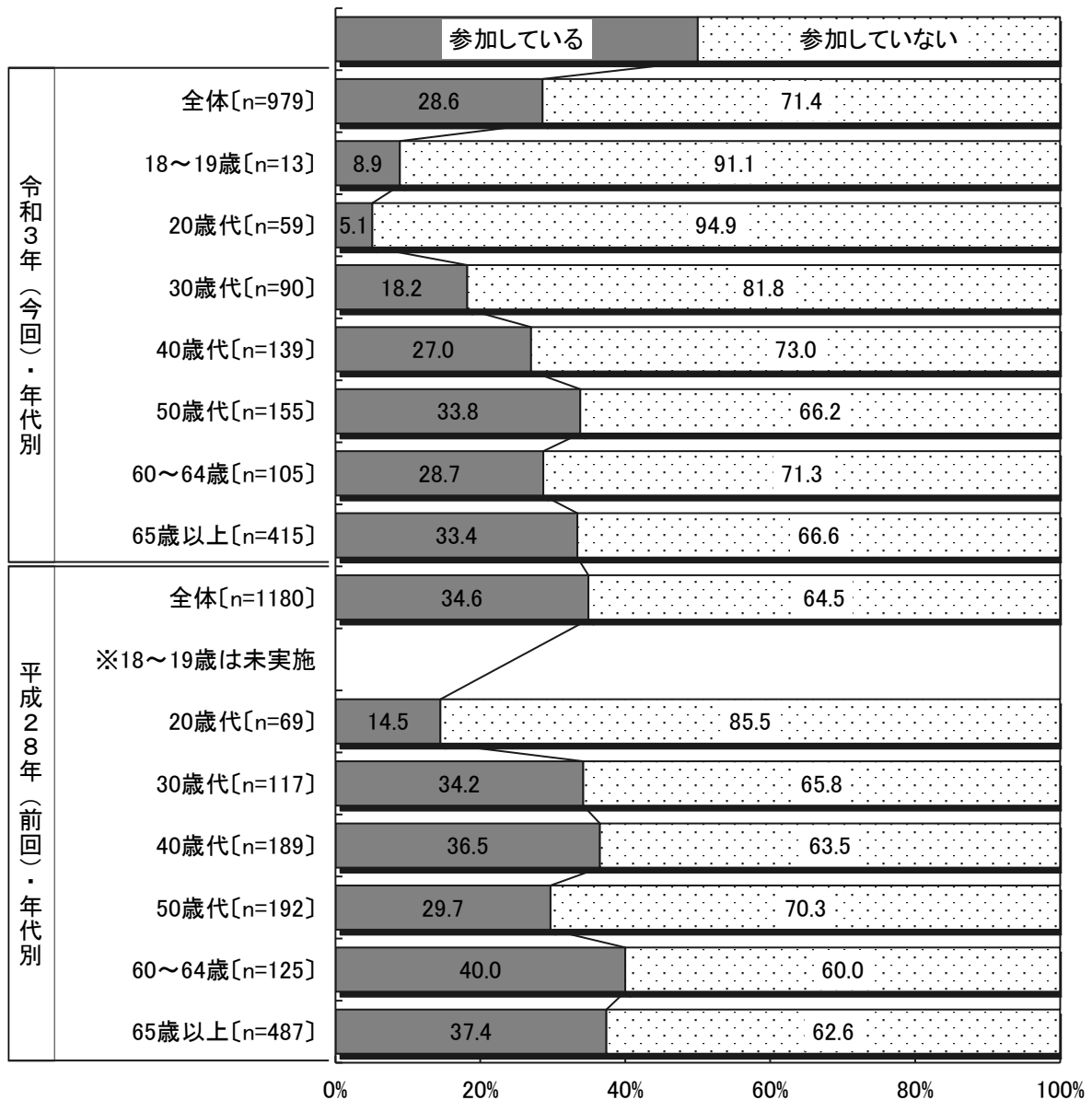
【年代別・過去調査との比較】

20歳代は「参加している」が5.1%と他の年代より低い。

平成28年実施の調査結果との比較では、50歳代については平成28年調査の「参加している」が29.7%、今回調査は33.8%と前回調査より4.1ポイント増加したが、その他の年代では4.0ポイントから16.0ポイント前回調査より減少している。

※18～19歳は、前回調査では調査対象となっていないため参考掲載，分析対象からは除外。

9(1)-2図 地域活動，市民活動の参加について [年代別・過去調査との比較]

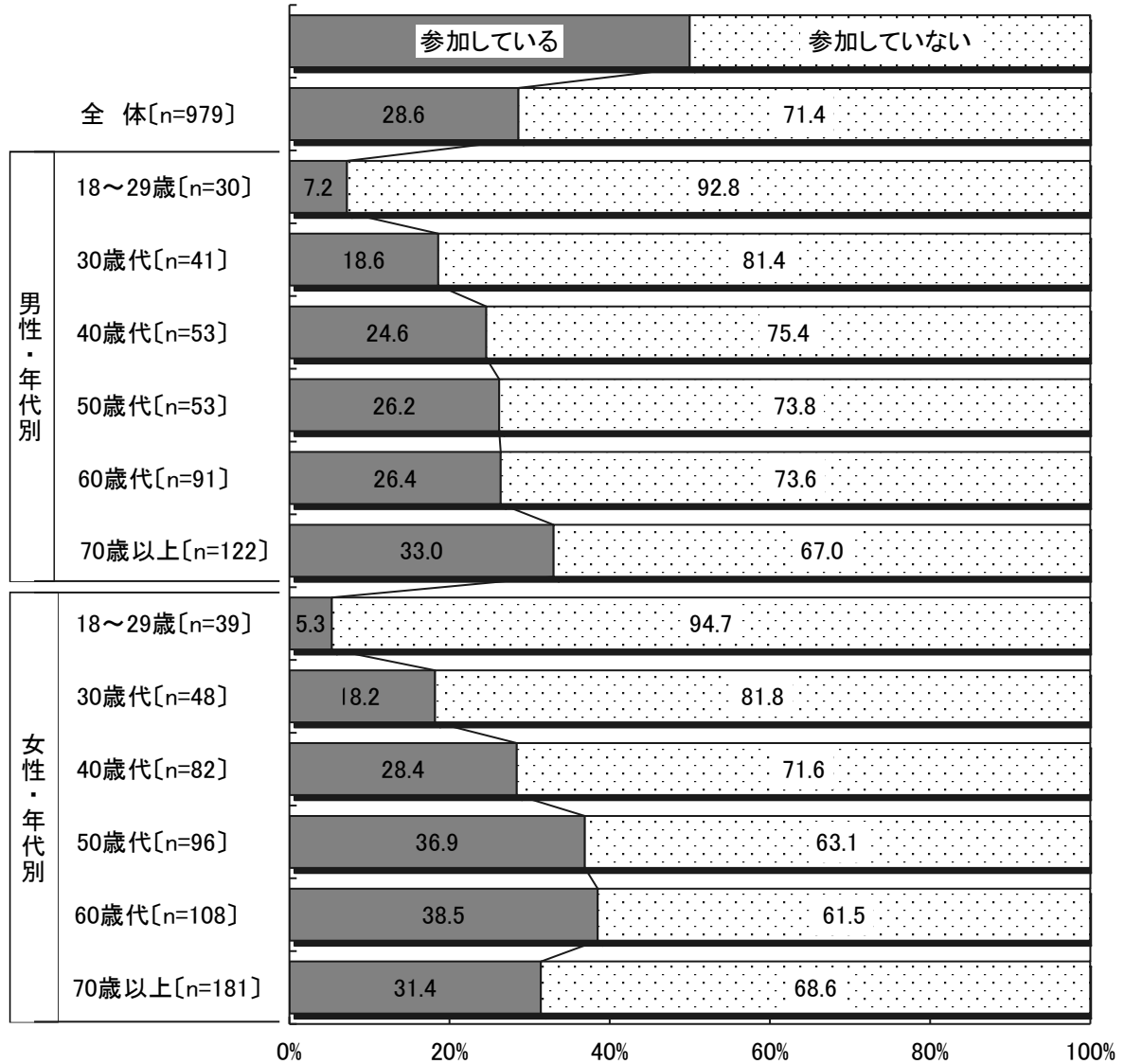


【性年代別】

女性18～29歳，男性18～29歳は，「参加している」がそれぞれ5.3%，7.2%と特に低い。

女性60歳代，女性50歳代は，「参加している」がそれぞれ38.5%，36.9%と他の年代より高く，また男性の同年代よりも高い。

9(1)-3 図 地域活動，市民活動の参加について〔性年代別〕

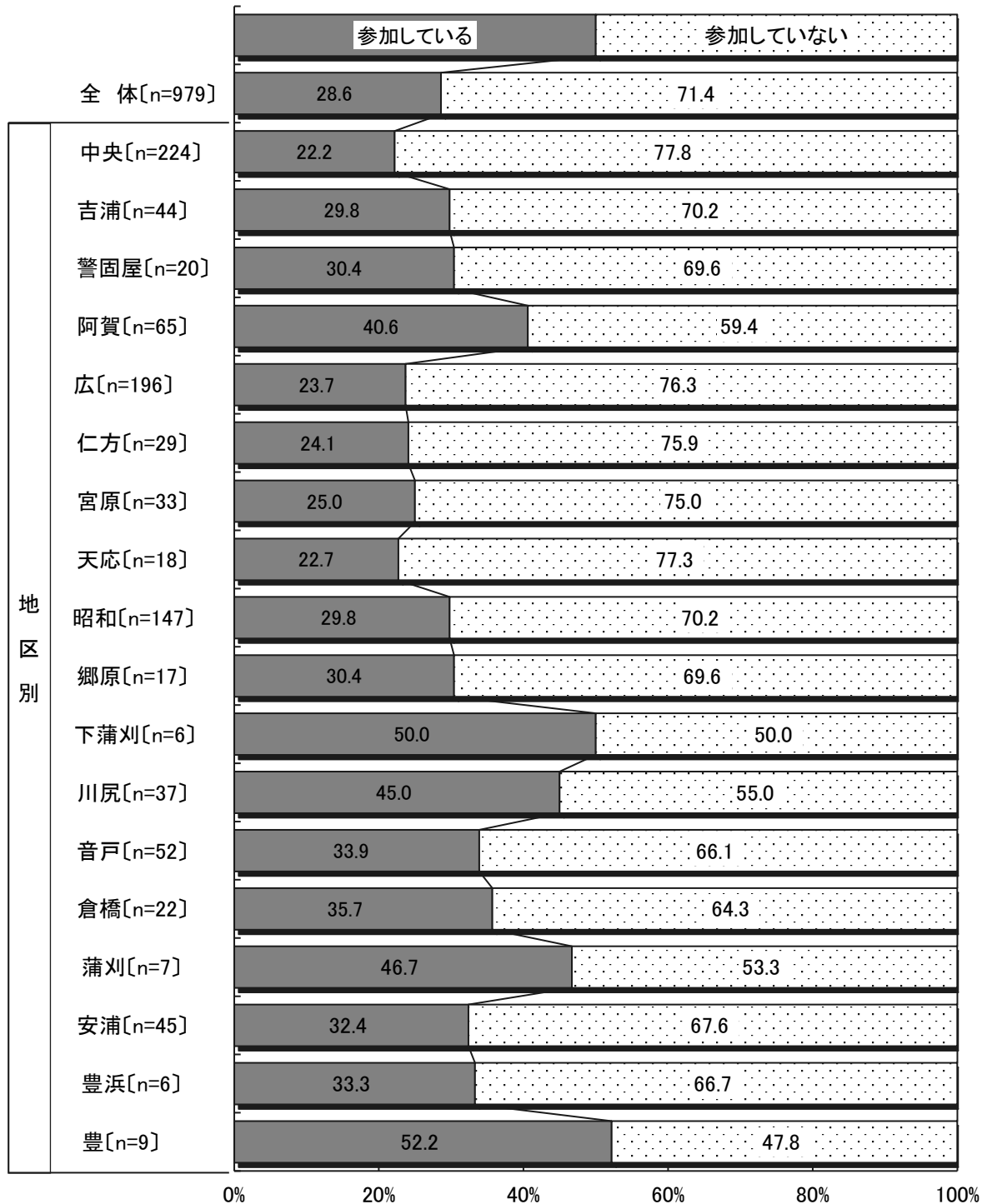


【地区別】

川尻地区と阿賀地区は、「参加している」がそれぞれ45.0%、40.6%と他の地区より高い。

※下蒲刈、蒲刈、豊浜、豊地区は標本数が少ないので参考掲載。分析対象からは除外。

9(1)-4図 地域活動、市民活動の参加について〔地区別〕



(9-2) 活動に参加していない理由について〔複数回答〕

問9-2 あなたが、現在、活動に参加していない理由は何ですか。○はいくつでも

「きっかけがないから」	38.4%
「忙しく、時間がとれないから」	36.5%
「情報がないから」	27.8%
「関心がないから」	27.6%

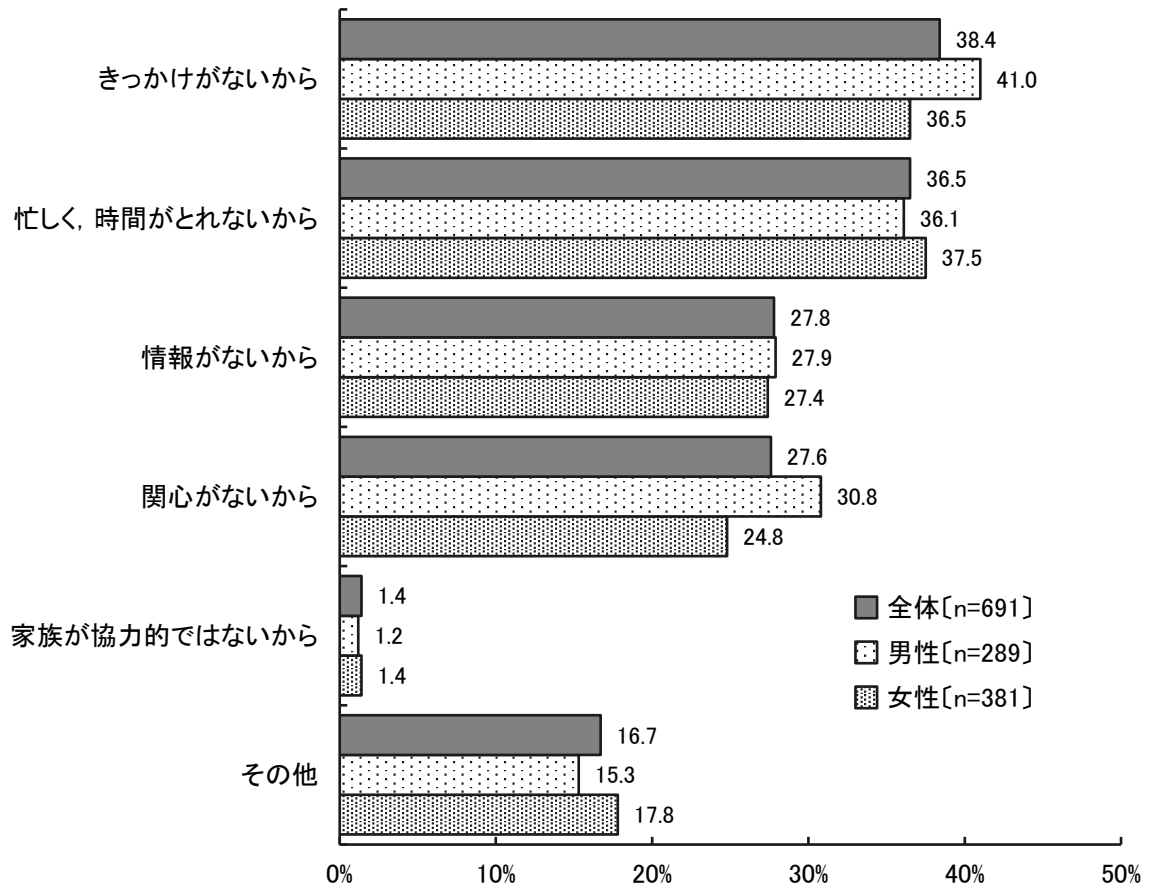
【全体】

「きっかけがないから」が38.4%、「忙しく、時間がとれないから」が36.5%と高く、「情報がないから」が27.8%、「関心がないから」が27.6%と続く。

【性別】

男性は、「関心がないから」が30.8%と、女性の24.8%より6.0ポイント高い。

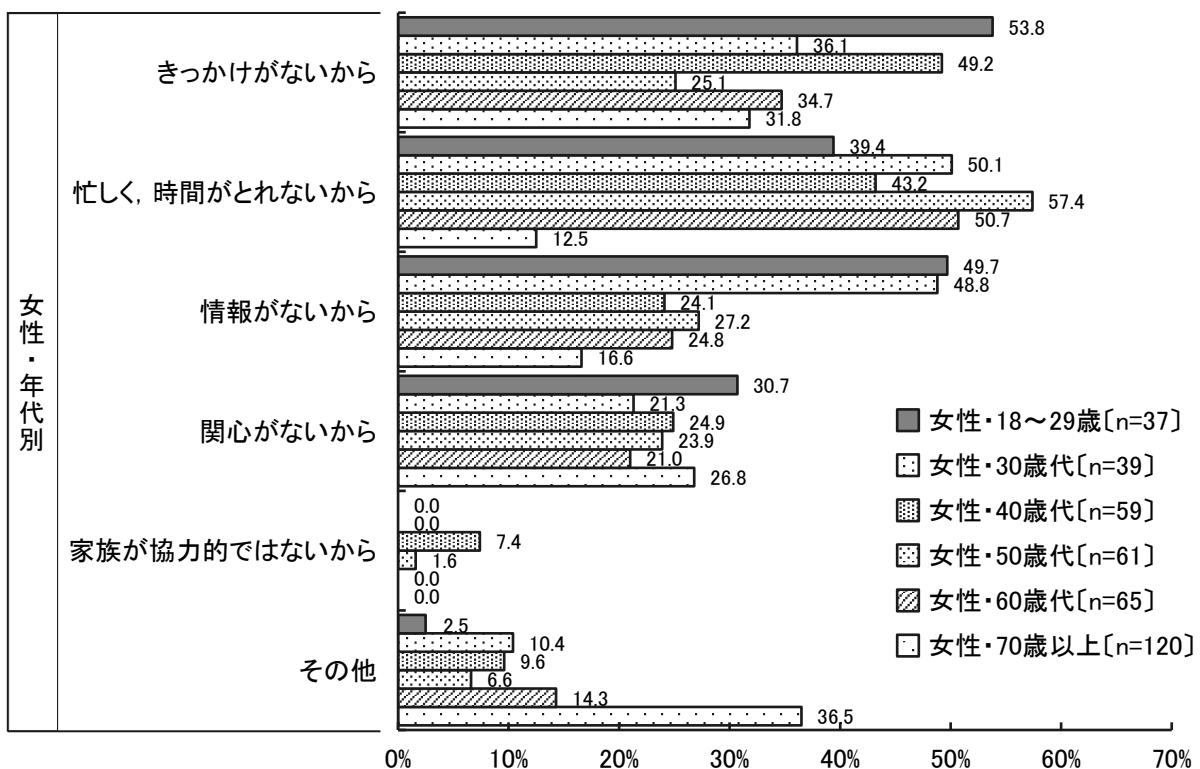
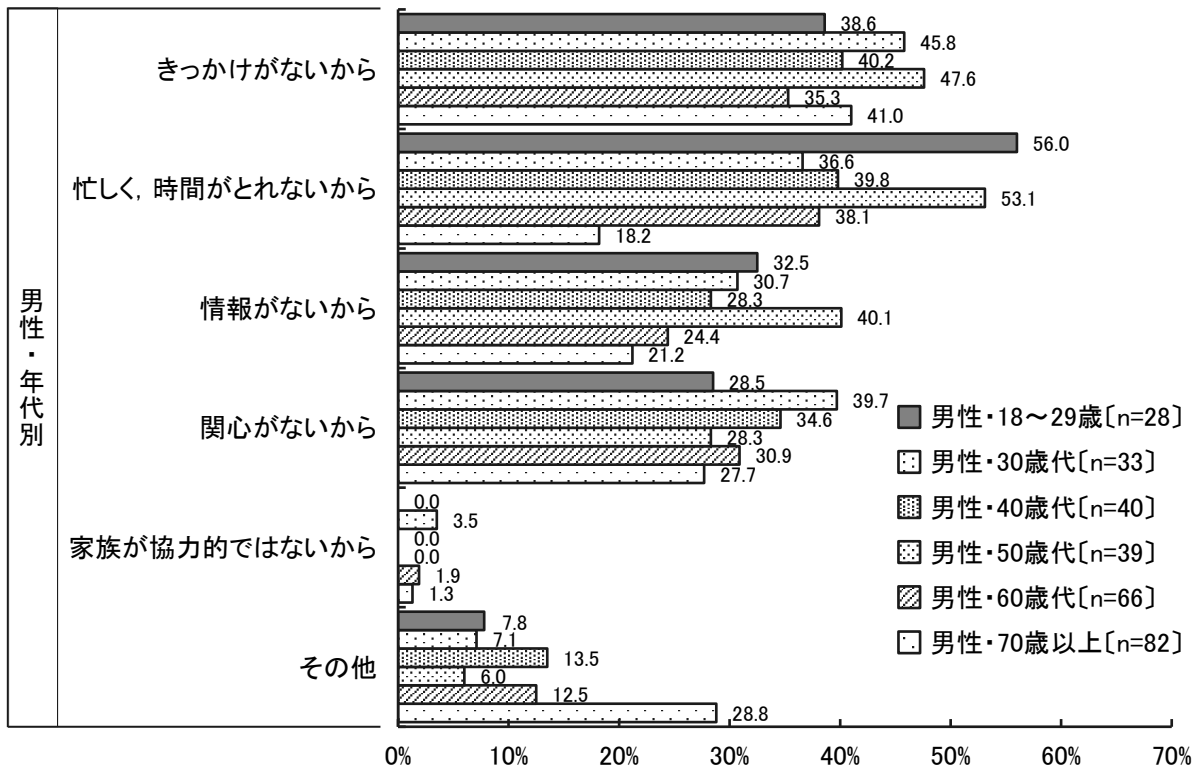
9(2)-1 図 活動に参加していない理由について〔全体・性別〕



【性年代別】

男性30歳代，男性50歳代，女性18～29歳は，女性40歳代は，「きっかけがないから」が他の年代より高く，男性50歳代，女性18～29歳，女性30歳代は，「情報がないから」が他の年代より高い。男性18～29歳，男性50歳代，女性30歳代，女性50歳代，女性60歳代は，それぞれ「忙しく，時間がとれないから」が5割以上と他の年代より高い。

9(2)-2図 活動に参加していない理由について〔性年代別〕



(10) 地域活動等の現状について〔複数回答〕

問10 あなたは、地域活動等の現状についてどのように思いますか。○はいくつでも

「団体の会長に男性がつき、女性は補助的役職につく慣行がある」	30.2%
「男性の参加が少ない」	26.4%
「男女が平等に活動している」	24.3%
「女性は役員等の責任のある仕事につきたがらない」	20.8%

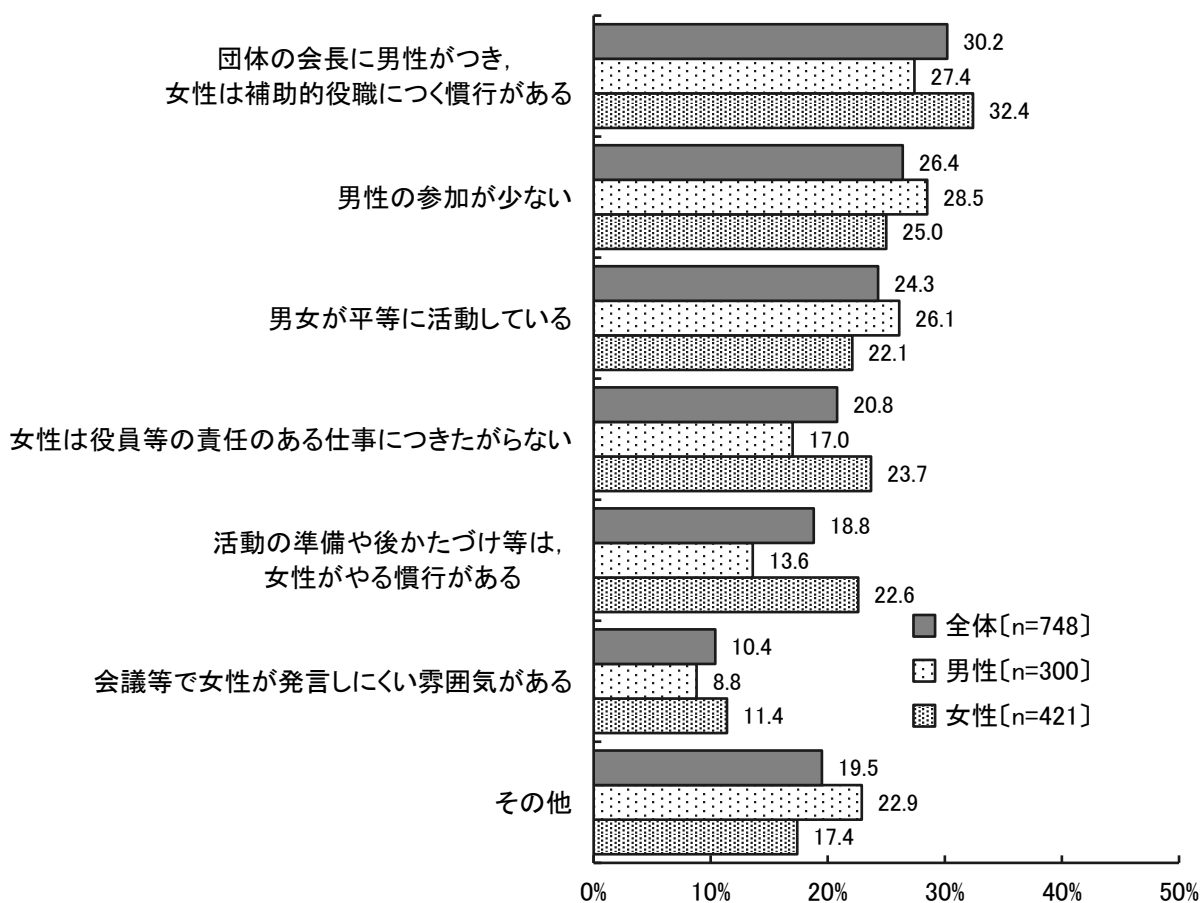
【全体】

「団体の会長に男性がつき、女性は補助的役職につく慣行がある」が30.2%と最も高く、「男性の参加が少ない」が26.4%「男女が平等に活動している」が24.3%、「女性は役員等の責任のある仕事につきたがらない」が20.8%と続く。

【性別】

女性は、「活動の準備や後かたづけ等は、女性がやる慣行がある」が22.6%と男性の13.6%より9.0ポイント、「女性は役員等の責任のある仕事につきたがらない」が23.7%と男性の17.0%より6.7ポイント、それぞれ高い。

10-1図 地域活動等の現状について〔全体・性別〕

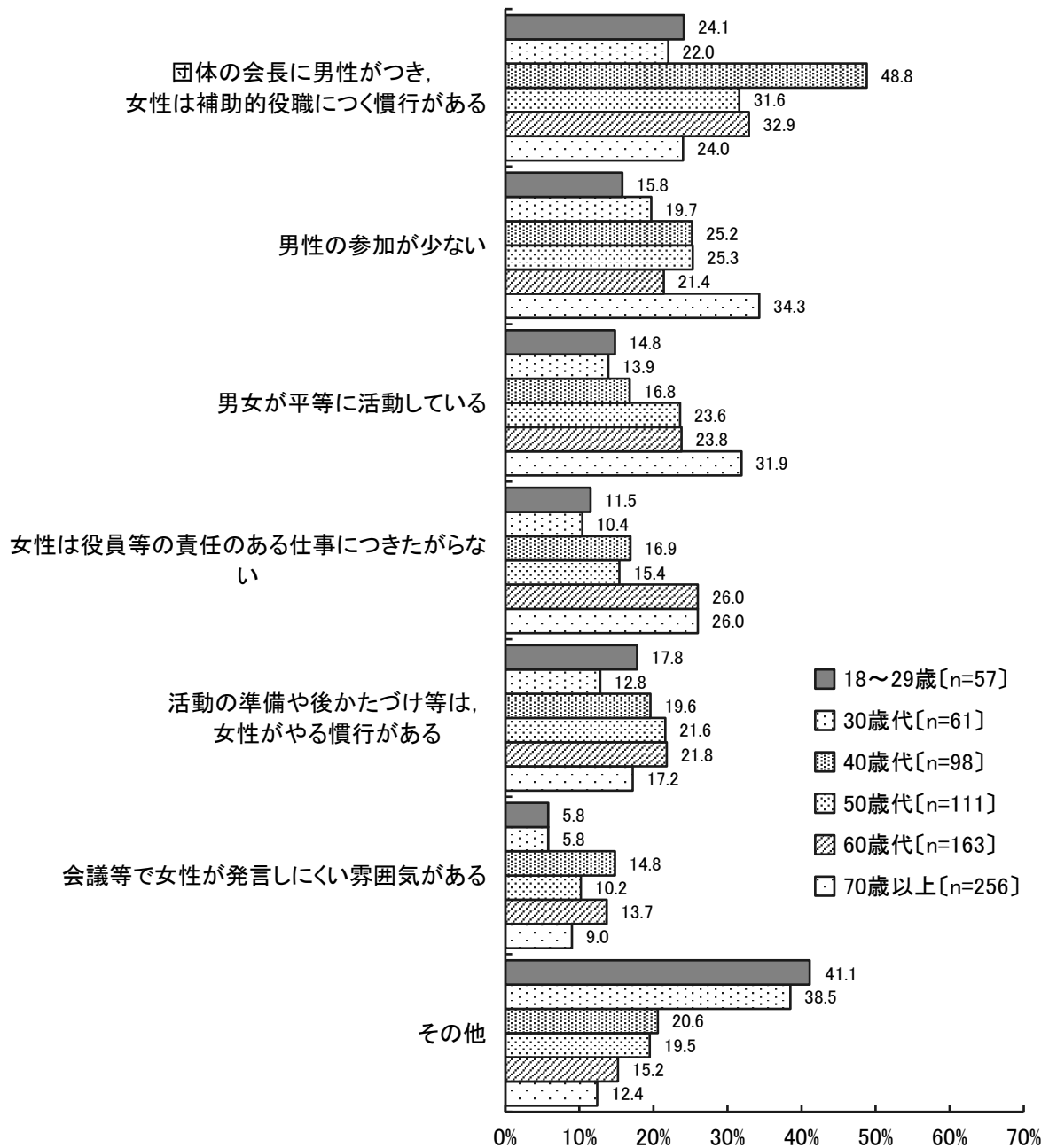


【年代別】

40歳代は、「団体の会長に男性がつき、女性は補助的役職につく慣行がある」が48.8%と他の年代より高い。

70歳以上は、「男性の参加が少ない」が34.3%、「男女が平等に活動している」が31.9%と他の年代より高く、60歳代と70歳以上は、「女性は役員等の責任のある仕事につきたがらない」がそれぞれ26.0%と他の年代より高くなっている。

10-2図 地域活動等の現状について〔年代別〕



4. 仕事と家庭生活，地域活動・市民活動の両立について

(11) 生活における優先度で現実がいちばん近いものについて

問11 あなたの生活における優先度について，あなたの**現実と理想**がいちばん近いものを，次の中から選んでください。**現実と理想**それぞれについて1～5のいずれかに○

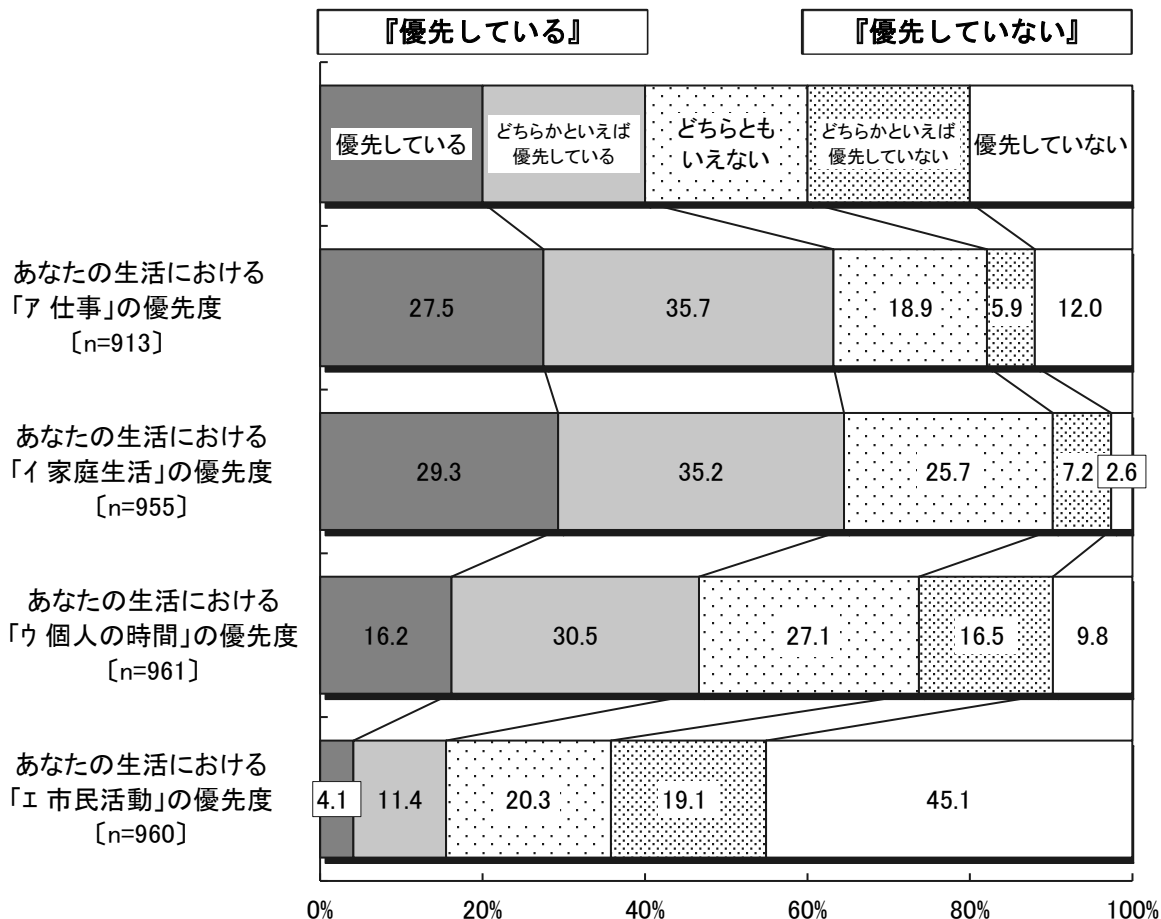
「仕事」「家庭生活」「個人の時間」
⇒『優先している』が『優先していない』より高い
「地域活動やボランティアなどの市民活動での活動時間」
⇒『優先していない』が『優先している』より高い

【生活における現実の優先度】

■優先度	『優先している』	『優先していない』
ア 「仕事」の優先度	63.2%	17.9%
イ 「家庭生活」の優先度	64.5%	9.8%
ウ 「個人の時間」の優先度	46.7%	26.3%
エ 「地域活動やボランティアなどの市民活動での活動時間」の優先度	15.5%	64.2%

※「優先している」と「どちらかといえば優先している」を合わせて『優先している』，
「優先していない」と「どちらかといえば優先していない」を合わせて『優先していない』とする。

11-1図 生活における<現実>の優先度〔全体〕



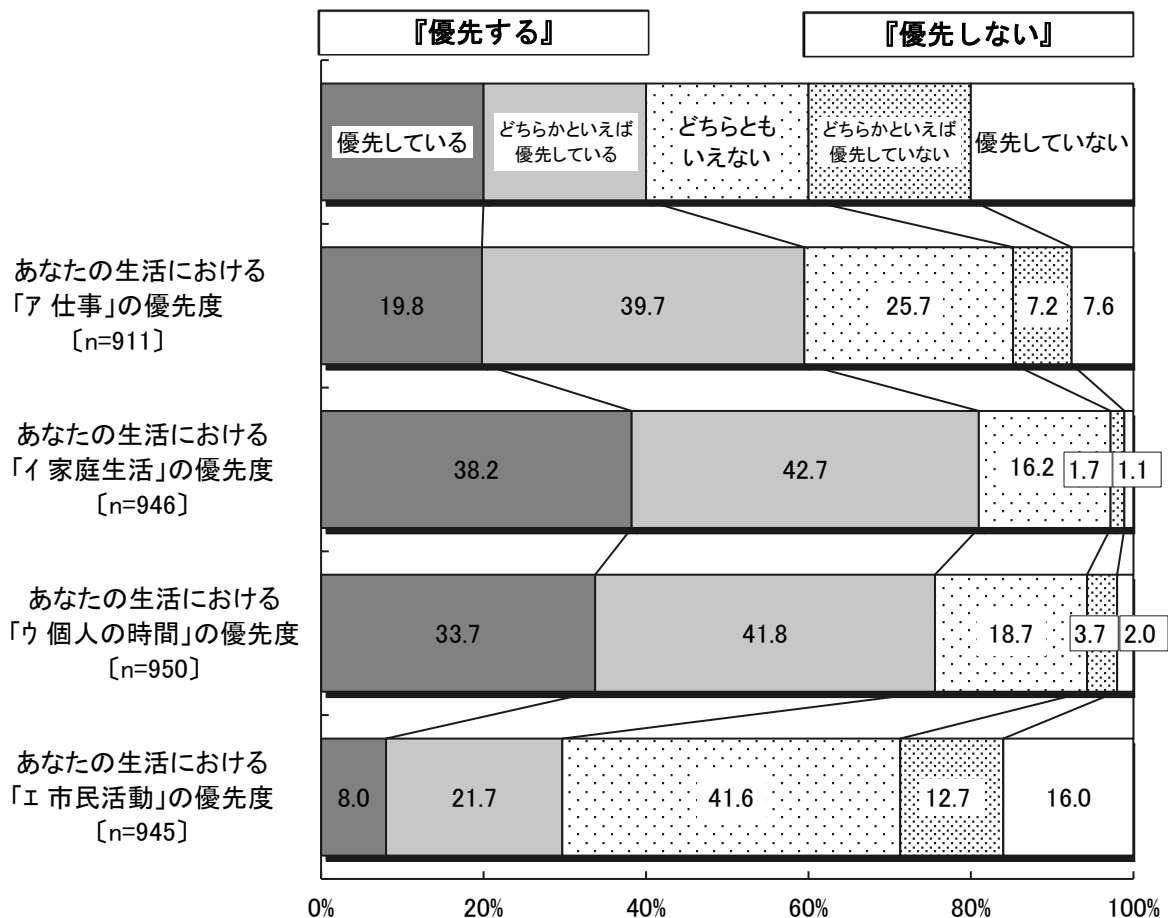
「仕事」「家庭生活」「個人の時間」
 ⇒『優先している』が『優先していない』より高い
 「地域活動やボランティアなどの市民活動での活動時間」
 ⇒「どちらともいえない」が最も高く、『優先している』と『優先していない』
 はともに3割弱で意見が分かれている。

【生活における理想の優先度】

■優先度	『優先する』	『優先しない』
ア 「仕事」の優先度	59.5%	14.8%
イ 「家庭生活」の優先度	80.9%	2.8%
ウ 「個人の時間」の優先度	75.5%	5.7%
エ 「地域活動やボランティアなどの市民活動での活動時間」の優先度	29.7%	28.7%

※「優先している」と「どちらかといえば優先している」を合わせて『優先する』，
 「優先していない」と「どちらかといえば優先していない」を合わせて『優先しない』とする。

11-2図 生活における＜理想＞の優先度〔全体〕



ア あなたの生活における「仕事」の優先度（現実）

『優先している』は 63.2%

【全体】

『優先している』は63.2%、『優先していない』は17.9%と、『優先している』が45.3ポイント高い。

【性別】

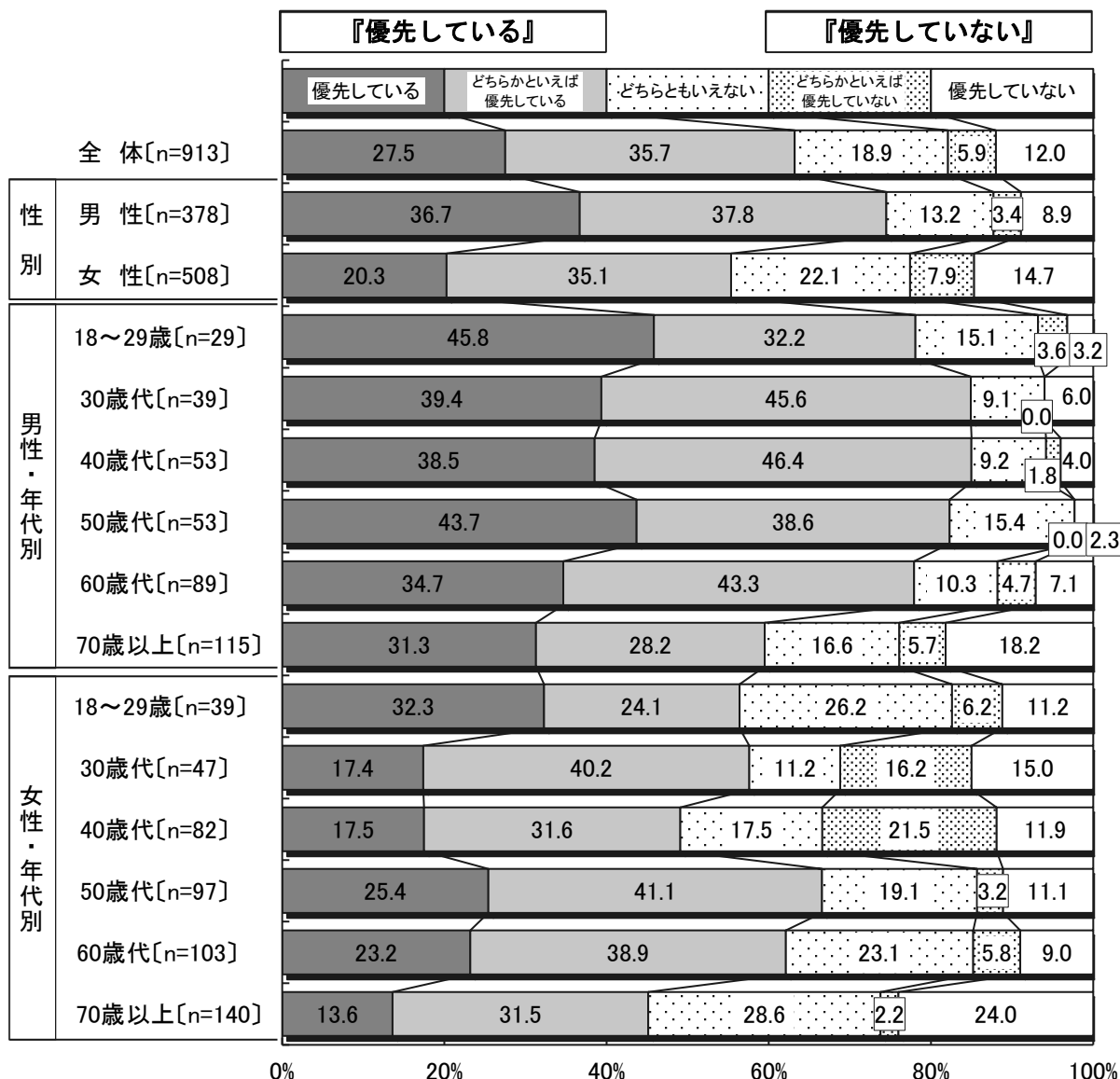
男性は、『優先している』が74.5%と、女性の55.4%より19.1ポイント高い。

【性年代別】

どの年代においても、男性の方が女性より『優先している』が高い。

男性70歳以上は、『優先している』が59.5%と他の男性の年代より低い。また、女性40歳代と女性70歳以上は、『優先している』がそれぞれ49.1%、45.1%と、他の年代より低い。

11-3図 生活における優先度で現実がいちばん近いものについて〔全体・性別・性年代別〕
（7 あなたの生活における「仕事」の優先度）



イ あなたの生活における「家庭生活」の優先度（現実）

『優先している』は 64.5%

【全体】

『優先している』は64.5%、『優先していない』は9.8%と、『優先している』が54.7ポイント高い。

【性別】

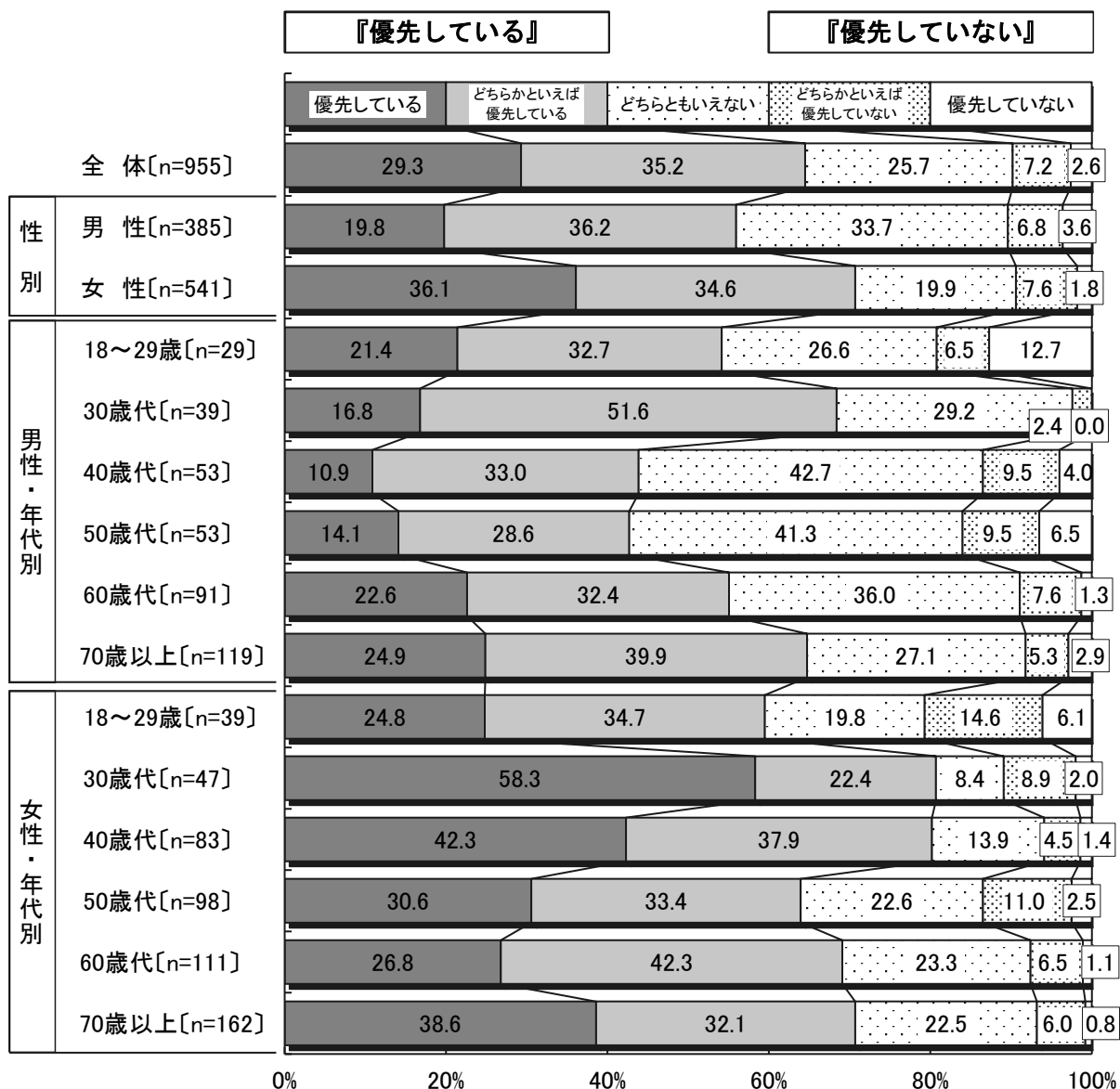
女性は、『優先している』が70.7%と、男性の56.0%より14.7ポイント高い。

男性は、『どちらともいえない』が33.7%と、女性の19.9%より13.8ポイント高い。

【性年代別】

男性40歳代と男性50歳代は、『優先している』がそれぞれ43.9%、42.7%と他の年代より低く、女性30歳代と女性40歳代は、『優先している』がそれぞれ80.7%、80.2%と他の年代より高い。

11-4図 生活における優先度で現実がいちばん近いものについて【全体・性別・性年代別】
（イ あなたの生活における「家庭生活」の優先度）



ウ あなたの生活における「個人の時間」の優先度（現実）

『優先している』は46.7%

【全体】

『優先している』は46.7%，『優先していない』は26.3%と，『優先している』が20.4ポイント高い。

【性別】

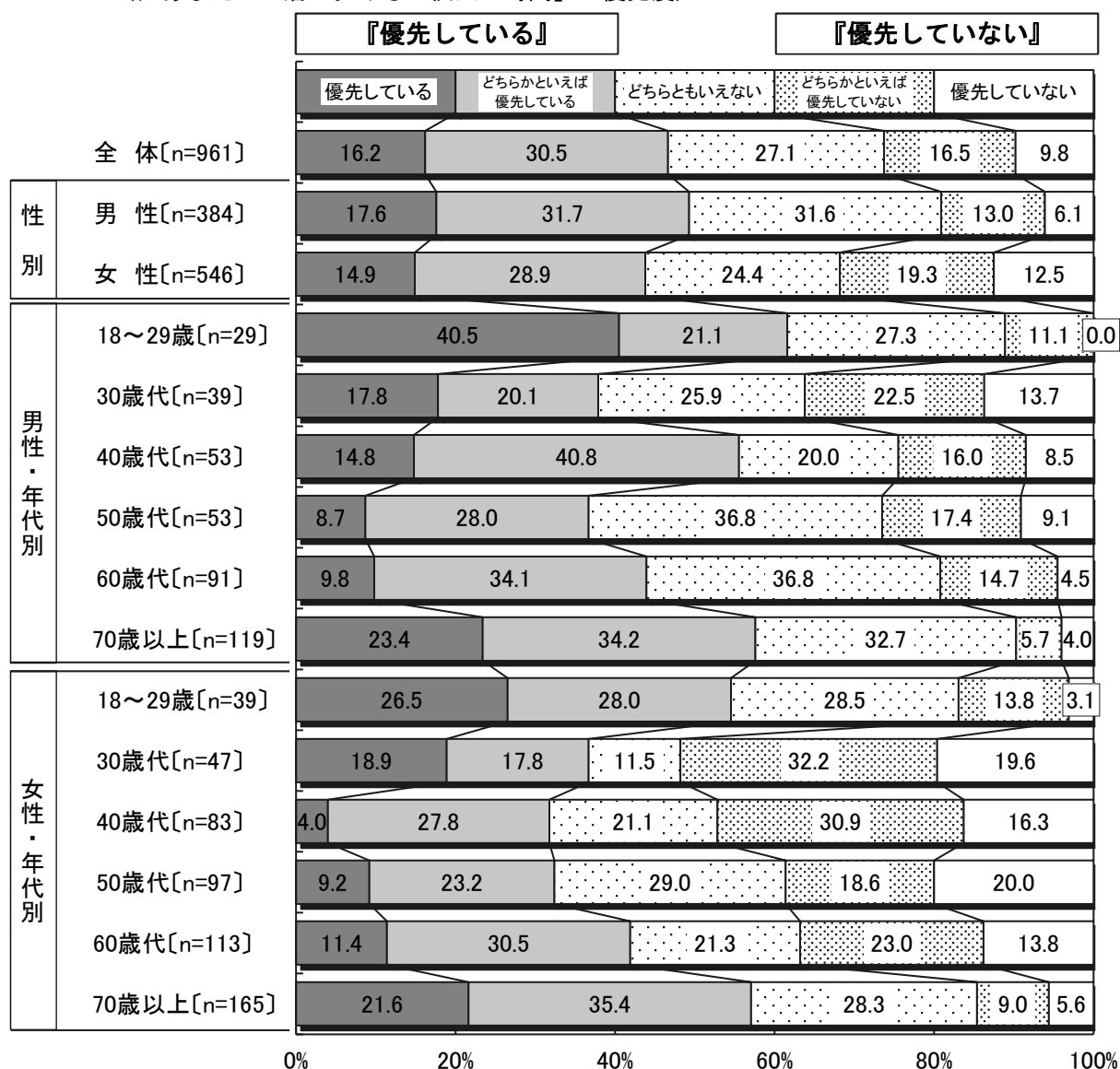
女性は，『優先していない』が31.8%と，男性の19.1%より12.7ポイント高い。

【性年代別】

男性18～29歳，男性40歳代，男性70歳以上，女性18～29歳，女性70歳以上は，『優先している』がそれぞれ5割以上と他の年代より高い。

女性30歳代と女性40歳代は，『優先していない』がそれぞれ51.8%，47.2%と，他の年代より高い。

11-5図 生活における優先度で現実がいちばん近いものについて〔全体・性別・性年代別〕
（ウ あなたの生活における「個人の時間」の優先度）



エ あなたの生活における「地域活動やボランティアなどの市民活動での活動時間」の優先度（現実）

『優先していない』は64.2%で『優先している』は15.5%

【全体】

『優先している』は15.5%、『優先していない』は64.2%と『優先していない』が48.7ポイント高い。

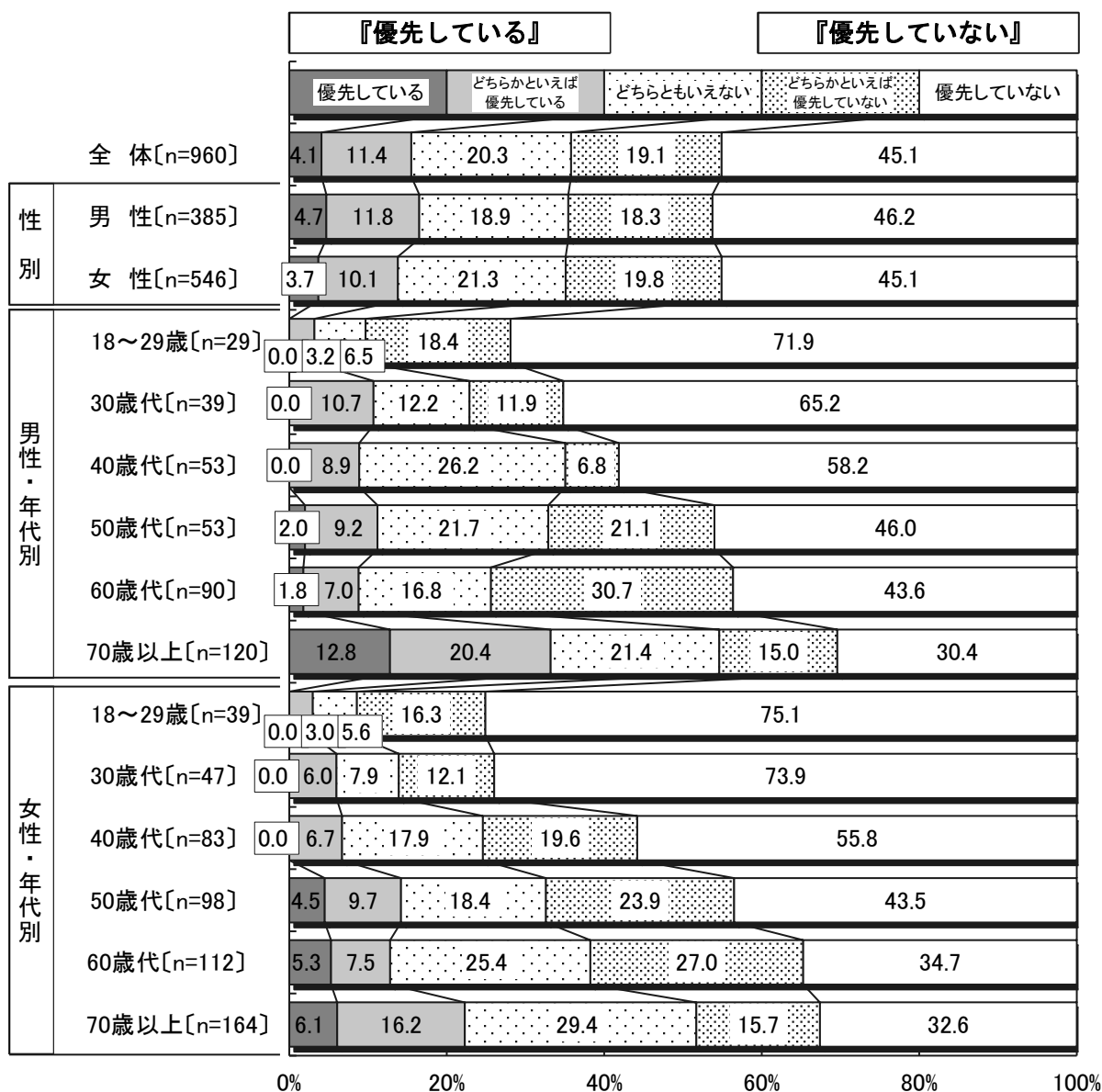
【性別】

特に大きな差異はない。

【性年代別】

男性70歳以上は、『優先している』が33.2%と他の年代より高い。女性18～29歳と男性18～29歳は、『優先していない』がそれぞれ91.4%、90.3%と高く、若年層ほど高くなっている。

11-6図 生活における優先度で現実がいちばん近いものについて〔全体・性別・性年代別〕
 (エ あなたの生活における「地域活動やボランティアなどの市民活動での活動時間」の優先度)



ア あなたの生活における「仕事」の優先度（理想）

『優先する』は59.5%

【全体】

『優先する』は59.5%、『優先しない』は14.8%と、『優先する』が44.7ポイント高い。

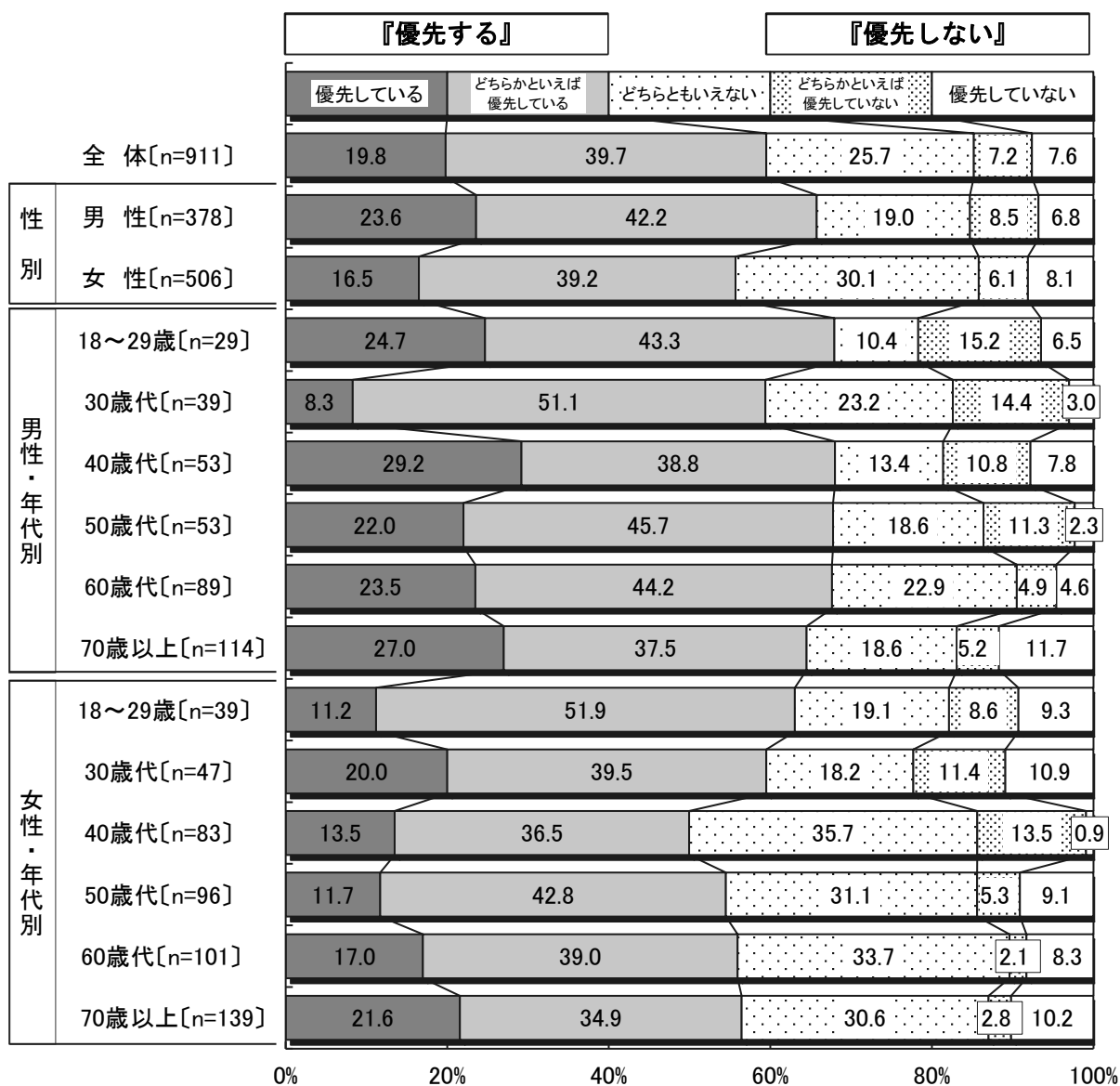
【性別】

男性は、『優先する』が65.8%と、女性の55.7%より10.1ポイント高い。

【性年代別】

40歳代、50歳代、60歳代の各年代は、『優先する』の男性の値が女性より10ポイント以上高い。

11-7図 生活における優先度で理想にいちばん近いものについて〔全体・性別・性年代別〕
（ア あなたの生活における「仕事」の優先度）



イ あなたの生活における「家庭生活」の優先度（理想）

『優先する』は 80.9%

【全体】

『優先する』は80.9%、『優先しない』は2.8%と、『優先しない』が78.1ポイント高い。

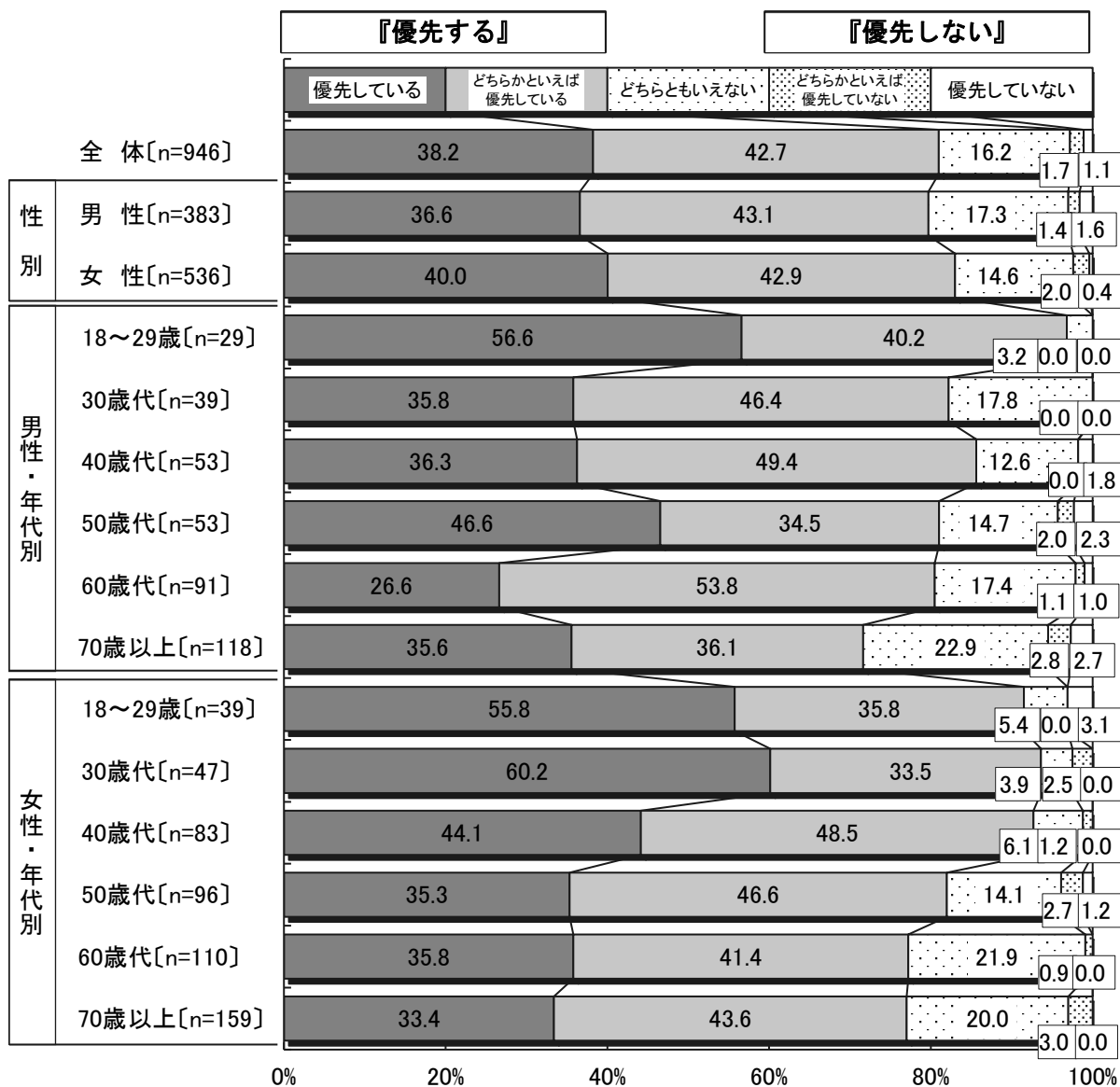
【性別】

特に大きな差異はない。

【性年代別】

男性18～29歳，女性18～29歳，女性30歳代，女性40歳代は，『優先する』がそれぞれ9割以上と他の年代より高い。

11-8図 生活における優先度で理想にいちばん近いものについて〔全体・性別・性年代別〕
（イ あなたの生活における「家庭生活」の優先度）



ウ あなたの生活における「個人の時間」の優先度（理想）

『優先する』は75.5%

【全体】

『優先する』は75.5%、『優先しない』は5.7%と、『優先する』が69.8ポイント高い。

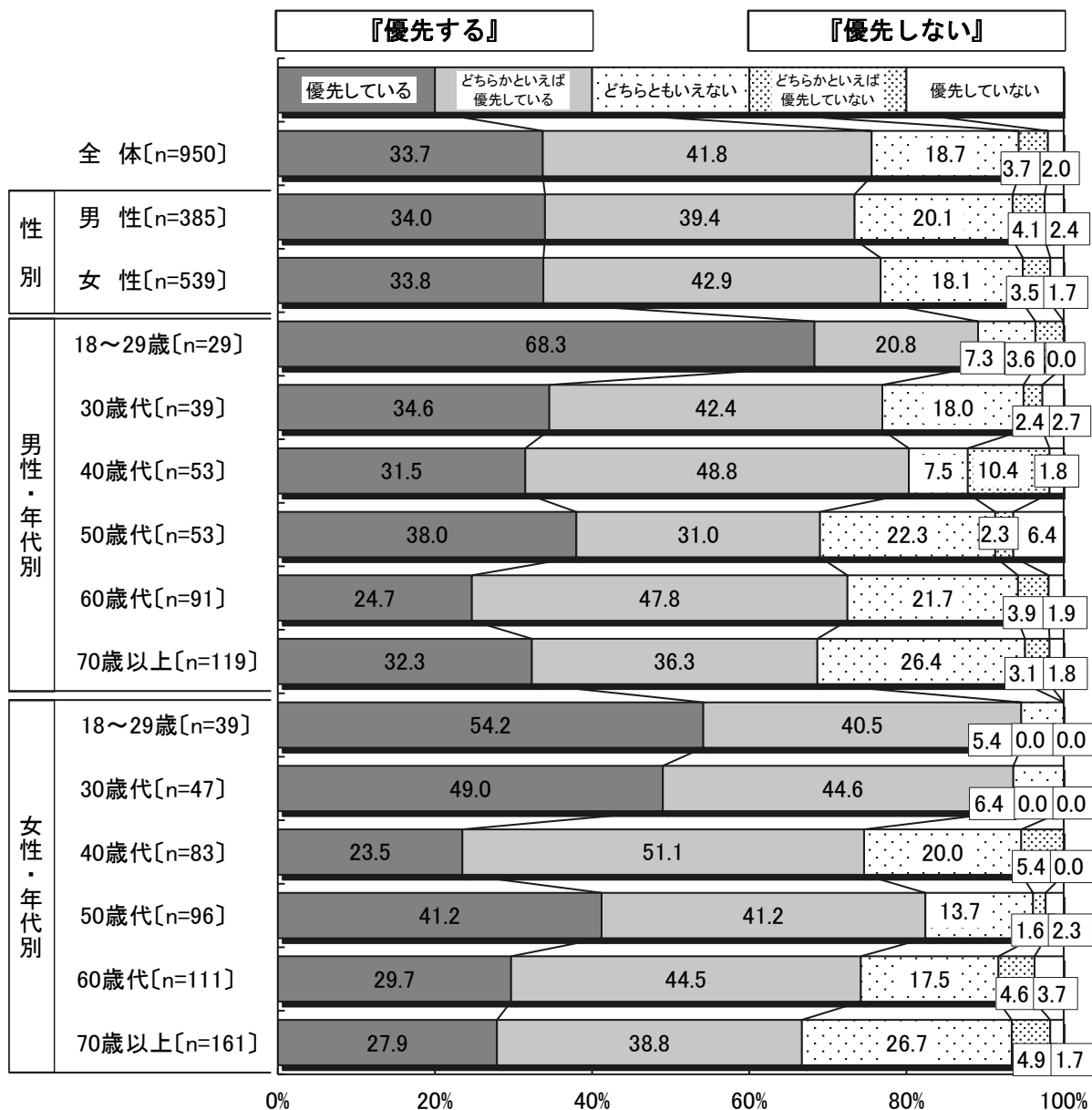
【性別】

特に大きな差異はない。

【性年代別】

女性18～29歳，女性30歳代，男性18～29歳は、『優先する』がそれぞれ94.7%，93.6%，89.1%と他の年代より高い。

11-9図 生活における優先度で理想にいちばん近いものについて〔全体・性別・性年代別〕
（ウ あなたの生活における「個人の時間」の優先度）



エ あなたの生活における「地域活動やボランティアなどの市民活動での活動時間」の優先度（理想）

『優先する』は29.7% 「どちらともいえない」が41.6%

【全体】

「どちらともいえない」が41.6%と最も高く、『優先する』は29.7%、『優先しない』は28.7%と意見が分かれている。

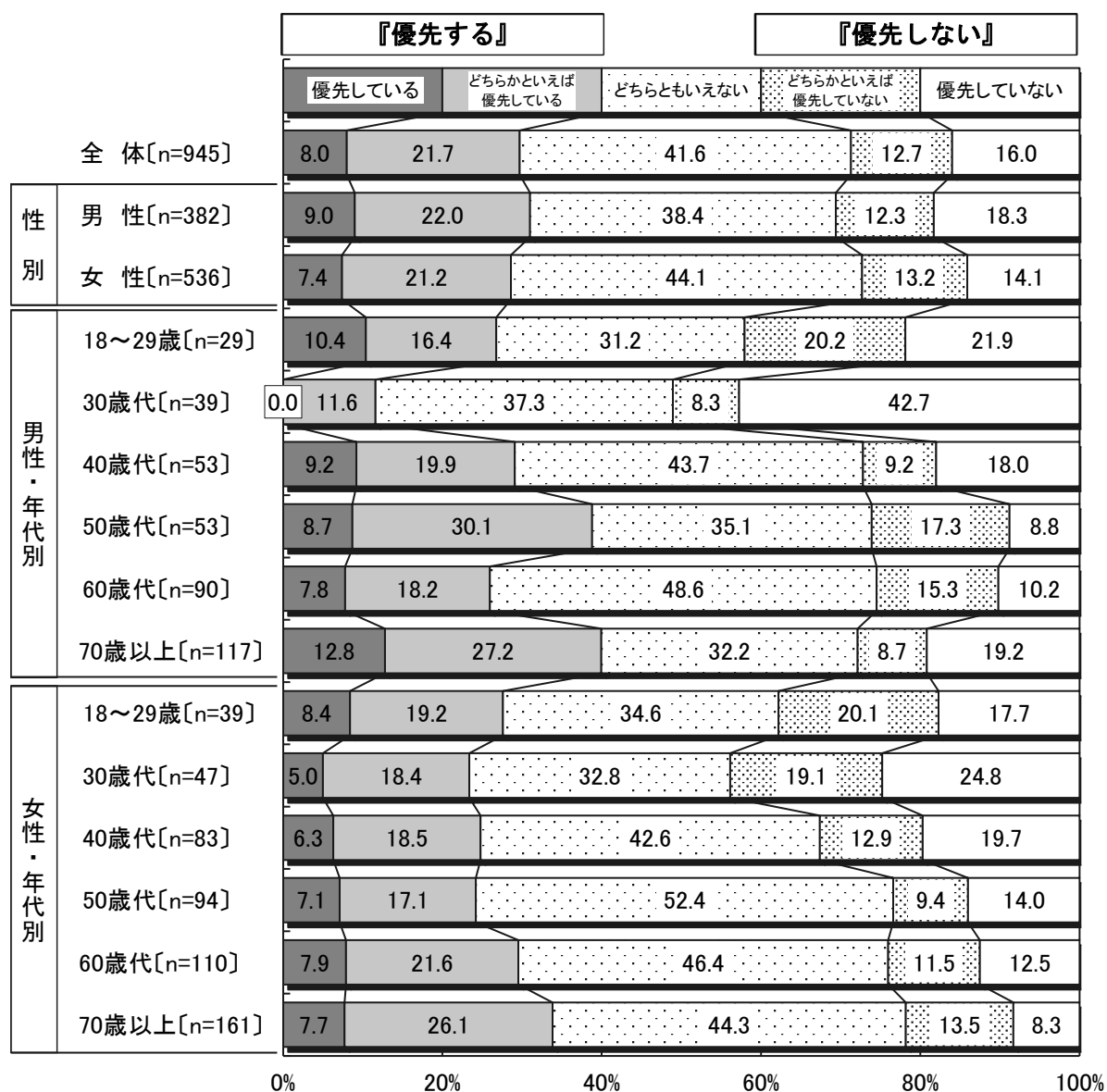
【性別】

特に大きな差異はない。

【性年代別】

男性50歳代、男性70歳は、『優先する』が最も高く、男性18～29歳、男性30歳代、女性18～29歳、女性30歳代では『優先しない』が最も高い。その他の年代では『どちらともいえない』が4割以上と最も高くなっている。

11-10図 生活における優先度で理想にいちばん近いものについて〔全体・性別・性年代別〕
 (エ あなたの生活における「地域活動やボランティアなどの市民活動での活動時間」の優先度)



■生活における優先度で現実と理想の比較について

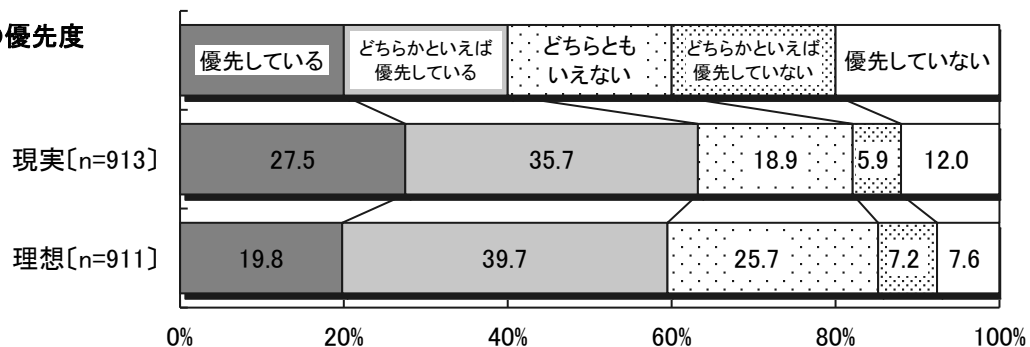
【全体】

優先度で現実と理想の差が最も大きいのは、『個人の時間』で、「理想」が75.5%に対し、「現実」は46.7%で28.8ポイントの差がある。

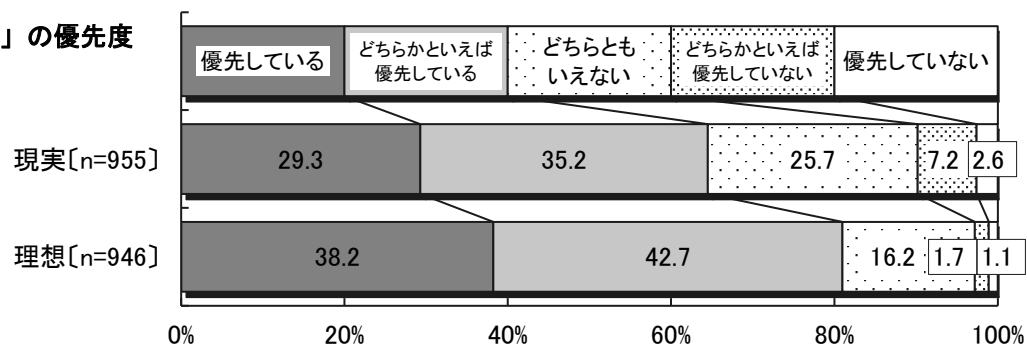
次いで差が大きいのは『家庭生活』で、「理想」が80.9%に対し、「現実」は64.5%で16.4ポイントの差がある。『市民活動での活動時間』についても「理想」が29.7%に対し、「現実」は15.5%で14.2ポイントの差がある。

11-11図 生活における優先順位で現実と理想の比較について〔全体〕

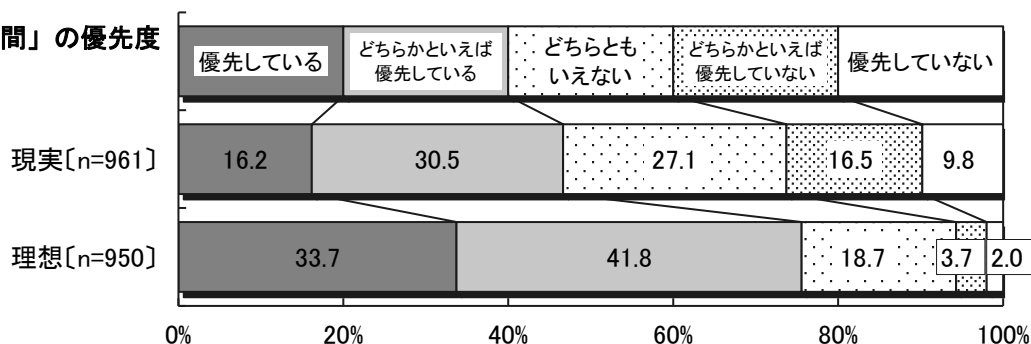
ア「仕事」の優先度



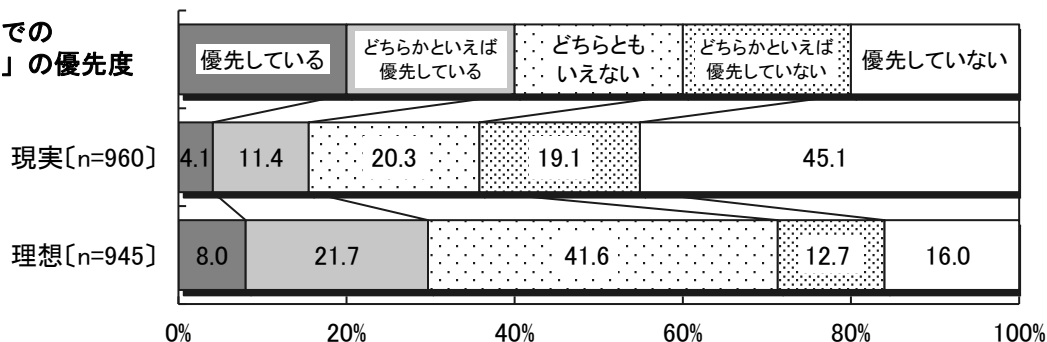
イ「家庭生活」の優先度



ウ「個人の時間」の優先度



エ「市民活動での活動時間」の優先度



(12) 男性が家事、育児、介護等に参加していくために必要なことについて〔複数回答〕

問12 あなたは、今後、男性が女性とともに、家事、育児、介護、地域活動やボランティアなどの市民活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。
○は3つまで

- 「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくすること」 45.1%
- 「仕事以外の時間を多く持てるような勤務制度を普及させること」 37.5%
- 「男性の家事参加に対して抵抗感をなくすこと」 33.6%

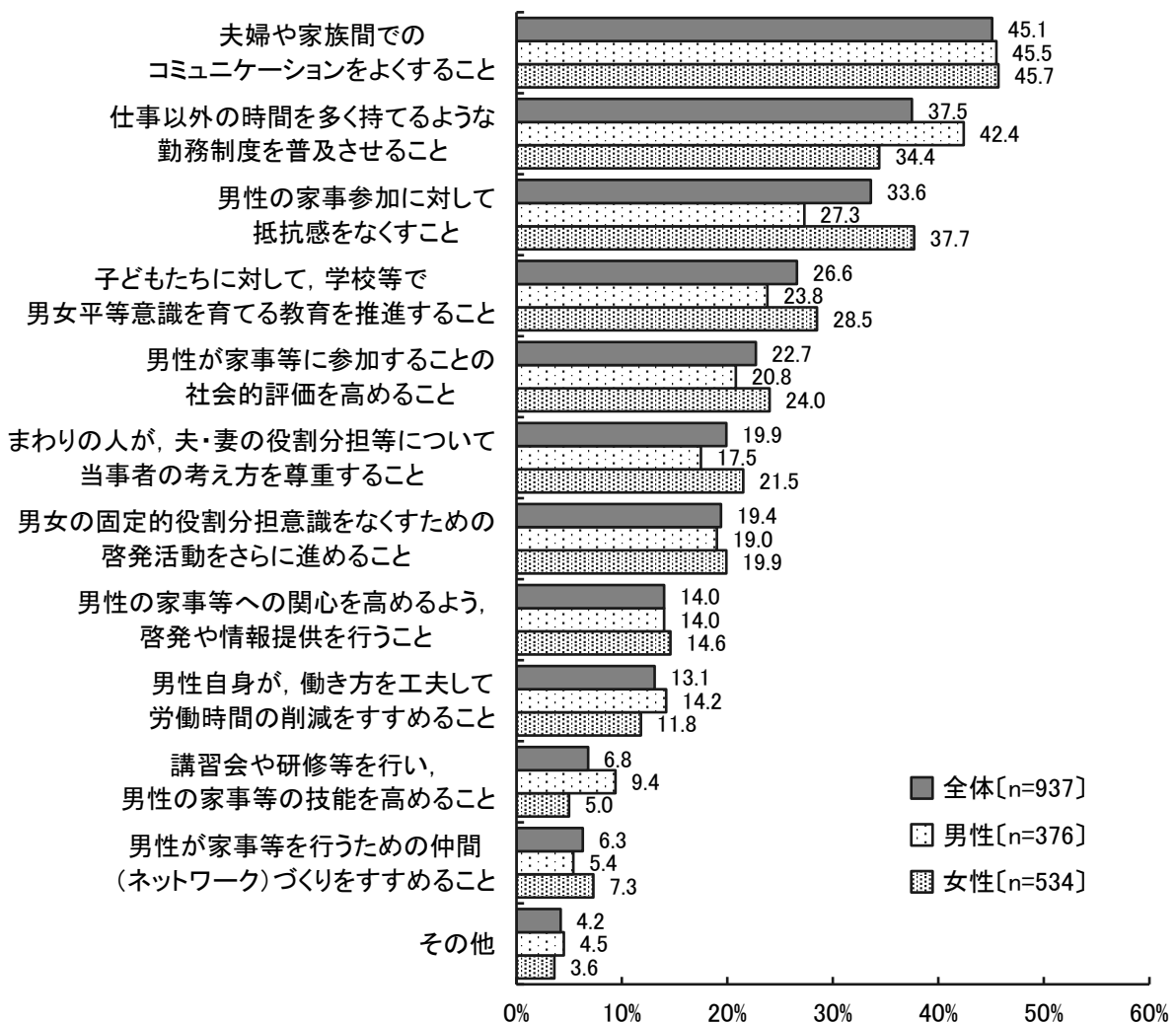
【全体】

「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくすること」が45.1%と最も高く、「仕事以外の時間を多く持てるような勤務制度を普及させること」が37.5%、「男性の家事参加に対して抵抗感をなくすこと」が33.6%と続く。

【性別】

男性は、「仕事以外の時間を多く持てるような勤務制度を普及させること」が42.4%と女性の34.4%より8.0ポイント高い。女性は、「男性の家事参加に対して抵抗感をなくすこと」が37.7%と男性の27.3%より10.4ポイント高い。

12-1図 男性が家事、育児、介護等に参加していくために必要なことについて〔全体・性別〕



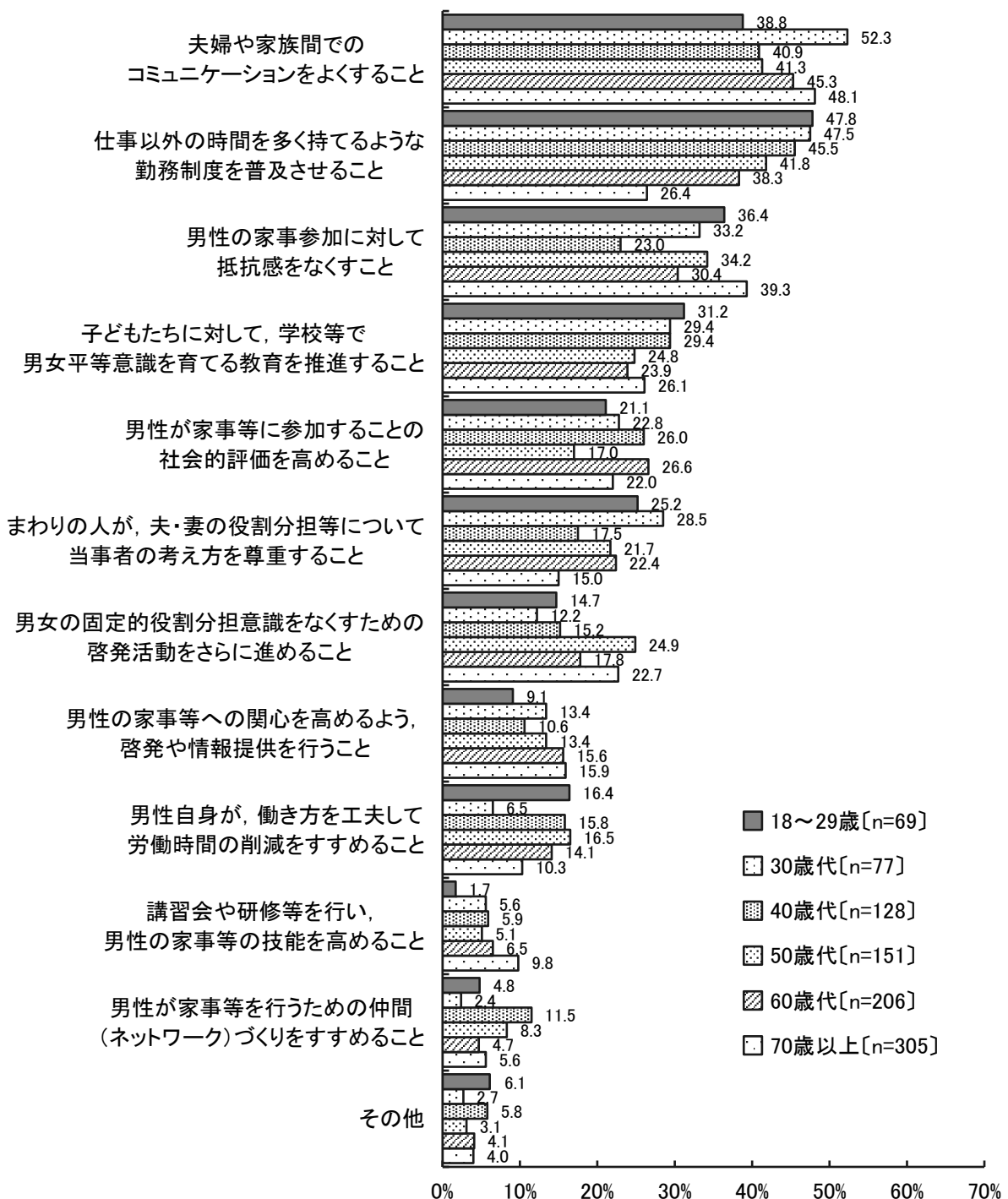
【年代別】

30歳代は、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくすること」が52.3%と他の年代より高い。

18～29歳と30歳代は、「仕事以外の時間を多く持てるような勤務制度を普及させること」がそれぞれ47.8%、47.5%と高く、若年層ほど高い。「まわりの人が、夫・妻の役割分担等について当事者の考え方を尊重すること」についても、30歳代が28.5%、18～29歳が25.2%と他の年代より高くなっている。

70歳以上は、「男性の家事参加に対して抵抗感をなくすこと」が39.3%と他の年代より高い。

12-2図 男性が家事、育児、介護等に参加していくために必要なことについて〔年代別〕



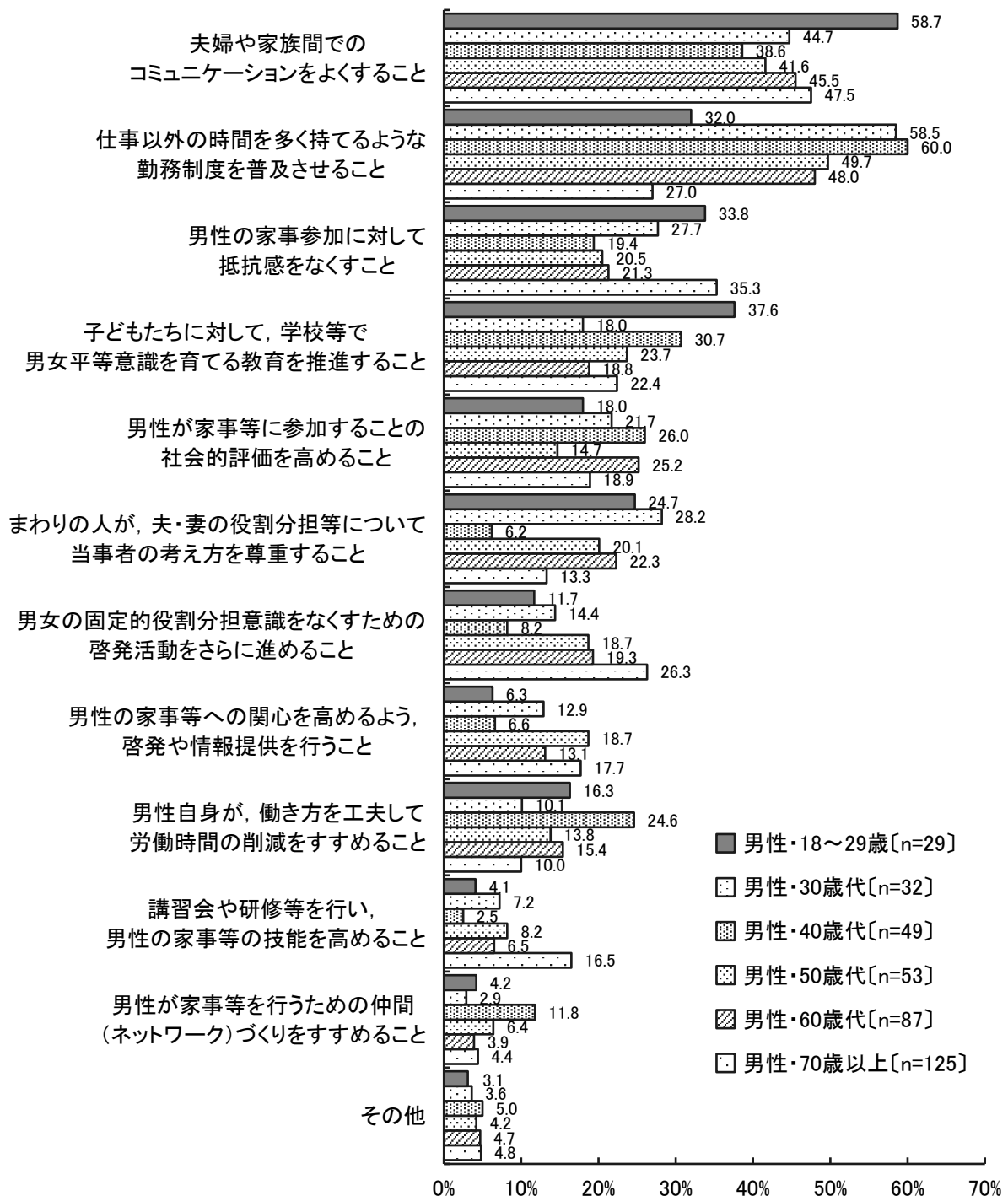
【男性年代別】

男性18～29歳は、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくすること」が58.7%、「子どもたちに対して、学校等で男女平等意識を育てる教育を推進すること」が37.6%と他の男性の年代より高い。

男性40歳代と男性30歳代は、「仕事以外の時間を多く持てるような勤務制度を普及させること」がそれぞれ60.0%、58.5%と特に高い。

男性70歳以上は、「男女の固定的役割分担意識をなくすための啓発活動をさらに進めること」が26.3%と他の男性の年代より高い。

12-3図 男性が家事、育児、介護等に参加していくために必要なことについて〔男性年代別〕



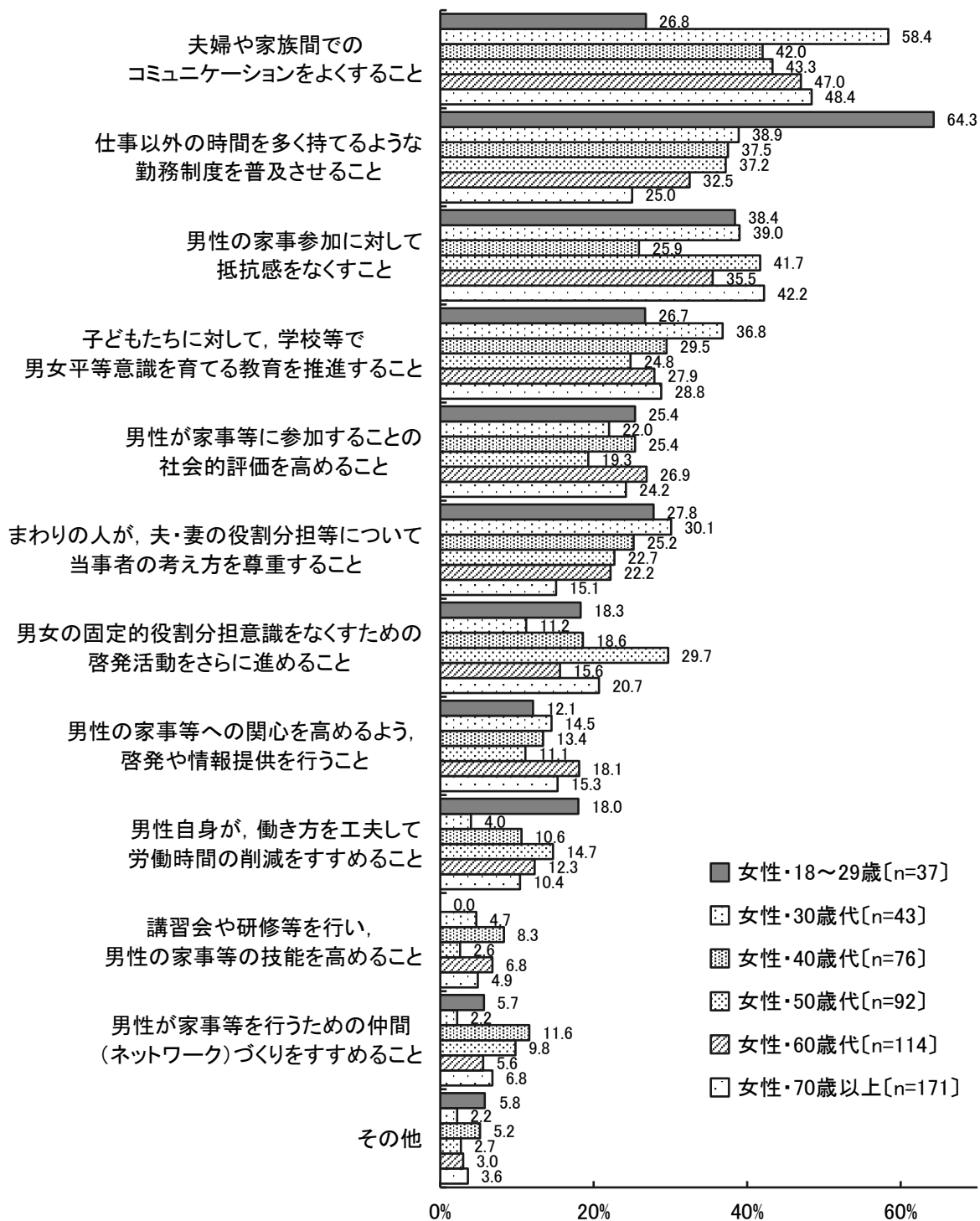
【女性年代別】

女性18～29歳は、「仕事以外の時間を多く持てるような勤務制度を普及させること」が64.3%と他の年代より高い。

女性30歳代は、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくすること」が58.4%、「子どもたちに対して、学校等で男女平等意識を育てる教育を推進すること」が36.8%と、それぞれ他の女性の年代より高くなっている。

女性50歳代は、「男女の固定的役割分担意識をなくすための啓発活動をさらに進めること」が29.7%と他の女性の年代より高い。

12-4図 男性が家事, 育児, 介護等に参加していくために必要なことについて〔女性年代別〕



5. 子育てについて

(13) 子どもの育て方について

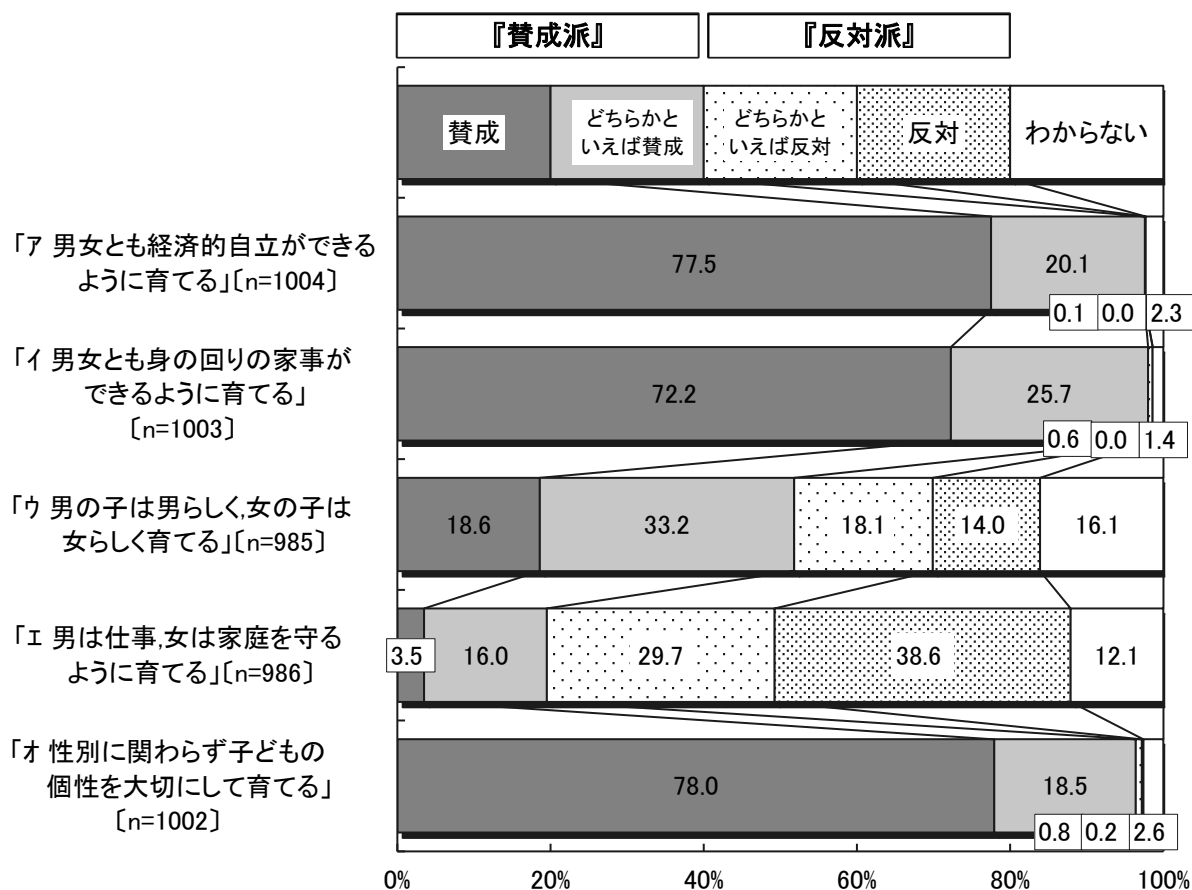
問13 あなたは、子どもの育て方に関する次のような方針について、どのように考えていますか。それぞれについて1～5のいずれかに○

「男女とも身の回りの家事ができるように育てる」	『賛成派』 97.9%
「男女とも経済的自立ができるように育てる」	『賛成派』 97.6%
「性別に関わらず子どもの個性を大切に育てる」	『賛成派』 96.5%
「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」	『賛成派』 51.8%
⇒ 『賛成派』が『反対派』より高い	
「男は仕事、女は家庭を守るように育てる」	『反対派』 68.3%
⇒ 『反対派』が『賛成派』より高い	

※「賛成」と「どちらかといえば賛成」を合わせて『賛成派』、「反対」と「どちらかといえば反対」を合わせて『反対派』とする。

■ 『賛成派』と『反対派』	『賛成派』	『反対派』
ア 「男女とも経済的自立ができるように育てる」	97.6%	0.1%
イ 「男女とも身の回りの家事ができるように育てる」	97.9%	0.6%
ウ 「男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる」	51.8%	32.1%
エ 「男は仕事、女は家庭を守るように育てる」	19.5%	68.3%
オ 「性別に関わらず子どもの個性を大切に育てる」	96.5%	1.0%

13-1図 子どもの育て方について〔全体〕



ア 男女とも経済的自立ができるように育てる

『賛成派』 97.6%, 『反対派』 0.1% ⇒ 『賛成派』が高い

【全体】

『賛成派』は97.6%, 『反対派』は0.1%と, 『賛成派』が大きく上回っている。

【性別】

特に大きな差異はない。

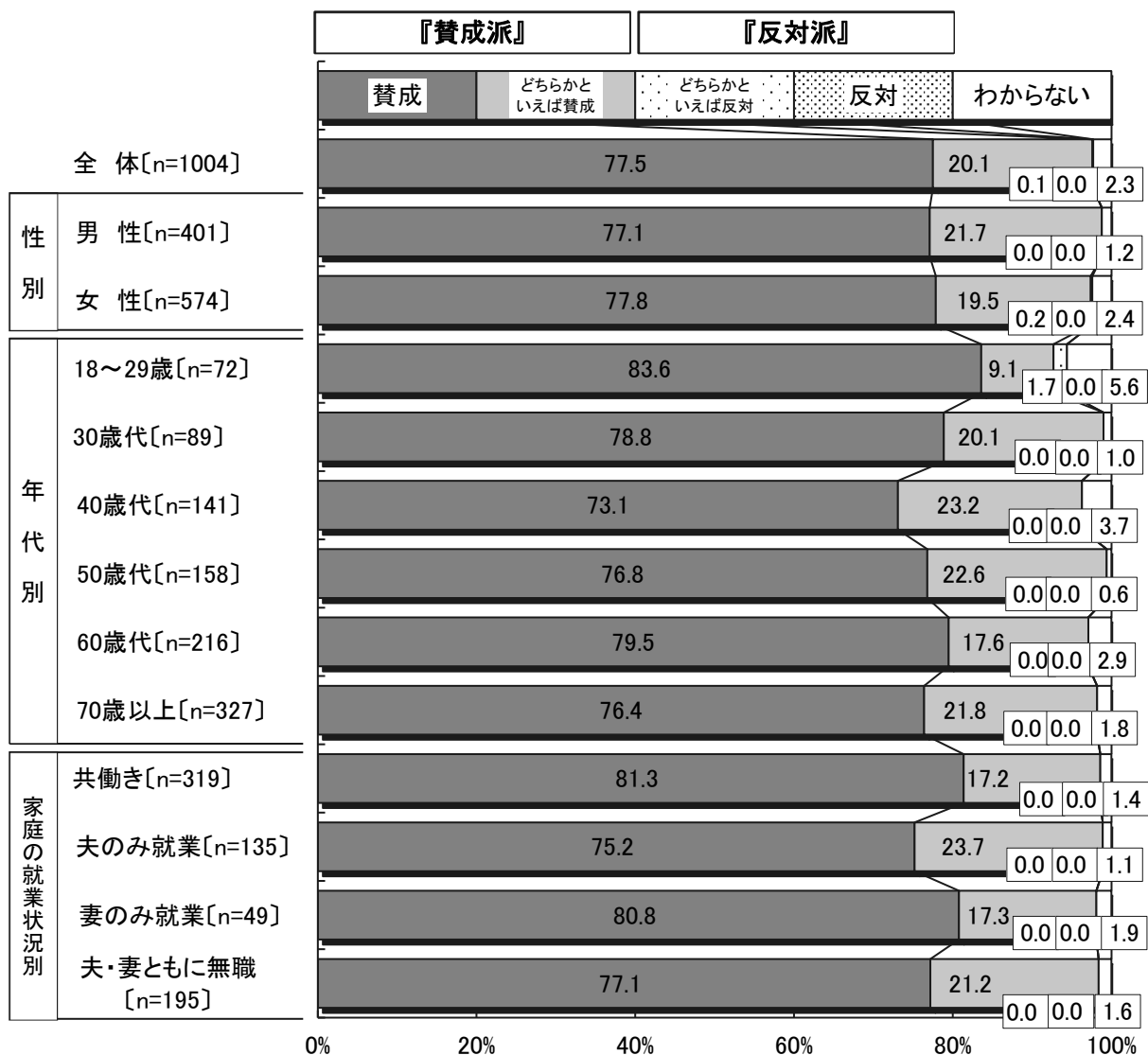
【年代別】

特に大きな差異はない。

【家庭の就業状況別】

特に大きな差異はない。

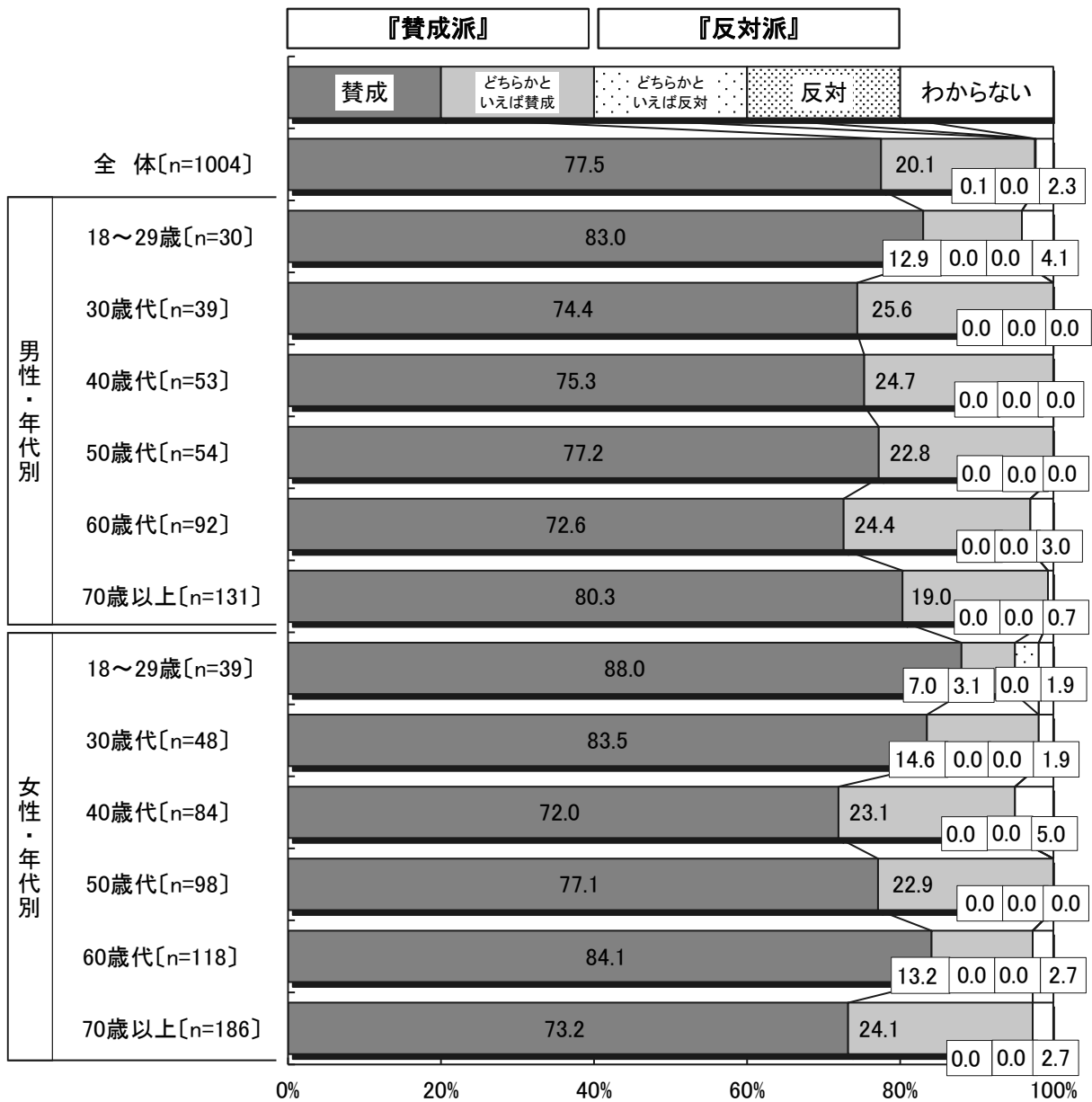
13-2図 子どもの育て方について〔全体・性別・年代別・家庭の就業状況別〕
(ア 男女とも経済的自立ができるように育てる)



【性年代別】

全ての年代で『賛成派』が95%を上回り，特に大きな差異はない。

13-3図 子どもの育て方について〔性年代別〕
(ア 男女とも経済的自立ができるように育てる)



イ 男女とも身の回りの家事ができるように育てる

『賛成派』 97.9%, 『反対派』 0.6% ⇒ 『賛成派』が高い

【全体】

『賛成派』は97.9%, 『反対派』は0.6%と『賛成派』が大きく上回っている。

【性別】

男女で『賛成派』については差異はないが、女性は、「賛成」が76.0%と男性の67.9%より8.1ポイント高い。

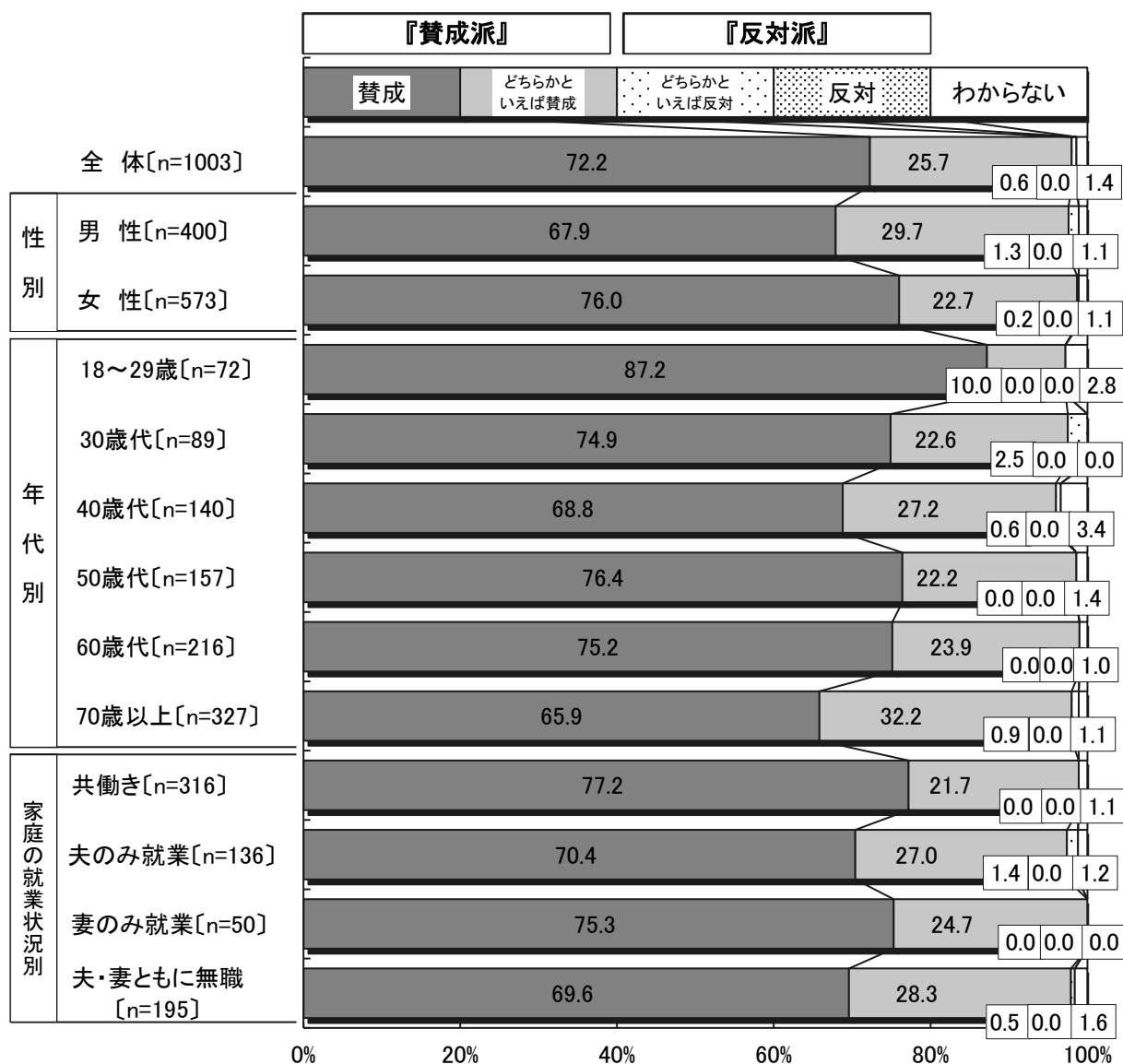
【年代別】

年代で『賛成派』については差異はないが、18～29歳は、「賛成」が87.2%と他の年代より高い。一方、70歳以上が65.9%, 40歳代が68.8%と他の年代より低い。

【家庭の就業状況別】

特に大きな差異はない。

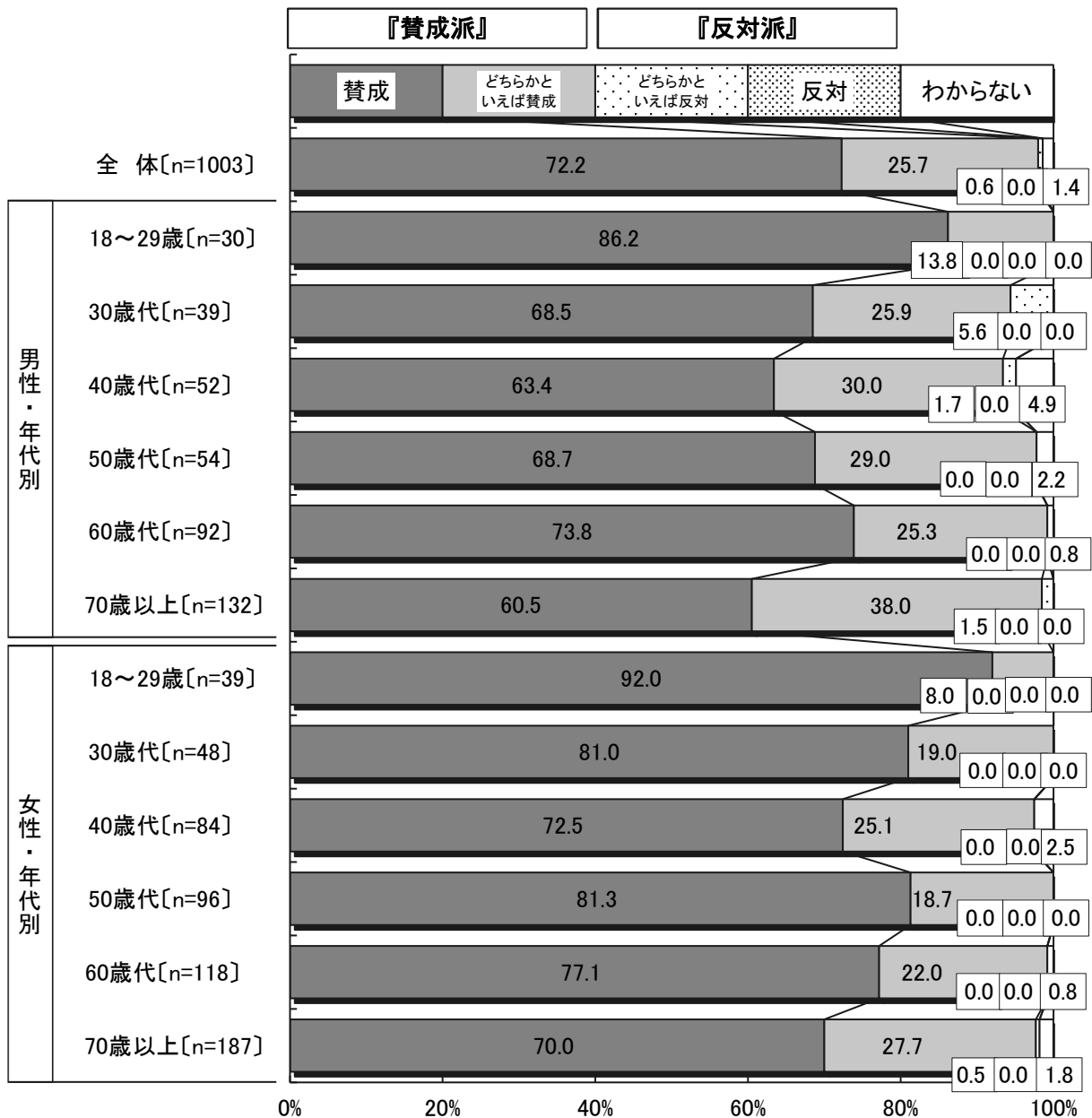
13-4図 子どもの育て方について〔全体・性別・年代別〕
(イ 男女とも身の回りの家事ができるように育てる)



【性年代別】

全ての年代で『賛成派』が9割を上回り、『賛成派』について差異はないが、女性18～29歳と男性18～29歳は、「賛成」がそれぞれ92.0%、86.2%と他の年代より高い。一方、男性70歳以上は「賛成」が60.5%と他の年代より低い。また、どの年代でも女性が男性より「賛成」の値が高くなっている。

13-5図 子どもの育て方について〔性年代別〕
(イ 男女とも身の回りの家事ができるように育てる)



ウ 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる

『賛成派』 51.8%, 『反対派』 32.1% ⇒ 『賛成派』が高い

【全体】

『賛成派』は51.8%, 『反対派』は32.1%と、『賛成派』が19.7ポイント高い。

【性別】

男性は、『賛成派』が61.1%と女性の46.0%より15.1ポイント高い。

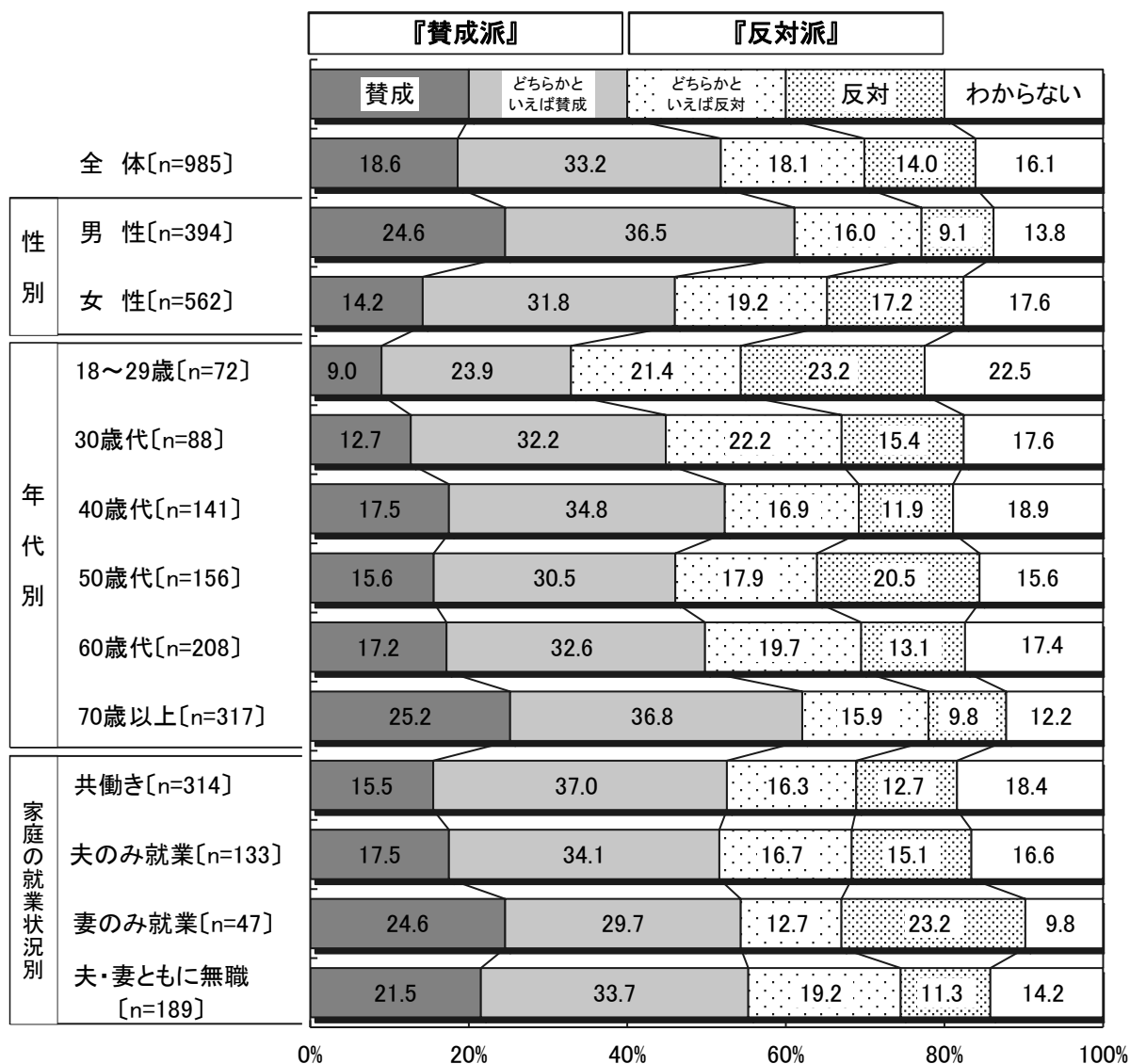
【年代別】

18～29歳は、『賛成派』が32.9%と他の年代より低く、『反対派』が44.6%と『反対派』が『賛成派』より11.7ポイント高い。70歳以上は、『賛成派』が62.0%と他の年代より高い。

【家庭の就業状況別】

『賛成派』および『反対派』については差異はないが、妻のみ就業家庭は、「反対」が23.2%と他の就業状況より高い。

13-6図 子どもの育て方について〔全体・性別・年代別〕
(ウ 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる)

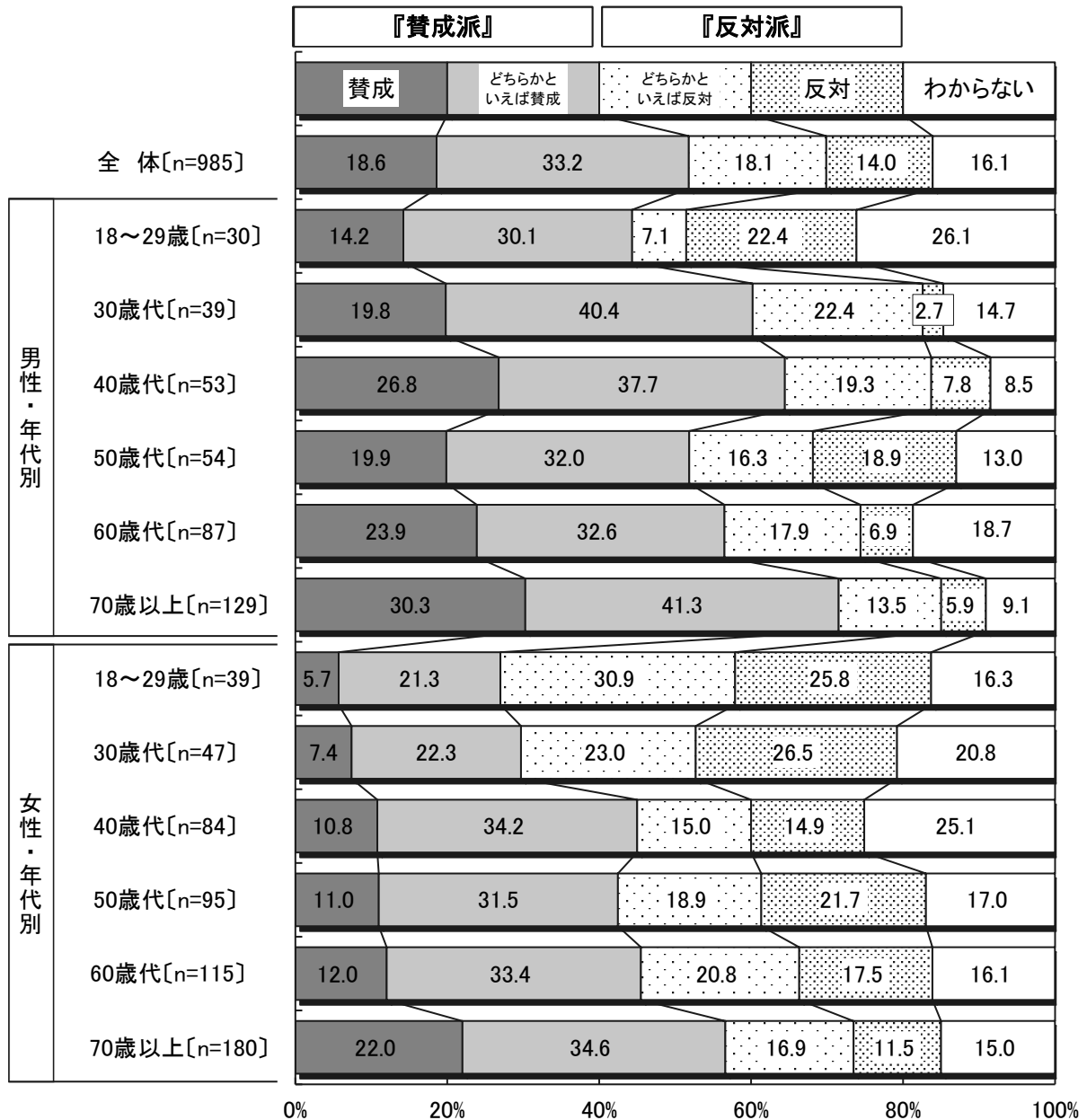


【性年代別】

男性は、全ての年代で『賛成派』が『反対派』を上回っている。男性70歳以上、男性40歳代、男性30歳代は、『賛成派』がそれぞれ71.6%、64.5%、60.2%と、他の年代より高い。

女性は、女性18～29歳と女性30歳代で『反対派』が『賛成派』を上回っており、それぞれ『反対派』の値は56.7%、49.5%と他の年代より高い。

13-7図 子どもの育て方について〔性年代別〕
 (ウ 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる)



エ 男は仕事，女は家庭を守るように育てる

『賛成派』19.5%，『反対派』68.3% ⇒ 『反対派』が高い

【全体】

『賛成派』は19.5%，『反対派』は68.3%と，『賛成派』が48.8ポイント高い。

【性別】

女性は，『反対派』が71.0%と男性の64.8%より6.2ポイント高い。

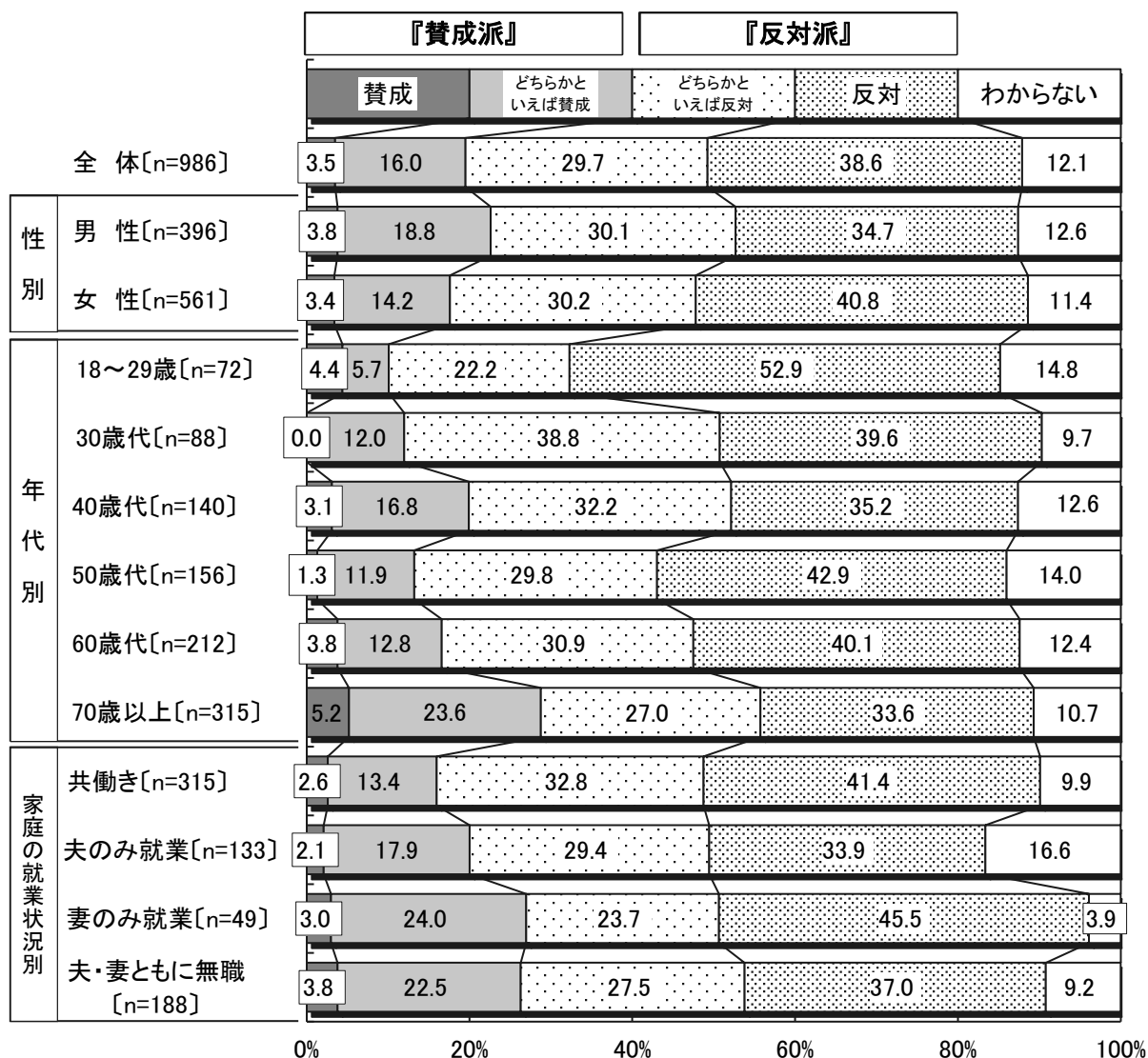
【年代別】

全ての年代で『反対派』が『賛成派』を上回っているが，70歳以上は『賛成派』が28.8%と他の年代より高い。

【夫婦の就業状況別】

共働き家庭は『反対派』が74.2%と他の就業状況より高い。一方，妻のみ就業家庭と夫・妻ともに無職家庭は，『賛成派』がそれぞれ27.0%，26.3%と他の就業状況より高い。

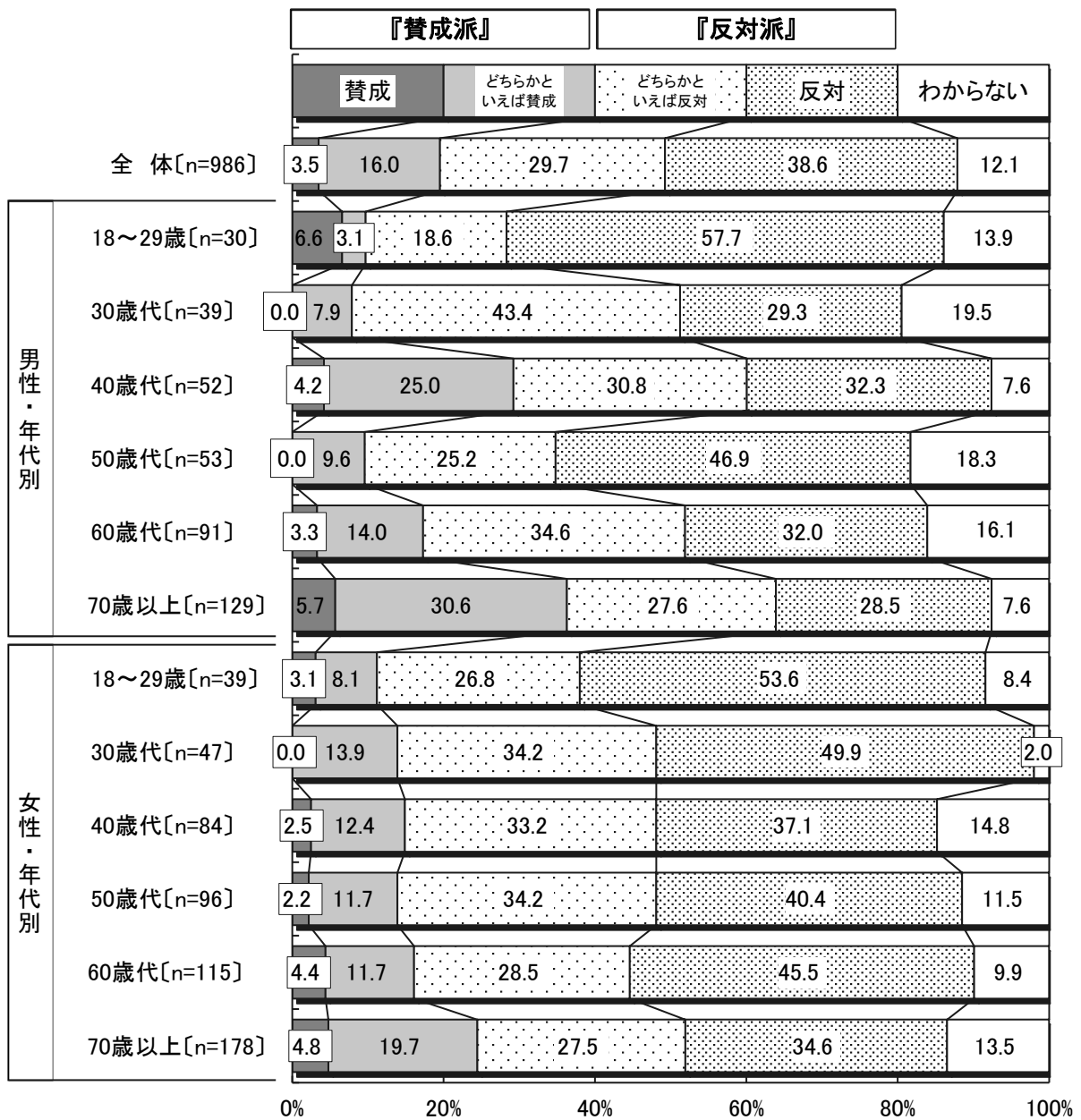
13-8図 子どもの育て方について〔全体・性別・年代別〕
(エ 男は仕事，女は家庭を守るように育てる)



【性年代別】

全ての年代で『反対派』が『賛成派』を上回り、女性30歳代と女性18～29歳は、『反対派』がそれぞれ84.1%、80.4%と他の年代より高い。一方、男性70歳以上、男性40歳代、女性70歳以上は、『賛成派』がそれぞれ36.3%、29.2%、24.5%と他の年代より高くなっている。

13-9図 子どもの育て方について〔性年代別〕(I 男は仕事, 女は家庭を守るように育てる)



オ 性別に関わらず子どもの個性を大切に育てる

『賛成派』96.5%, 『反対派』1.0% ⇒ 『賛成派』が高い

【全体】

「賛成」が78.0%, 「どちらかといえば賛成」が18.5%で『賛成派』は96.5%, 「反対」が0.2%, 「どちらかといえば反対」が0.8%で『反対派』は1.0%と、『賛成派』が大きく上回っている。

【性別】

特に大きな差異はない。

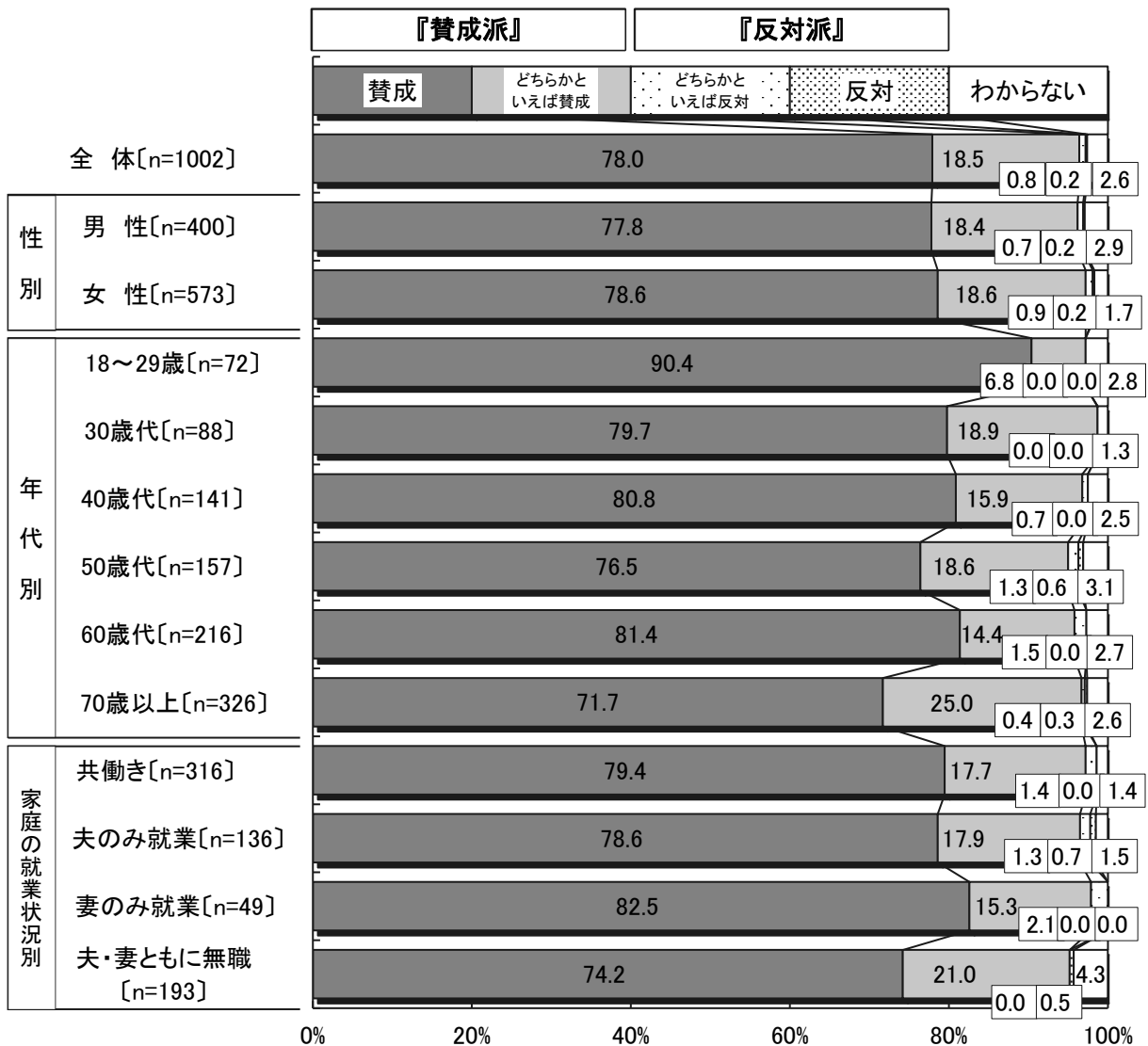
【年代別】

『賛成派』については年代で差異はないが、18～29歳は「賛成」が90.4%と他の年代より高い。一方、70歳以上は、「賛成」が71.7%と他の年代より低い。

【夫婦の就業状況別】

特に大きな差異はない。

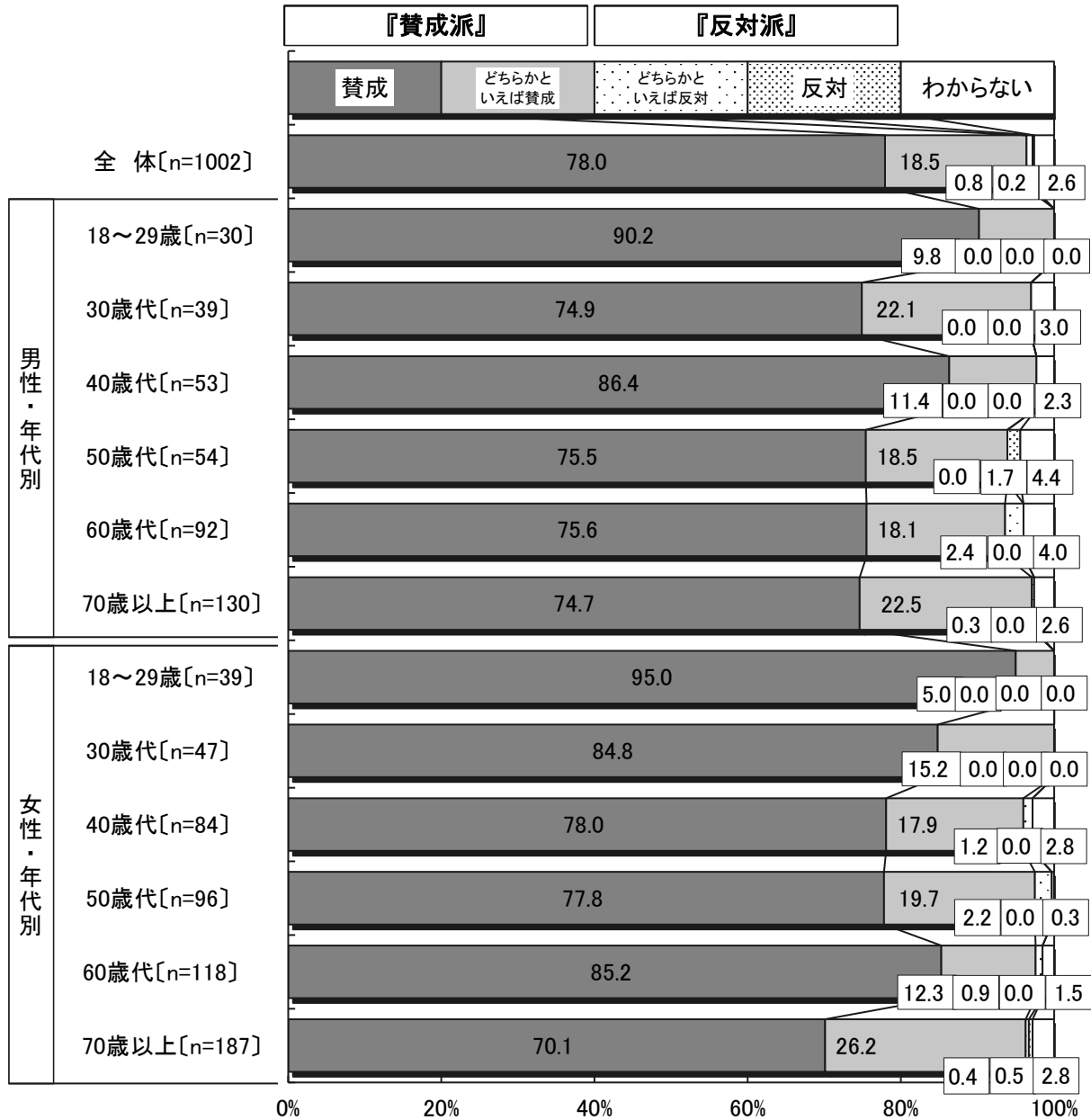
13-10図 子どもの育て方について〔全体・性別・年代別〕
(オ 性別に関わらず子どもの個性を大切に育てる)



【性年代別】

全ての年代で『賛成派』が9割を上回り、『賛成派』について差異はないが、女性18～29歳、男性18～29歳、男性40歳代、女性60歳代、女性30歳代は、「賛成」がそれぞれ95.0%、90.2%、86.4%、85.2%、84.8%と他の年代より高い。

13-11図 子どもの育て方について〔性年代別〕
 (オ 性別に関わらず子どもの個性を大切に育てる)



(14) 子どもに受けさせたい教育(最終学歴)について

問14 お子さまの有無に関わらず、自分の子どもに受けさせたい教育(最終学歴)についてあてはまるものに○をつけてください。○はそれぞれ1つずつ

<男の子の場合> 「大学」70.4%、「短期大学,各種学校,専修学校」 7.8%
 <女の子の場合> 「大学」60.1%、「短期大学,各種学校,専修学校」 19.6%

【全体】

子どもが男の子の場合、「大学」が70.4%と最も高く、「短期大学,各種学校,専修学校」が7.8%、「高校」が7.4%と続く。

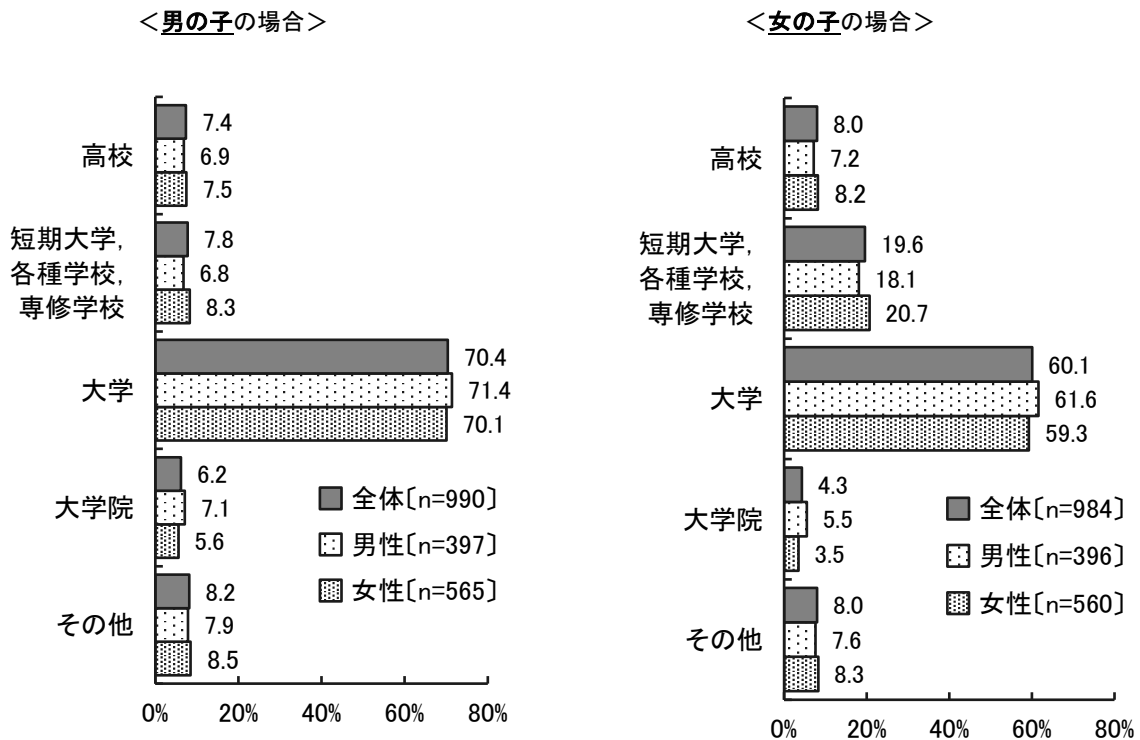
子どもが女の子の場合、「大学」が60.1%と最も高く、「短期大学,各種学校,専修学校」が19.6%、「高校」が8.0%と続く。

「短期大学,各種学校,専修学校」は、子どもが女の子の場合男の子の場合より11.8ポイント高く、「大学」は、子どもが男の子の場合は女の子の場合より10.3ポイント高い。

【性別】

特に大きな差異はない。

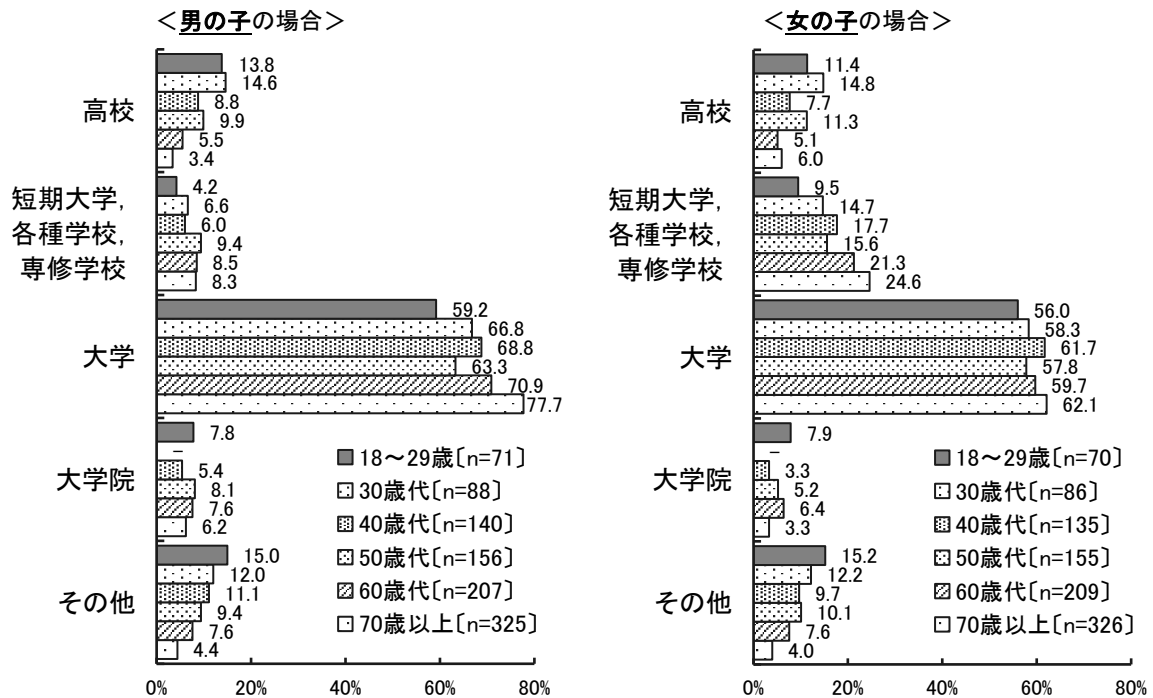
14-1図 子どもに望む最終学歴〔全体・性別〕



【年代別】

子どもが男の子の場合と女の子の場合の差を年代別で比較すると、40歳代、60歳代、70歳以上は、「短期大学、各種学校、専修学校」について、「女の子の場合」が「男の子の場合」より10ポイント以上高い。また、「大学」について、60歳代、70歳以上は、「男の子の場合」が「女の子の場合」より10ポイント以上高く、差が大きい。

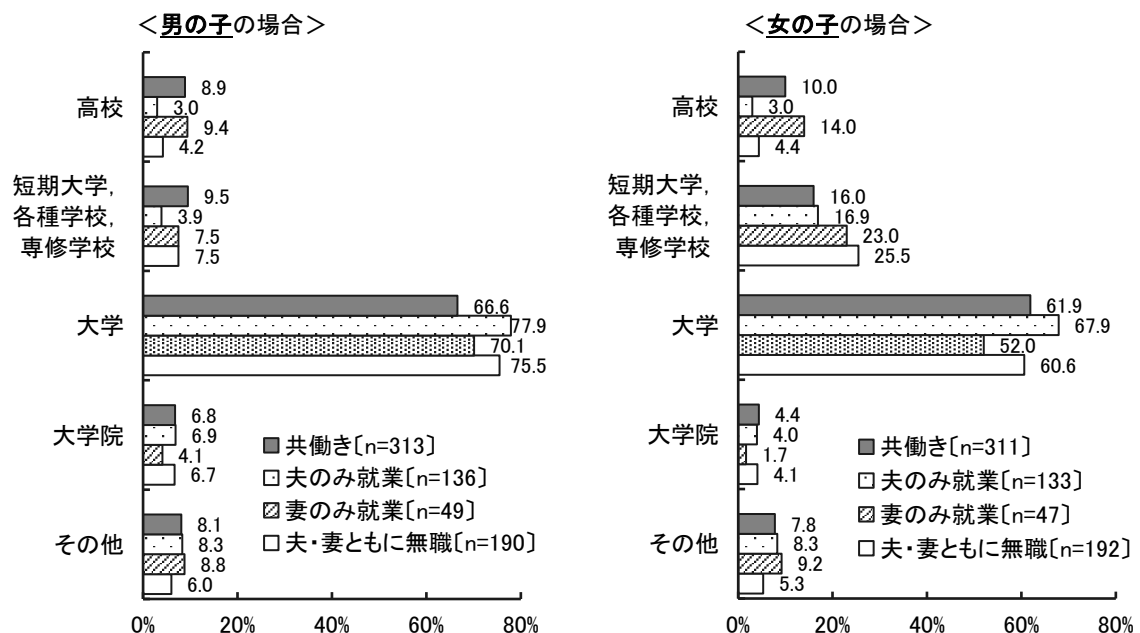
14-2図 子どもに望む最終学歴〔年代別〕



【家庭の就業状況別】

妻のみ就業家庭は、子どもが女の子の場合の「大学」が52.0%と他の就業状況より低い。

14-3図 子どもに望む最終学歴〔夫婦の就業状況別〕



(15) 父親が子育てに関わることについて〔複数回答〕

問15 父親が子育てに関わることについてどのように考えますか。○はいくつでも

「父親も育児を行うことは当然だ」	73.7%
「子どもに良い影響を与える」	67.9%
「父親自身に良い影響を与える」	55.1%
「仕事と両立させることは、現実として難しい」	31.9%

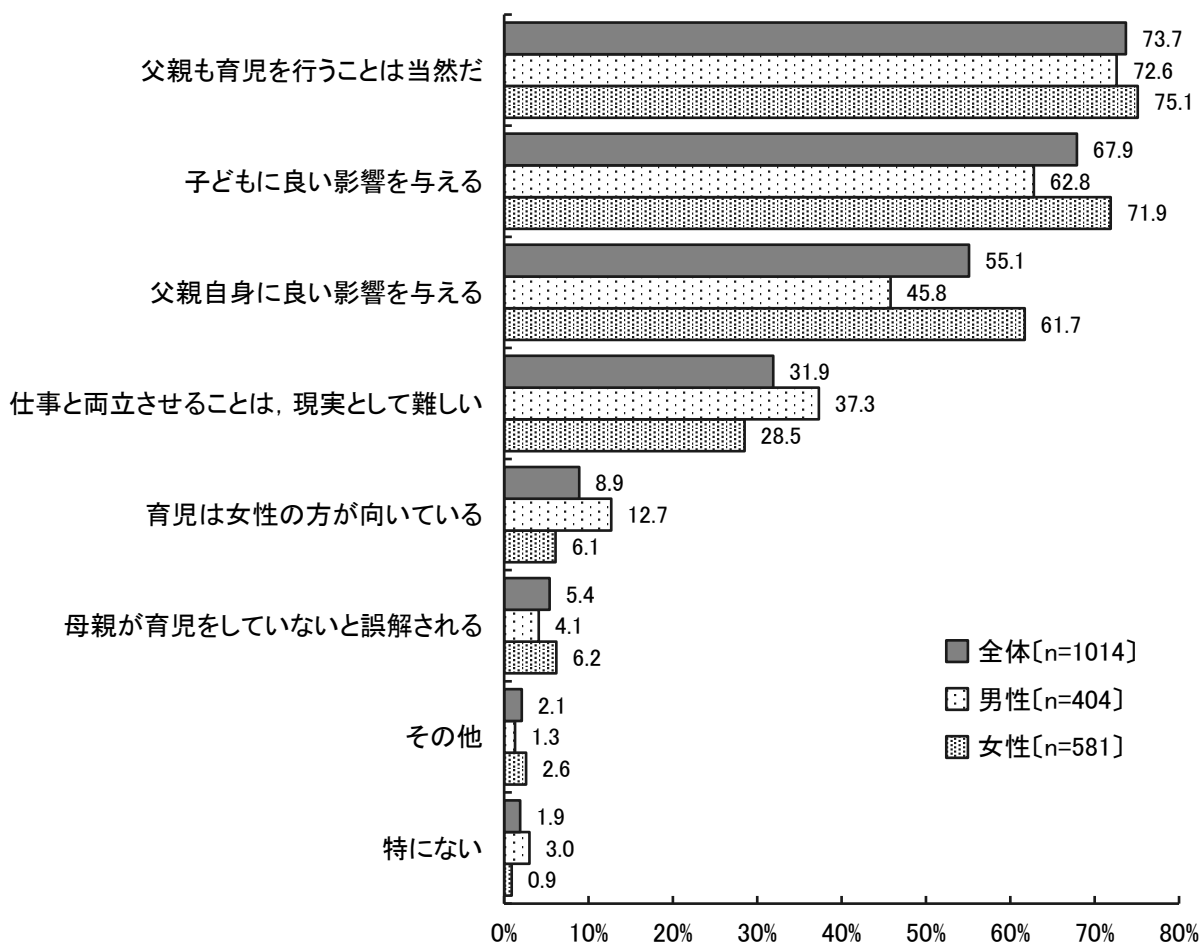
【全体】

「父親も育児を行うことは当然だ」が73.7%と最も高く、「子どもに良い影響を与える」が67.9%「父親自身に良い影響を与える」が55.1%、「仕事と両立させることは、現実として難しい」が31.9%と続く。

【性別】

女性は、「父親自身に良い影響を与える」が61.7%と男性より15.9ポイント、「子どもに良い影響を与える」が71.9%と男性より9.1ポイント、それぞれ高い。一方、男性は、「仕事と両立させることは、現実として難しい」が37.3%と女性より8.8ポイント、「育児は女性の方が向いている」が12.7%と女性より6.6ポイント、それぞれ高くなっている。

15-1図 父親が子育てに関わることについて〔性別〕



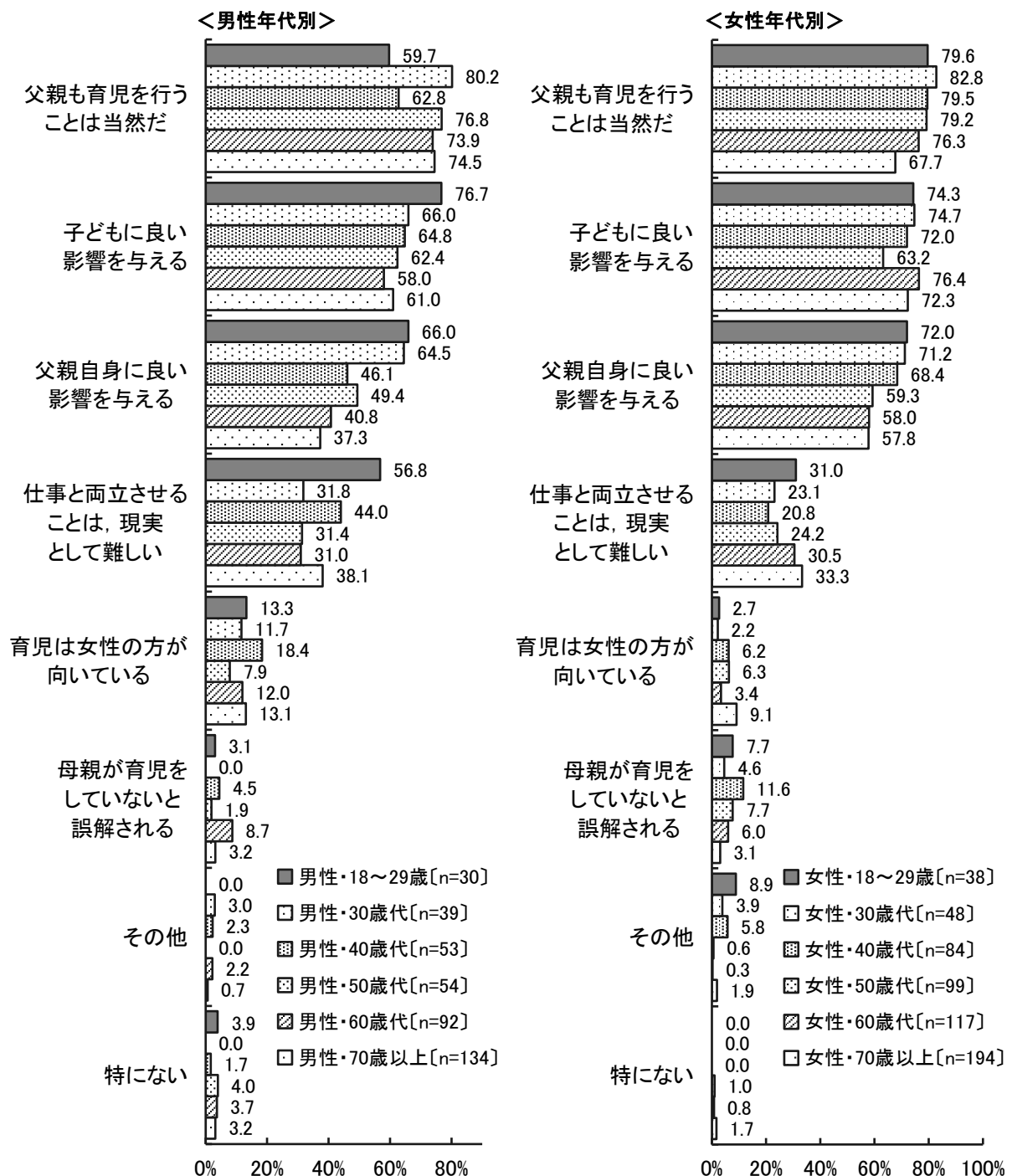
【性年代別】

男性18～29歳，男性30歳代，女性18～29歳，女性30歳代，女性40歳代は，「父親自身に良い影響を与える」がそれぞれ6割を上回り，他の年代より高い。

男性18～29歳は，「子どもに良い影響を与える」が76.7%と，他の男性の年代より高い。一方，女性50歳代は「子どもに良い影響を与える」が63.2%と他の女性の年代より低い。

男性18～29歳と男性40歳代は，「仕事と両立させることは，現実として難しい」がそれぞれ56.8%，44.0%と他の年代より高く，一方，「父親も育児を行うことは当然だ」が，それぞれ59.7%，62.8%と他の年代より低くなっている。

15-2図 父親が子育てに関わることについて〔性年代別〕



6. 男女の人権の尊重について

(16) 男女の地位について

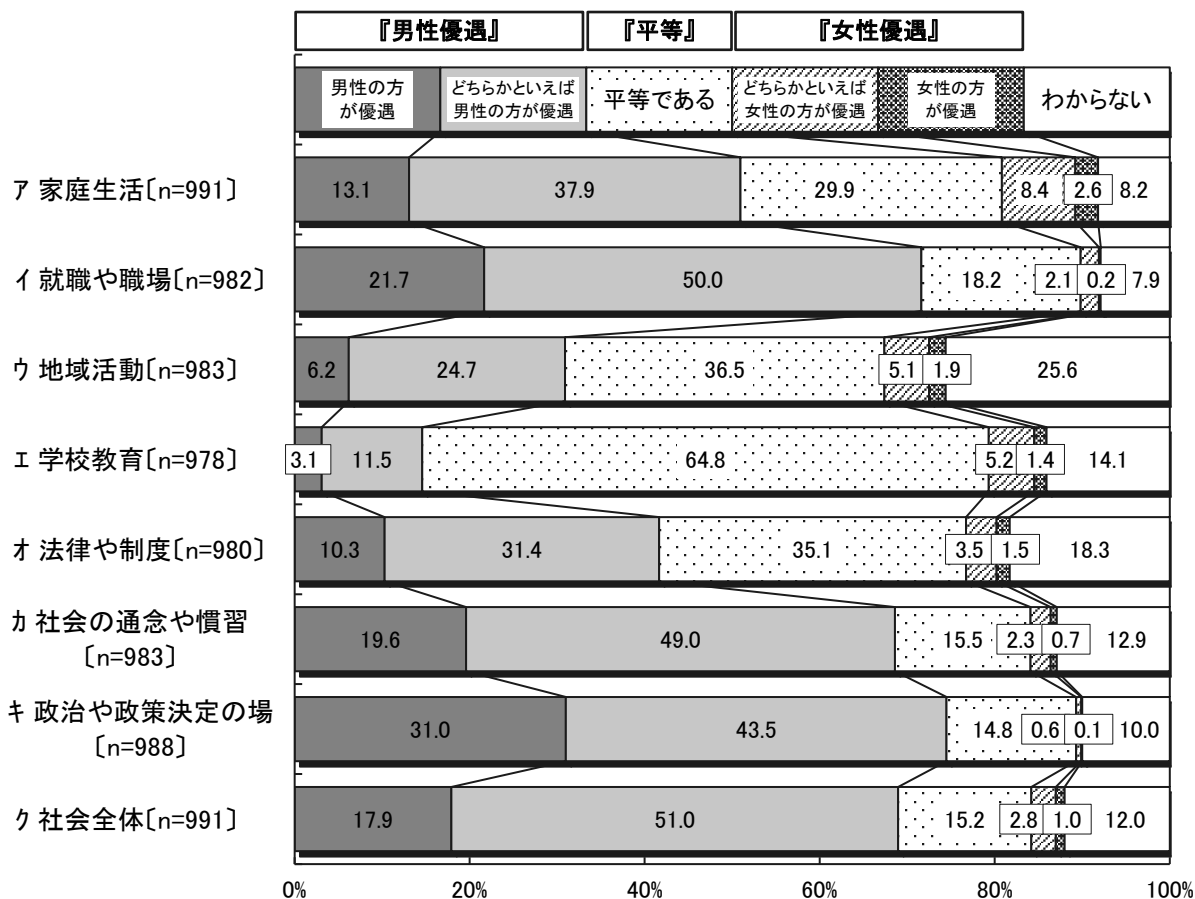
問16 あなたは、次のような事柄における男女の地位について、どのように感じますか。
それぞれについて1～6のいずれかに○

『男性優遇』⇒ 「家庭生活」「就職や職場」「法律や制度」「社会の通念や慣習」
「政治や政策決定の場」「社会全体」
『平等である』⇒ 「地域活動」「学校教育」

※「男性の方が優遇されている」と「どちらかといえば男性の方が優遇されている」を合わせて『男性優遇』、
「女性の方が優遇されている」と「どちらかといえば女性の方が優遇されている」を合わせて『女性優遇』
とする。

■男女の地位	『男性優遇』	平等	『女性優遇』
ア 家庭生活	51.0%	29.9%	11.0%
イ 就職や職場	71.7%	18.2%	2.3%
ウ 地域活動	30.9%	36.5%	7.0%
エ 学校教育	14.6%	64.8%	6.6%
オ 法律や制度	41.7%	35.1%	5.0%
カ 社会の通念や慣習	68.6%	15.5%	3.0%
キ 政治や政策決定の場	74.5%	14.8%	0.7%
ク 社会全体	68.9%	15.2%	3.8%

16-1図 男女の地位について〔全体〕



ア 家庭生活

『男性優遇』 51.0%, 「平等である」 29.9%, 『女性優遇』 11.0%

【全体】

「男性の方が優遇されている」が13.1%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が37.9%で『男性優遇』は51.0%となっている。

「女性の方が優遇されている」が2.6%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が8.4%で『女性優遇』は11.0%と、『男性優遇』が『女性優遇』を大きく上回っている。

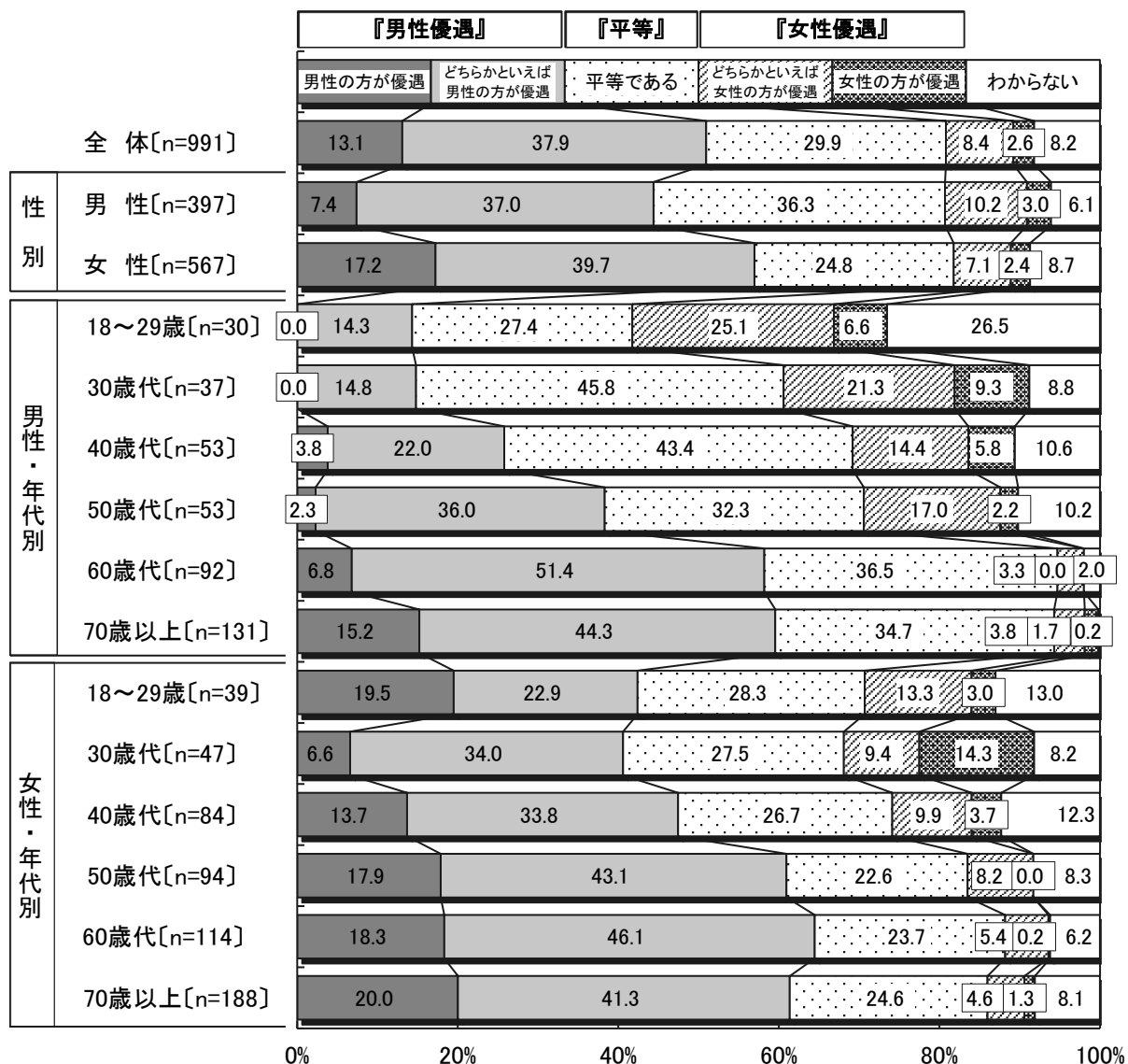
【性別】

女性は、『男性優遇』が56.9%と男性の44.4%より12.5ポイント高い。男性は、「平等である」が36.3%と女性の24.8%より11.5ポイント高い。

【性年代別】

男性18～29歳、男性30歳代は、『女性優遇』が約3割と『男性優遇』を上回っている。男性60歳代、男性70歳以上、女性50歳代、女性60歳代、女性70歳以上は、『男性優遇』が約6割と他の年代より高い。

16-2図 男女の地位について(ア 家庭生活) [全体・性別・性年代別]



イ 就職や職場

『男性優遇』 71.7%, 「平等である」 18.2%, 『女性優遇』 2.3%

【全体】

「男性の方が優遇されている」が21.7%, 「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が50.0%で『男性優遇』は71.7%となっている。

「女性の方が優遇されている」が0.2%, 「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が2.1%で『女性優遇』は2.3%と、『男性優遇』が『女性優遇』を大きく上回っている。

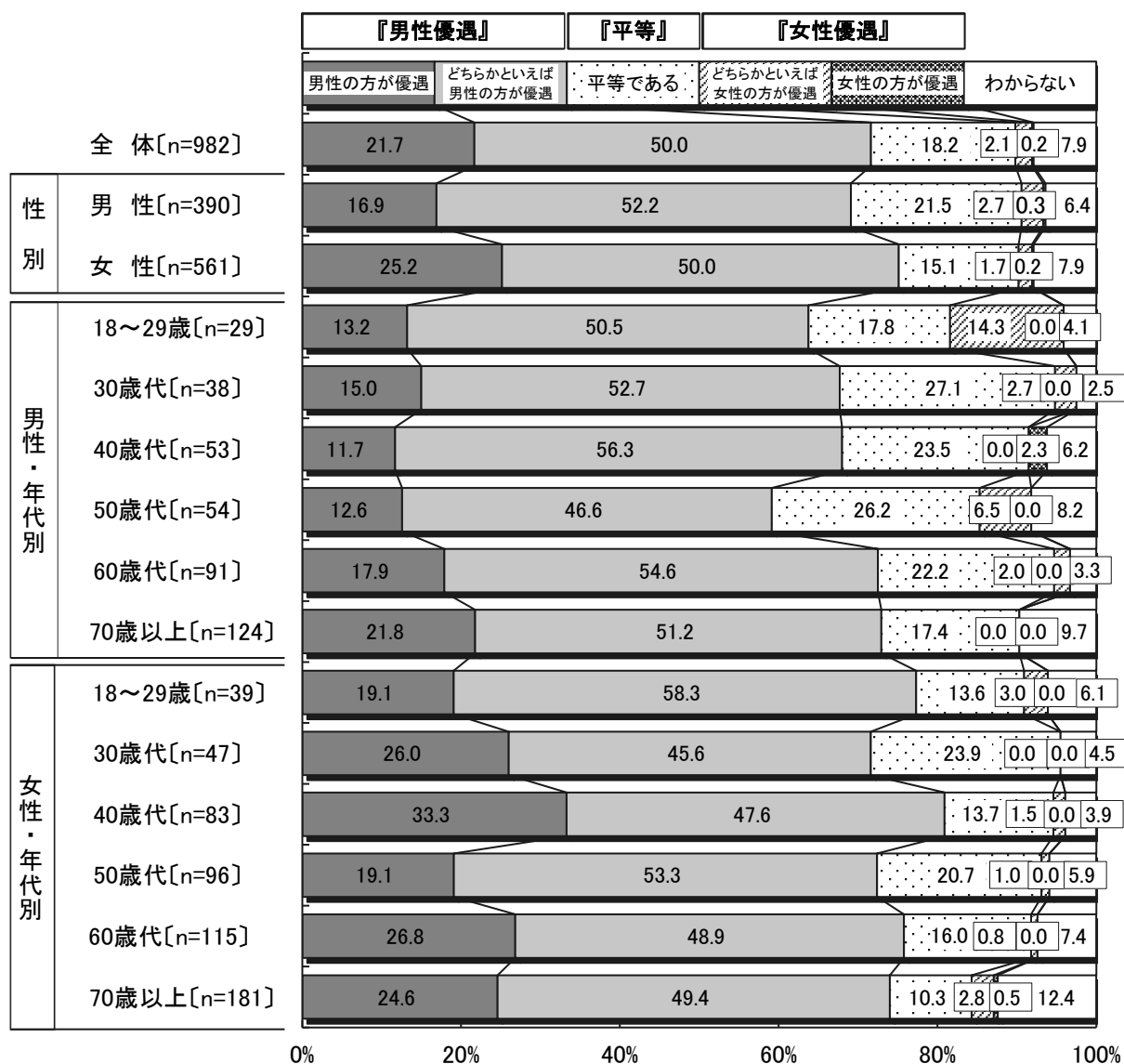
【性別】

女性は、『男性優遇』が75.2%と男性の69.1%より6.1ポイント高い。男性は, 「平等である」が21.5%と女性の15.1%より6.4ポイント高い。

【性年代別】

全ての年代で『男性優遇』が『女性優遇』を上回っているが, 18~29歳, 40歳代, 50歳代は, 女性の値が男性よりそれぞれ10ポイント以上高く, 差が大きい。

16-3図 男女の地位について(イ 就職や職場) [全体・性別・性年代別]



ウ 地域活動

「平等である」36.5%, 『男性優遇』30.9%, 『女性優遇』7.0%

【全体】

「平等である」が36.5%と最も高い。「男性の方が優遇されている」が6.2%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が24.7%で『男性優遇』は30.9%となっている。

「女性の方が優遇されている」が1.9%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が5.1%で『女性優遇』は7.0%で、『男性優遇』が『女性優遇』を大きく上回っている。

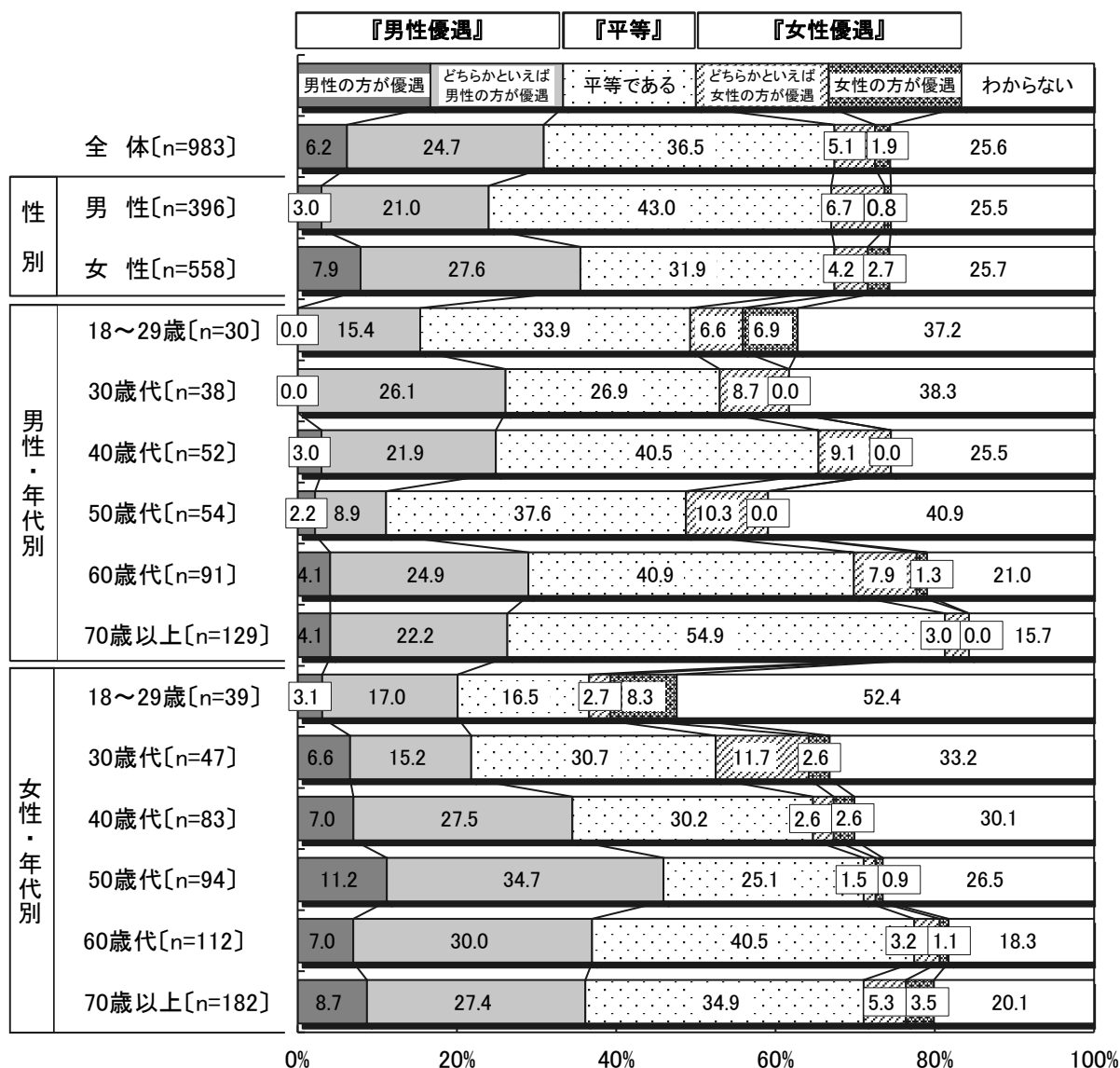
【性別】

女性は、『男性優遇』が35.5%と男性の24.0%より11.5ポイント高い。男性は、「平等である」が43.0%と女性の31.9%より11.1ポイント高い。

【性年代別】

男性40歳代、男性60歳代、男性70歳以上は「平等である」が最も高い。女性40歳代、女性60歳代、女性70歳以上は『男性優遇』と「平等である」がともに高く、女性50歳代は『男性優遇』が最も高い。その他の年代では、「わからない」が最も高い。

16-4図 男女の地位について(ウ 地域活動)〔全体・性別・性年代別〕



エ 学校教育

「平等である」64.8%, 『男性優遇』14.6%, 『女性優遇』6.6%

【全体】

「平等である」が64.8%と最も高い。「男性の方が優遇されている」が3.1%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が11.5%で『男性優遇』は14.6%となっている。

「女性の方が優遇されている」が1.4%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が5.2%で『女性優遇』は6.6%と、『男性優遇』が『女性優遇』より8.0ポイント高い。

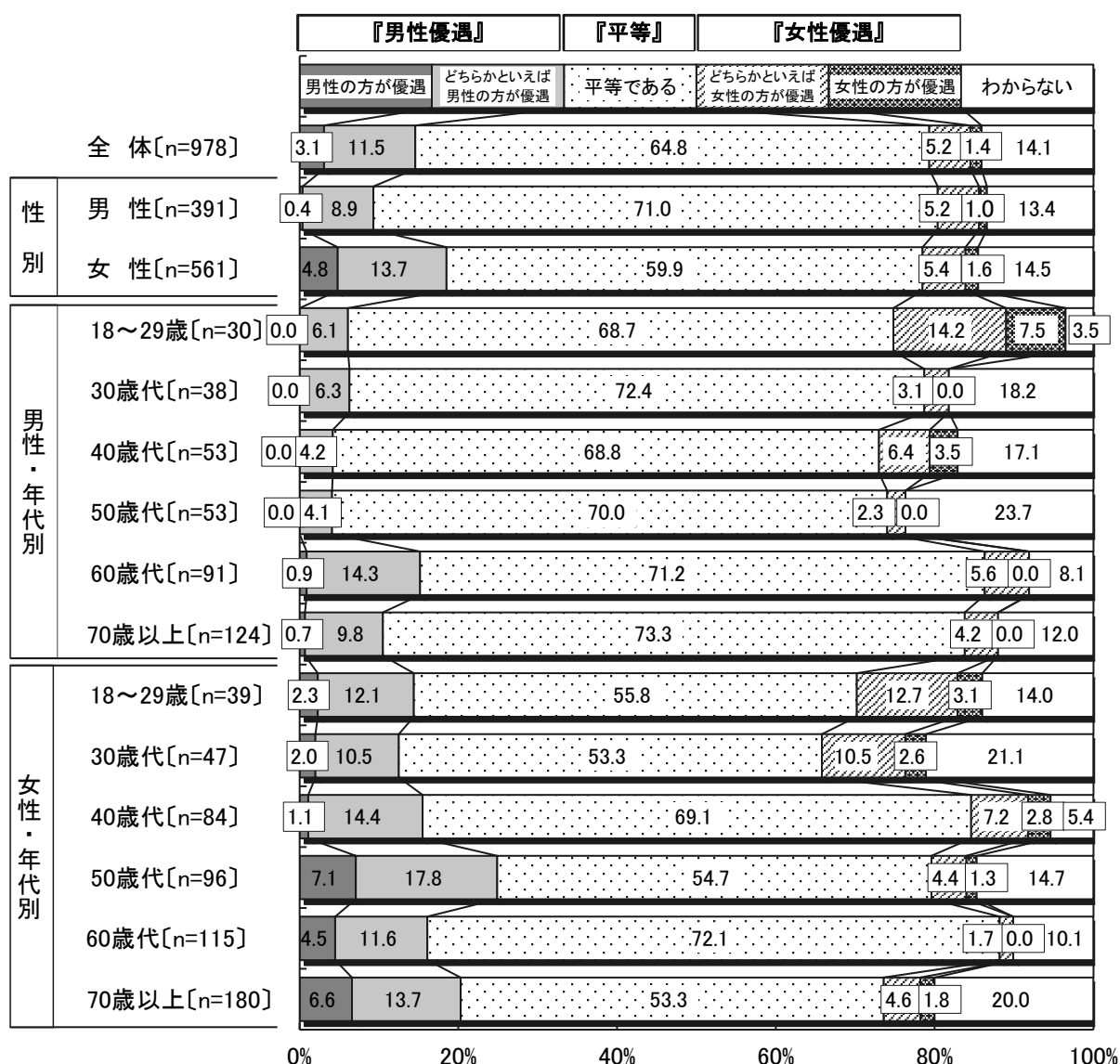
【性別】

男性は、「平等である」が71.0%で女性の59.9%より11.1ポイント高い。女性は、『男性優遇』が18.5%で男性の9.3%より9.2ポイント高い。

【性年代別】

すべての年代で「平等である」が過半と最も高いが、女性50歳代は『男性優遇』が24.9%と他の年代より高い。

16-5図 男女の地位について(エ 学校教育)〔全体・性別・性年代別〕



オ 法律や制度

「平等である」35.1%, 『男性優遇』41.7%, 『女性優遇』5.0%

【全体】

「平等である」が35.1%と最も高い。「男性の方が優遇されている」が10.3%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が31.4%で『男性優遇』は41.7%となっている。

「女性の方が優遇されている」が1.5%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」は3.5%で『女性優遇』が5.0%と、『男性優遇』が『女性優遇』を大きく上回っている。

【性別】

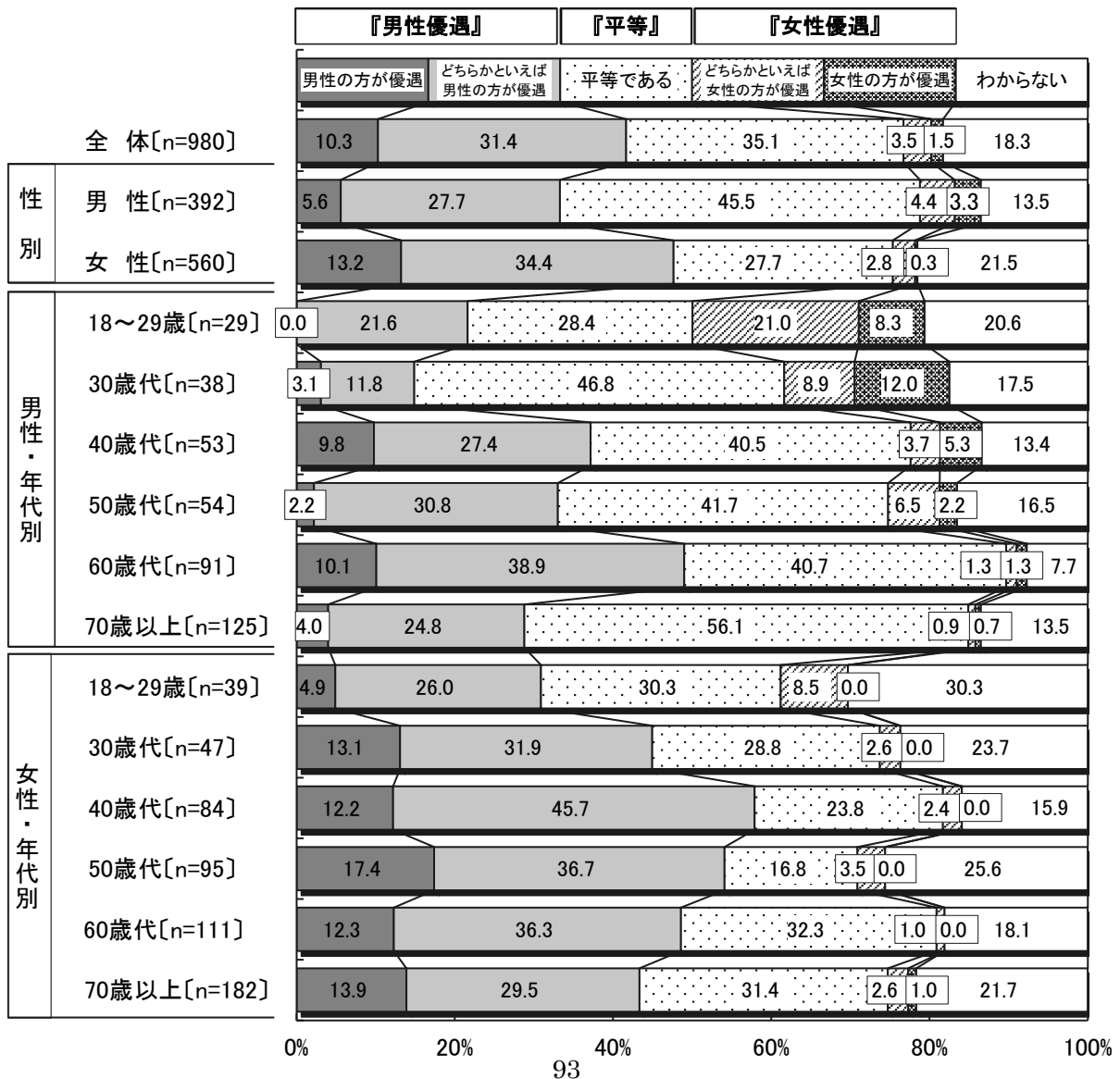
女性は、『男性優遇』が47.6%と男性の33.3%より14.3ポイント高い。男性は、「平等である」が45.5%と女性の27.7%より17.8ポイント高い。

【性年代別】

男性18～29歳は、『女性優遇』と『平等である』が『男性優遇』の値を上回り、男性30歳代は、『女性優遇』が『男性優遇』を上回っている。

その他の年代では『男性優遇』が『女性優遇』を上回っているが、男性30歳代、男性40歳代、男性50歳代、男性70歳以上は『平等である』が最も高い。

16-6図 男女の地位について(オ 法律や制度)〔全体・性別・性年代別〕



カ 社会の通念や慣習

『男性優遇』 68.6%, 「平等である」 15.5%, 『女性優遇』 3.0%

【全体】

「男性の方が優遇されている」が19.6%, 「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が49.0%で『男性優遇』は68.6%となっている。

「女性の方が優遇されている」が0.7%, 「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が2.3%で『女性優遇』は3.0%と、『男性優遇』が『女性優遇』を大きく上回っている。

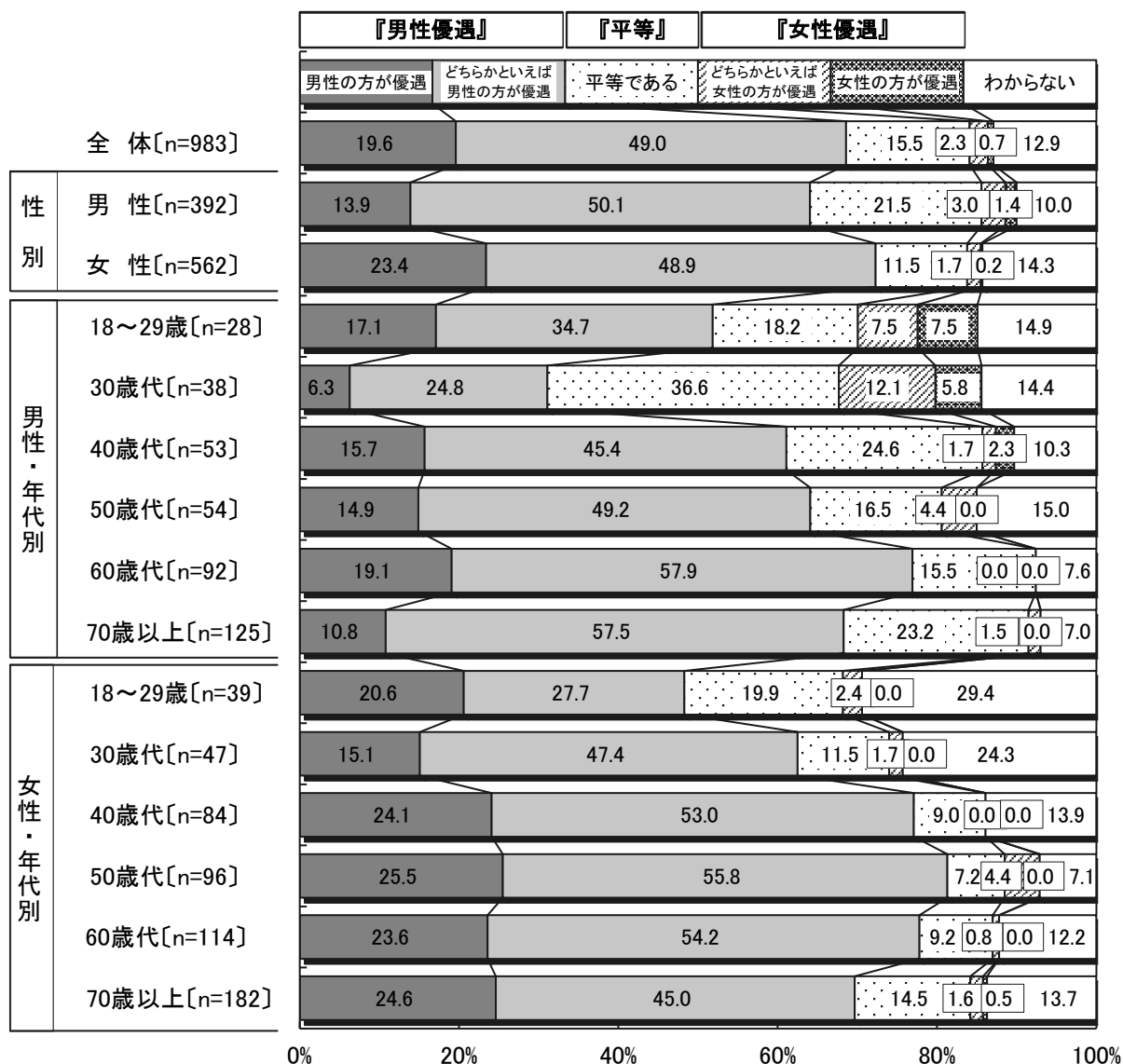
【性別】

女性は、『男性優遇』が72.3%で男性の64.0%より8.3ポイント高い。男性は、「平等である」が21.5%で女性の11.5%より10.0ポイント高い。

【性年代別】

男性30歳代は、『平等である』が36.6%と他の年代より高い。男性60歳代, 女性40歳代, 女性50歳代, 女性60歳代は、『男性優遇』が約8割と他の年代より高い。

16-7図 男女の地位について(カ 社会の通念や慣習) [全体・性別・性年代別]



キ 政治や政策決定の場

『男性優遇』74.5%、「平等である」14.8%、『女性優遇』0.7%

【全体】

「男性の方が優遇されている」が31.0%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が43.5%で『男性優遇』は74.5%となっている。

「女性の方が優遇されている」が0.1%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が0.6%で『女性優遇』は0.7%と、『男性優遇』が『女性優遇』を大きく上回っている。

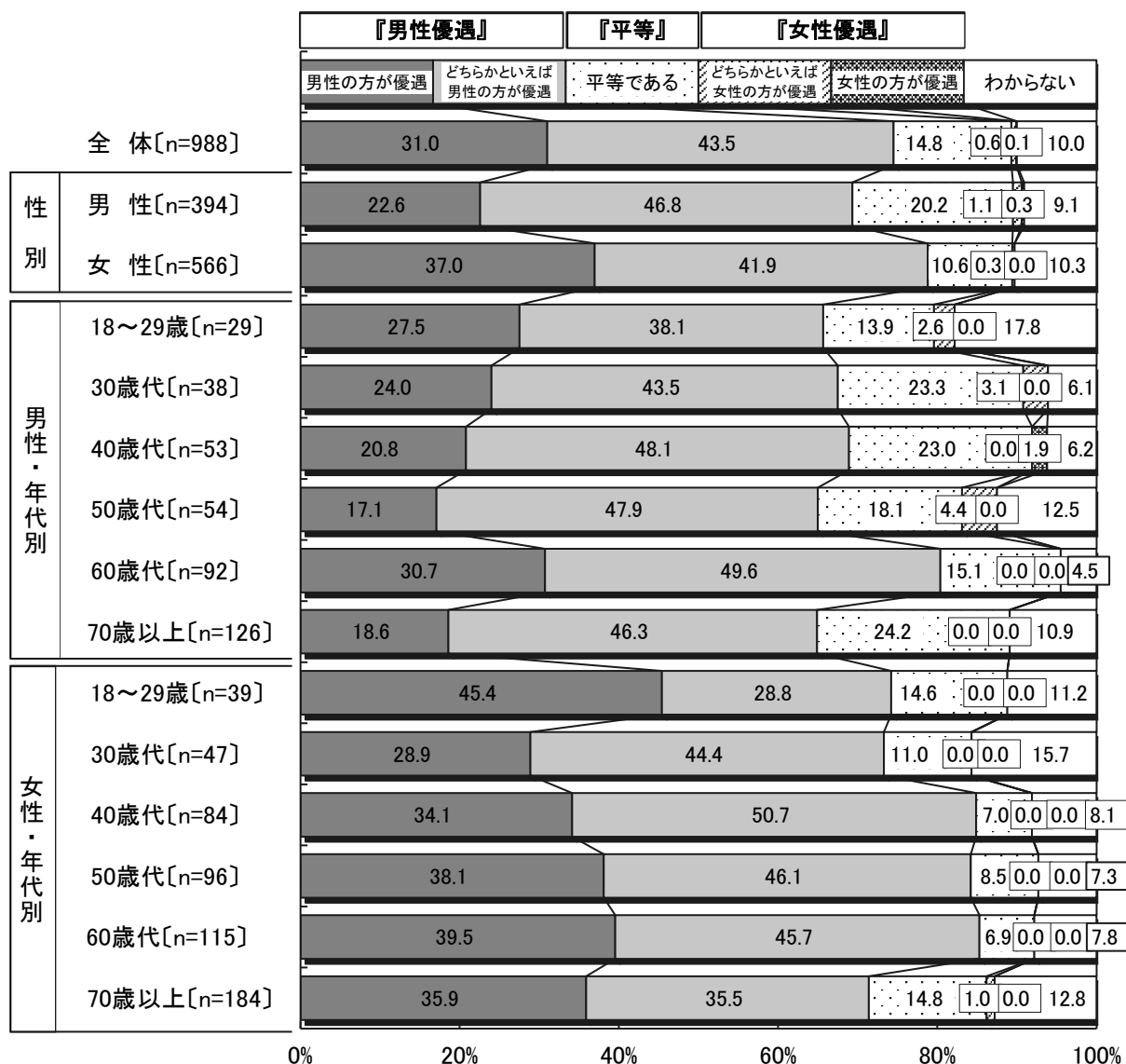
【性別】

女性は、『男性優遇』が78.9%で男性の69.4%より9.5ポイント高い。男性は、「平等である」が20.2%で女性の10.6%より9.6ポイント高い。

【性年代別】

男性60歳代、女性40歳代、女性50歳代、女性60歳代は、『男性優遇』が約8割と他の年代より高い。

16-8図 男女の地位について(キ 政治や政策決定の場) [全体・性別・性年代別]



ク 社会全体

『男性優遇』 68.9%, 「平等である」 15.2%, 『女性優遇』 3.8%

【全体】

「男性の方が優遇されている」が17.9%、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が51.0%で『男性優遇』は68.9%となっている。

「女性の方が優遇されている」が1.0%、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が2.8%で『女性優遇』は3.8%と、『男性優遇』が『女性優遇』を大きく上回っている。

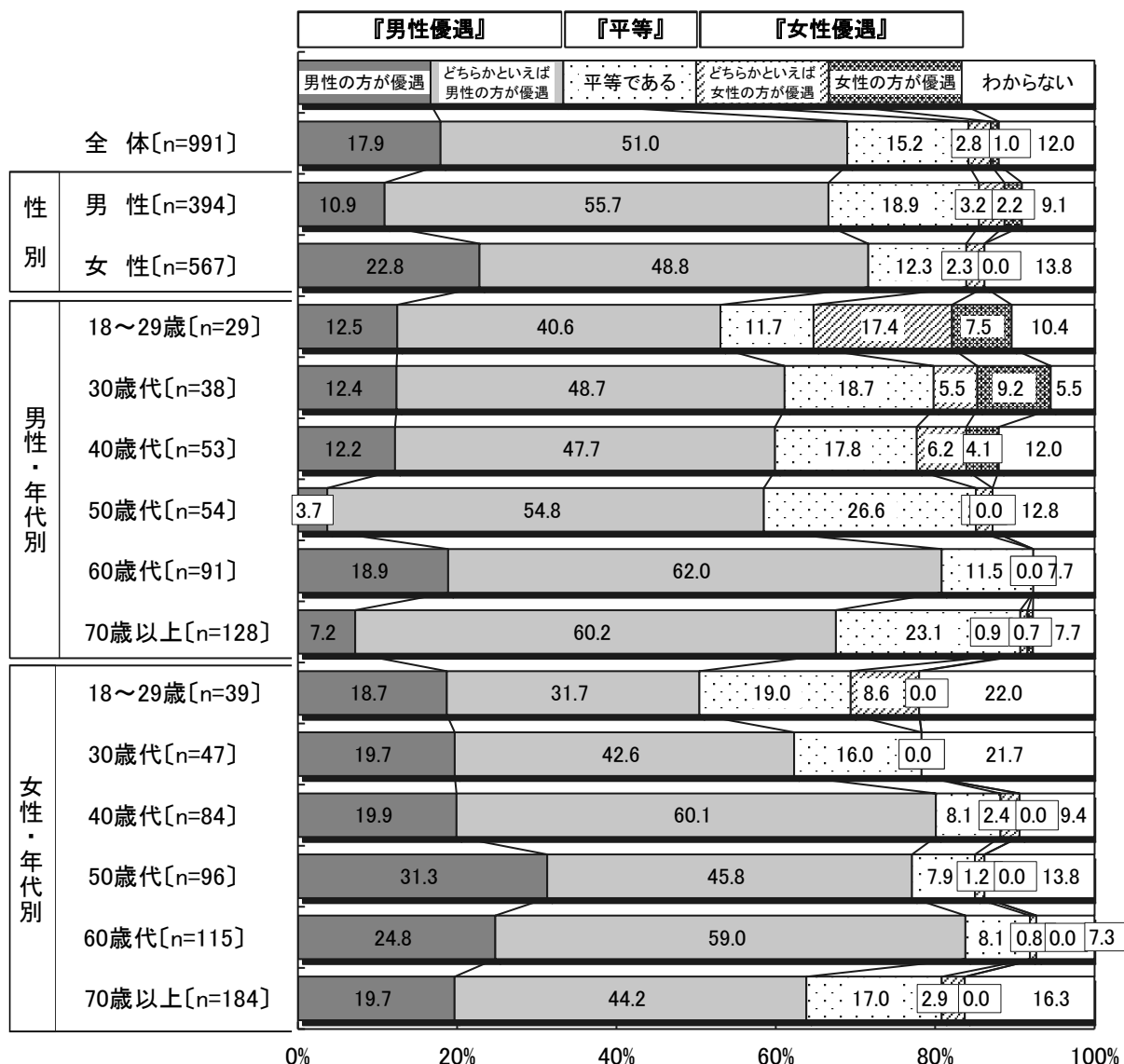
【性別】

女性は、『男性優遇』が71.6%で男性の66.6%より5.0ポイント高い。男性は、「平等である」が18.9%で女性の12.3%より6.6ポイント高い。

【性年代別】

男性60歳代, 女性40歳代, 女性50歳代, 女性60歳代は、『男性優遇』が約8割と他の年代より高い。

16-9図 男女の地位について(ク 社会全体)〔全体・性別・性年代別〕



(17) 配偶者や恋人の間で行われた場合、暴力だと思う行為について

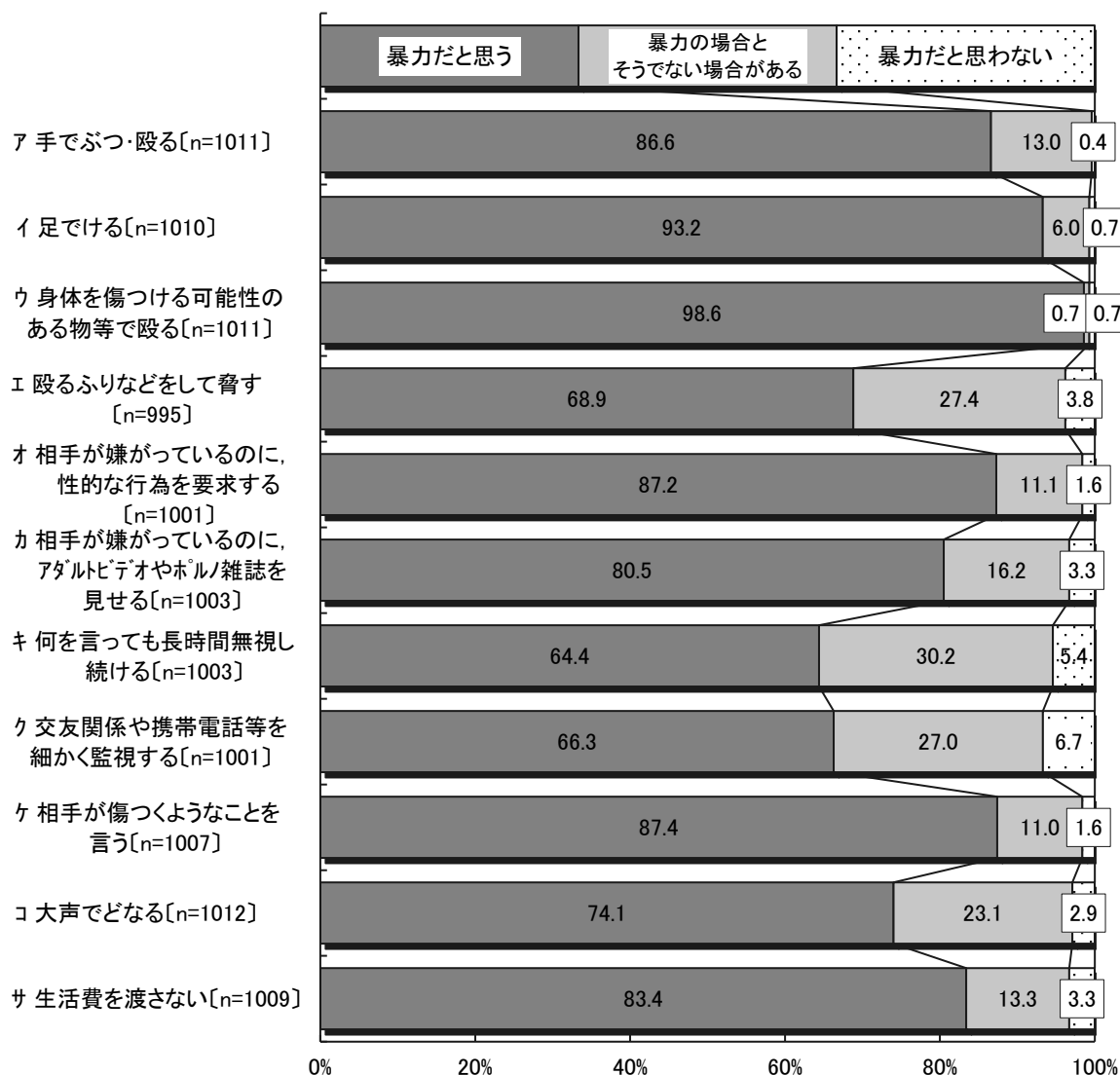
問17 あなたは、配偶者や恋人の間で行われる次のような行為を暴力だと思いますか。
それぞれについて1～3のいずれかに○

ウ 身体を傷つける可能性のある物等で殴る	98.6%
イ 足でける	93.2%
ケ 「誰のおかげで生活できているんだ」「かいしようなし」など、 相手が傷つくようなことを言う	87.4%

■ 「暴力だと思う」が80%以上 高い順

ウ 身体を傷つける可能性のある物等で殴る	98.6%
イ 足でける	93.2%
ケ 「誰のおかげで生活できているんだ」「かいしようなし」など、 相手が傷つくようなことを言う	87.4%
オ 相手が嫌がっているのに、性的な行為を要求する	87.2%
ア 手でぶつ・殴る	86.6%
サ 生活費を渡さない	83.4%
カ 相手が嫌がっているのに、アダルトビデオやポルノ雑誌を見せる	80.5%

17-1図 配偶者や恋人の間で行われた場合、暴力だと思う行為について〔全体〕



ア 手でぶつ・殴る

「暴力だと思う」が86.6%、「暴力の場合とそうでない場合がある」13.0%

【全体】

「暴力だと思う」が86.6%と最も高く、「暴力の場合とそうでない場合がある」が13.0%、「暴力だと思わない」は0.4%である。

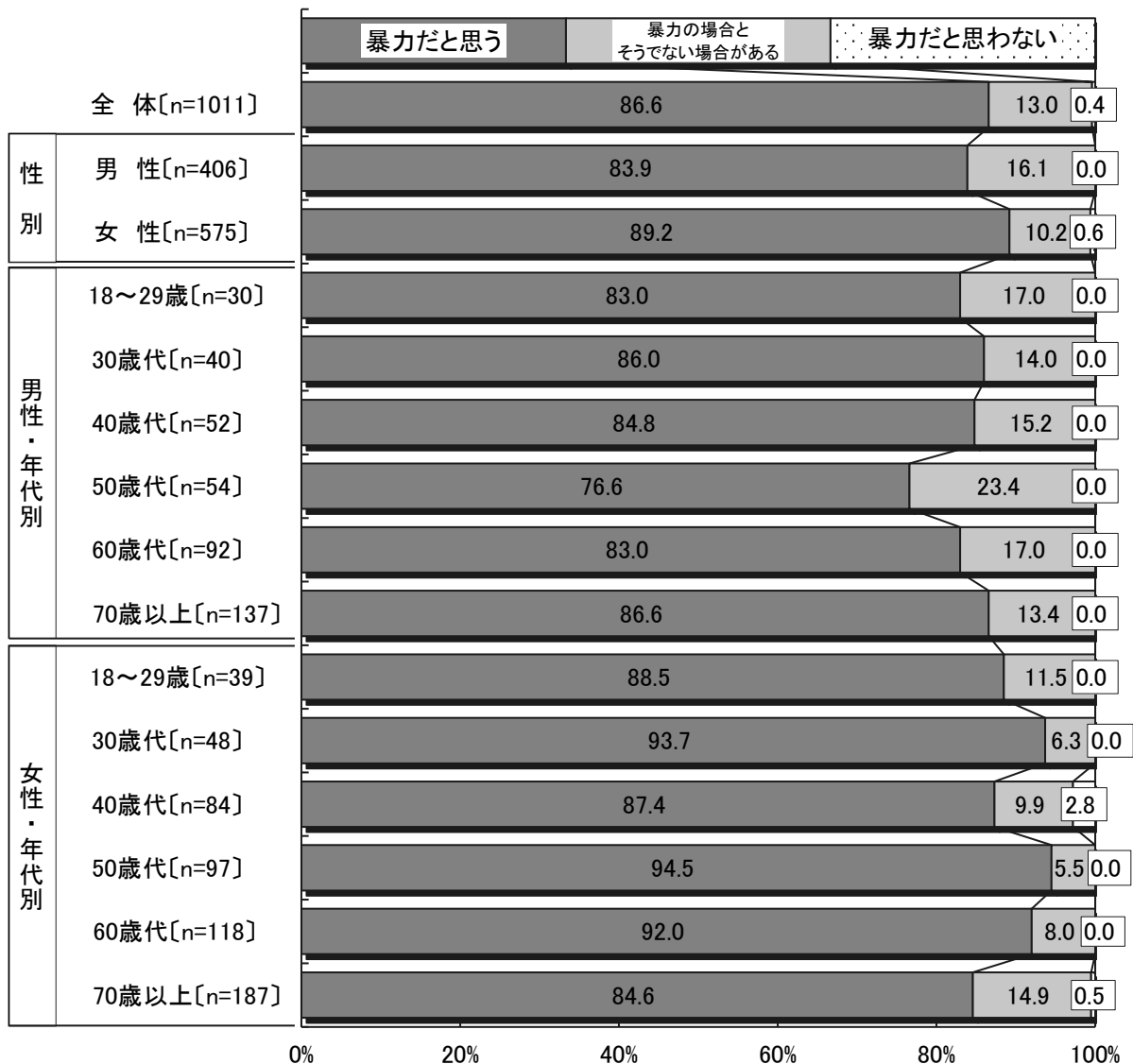
【性別】

女性は、「暴力だと思う」が89.2%と男性の83.9%より5.3ポイント高い。

【性年代別】

女性50歳代、女性30歳代、女性60歳代は、「暴力だと思う」がそれぞれ94.5%、93.7%、92.0%とそれぞれ他の年代より高い。男性50歳代は、「暴力の場合とそうでない場合がある」が23.4%と他の年代より高くなっている。

17-2図 暴力だと思う行為について【全体・性別・性年代別】（ア 手でぶつ・殴る）



イ 足でける

「暴力だと思う」が93.2%、「暴力の場合とそうでない場合がある」6.0%

【全体】

「暴力だと思う」が93.2%と最も高く、「暴力の場合とそうでない場合がある」が6.0%、「暴力だと思わない」は0.7%である。

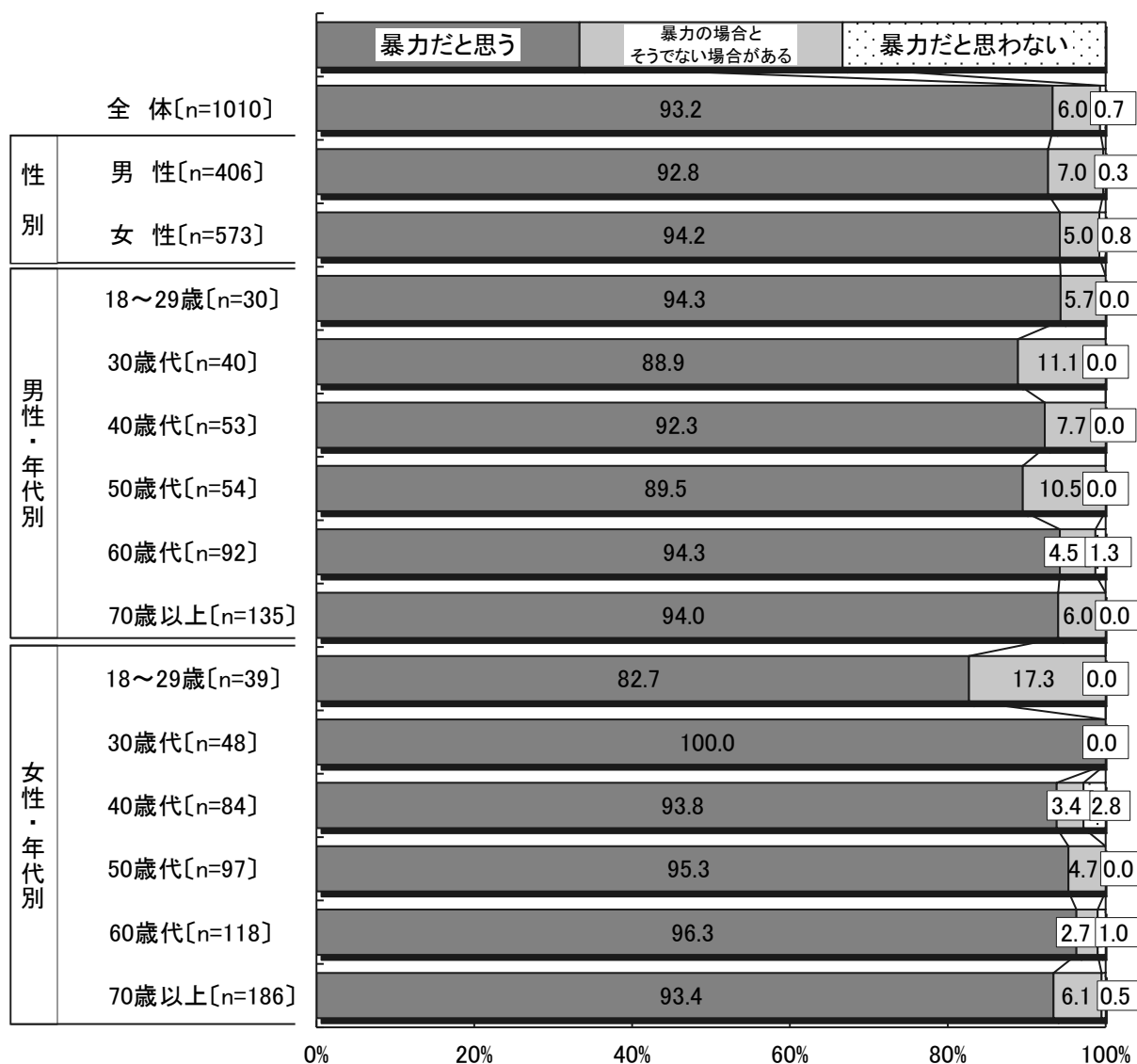
【性別】

特に大きな差異はない。

【性年代別】

女性18～29歳は、「暴力の場合とそうでない場合がある」が17.3%と他の年代より高い。

17-3図 暴力だと思う行為について〔全体・性別・性年代別〕（イ 足でける）



ウ 身体を傷つける可能性のある物等で殴る

「暴力だと思う」が98.6%

【全体】

「暴力だと思う」が98.6%と最も高く、「暴力の場合とそうでない場合がある」が0.7%、「暴力だと思わない」は0.7%である。

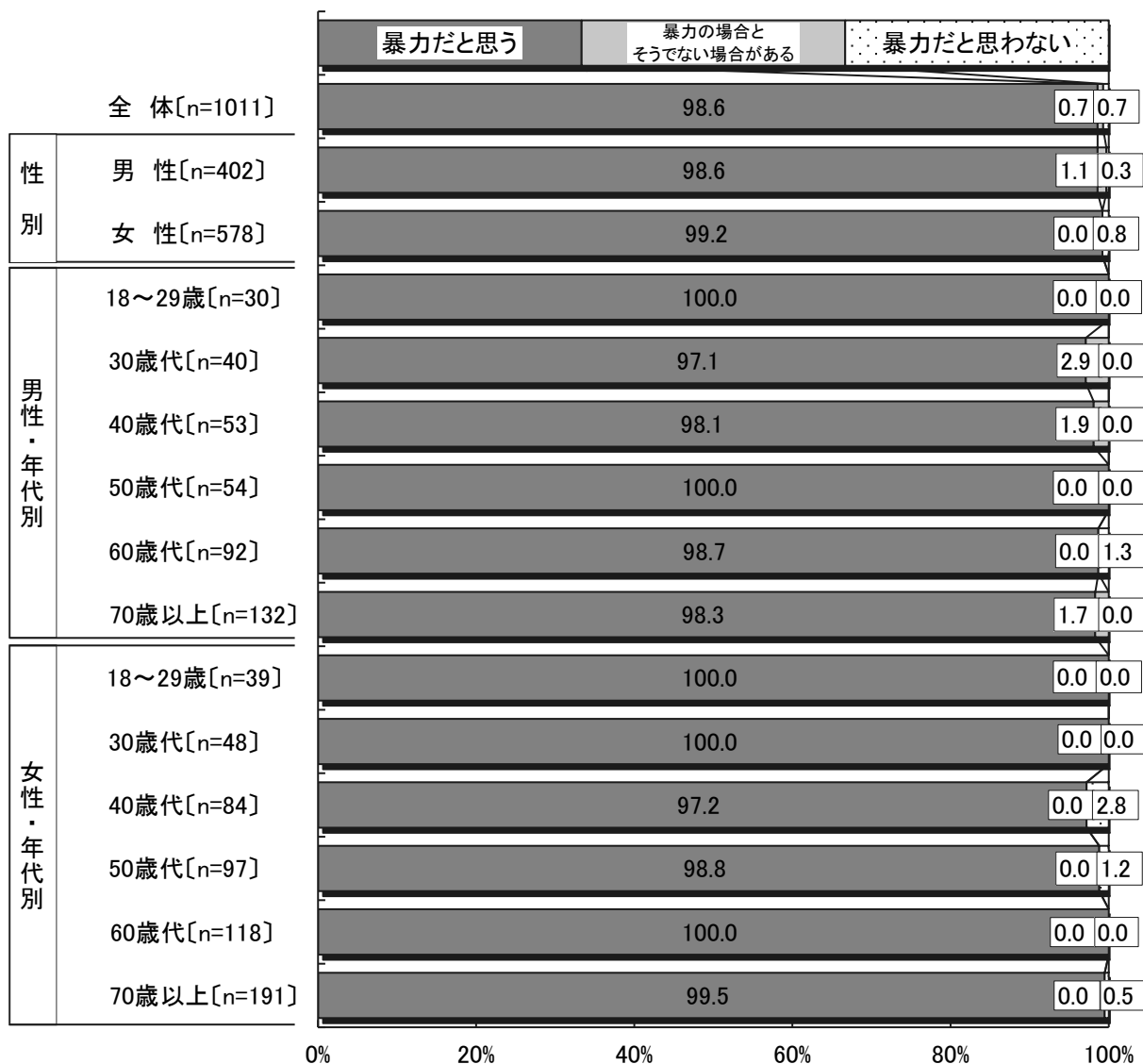
【性別】

特に大きな差異はない。

【性年代別】

特に大きな差異はない。

17-4図 暴力だと思う行為について〔全体・性別・性年代別〕
(ウ 身体を傷つける可能性のある物等で殴る)



エ 殴るふりをして脅す

「暴力だと思う」68.9%、「暴力の場合とそうでない場合がある」27.4%

【全体】

「暴力だと思う」が68.9%と最も高く、「暴力の場合とそうでない場合がある」が27.4%、「暴力だと思わない」は3.8%である。

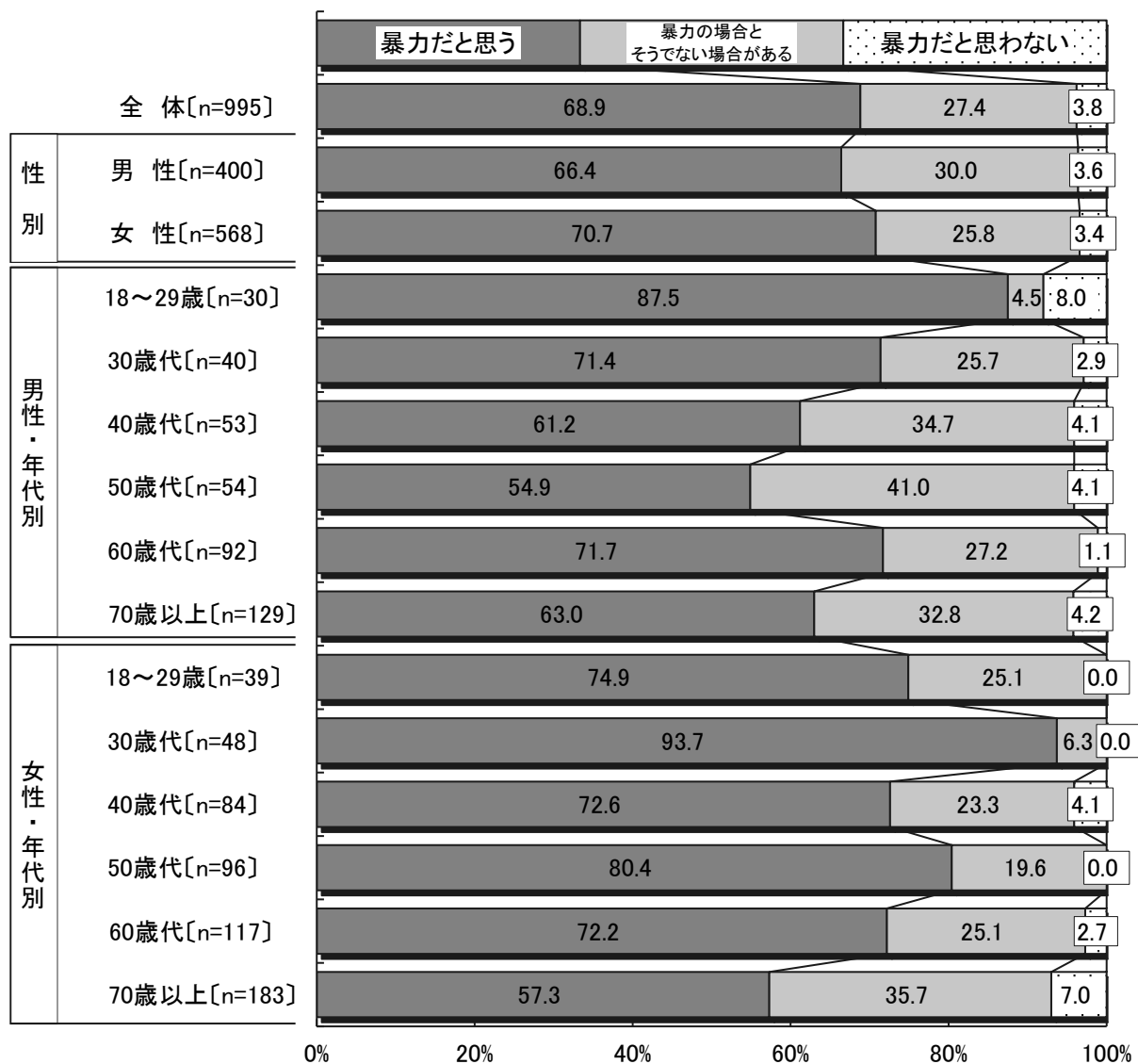
【性別】

特に大きな差異はない。

【性年代別】

女性30歳代、男性18～29歳、女性50歳代は、「暴力だと思う」がそれぞれ93.7%、87.5%、80.4%と他の年代より高い。男性50歳代は、「暴力の場合とそうでない場合がある」が41.0%と他の年代より高くなっている。

17-5図 暴力だと思う行為について〔全体・性別・年代別〕(エ 殴るふりをして脅す)



オ 相手が嫌がっているのに、性的な行為を要求する

「暴力だと思う」が87.2%、「暴力の場合とそうでない場合がある」11.1%

【全体】

「暴力だと思う」が87.2%と最も高く、「暴力の場合とそうでない場合がある」が11.1%、「暴力だと思わない」は1.6%である。

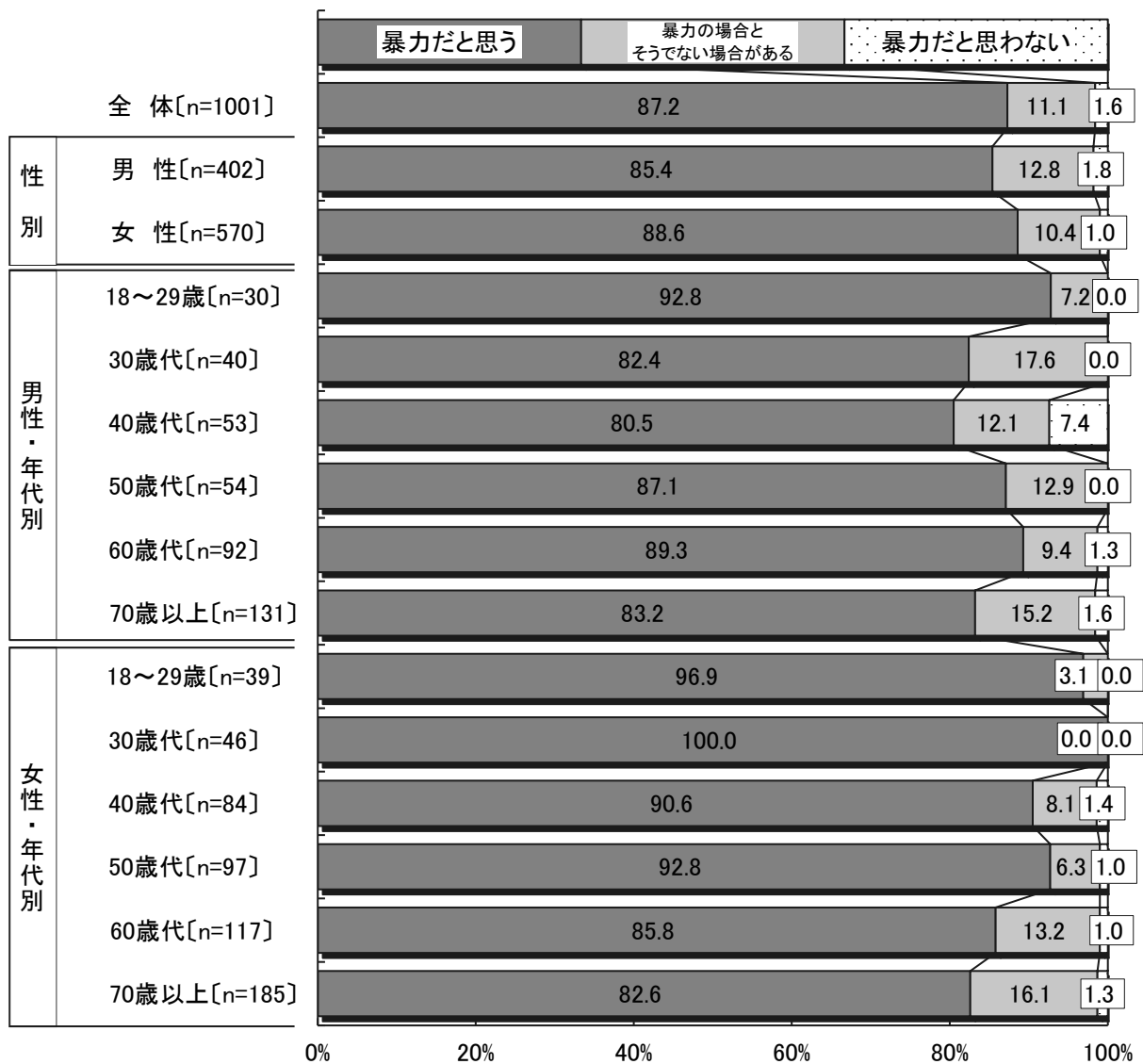
【性別】

特に大きな差異はない。

【性年代別】

女性30歳代は、「暴力だと思う」が100.0%と他の年代より高い。

17-6図 暴力だと思う行為について〔全体・性別・性年代別〕
（オ 相手が嫌がっているのに、性的な行為を要求する）



カ 相手が嫌がっているのに、アダルトビデオやポルノ雑誌を見せる

「暴力だと思う」が80.5%、「暴力の場合とそうでない場合がある」16.2%

【全体】

「暴力だと思う」が80.5%と最も高く、「暴力の場合とそうでない場合がある」が16.2%、「暴力だと思わない」は3.3%である。

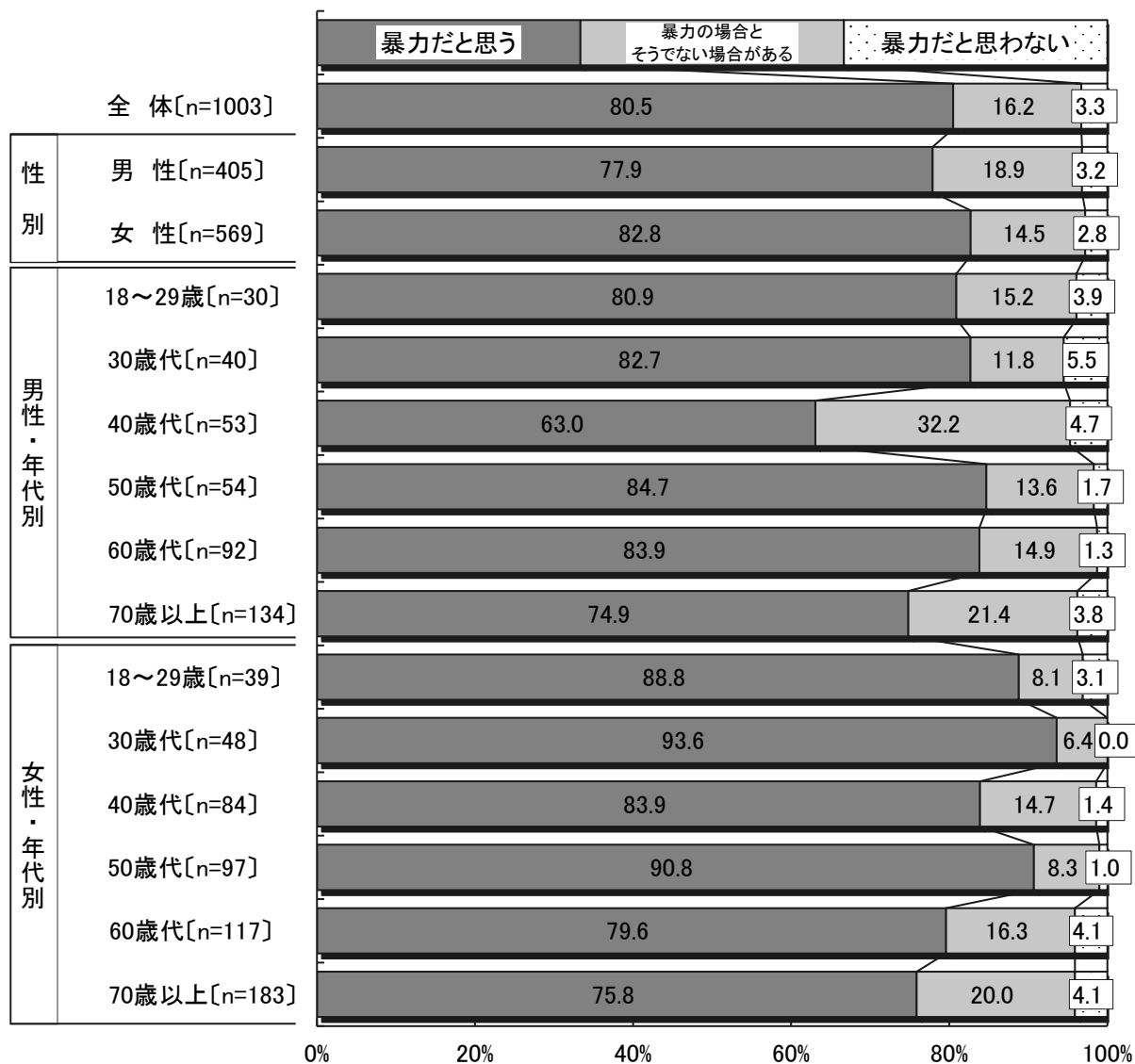
【性別】

特に大きな差異はない。

【性年代別】

男性40歳代は、「暴力だと思う」が63.0%と他の年代より低く、「暴力の場合とそうでない場合がある」が32.2%と他の年代より高くなっている。

17-7図 暴力だと思う行為について〔全体・性別・性年代別〕
(カ 相手が嫌がっているのに、アダルトビデオやポルノ雑誌を見せる)



キ 何を言っても長時間無視し続ける

「暴力だと思う」64.4%、「暴力の場合とそうでない場合がある」30.2%

【全体】

「暴力だと思う」が64.4%と最も高く、「暴力の場合とそうでない場合がある」が30.2%、「暴力だと思わない」は5.4%である。

【性別】

特に大きな差異はない。

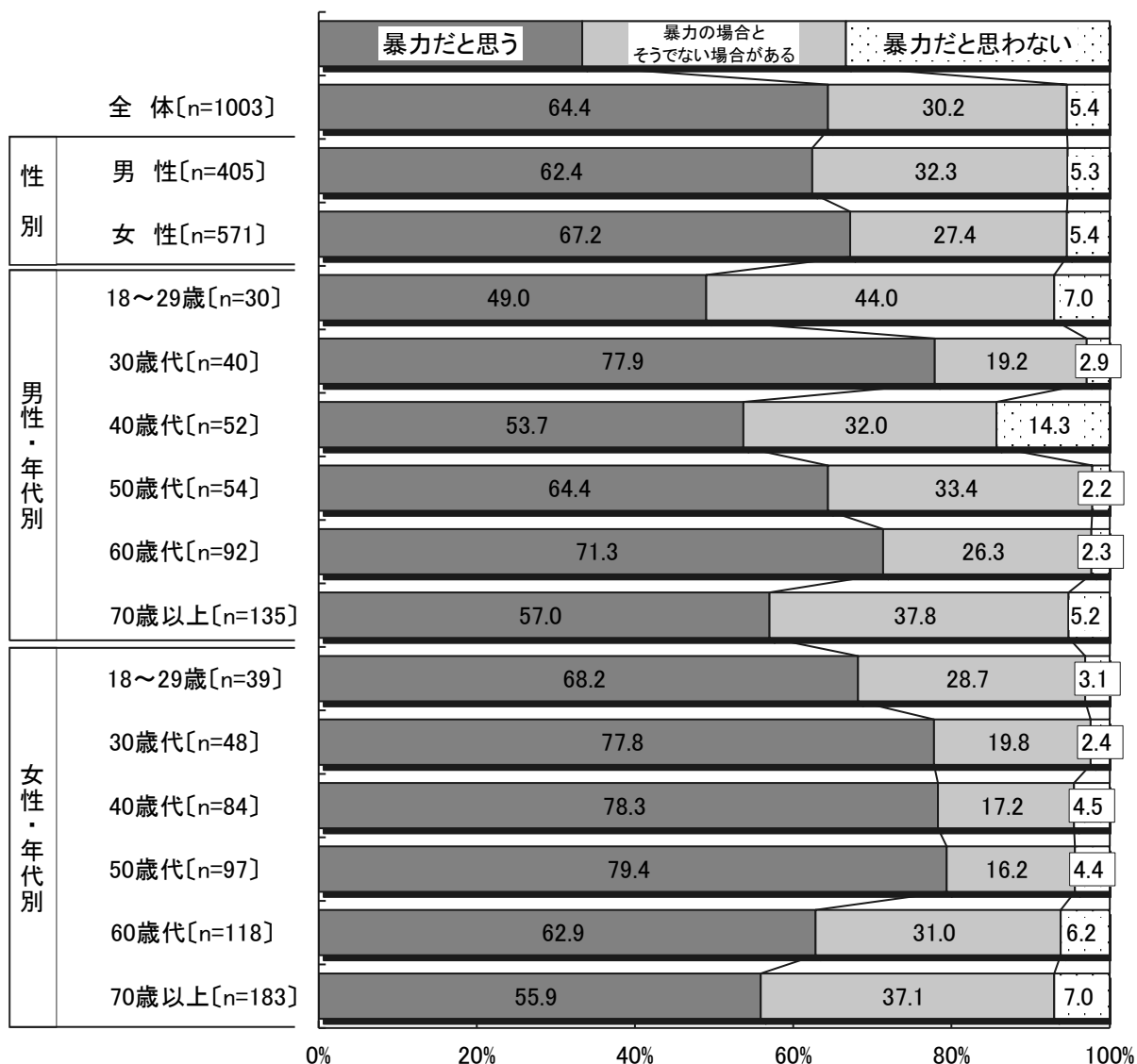
【性年代別】

女性50歳代、女性40歳代、男性30歳代、女性30歳代は、「暴力だと思う」がそれぞれ79.4%、78.3%、77.9%、77.8%と他の年代より高い。

男性18～29歳は、「暴力の場合とそうでない場合がある」が44.0%と他の年代より高く、男性40歳代は、「暴力だと思わない」が14.3%と他の年代より高くなっている。

17-8図 暴力だと思う行為について〔全体・性別・性年代別〕

(キ 何を言っても長時間無視し続ける)



ク 交友関係や電話・メール等を細かく監視する

「暴力だと思う」66.3%、「暴力の場合とそうでない場合がある」27.0%

【全体】

「暴力だと思う」が66.3%と最も高く、「暴力の場合とそうでない場合がある」が27.0%、「暴力だと思わない」は6.7%である。

【性別】

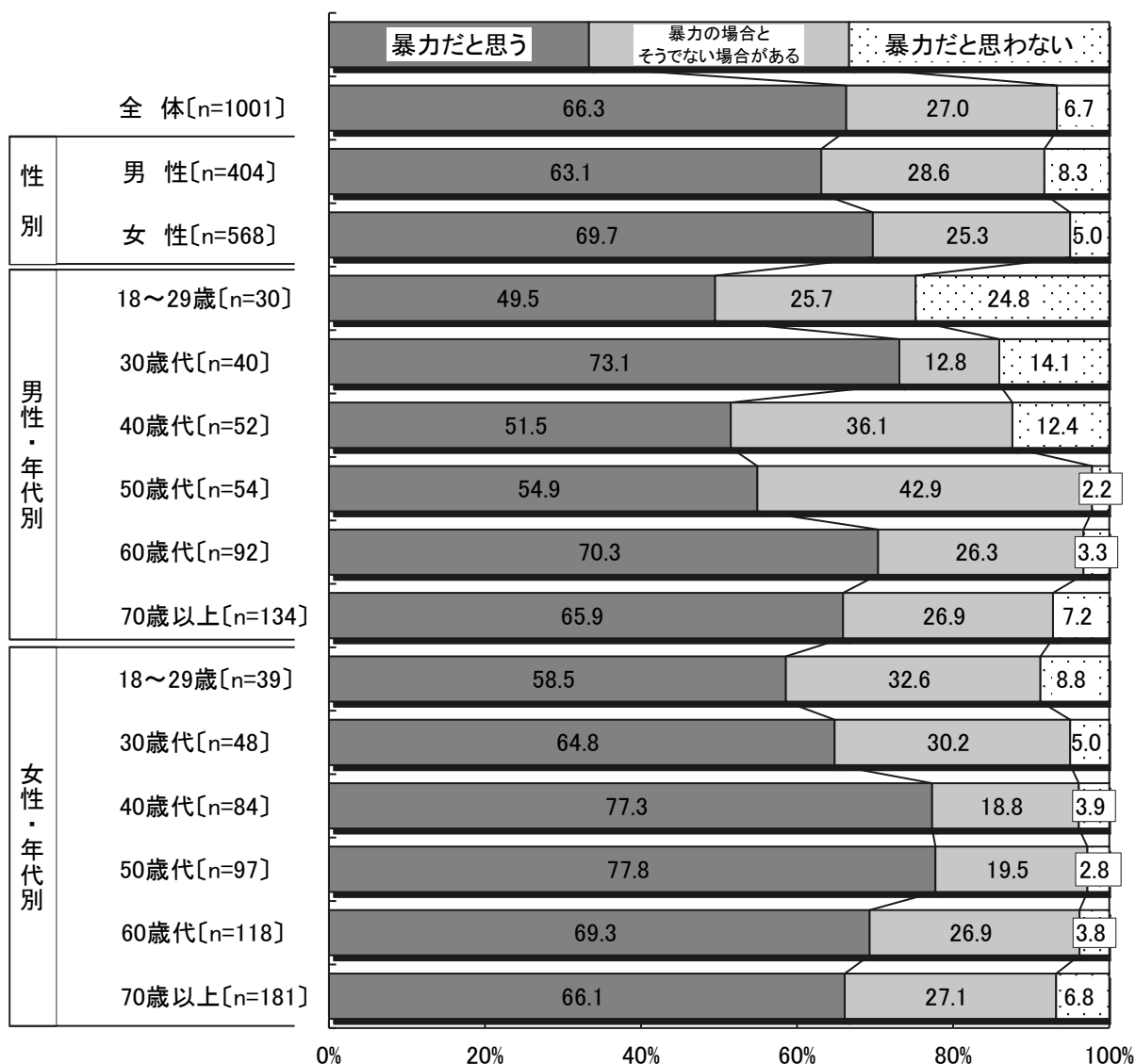
女性は、「暴力だと思う」が69.7%と男性の63.1%より6.6ポイント高い。

【性年代別】

男性18～29歳、男性40歳代、男性50歳代は、「暴力だと思う」がそれぞれ49.5%、51.5%、54.9%と他の年代より低い。

男性50歳代は、「暴力の場合とそうでない場合がある」が42.9%と他の年代より高く、男性18～29歳は、「暴力だと思わない」が24.8%と他の年代より高くなっている。

17-9図 暴力だと思う行為について〔全体・性別・性年代別〕
(ク 交友関係や電話・メール等を細かく監視する)



ケ 相手が傷つくようなことを言う

「暴力だと思う」が87.4%、「暴力の場合とそうでない場合がある」11.0%

【全体】

「暴力だと思う」が87.4%と最も高く、「暴力の場合とそうでない場合がある」が11.0%、「暴力だと思わない」は1.6%である。

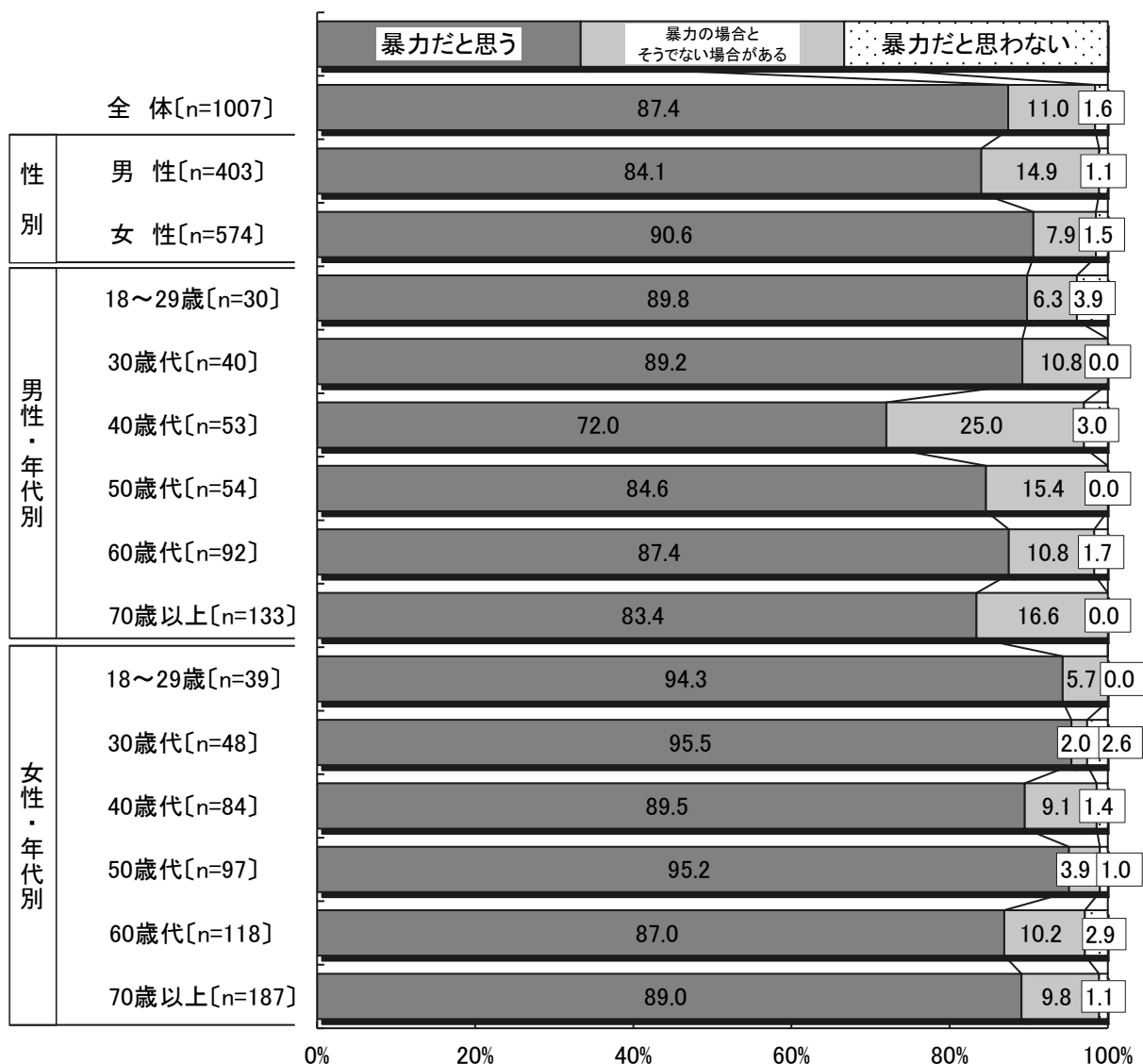
【性別】

女性は、「暴力だと思う」が90.6%と男性の84.1%より6.5ポイント高く、男性は、「暴力の場合とそうでない場合がある」が14.9%と女性の7.9%より7.0ポイント高い。

【性年代別】

女性30歳代、女性50歳代、女性18～29歳は、「暴力だと思う」がそれぞれが95.5%、95.2%、94.3%と他の年代より高い。男性40歳代は、「暴力の場合とそうでない場合がある」が25.0%と他の年代より高くなっている。

17-10図 暴力だと思う行為について〔全体・性別・性年代別〕
(ケ 相手が傷つくようなことを言う)



コ 大声でどなる

「暴力だと思う」74.1%、「暴力の場合とそうでない場合がある」23.1%

【全体】

「暴力だと思う」が74.1%と最も高く、「暴力の場合とそうでない場合がある」が23.1%、「暴力だと思わない」は2.9%である。

【性別】

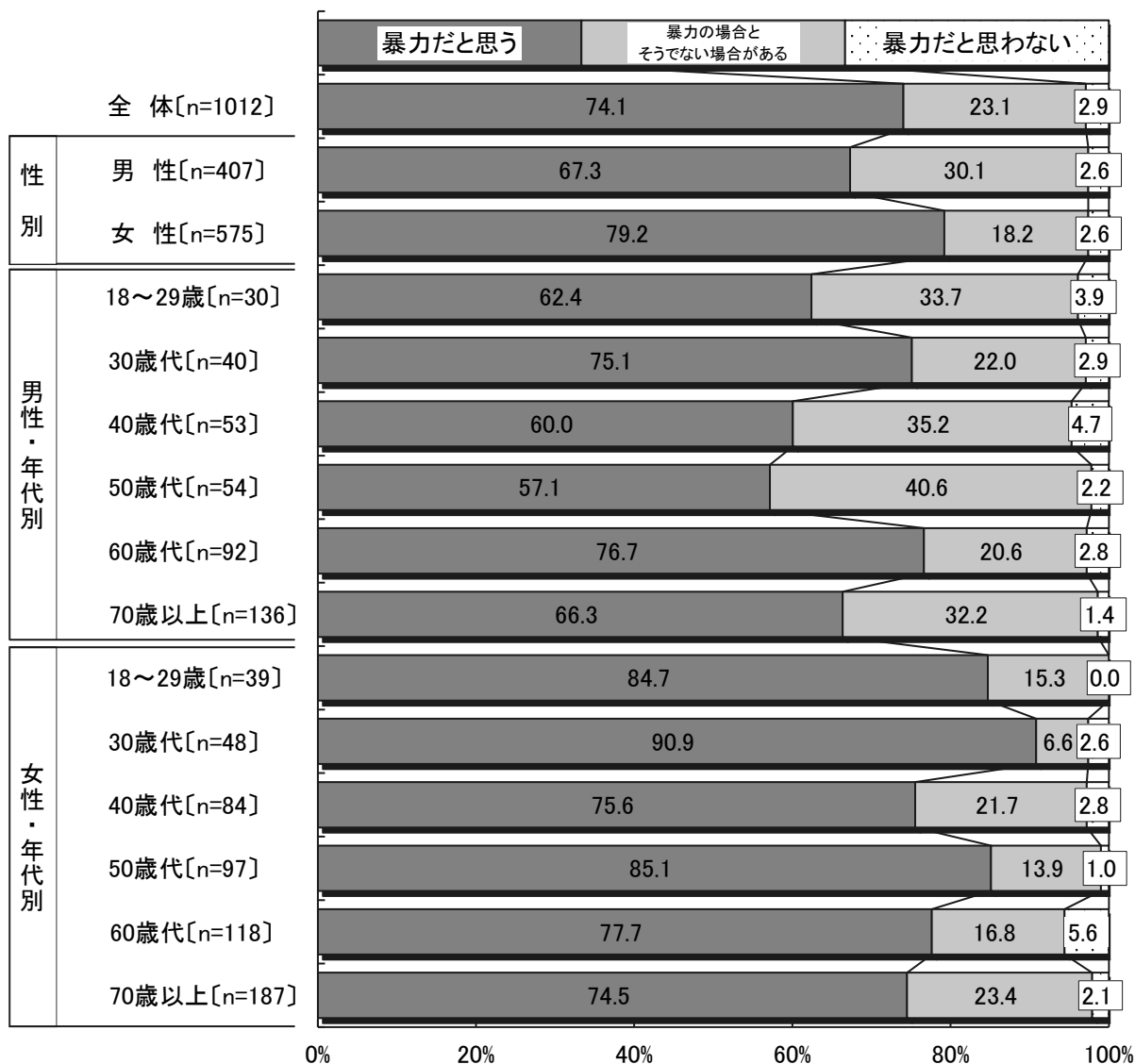
女性は、「暴力だと思う」が79.2%と男性の67.3%より11.9ポイント高く、男性は、「暴力の場合とそうでない場合がある」が30.1%と女性の18.2%より11.9ポイント高い。

【性年代別】

女性30歳代、女性50歳代、女性18～29歳は、「暴力だと思う」がそれぞれ90.9%、85.1%、84.7%と他の年代より高い。

男性50歳代、男性40歳代、男性18～29歳、男性70歳以上は、「暴力の場合とそうでない場合がある」がそれぞれ40.6%、35.2%、33.7%、32.2%と、他の年代より高くなっている。

17-11図 暴力だと思う行為について〔全体・性別・性年代別〕(コ 大声でどなる)



サ 生活費を渡さない

「暴力だと思う」が83.4%、「暴力の場合とそうでない場合がある」13.3%

【全体】

「暴力だと思う」が83.4%と最も高く、「暴力の場合とそうでない場合がある」が13.3%、「暴力だと思わない」は3.3%である。

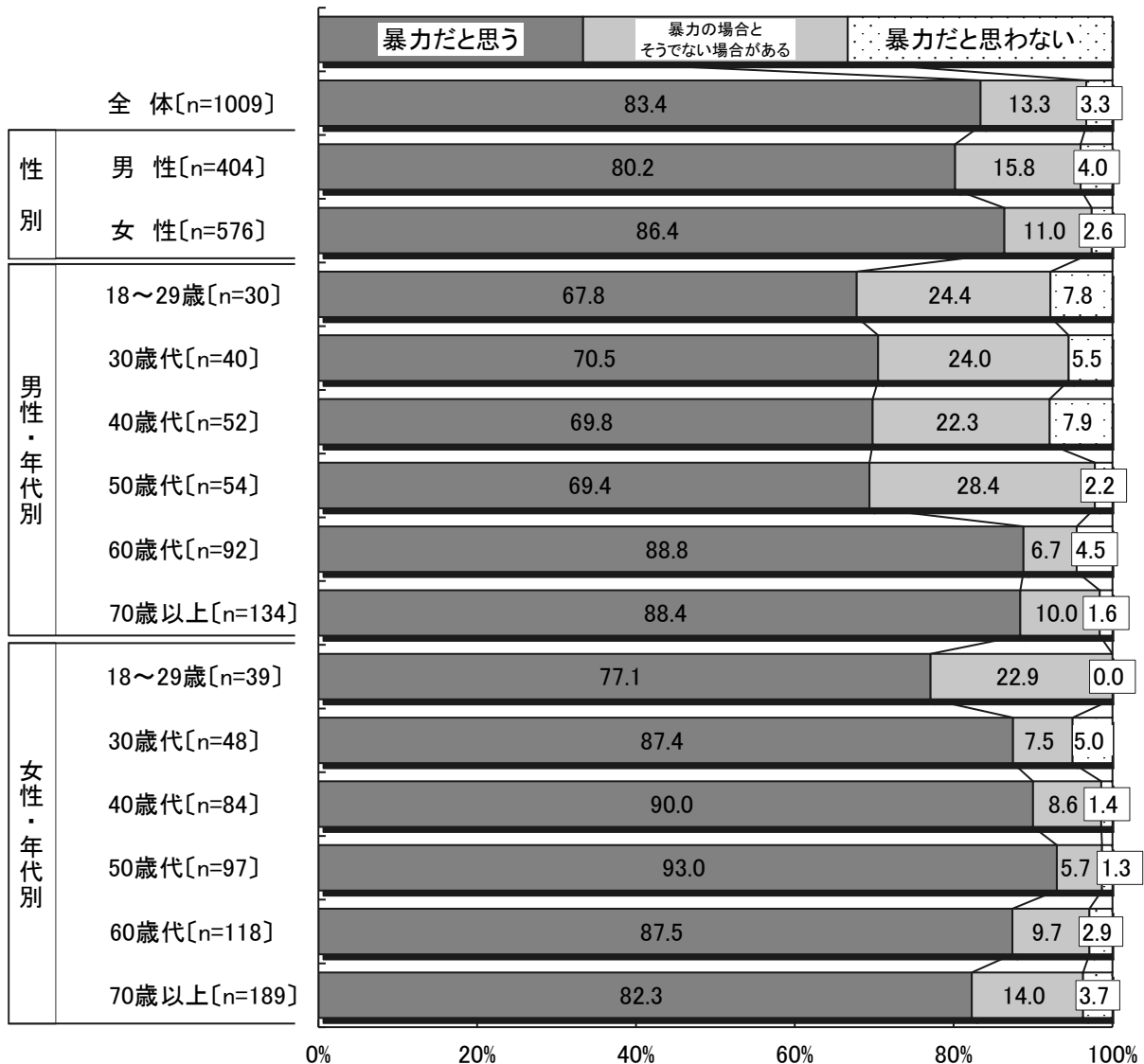
【性別】

女性は、「暴力だと思う」が86.4%と男性の80.2%より6.2ポイント高い。

【性年代別】

男性の60歳未満の各年代は、「暴力だと思う」が他の年代より低い。男性50歳代、男性18～29歳、男性30歳代、女性18～29歳、男性40歳代は、「暴力の場合とそうでない場合がある」がそれぞれ28.4%、24.4%、24.0%、22.9%、22.3%と他の年代より高くなっている。

17-12図 暴力だと思う行為について〔全体・性別・性年代別〕
(サ 生活費を渡さない)



(18-1) 配偶者や恋人の間で行われる暴力だと思ふ行為の経験について

問18-1 あなたは、配偶者や恋人との間で次のような行為を経験したことがありますか。
それぞれについて1～4のいずれかに○

「経験がある」47.6%、「経験はない」52.4% ⇒ 半数近くは経験がある

※配偶者や恋人の間で行われる暴力だと思ふ行為(次頁 ア 手でぶつ・殴る～サ 生活費を渡さない)の項目に「したことがある」「どちらもある」「されたことがある」のいずれか1つでも○がある場合、「経験がある」とする。

【全体】

「経験がある」が47.6%、「経験はない」が52.4%である。

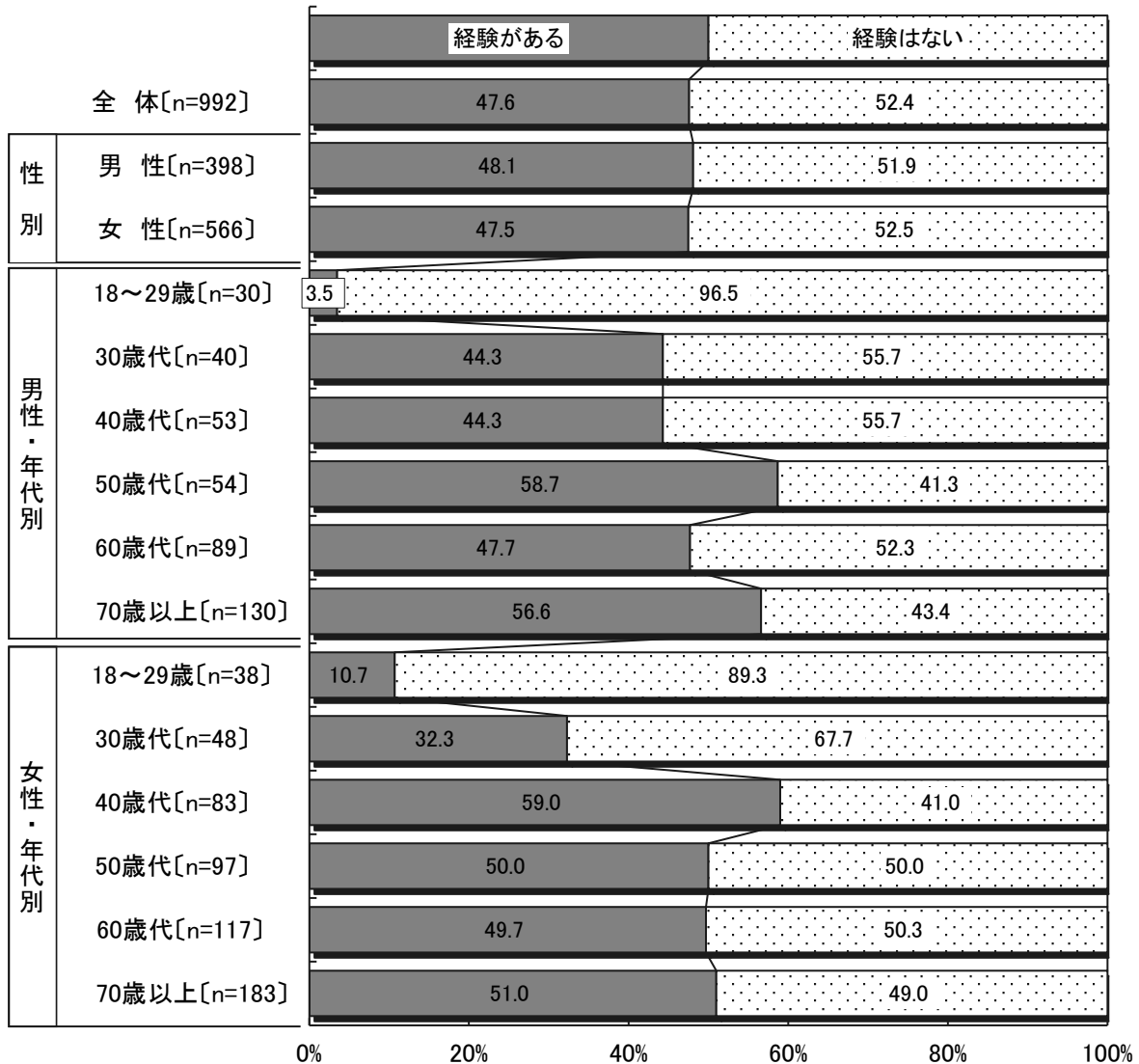
【性別】

特に大きな差異はない。

【性年代別】

女性40歳代、男性50歳代、男性70歳以上は、「経験がある」がそれぞれが59.0%、58.7%、56.6%と他の年代より高い。

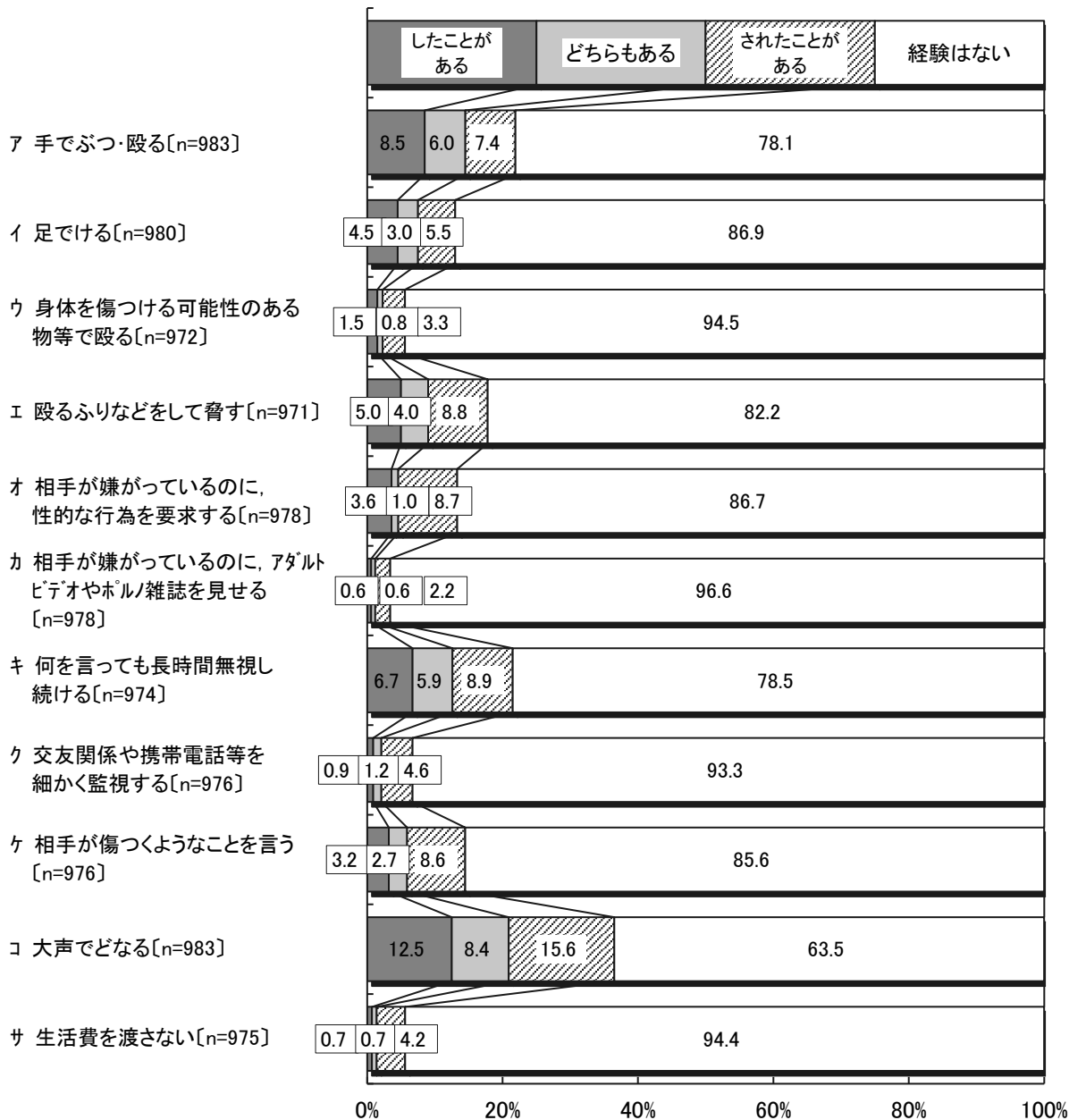
18(1)-1図 配偶者や恋人の間で行われる暴力だと思ふ行為の経験有無について
〔全体・性別・性年代別〕



【行為別】

各行為とも「経験はない」が最も多いが、「コ 大声でどなる」は、「したことがある (12.5%)」「されたことがある (15.6%)」「どちらもある (8.4%)」とも各行為の中で最も高い。

18(1)-2図 配偶者や恋人の間で行われる暴力だと思う行為の経験有無について〔行為別〕



【性別】

行為別に「経験がある」の実数では、「コ 大声でどなる」は男性156人、女性194人で男性、女性ともに「経験がある」の実数が最も多い。ついで、男性は「ア 手でぶつ・殴る」が101人、「キ 何を言っても長時間無視し続ける」が92人と続く。

女性では、「キ 何を言っても長時間無視し続ける」が112人、「ア 手でぶつ・殴る」が110人と続く。

また、男性は「ク 交友関係や電話・メール等を細かく監視する」を除き、「したことがある」が「されたことがある」より多く、女性は全ての行為で「されたことがある」が「したことがある」より多くなっている。

18(1)-1表 配偶者や恋人の間で行われる暴力だと思う行為の経験有無について(実数・%)〔男性〕

行為別	人数	したことがある	どちらもある	されたことがある	経験がある	経験がある(%)
ア 手でぶつ・殴る	396	54	32	15	101	25.5
イ 足でける	394	31	17	9	57	14.5
ウ 身体を傷つける可能性のある物等で殴る	392	8	6	5	19	4.8
エ 殴るふりをして脅す	392	38	25	5	68	17.3
オ 相手が嫌がっているのに、性的な行為を要求する	393	28	5	4	37	9.4
カ 相手が嫌がっているのに、アダルトビデオやポルノ雑誌を見せる	393	3	2	2	7	1.8
キ 何を言っても長時間無視し続ける	393	36	30	26	92	23.4
ク 交友関係や電話・メール等を細かく監視する	393	2	5	11	18	4.6
ケ 「誰のおかげで生活できているんだ」とか「かいしようなし」など、相手が傷つくようなことを言う	392	17	12	6	35	8.9
コ 大声でどなる	396	93	48	15	156	39.4
サ 生活費を渡さない	391	4	4	1	9	2.3

18(1)-2表 配偶者や恋人の間で行われる暴力だと思う行為の経験有無について(実数・%)〔女性〕

行為別	人数	したことがある	どちらもある	されたことがある	経験がある	経験がある(%)
ア 手でぶつ・殴る	562	27	26	57	110	19.6
イ 足でける	560	13	12	45	70	12.5
ウ 身体を傷つける可能性のある物等で殴る	555	7	1	24	32	5.8
エ 殴るふりをして脅す	554	9	12	78	99	17.9
オ 相手が嫌がっているのに、性的な行為を要求する	559	6	5	78	89	15.9
カ 相手が嫌がっているのに、アダルトビデオやポルノ雑誌を見せる	559	3	4	17	24	4.3
キ 何を言っても長時間無視し続ける	555	27	26	59	112	20.2
ク 交友関係や電話・メール等を細かく監視する	558	7	6	32	45	8.1
ケ 「誰のおかげで生活できているんだ」とか「かいしようなし」など、相手が傷つくようなことを言う	558	14	13	73	100	17.9
コ 大声でどなる	559	26	34	134	194	34.7
サ 生活費を渡さない	557	3	2	38	43	7.7

(18-2) 配偶者や恋人間の暴力に関する相談状況について〔複数回答〕

問18-2 あなたは、そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。○はいくつでも

「どこ(だれ)にも相談しなかった」	66.9%
「友人・知人に相談した」	21.1%
「親族に相談した」	18.0%

【全体】

「どこ(だれ)にも相談しなかった」が66.9%と最も高く、「友人・知人に相談した」が21.1%、「親族に相談した」が18.0%と続く。「公的機関に相談した」は、1.7%と少ない。

【性別】

男性は、「どこ(だれ)にも相談しなかった」が79.1%と、女性の57.4%より21.7ポイント高い。女性は、「友人・知人に相談した」が28.7%と、男性の11.1%より17.6ポイント、「親族に相談した」が24.6%と男性の9.9%より14.7ポイント、それぞれ高くなっている。

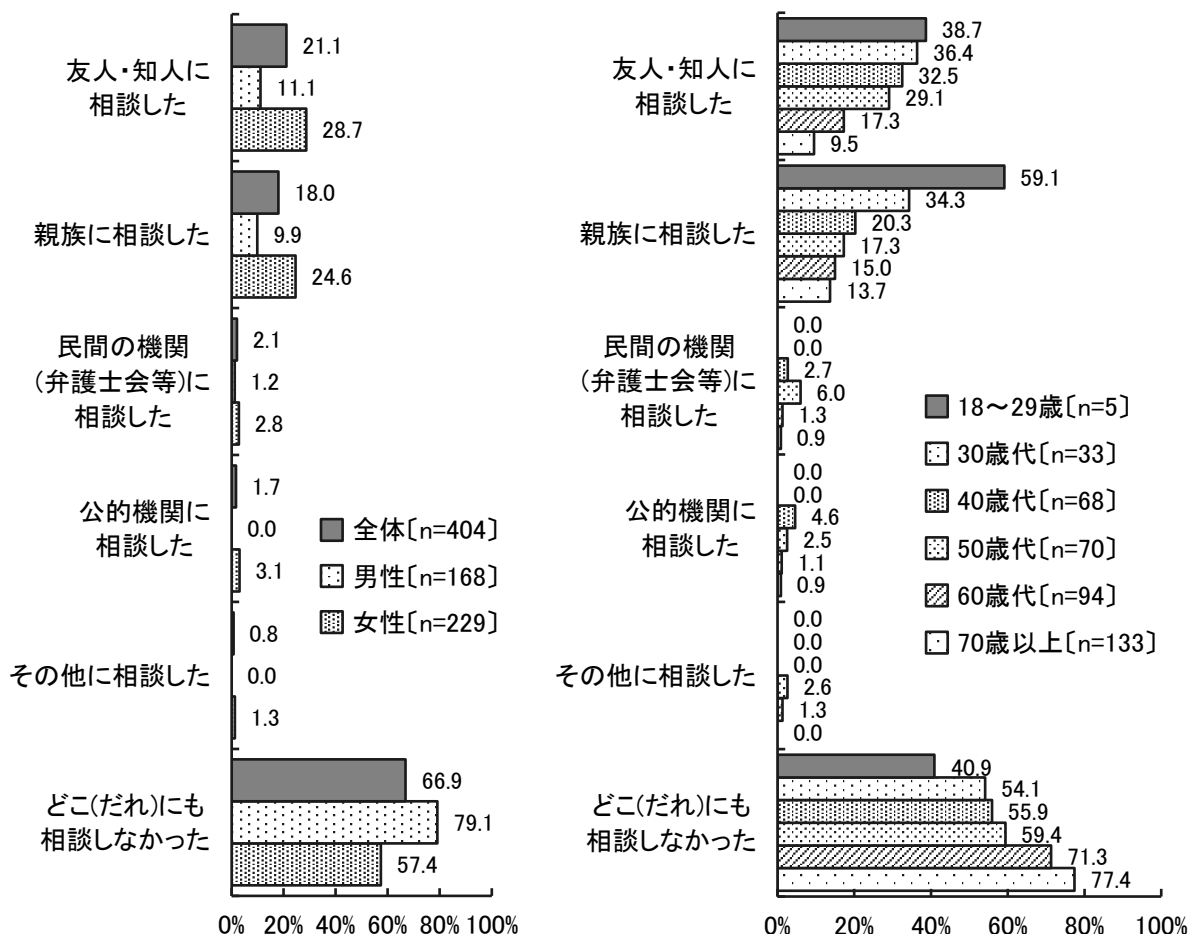
【年代別】

70歳以上は、「どこ(だれ)にも相談しなかった」が77.4%と他の年代より高く、年代が上がるほど高い。若年層ほど「友人・知人に相談した」、「親族に相談した」が高くなっている。

※18~29歳は、標本数が少ないので参考掲載、分析対象からは除外。

問18-1で「したことがある」、「どちらもある」、「されたことがある」と回答した方のみ

18(2)-1図 配偶者や恋人間の暴力に関する相談状況について〔全体・性別・年代別〕



(19-1) 職場・学校・地域でのセクシュアル・ハラスメントの経験について

問19-1 あなたは、これまでに、職場・学校・地域で、次のような経験をしたことがありますか。○はそれぞれ該当するものすべて

「経験がある」39.7%、「経験はない」60.3% ⇒ 全体の約4割は経験がある

※配偶者や恋人との間で行われる行為(次頁 ア 嫌がっているのに卑猥な話を聞かされた～シ その他)の項目に「職場」「学校」「地域」のいずれか1つでも○がある場合、「経験がある」とする。

【全体】

「経験がある」が39.7%、「経験はない」が60.3%である。

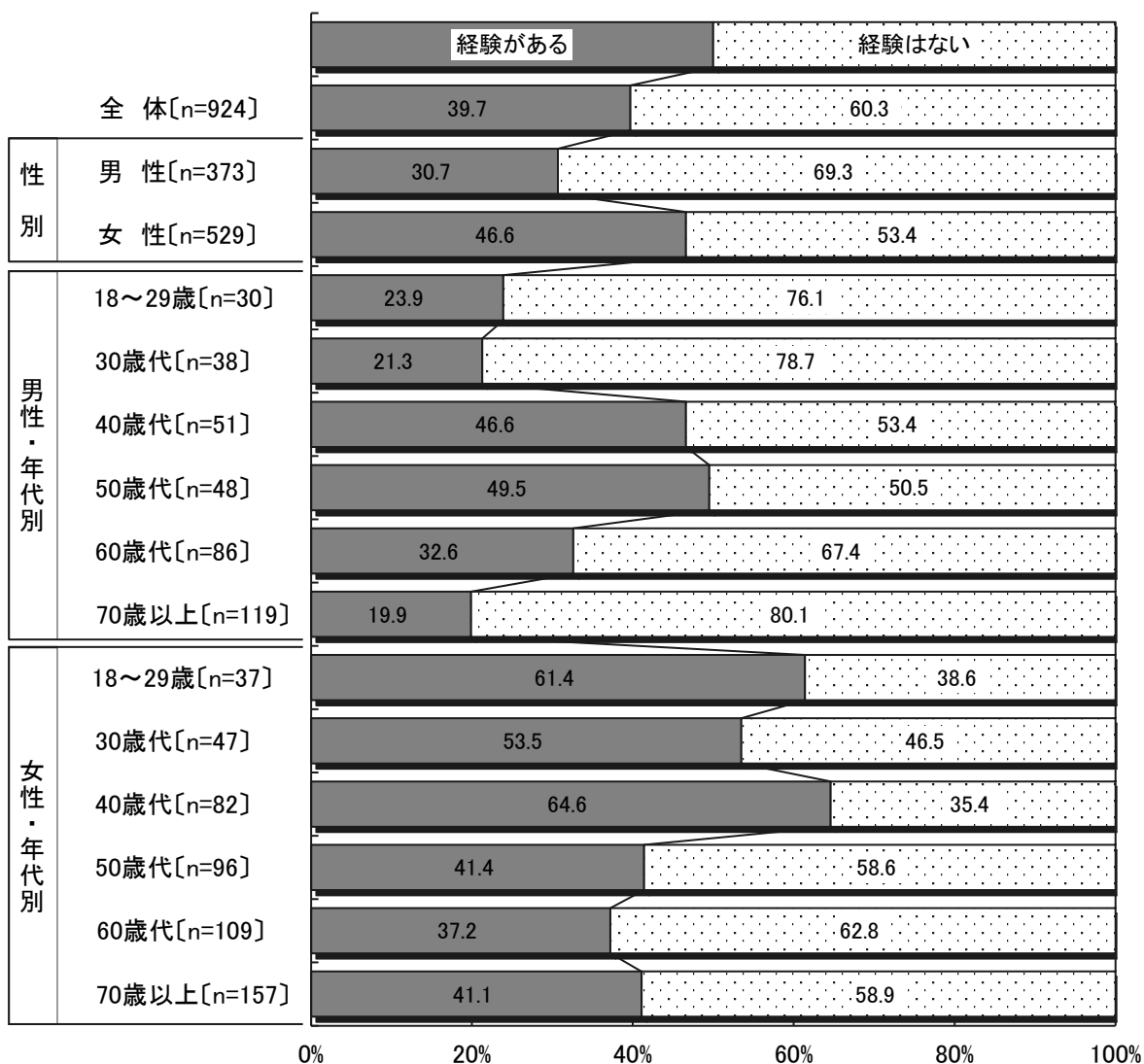
【性別】

女性は「経験がある」が46.6%と、男性の30.7%より15.9ポイント高い。

【性年代別】

女性40歳代、女性18～29歳、女性30歳代は、「経験がある」がそれぞれ64.6%、61.4%、53.5%と他の年代より高い。また、男性50歳代と男性40歳代は、「経験がある」がそれぞれ49.5%、46.6%と他の男性の年代より高くなっている。

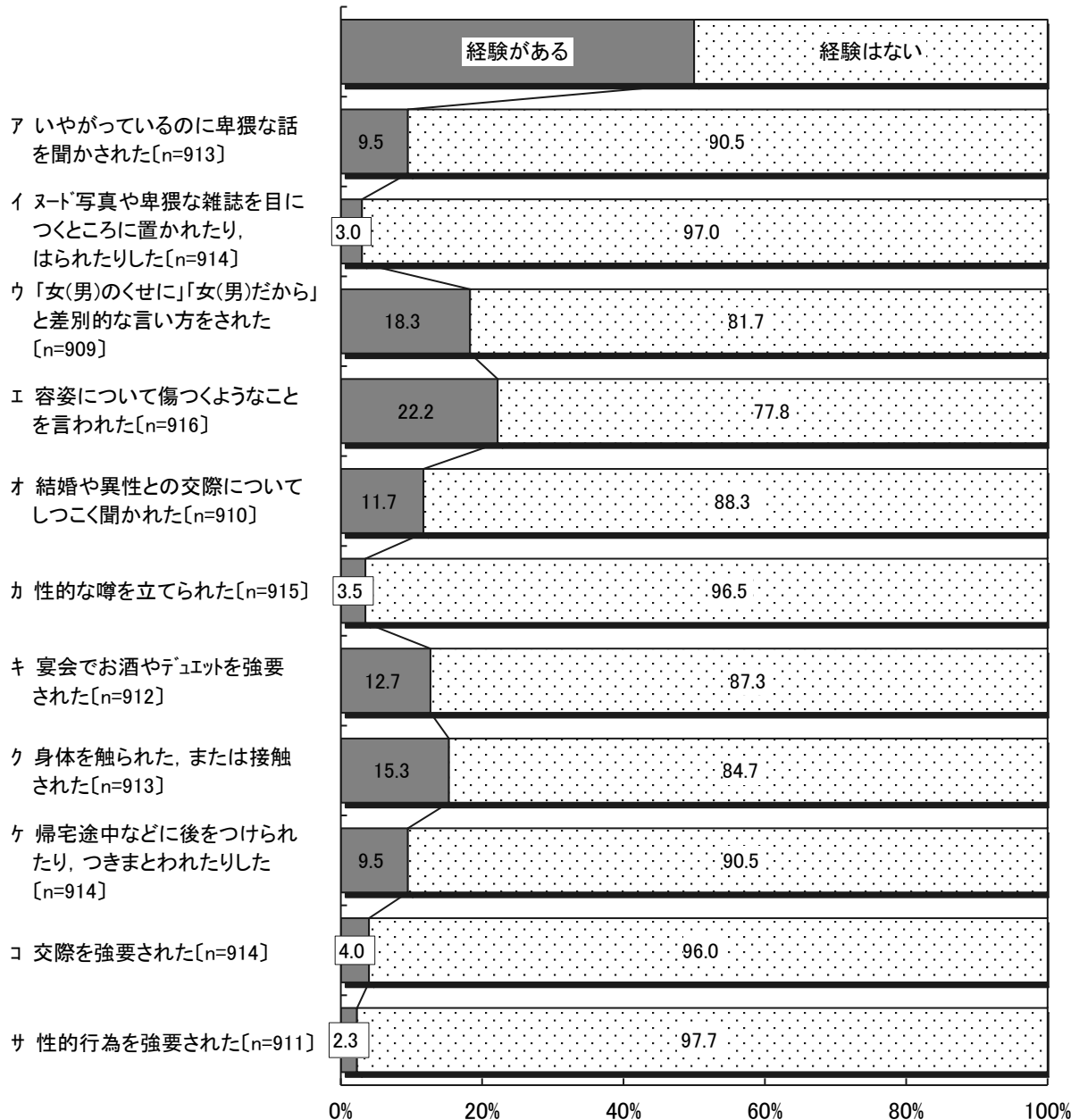
19(1)-1図 職場・学校・地域でのセクシュアル・ハラスメントの経験有無について
〔全体・性別・性年代別〕



【行為別】

各行為とも「経験はない」が「経験がある」より高いが、「経験がある」が高い項目としては、「エ 容姿について傷つくようなことを言われた」が22.2%、「ウ「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた」が18.3%、「ク 身体を触られた、または接触された」が15.3%となっている。

19(1)-2図 職場・学校・地域でのセクシュアル・ハラスメントの経験有無について〔行為別〕



【性別】

男性、女性とも「経験がある」の実数では、「エ 容姿について傷つくようなことを言われた」が男性70人、女性132人と最も多く、ついで男性は「ウ「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた」が53人と続く。女性は「ク 身体を触られた、または接触された」が119人と多い。

19(1)-1表 職場・学校・地域でのセクシュアル・ハラスメントの経験有無について(実数・%)〔男性〕

行為別	人数	受けた場所			経験の有無		経験の有無(%)	
		職場	学校	地域	ある	ない	ある	ない
ア いやがっているのに卑猥な話を聞かされた	370	23	6	6	30	340	8.1	91.9
イ ニード写真や卑猥な雑誌を目につくところに置かれたり、はられたりした	371	8	4	1	13	358	3.5	96.5
ウ 「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた	368	38	18	9	53	315	14.4	85.6
エ 容姿について傷つくようなことを言われた	371	39	44	4	70	301	18.9	81.1
オ 結婚や異性との交際についてしつこく聞かれた	366	30	3	7	37	329	10.1	89.9
カ 性的な噂を立てられた	372	8	3	1	12	360	3.2	96.8
キ 宴会でお酒やデュエットを強要された	367	29	1	5	36	331	9.8	90.2
ク 身体を触られた、または接触された	369	15	4	4	19	350	5.1	94.9
ケ 帰宅途中などに後をつけられたり、つきまとわれたりした	369	6	0	5	11	358	3.0	97.0
コ 交際を強要された	369	3	4	3	10	359	2.7	97.3
サ 性的行為を強要された	369	2	0	2	4	365	1.1	98.9

19(1)-2表 職場・学校・地域でのセクシュアル・ハラスメントの経験有無について(実数・%)〔女性〕

行為別	人数	受けた場所			経験の有無		経験の有無(%)	
		職場	学校	地域	ある	ない	ある	ない
ア いやがっているのに卑猥な話を聞かされた	522	40	14	10	55	467	10.5	89.5
イ ニード写真や卑猥な雑誌を目につくところに置かれたり、はられたりした	521	5	6	3	14	507	2.7	97.3
ウ 「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた	520	63	38	41	109	411	21.0	79.0
エ 容姿について傷つくようなことを言われた	523	50	93	28	132	391	25.2	74.8
オ 結婚や異性との交際についてしつこく聞かれた	522	47	15	18	68	454	13.0	87.0
カ 性的な噂を立てられた	523	12	9	4	21	502	4.0	96.0
キ 宴会でお酒やデュエットを強要された	523	71	1	9	78	445	14.9	85.1
ク 身体を触られた、または接触された	523	82	12	38	119	404	22.8	77.2
ケ 帰宅途中などに後をつけられたり、つきまとわれたりした	523	19	9	53	75	448	14.3	85.7
コ 交際を強要された	523	14	4	12	27	496	5.2	94.8
サ 性的行為を強要された	520	12	0	4	16	504	3.1	96.9

(19-2) 職場・学校・地域でセクシュアル・ハラスメントされた場合の相談状況について
〔複数回答〕

問19-2 あなたは、そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。
○はいくつでも

「どこ(だれ)にも相談していない」	56.0%
「友人・知人に相談した」	27.3%
「親族に相談した」	17.9%

【全体】

「どこ(だれ)にも相談していない」が56.0%と最も高く、「友人・知人に相談した」が27.3%、「親族に相談した」が17.9%と続く。

「公的機関に相談した」は、2.0%と少ない。

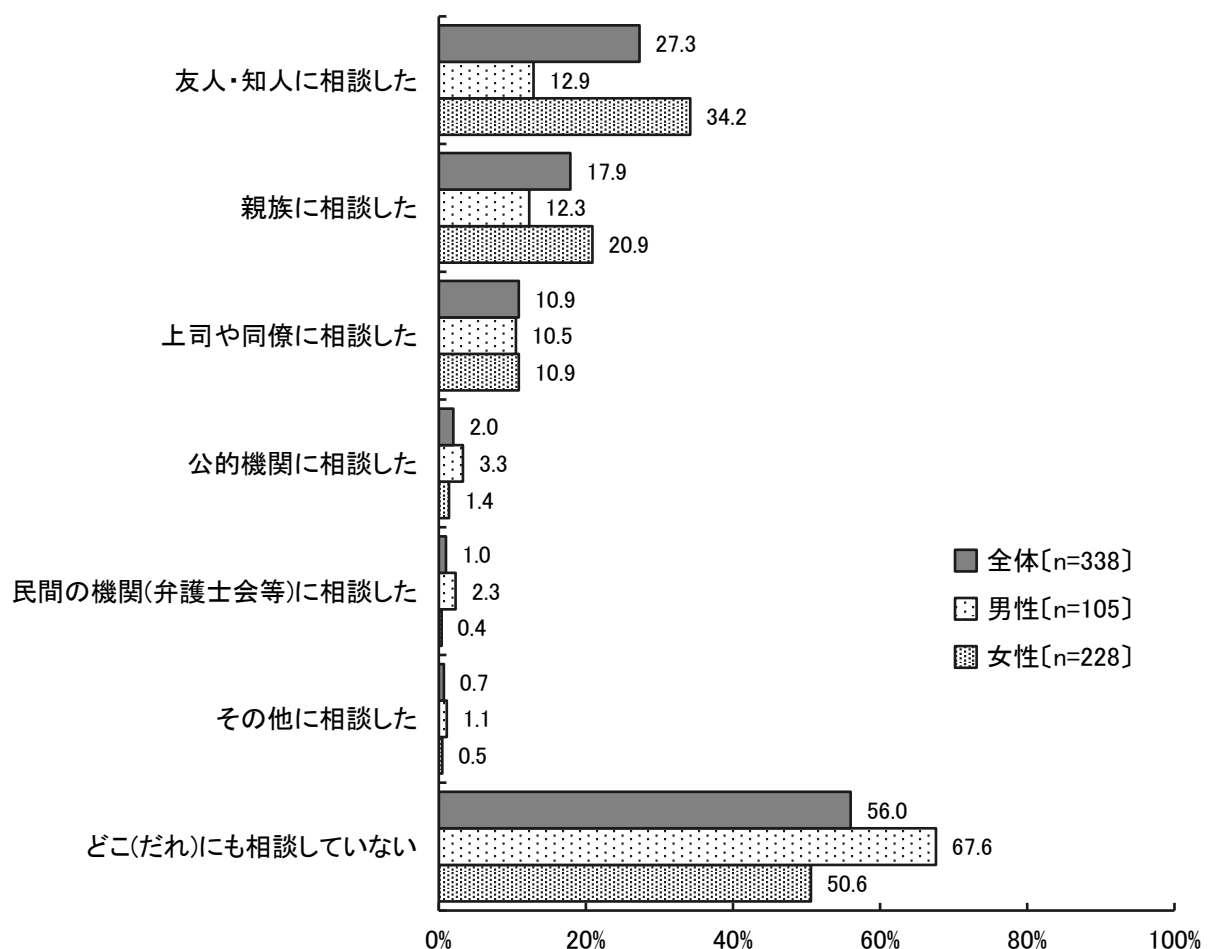
【性別】

男性は、「どこ(だれ)にも相談していない」が67.6%と女性の50.6%より17.0ポイント高い。

女性は、「友人・知人に相談した」が34.2%と男性の12.9%より21.3ポイント、「親族に相談した」が20.9%と男性の12.3%より8.6ポイント、それぞれ高くなっている。

問19-1で「職場」、「学校」、「地域」と回答した方のみ

19(2)-1図 職場・学校・地域でセクシュアル・ハラスメントをされた場合の相談状況について〔全体・性別〕



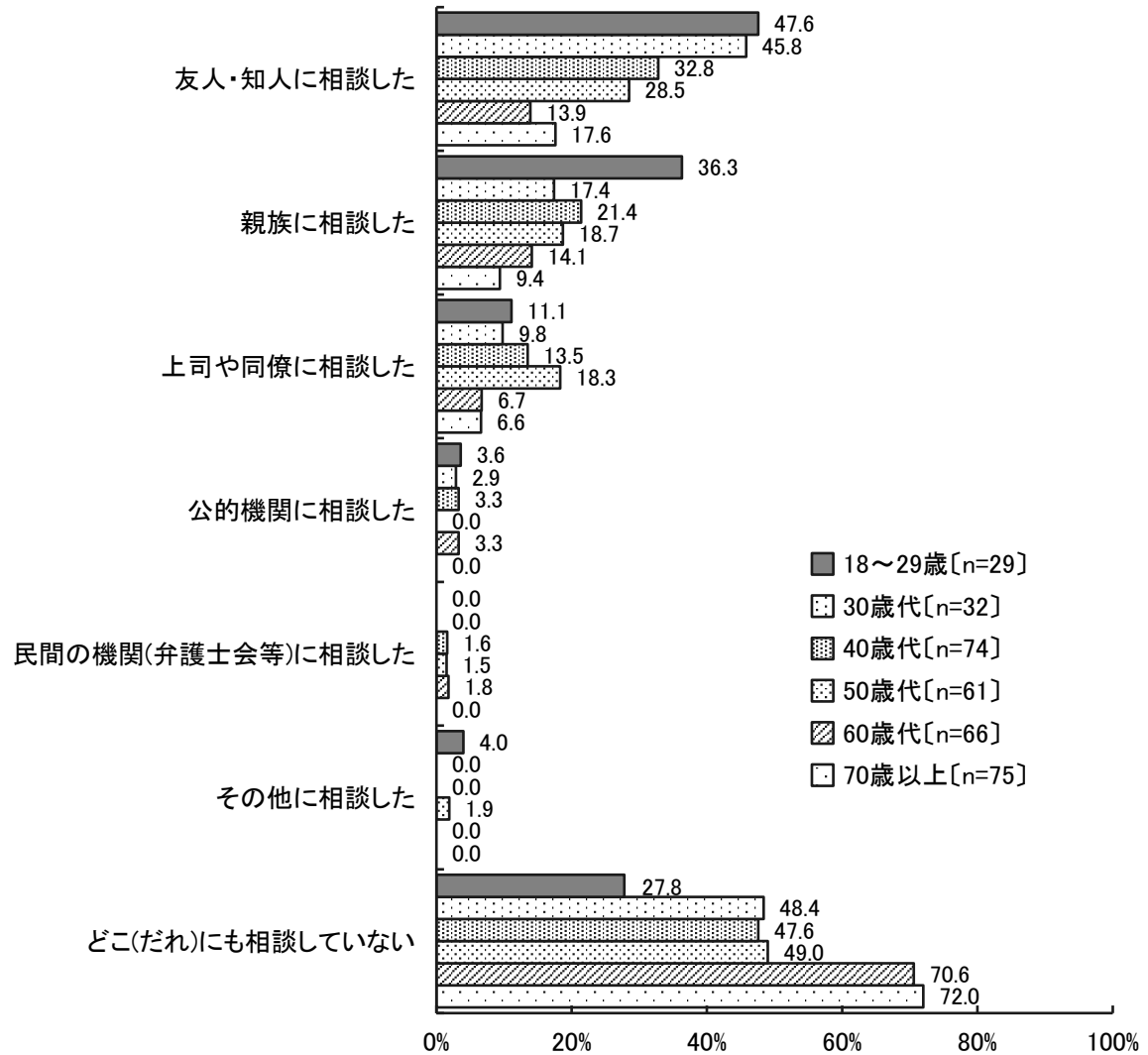
【年代別】

70歳以上と60歳代は、「どこ(だれ)にも相談しなかった」がそれぞれ72.0%、70.6%と他の年代より高く、年代が上がるほど高くなっている。

若年層ほど、「友人・知人に相談した」、「親族に相談した」は高くなっている。

問19-1で「職場」、「学校」、「地域」と回答した方のみ

19(2)-2図 職場・学校・地域でセクシュアル・ハラスメントをされた場合の相談状況について〔年代別〕



7. 男女共同参画の取り組みについて

(20) 男女共同参画に関連する言葉や法律の認知度について

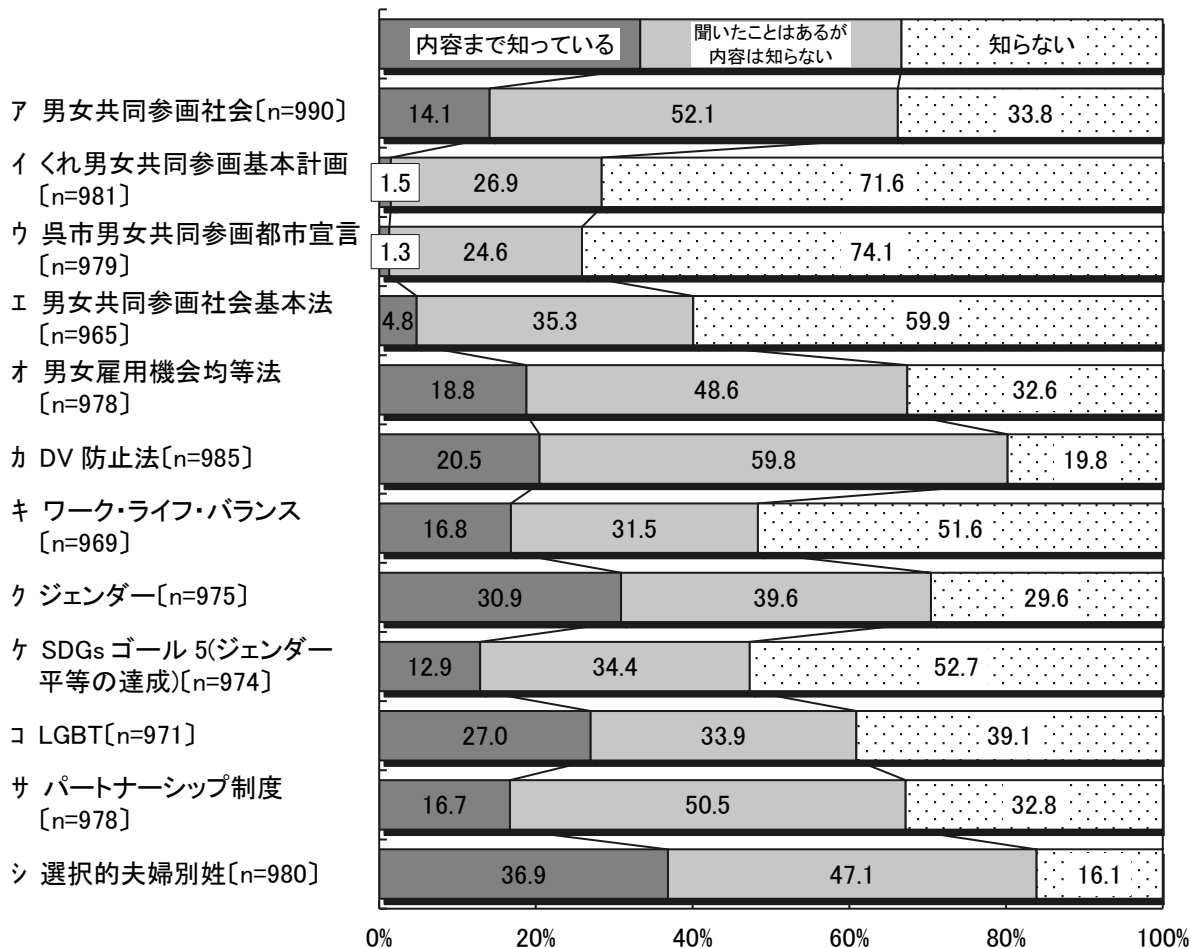
問20 あなたは、次の言葉や法律を知っていますか。それぞれについて1～3のいずれかに○

『知っている』（認知度が高い）順※

シ「選択的夫婦別姓」	84.0%
カ「配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）」	80.3%
ク「ジェンダー」	70.5%
オ「雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律（男女雇用機会均等法）」	67.4%
サ「パートナーシップ制度」	67.2%
ア「男女共同参画社会」	66.2%
コ「LGBT」	60.9%
キ「ワーク・ライフ・バランス」	48.3%
ケ「SDGsゴール5（ジェンダー平等の達成）」	47.3%
エ「男女共同参画社会基本法」	40.1%
イ「くれ男女共同参画基本計画」	28.4%
ウ「呉市男女共同参画都市宣言」	25.9%

※「内容まで知っている」と「聞いたことはあるが内容は知らない」を合わせて『知っている』とする。

20-1図 男女共同参画に関連する言葉や法律の認知度について〔全体〕



ア 男女共同参画社会

『知っている』66.2%, 「知らない」33.8% ⇒ 『知っている』が32.4ポイント高い

【全体】

「聞いたことがあるが内容は知らない」が52.1%と最も高い。「内容まで知っている」の14.1%を合わせた、『知っている』は66.2%であり、「知らない」33.8%より32.4ポイント高い。

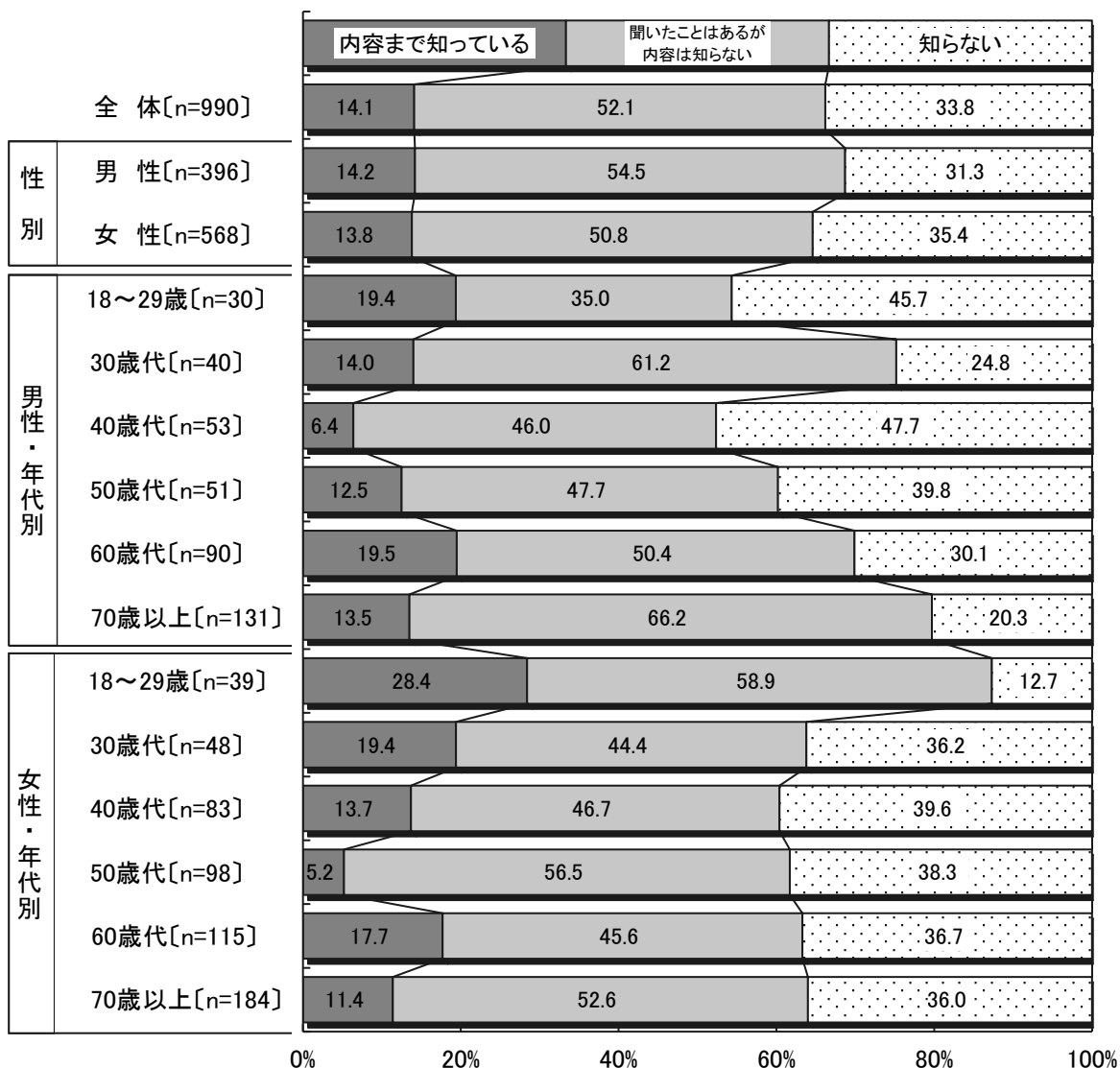
【性別】

特に大きな差異はない。

【性年代別】

女性18～29歳, 男性70歳以上, 男性30歳以上は, 『知っている』がそれぞれ87.3%, 79.7%, 75.2%と他の年代より高い。女性18～29歳は, 「内容まで知っている」が28.4%と高く, 男性70歳以上は, 「聞いたことがあるが内容は知らない」が66.2%と高い。男性40歳代と男性18～29歳は, 「知らない」がそれぞれ47.7%, 45.7%と他の年代より高くなっている。

20-2図 男女共同参画に関連する言葉や法律の認知度について〔全体・性別・年代別〕
(ア 男女共同参画社会)



イ くれ男女共同参画基本計画

『知っている』28.4%, 「知らない」71.6% ⇒ 『知らない』が43.2ポイント高い

【全体】

「知らない」が71.6%と最も高い。「聞いたことがあるが内容は知らない」は26.9%であり、「内容まで知っている」の1.5%を合わせた、『知っている』は28.4%となっている。

「知らない」は、『知っている』より43.2ポイント高い。

【性別】

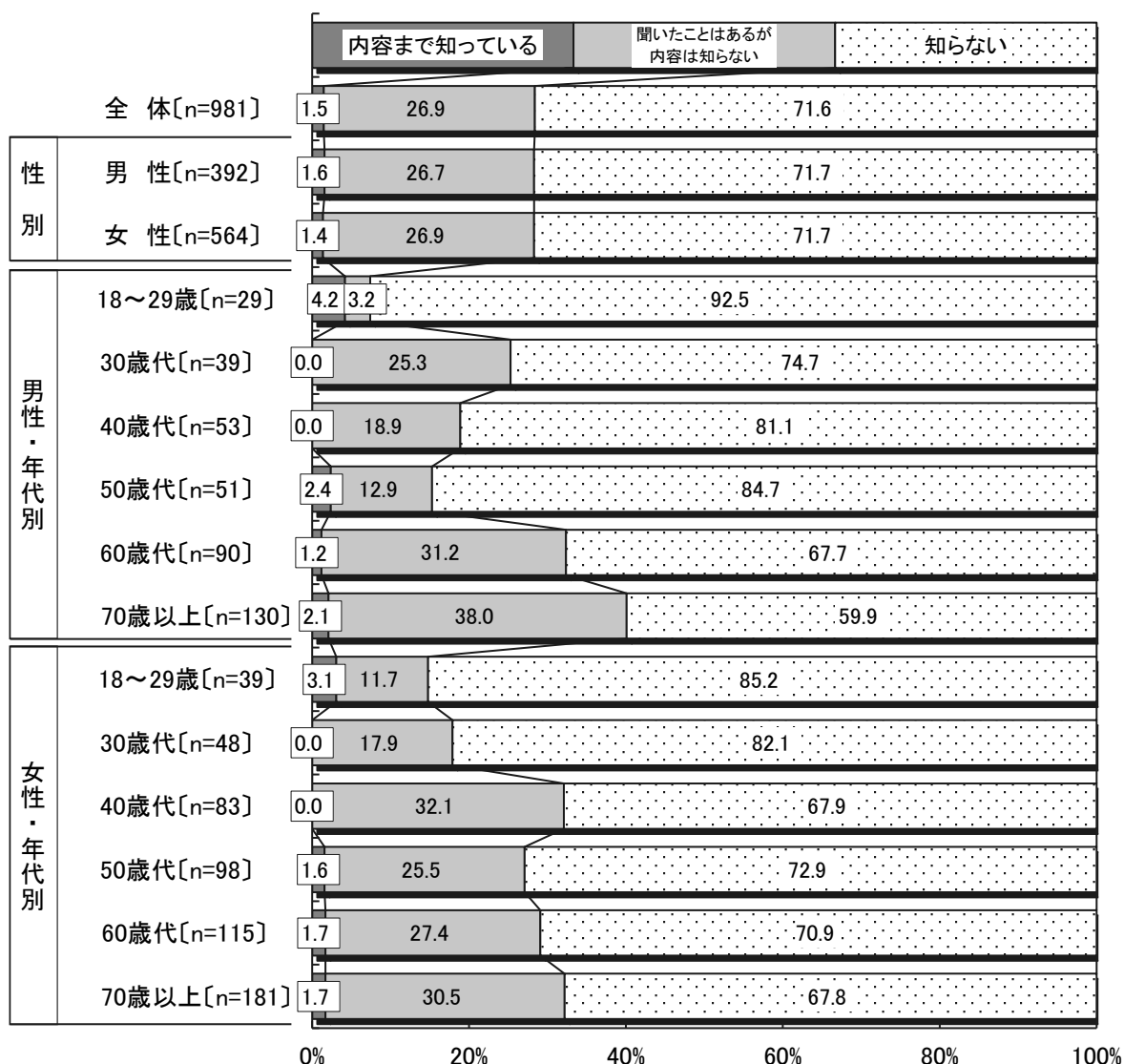
特に大きな差異はない。

【性年代別】

男性70歳以上は、『知っている』が40.1%と他の年代より高い。

男性18～29歳, 男性40歳代, 男性50歳代, 女性18～29歳, 女性30歳代は, 「知らない」がそれぞれ8割を上回り, 他の年代より高くなっている。

20-3図 男女共同参画に関連する言葉や法律の認知度について〔全体・性別・性年代別〕
(イ くれ男女共同参画基本計画)



ウ 呉市男女共同参画都市宣言

『知っている』25.9%, 「知らない」74.1% ⇒ 『知らない』が48.2ポイント高い

【全体】

「知らない」が74.1%と最も高い。「聞いたことがあるが内容は知らない」は24.6%であり、「内容まで知っている」の1.3%を合わせた、『知っている』は25.9%となっている。

「知らない」は、『知っている』より48.2ポイント高い。

【性別】

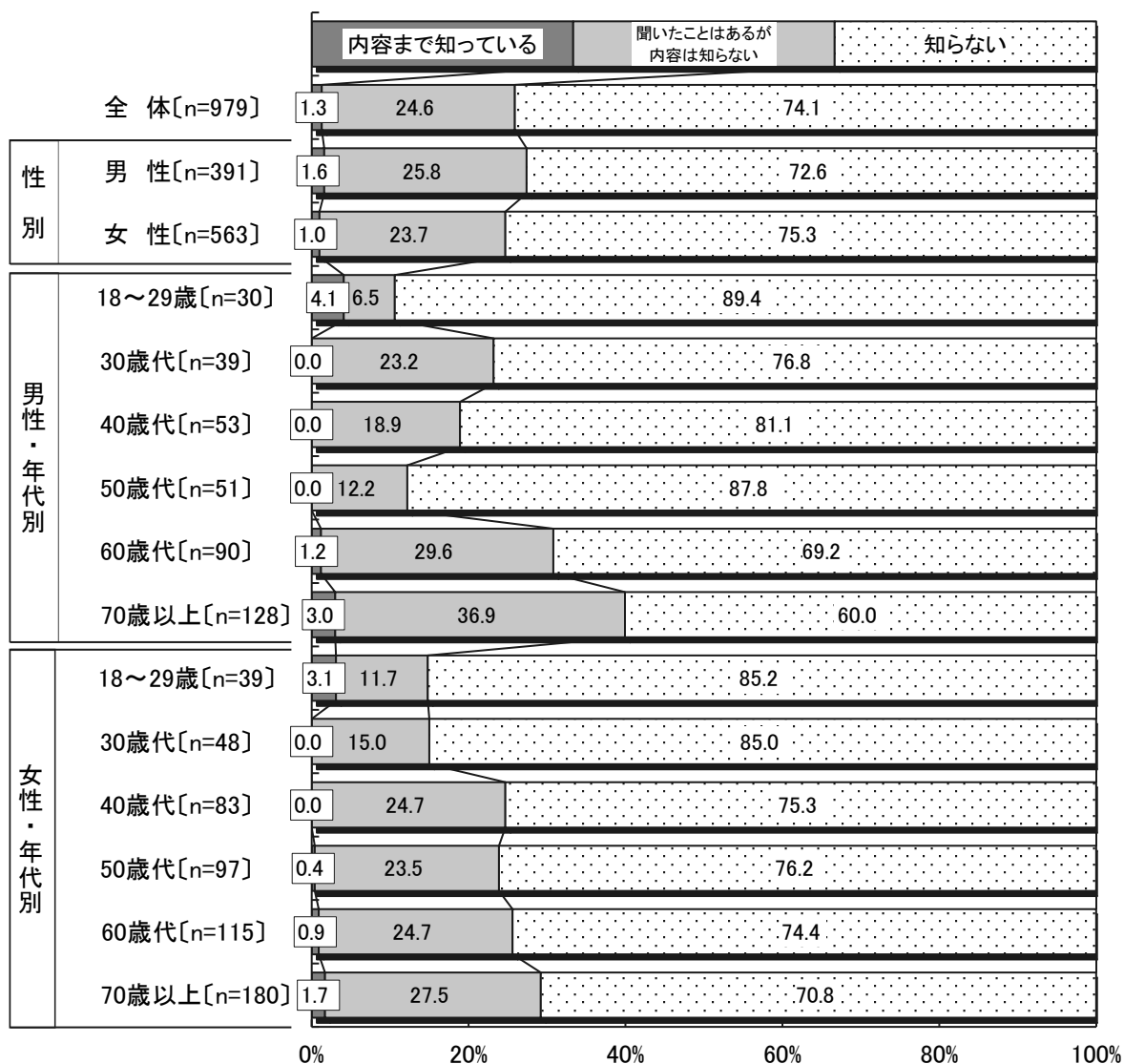
特に大きな差異はない。

【性年代別】

男性70歳以上は、『知っている』が39.9%と他の年代より高い。

男性18～29歳, 男性40歳代, 男性50歳代, 女性18～29歳, 女性30歳代は, 「知らない」がそれぞれ8割を上回り, 他の年代より高くなっている。

20-4図 男女共同参画に関連する言葉や法律の認知度について〔全体・性別・性年代別〕
(ウ 呉市男女共同参画都市宣言)



エ 男女共同参画社会基本法

『知っている』 40.1%, 「知らない」 59.9% ⇒ 「知らない」 が19.8ポイント高い

【全体】

「知らない」が59.9%と最も高い。「聞いたことがあるが内容は知らない」は35.3%であり、「内容まで知っている」の4.8%を合わせた、『知っている』は40.1%となっている。

「知らない」は、『知っている』より19.8ポイント高い。

【性別】

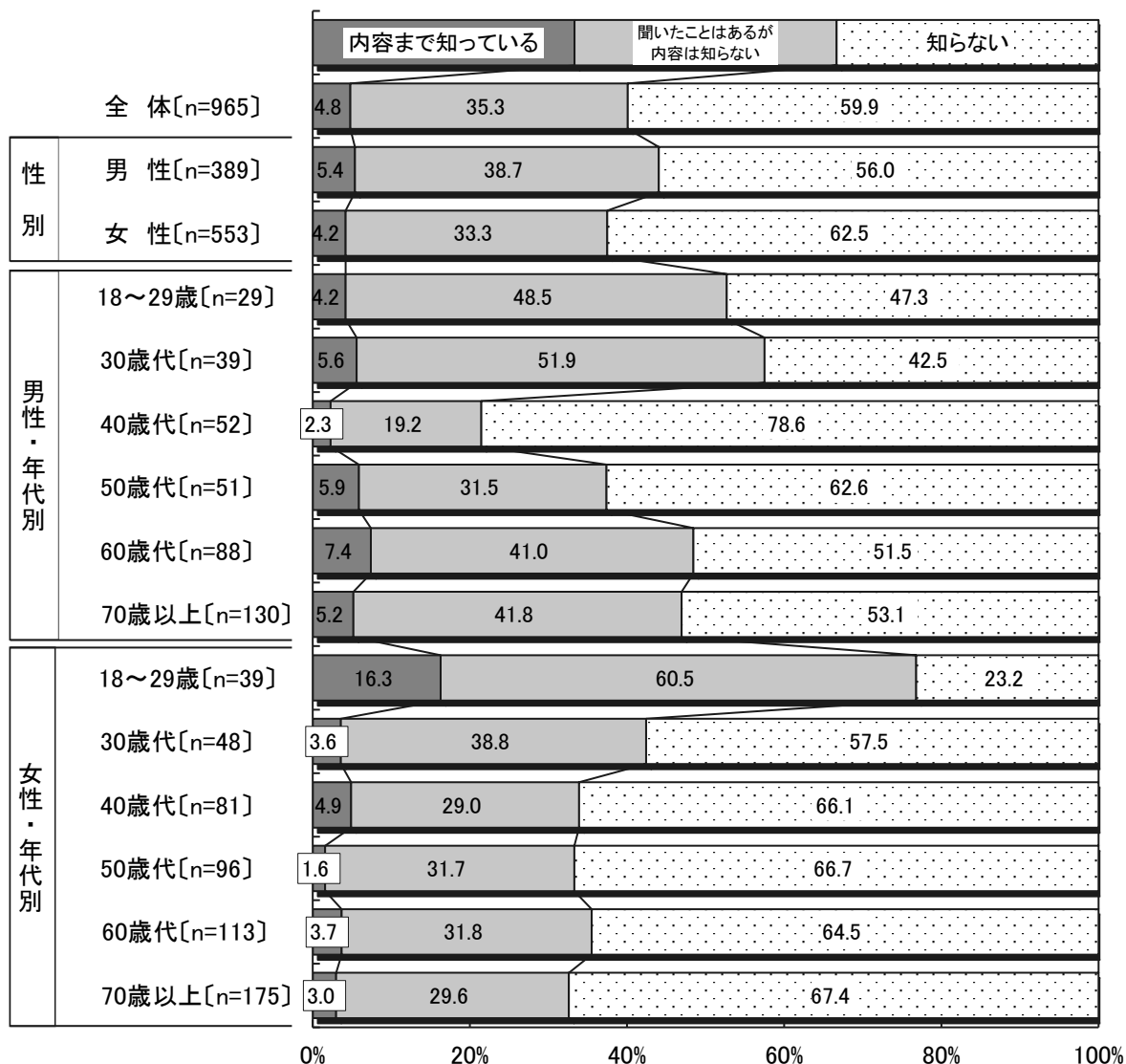
男性は、「聞いたことはあるが内容は知らない」が38.7%と、女性の33.3%より5.4ポイント高い。

【性年代別】

女性18～29歳は、「内容まで知っている」が16.3%と他の年代より高い。女性18～29歳、男性30歳代、男性18～29歳は、「聞いたことがあるが内容は知らない」がそれぞれ60.5%、51.9%、48.5%と、他の年代より高い。

男性40歳代は、「知らない」が78.6%と他の年代より高くなっている。

20-5図 男女共同参画に関連する言葉や法律の認知度について〔全体・性別・性年代別〕
(I 男女共同参画社会基本法)



オ 雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律（男女雇用機会均等法）

『知っている』67.4%, 「知らない」32.6% ⇒ 『知っている』が34.8ポイント高い

【全体】

「聞いたことがあるが内容は知らない」が48.6%と最も高い。「内容まで知っている」の18.8%を合わせた『知っている』は67.4%であり、「知らない」32.6%より34.8ポイント高い。

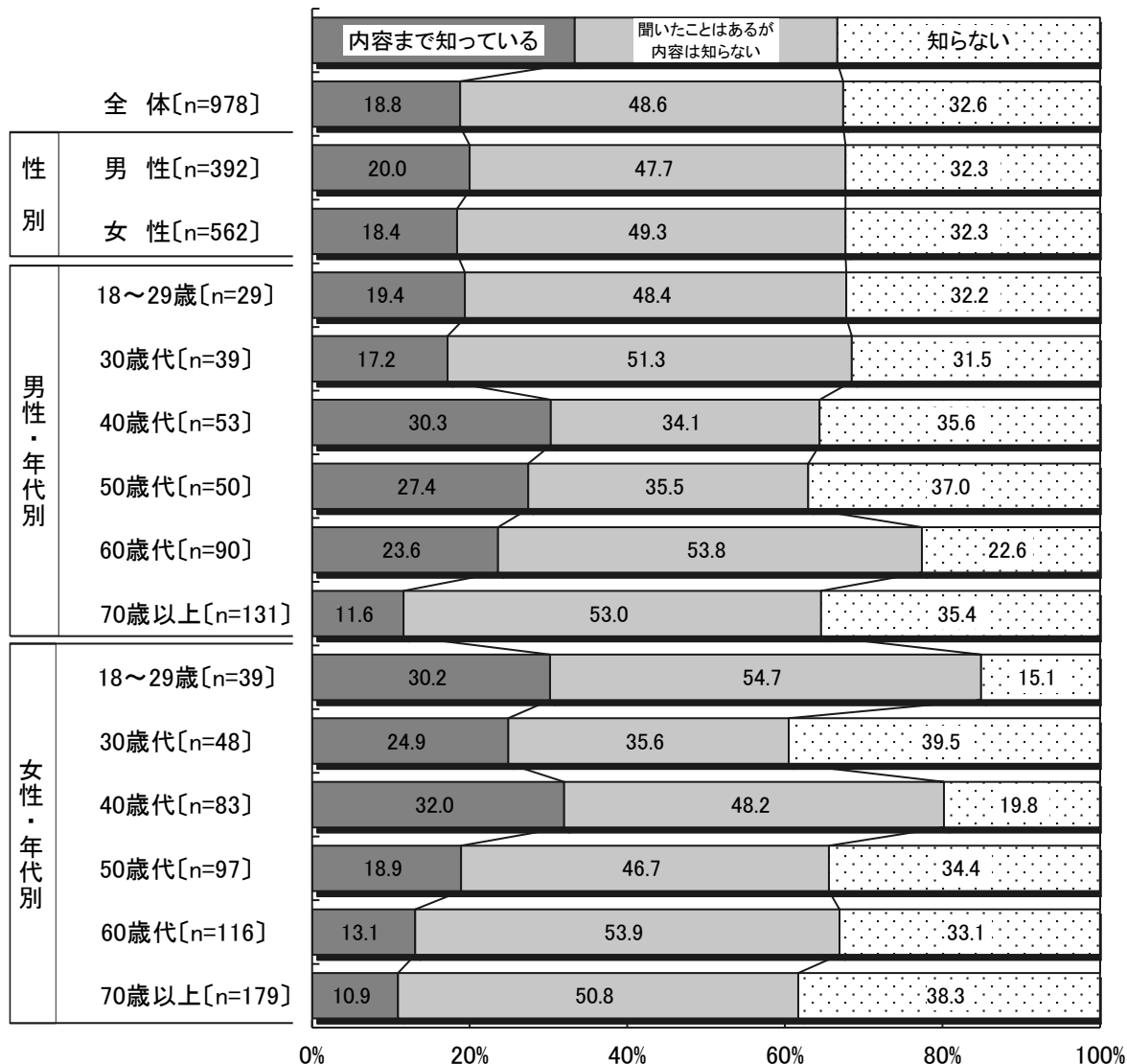
【性別】

特に大きな差異はない。

【性年代別】

女性18～29歳、女性40歳代、男性60歳代は、『知っている』がそれぞれ84.9%、80.2%、77.4%と他の年代より高い。

20-6図 男女共同参画に関連する言葉や法律の認知度について〔全体・性別・性年代別〕
（オ 男女雇用機会均等法）



カ 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法)

『知っている』80.3%, 「知らない」19.8% ⇒ 『知っている』が60.5ポイント高い

【全体】

「聞いたことがあるが内容は知らない」が59.8%と最も高い。「内容まで知っている」の20.5%を合わせた『知っている』は80.3%であり、「知らない」19.8%より60.5ポイント高い。

【性別】

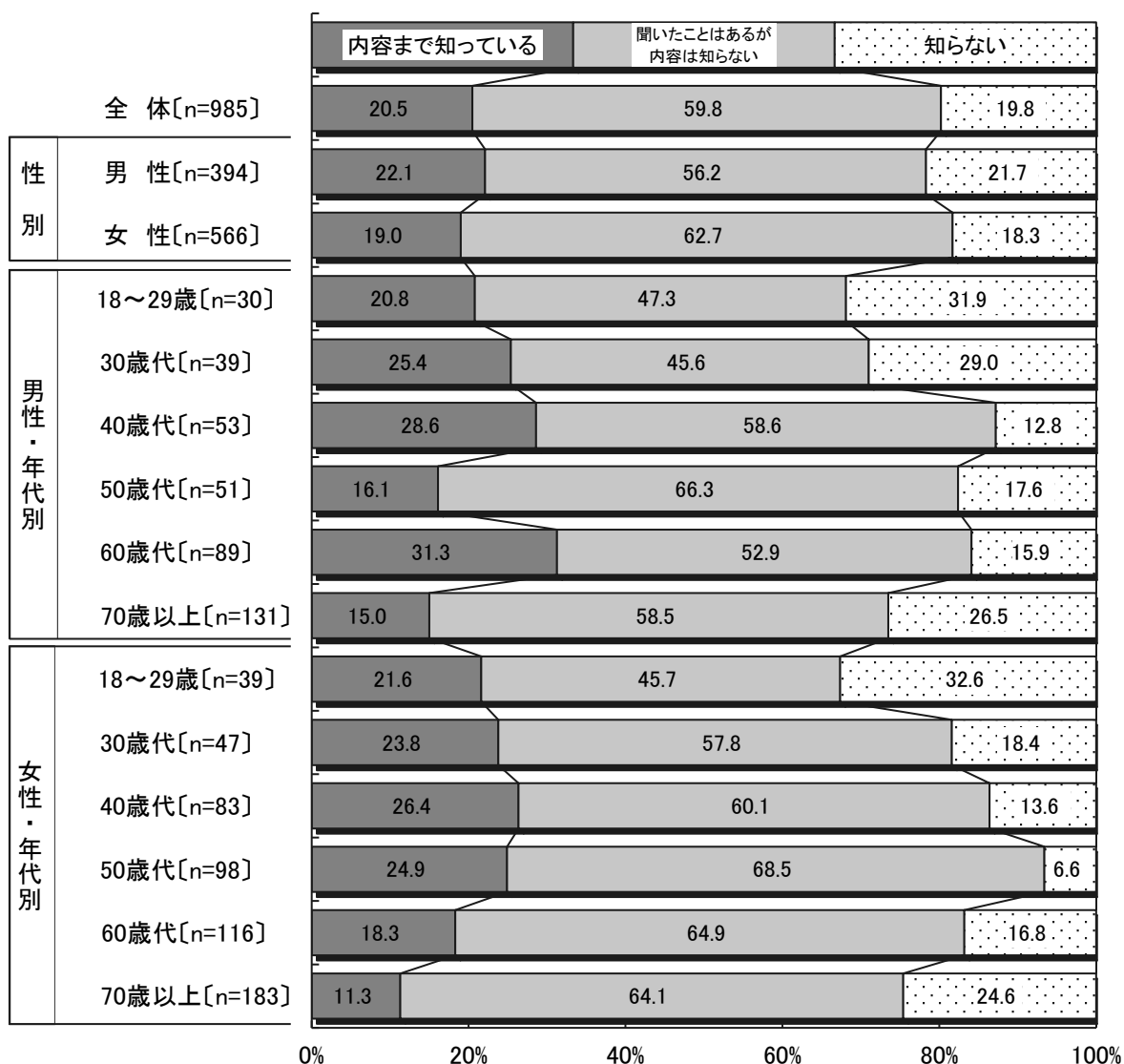
女性は、「聞いたことがあるが内容は知らない」が62.7%と、男性の56.2%より6.5ポイント高い。

【性年代別】

女性50歳代は、『知っている』が93.4%と他の年代より高い。

女性18~29歳, 男性18~29歳, 男性30歳代, 男性70歳以上, 女性70歳以上は、「知らない」がそれぞれ32.6%, 31.9%, 29.0%, 26.5%, 24.6%と, それぞれ他の年代より高い。

20-7図 男女共同参画に関連する言葉や法律の認知度について〔全体・性別・性年代別〕
(カ 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律(DV防止法))



キ ワーク・ライフ・バランス

『知っている』 48.3%, 「知らない」 51.6% ⇒ ほぼ二分されている

【全体】

「知らない」が51.6%と最も高い。「聞いたことがあるが内容は知らない」は31.5%であり、「内容まで知っている」の16.8%を合わせた、『知っている』は48.3%となっている。

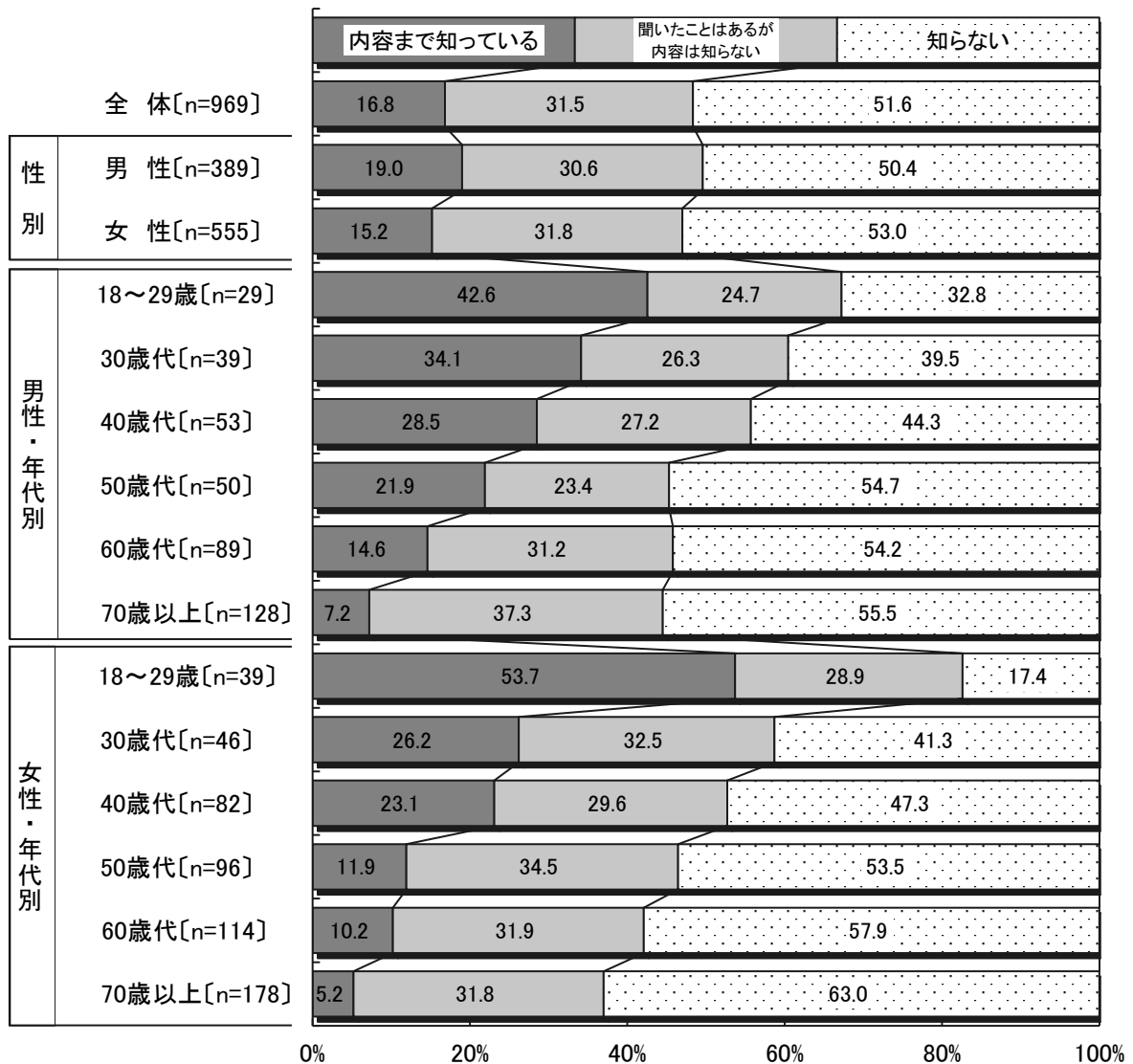
【性別】

特に大きな差異はない。

【性年代別】

女性18～29歳と男性18～29歳は、「知っている」がそれぞれ53.7%、42.6%と他の年代より高い。年代が上がるほど「知らない」が高くなっている。

20-8図 男女共同参画に関連する言葉や法律の認知度について〔全体・性別・性年代別〕
(キ ワーク・ライフ・バランス)



ク ジェンダー

『知っている』70.5%, 「知らない」29.6% ⇒ 『知っている』が40.9ポイント高い

【全体】

「聞いたことがあるが内容は知らない」が39.6%と最も高い。「内容まで知っている」の30.9%を合わせた、『知っている』は70.5%であり、「知らない」29.6%より40.9ポイント高い。

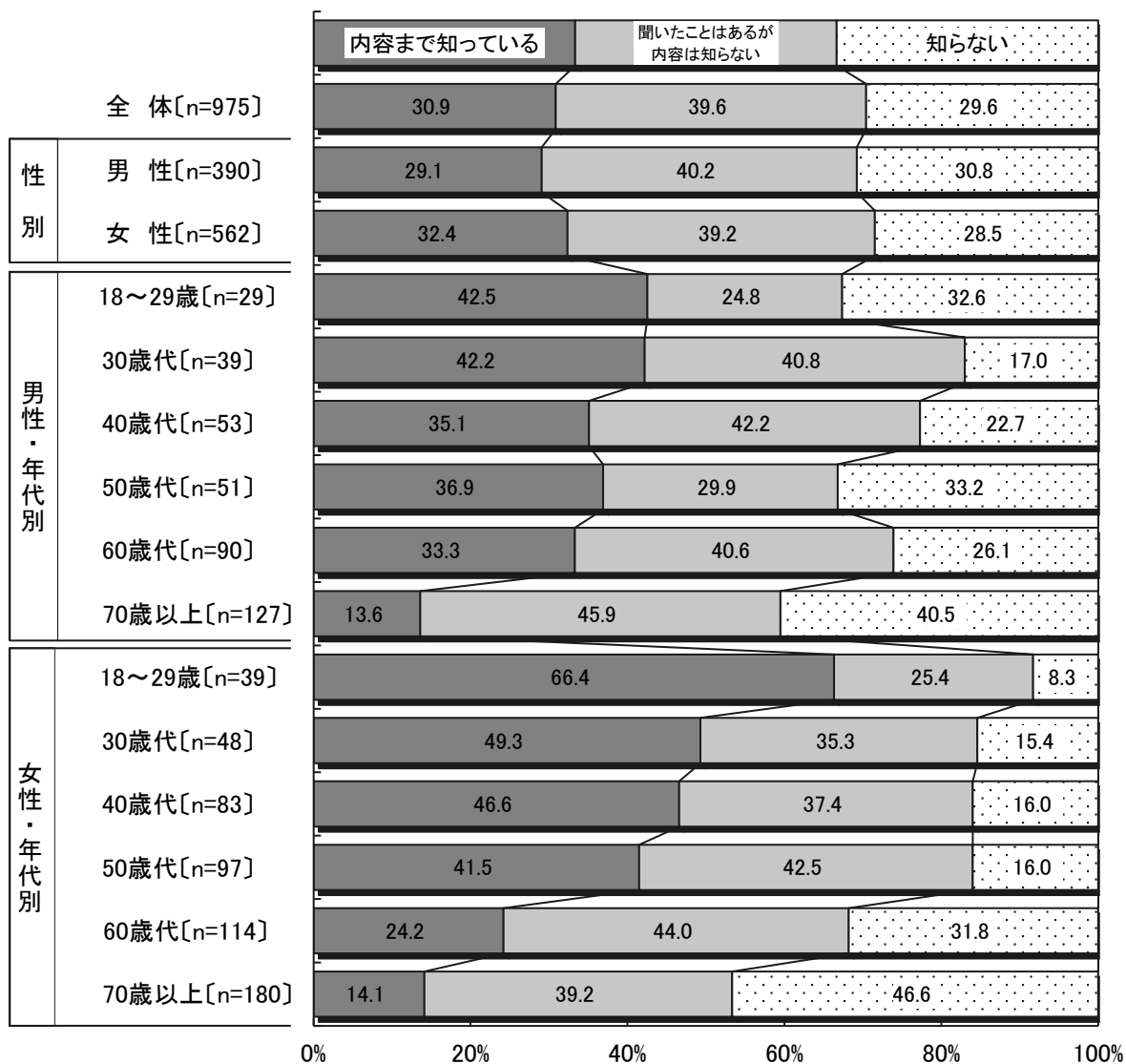
【性別】

特に大きな差異はない。

【性年代別】

男性30歳代と女性の60歳未満の各年代は、『知っている』が8割を上回り、他の年代より高い。女性70歳以上と男性70歳以上は、「知らない」がそれぞれ46.6%, 40.5%と、他の年代より高くなっている。

20-9図 男女共同参画に関連する言葉や法律の認知度について〔全体・性別・性年代別〕
(ク ジェンダー)



ケ SDGsゴール5（ジェンダー平等の達成）

『知っている』47.3%, 「知らない」52.7% ⇒ 「知らない」が5.4ポイント高い

【全体】

「知らない」が52.7%と最も高い。「聞いたことがあるが内容は知らない」は34.4%であり、「内容まで知っている」の12.9%を合わせた、『知っている』は47.3%となっている。

「知らない」は『知っている』より5.4ポイント高い。

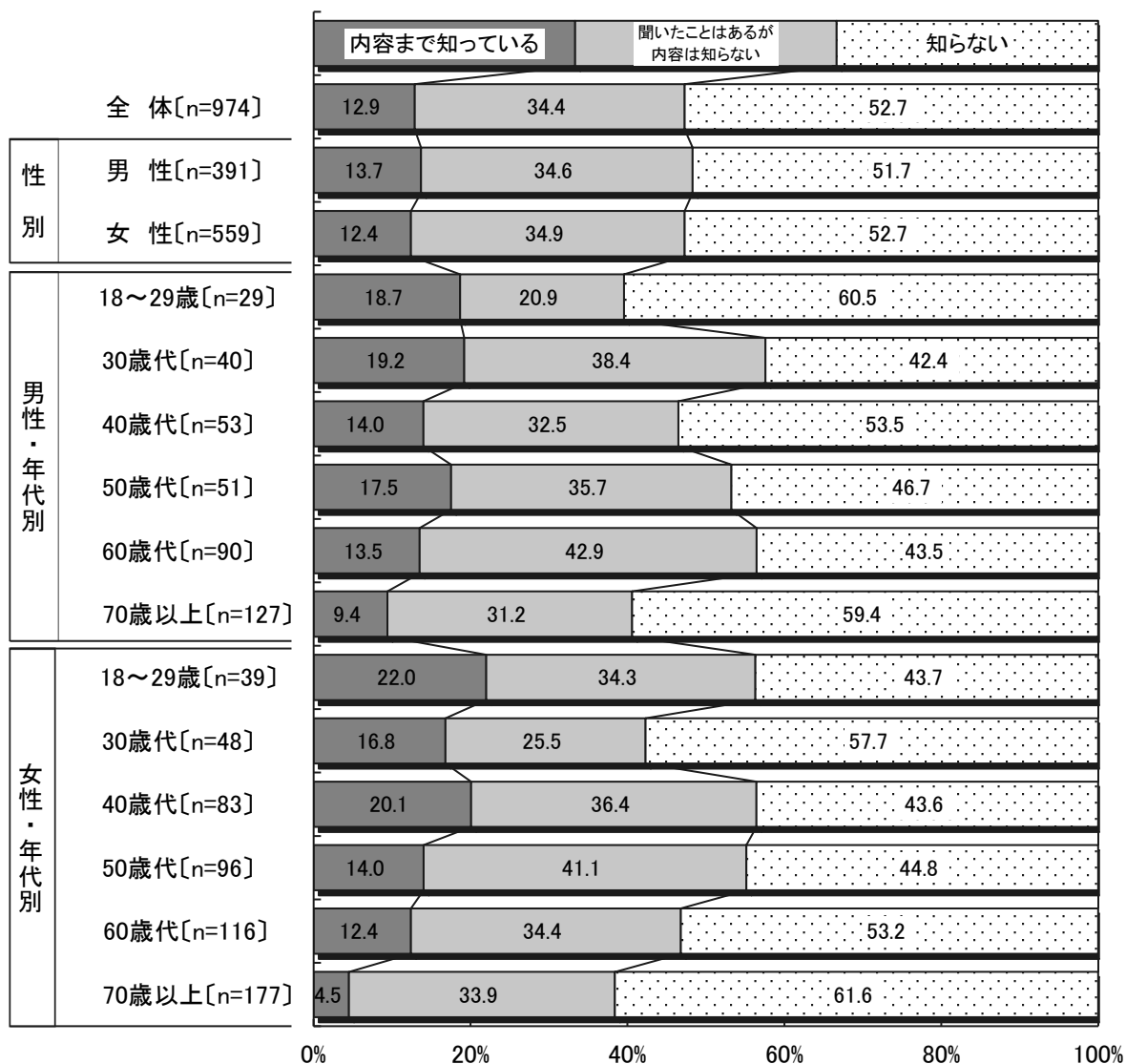
【性別】

特に大きな差異はない。

【性年代別】

男性30歳代、男性50歳代、男性60歳代、女性18～29歳、女性40歳代、女性50歳代は、『知っている』がそれぞれ5割を上回り、他の年代より高くなっている。

20-10図 男女共同参画に関連する言葉や法律の認知度について〔全体・性別・性年代別〕
(ケ SDGsゴール5（ジェンダー平等の達成）)



コ LGBT

『知っている』60.9%, 「知らない」39.1% ⇒ 『知っている』が21.8ポイント高い

【全体】

「聞いたことがあるが内容は知らない」が33.9%と最も高い。「内容まで知っている」の27.0%を合わせた、『知っている』は60.9%であり、「知らない」39.1%より21.8ポイント高い。

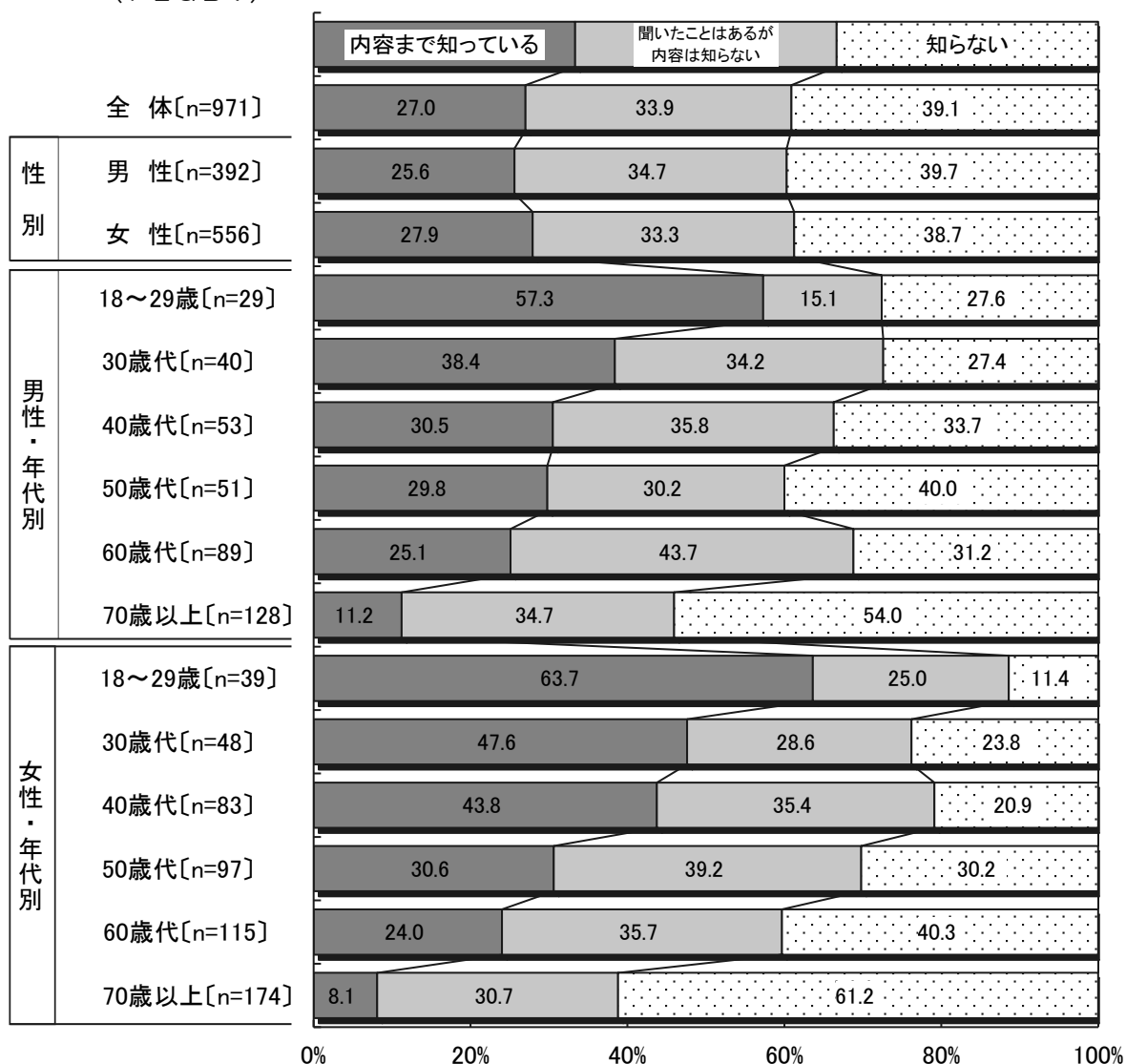
【性別】

特に大きな差異はない。

【性年代別】

男性の70歳未満の各年代は『知っている』が6割を上回っているが、男性70歳以上は45.9%と他の男性の年代より低い。女性は年代が上がるほど「知らない」が高くなっている。

20-11図 男女共同参画に関連する言葉や法律の認知度について〔全体・性別・年代別〕
(コ LGBT)



サ パートナーシップ制度

『知っている』67.2%, 「知らない」32.8% ⇒ 『知っている』が34.4ポイント高い

【全体】

「聞いたことがあるが内容は知らない」が50.5%と最も高い。「内容まで知っている」の16.7%を合わせた、『知っている』は67.2%であり、「知らない」32.8%より34.4ポイント高い。

【性別】

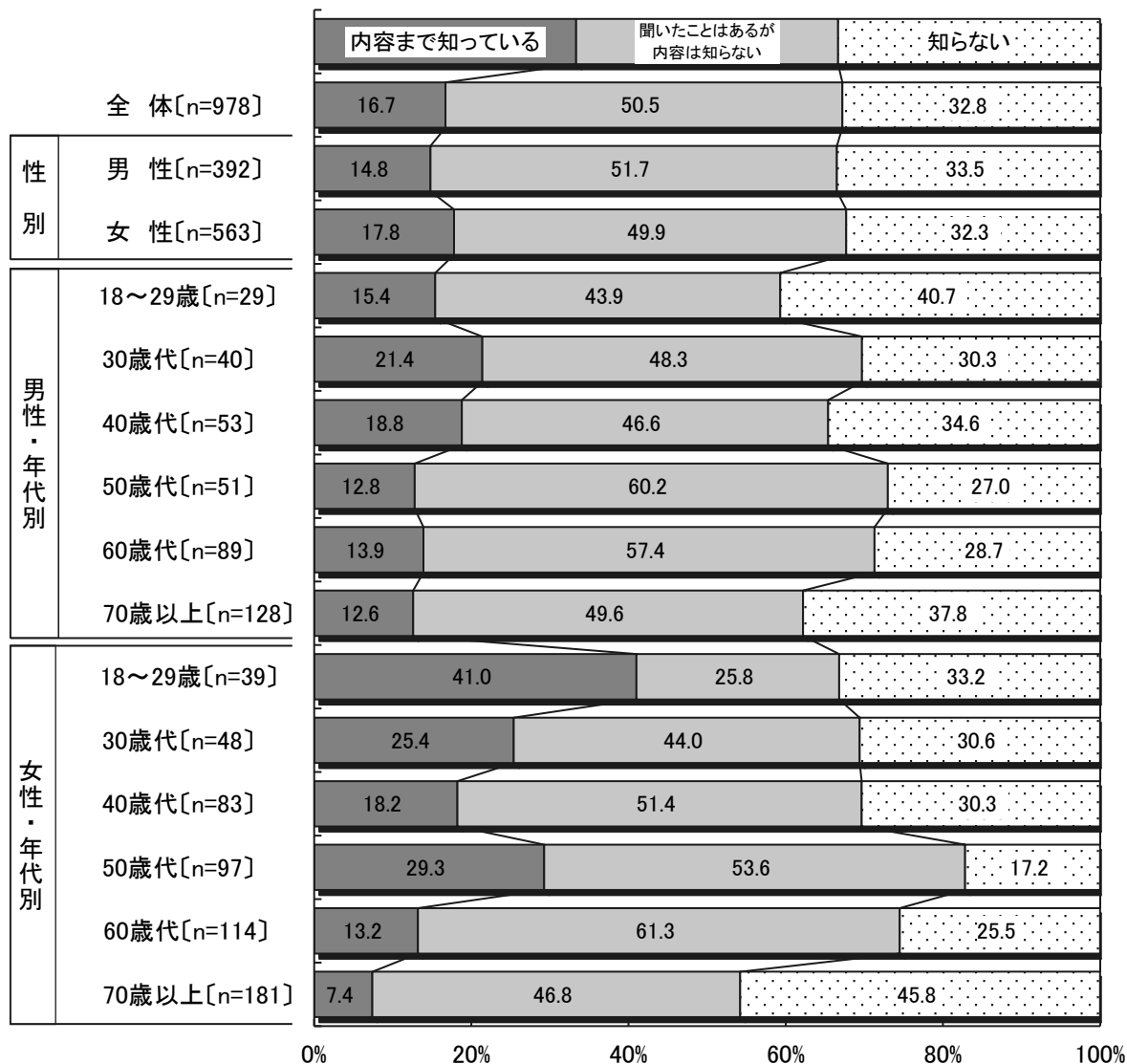
特に大きな差異はない。

【性年代別】

女性50歳代は、『知っている』が82.9%と他の年代より高い。女性18～29歳は、「内容まで知っている」が41.0%と他の年代より高い。

女性70歳以上は、「知らない」が45.8%と他の年代より高くなっている。

20-12図 男女共同参画に関連する言葉や法律の認知度について〔全体・性別・性年代別〕
(サ パートナーシップ制度)



シ 選択的夫婦別姓

『知っている』84.0%, 「知らない」16.1% ⇒ 『知っている』が67.9ポイント高い

【全体】

「聞いたことがあるが内容は知らない」が47.1%と最も高い。「内容まで知っている」の36.9%で合わせた『知っている』は84.0%であり、「知らない」16.1%より67.9ポイント高い。

【性別】

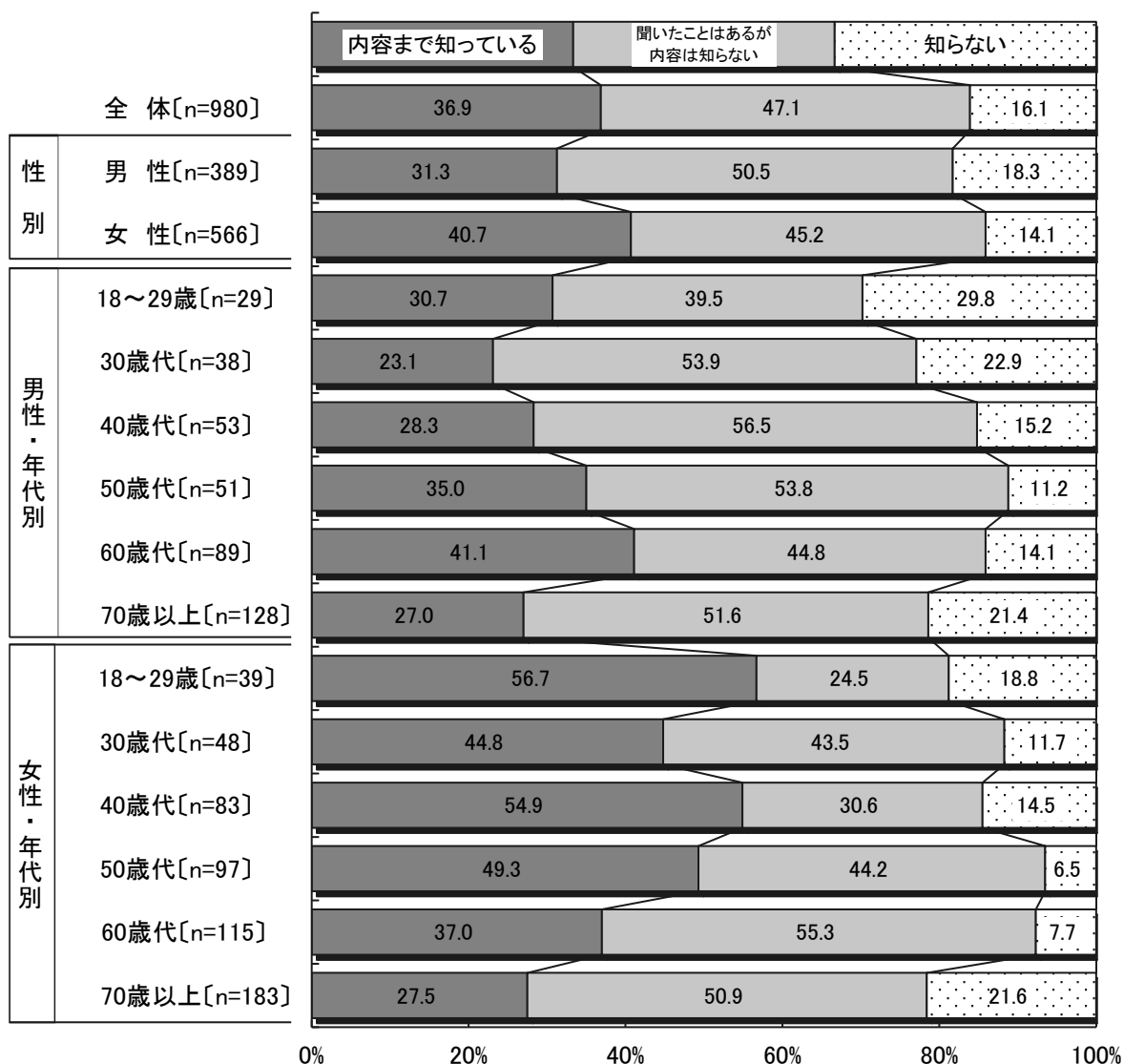
女性は、「内容まで知っている」が40.7%と、男性の31.3%より9.4ポイント高く、男性は、「聞いたことがあるが内容は知らない」が50.5%と、女性の45.2%より5.3ポイント高い。

【性年代別】

女性18～29歳と女性40歳代は、「内容まで知っている」がそれぞれ56.7%、54.9%と他の年代より高い。

男性18～29歳は、「知らない」が29.8%と他の年代より高くなっている。

20-13図 男女共同参画に関連する言葉や法律の認知度について〔全体・性別・年代別〕
(シ 選択的夫婦別姓)



(21) 男女共同参画を推進する上で、力を入れて取り組むべきことについて〔複数回答〕

問 21 呉市が男女共同参画を推進する上で、どのようなことに力を入れて取り組むべきだと思いますか。○はいくつでも

※上位の項目	「子育て支援の充実」	52.9%
	「男女共同参画に関する情報の提供」	50.5%
	「高齢者や障害のある人への支援の充実」	49.9%
	「相談窓口の充実」	48.5%

※それぞれ、回答比率の差が信頼区間未満のため順位は記載しない。

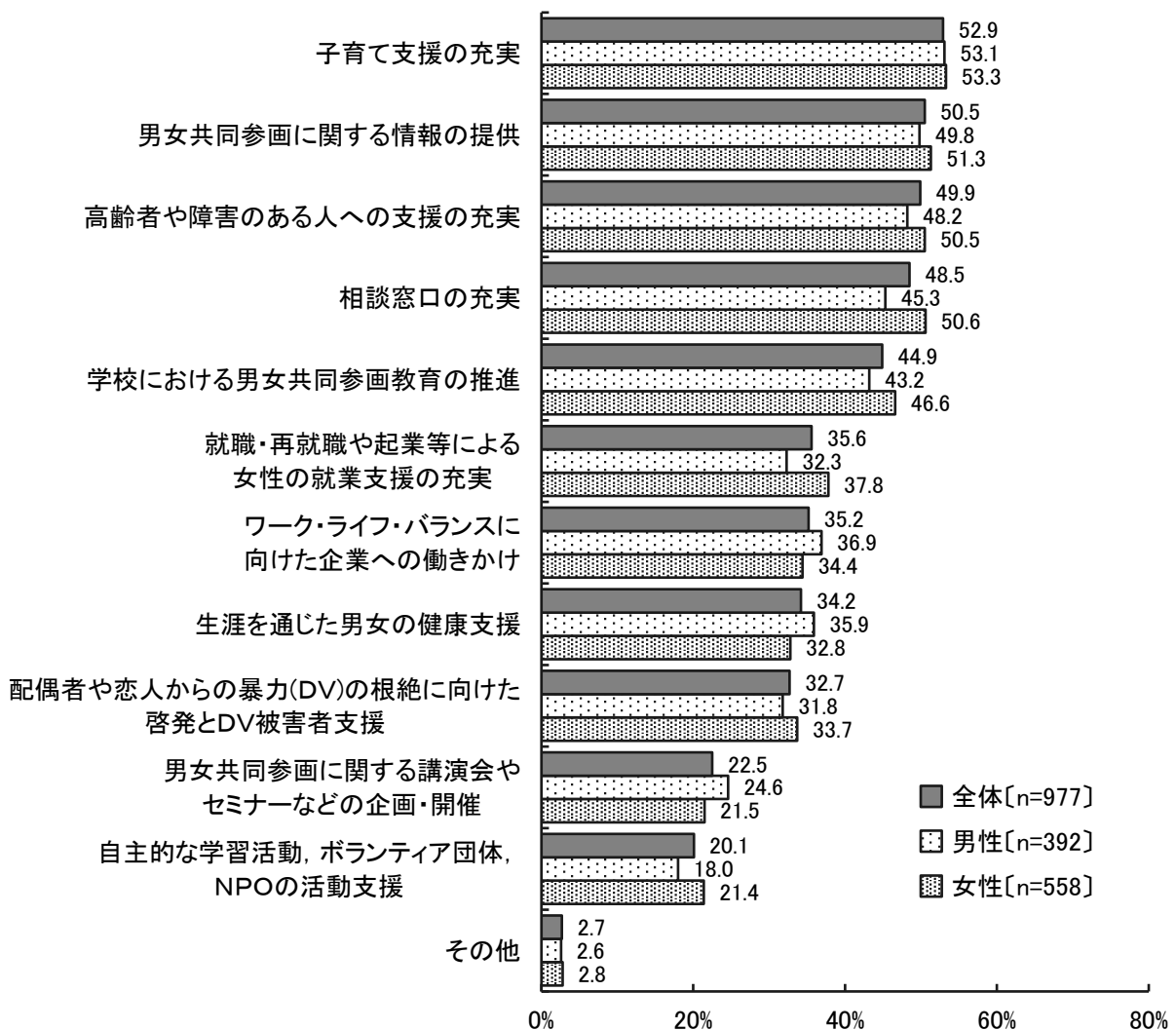
【全体】

「子育て支援の充実」が52.9%、「男女共同参画に関する情報の提供」が50.5%、「高齢者や障害のある人への支援の充実」が49.9%、「相談窓口の充実」が48.5%と高く、「学校における男女共同参画教育の推進」が44.9%と続く。

【性別】

女性は、「相談窓口の充実」が50.6%と男性の45.3%より5.3ポイント、「就職・再就職や起業等による女性の就業支援の充実」が37.8%と男性の32.3%より5.5ポイント、それぞれ高い。

21-1図 男女共同参画を推進する上で、力を入れて取り組むべきことについて〔全体・性別〕



【年代別】

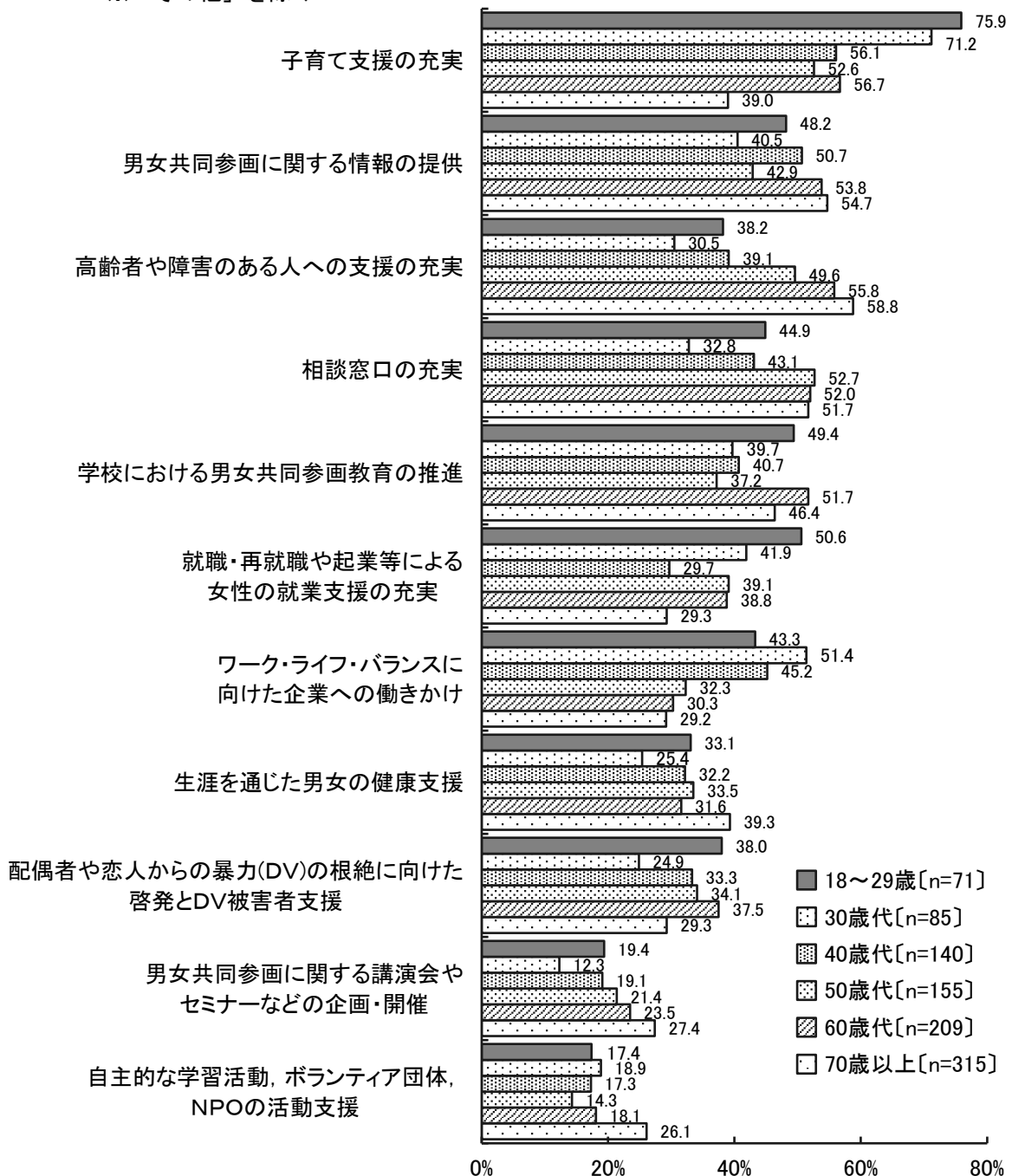
18～29歳と30歳以上は、「子育て支援の充実」がそれぞれ75.9%、71.2%と他の年代より高い。また、70歳以上を除く各年代で（50歳代は「相談窓口の充実」52.7%と並んで）、「子育て支援の充実」は回答した割合が最も高い。

70歳以上と60歳代は、「高齢者や障害のある人への支援の充実」がそれぞれ58.8%、55.8%と他の年代より高い。また、70歳以上では回答した割合が最も高くなっている。

70歳以上、60歳代、40歳代、18～29歳は、「男女共同参画に関する情報の提供」がそれぞれ54.7%、53.8%、50.7%、48.2%と他の年代より高い。

18～29歳は、「就職・再就職や起業等による女性の就業支援の充実」が50.6%と高く、30歳代、40歳代、18～29歳は、「ワーク・ライフ・バランスに向けた企業への働きかけ」がそれぞれ51.4%、45.2%、43.3%と他の年代より高くなっている。

21-2図 男女共同参画を推進する上で、力を入れて取り組むべきことについて〔年代別〕
※「その他」を除く



IV. 自由回答の一覧

1. 自由回答の記入状況

男女共同参画実現に向けて、意見や要望等を求めたところ、合計80人から、103件の回答が得られた。

(1) 記述者数

年 代	性 別			計
	男 性	女 性	無回答・ 答えたくない	
18～29 歳代	2	7	1	10
30 歳代	4	3	-	7
40 歳代	6	10	1	17
50 歳代	2	8	1	11
60 歳代	4	7	-	11
70 歳以上	12	11	-	23
無回答・答えたくない		1	-	1
合 計	30	47	3	80

2. 分野別意見数

回答者によっては、複数の意見を記述している者もいるため、意見件数と記述者数は一致しない。

分 野	件数
1. 家庭生活における男女共同参画についての意見	6
2. 職場における男女共同参画についての意見	7
3. 仕事と家庭生活、地域活動、市民活動の両立についての意見	3
4. 子育て（子どもの教育）についての意見	4
5. 男女の人権の尊重について	5
6. 男女共同参画社会づくりのための法律や施策についての意見	51
7. その他市政一般についての意見	15
8. その他	10
9. 分からない	2
合 計	103

3. 自由意見（要約）一部抜粋

●家庭生活について

- ◇ 近所のご主人も中学生男子も、ゴミ出しもするし洗たくも干したりとり入れたりしています。協力し合いながら思いやりをもって相談しながら進めればいいのではないかと思います。（女性・60歳代）
- ◇ お給料が昔ほどUPしないこの時代に、共働きは必要なのに、男性が家事や育児をしないのはやはりおかしいと思います。（女性・40歳代）
- ◇ 出産後の職場復帰は夫の協力や両親の手助けがないと難しい現状。同僚が2名いましたが、ワンオペ育児、子供の体調不良で出勤がままならず、精神的に追いつめられてしまい、退職しました。子供の父親が看病のため休むのは少しずつですがごく最近職場でもみられるようになってきました。これが当り前の認識になって欲しいと思います。子育てしながら働けるよう保育園と小児科・病児保育の連携を図って欲しいです。（女性・30歳代）
- ◇ 男性も女性も家事や仕事は平等がいいと思います。（女性・50歳代）

●職場について

- ◇ 私の夫は、長男が生まれた12年ほど前、育児休暇をとろうとしたが、制度が整ってなかった為、有休を2週間とり、私が仕事復帰する際に協力してくれました。その時の職場の反応は、やはり冷たく、取りにくい雰囲気だったと聞いています。また、私が育児をしていないのでは？と思われるのが心配と私の母親が気にしていたのを思い出します。（女性・40歳代）
- ◇ 共働きしなければ生活は豊かにならない現代をよほどの資格を持たない限り男性の方が収入が多く、子育てに育休などしたら生活が苦しくなるばかり。女性の収入上げて下さい。景気が悪くて大きな声では言えないけど、最低賃金上げて会社は賃金支払い大丈夫ですかね？外国人がふえるばかりだと思うけど。仕事をふやす事考えてもらえたら良いのですが。残業してやっとプラスですよ。実際…。（男性・40歳代）
- ◇ 全ての会社が定時を守らないかぎり、男女共に家庭育児はむずかしい。結局は母親の負担の下なりたっている。日本の共働きである。（女性・40歳代）

●子育て（子どもの教育）について

- ◇ 小学校の出席番号を男女別にすることはやめてほしいです。子供の頃から「男が先」という固定概念を無意識のうちにくっつけてしまいます。（女性・40歳代）
- ◇ 例えば、男女共同参画の講義を学校等で行うとして、男の人が講義をする方が良いと思う。既婚者の男の人が「私も家では～」と経験として話すことで、学生は「それが普通なのか」と男の人にも入ってきやすいのではないかと思います。（女性・18～29歳）

●男女の人権の尊重について

- ◇ 男女が平等である事が目的であるとするならば、男女個人が仕事にしろ、家族にしろ、行いたいと思う事を選べる事が大事であり、例えば、仕事ができないからよくない、仕事ができるからいい、という訳ではないと思っています。（男性・50歳代）
- ◇ 産後うつ、ネグレスト、DVなどたくさんの問題…。男性自身の意識の改革、行政から企

業、職場への働きかけが必要。そして、それに対して女性は感謝する気持ち（お互いですが）を持って相手を思いやる気持ちも大事だなあと感じます。ぜひ、行政の力で問題に取り組んでいただけたらと思います。（女性・40歳代）

●男女共同参画社会づくりのための法律や施策について

- ◇ 徹底的な男女平等を実現すべき。（男性・40歳代）
- ◇ 何歳になっても、入学できる学校（通信教育でも）を作ってほしい。手に職の無い人が、手に職をつけてバリバリ活躍できるように、安い費用で学ぶ機会が与えられたら嬉しいです。みんな、人の役に立ちたいと思っても、自分をうまく活かさない人々も多いはず。子供の手がはなれた主婦。定年退職した人などが学び直せる機会を下さい。（女性・40歳代）
- ◇ 事実婚です。会社で名字が通っているので、主人の名字にたくありませんので。そうすると、近所では気になります。主人が病院に入院した時は、書類がめんどろです。もう少し、住みやすい市にしてほしいと思います。堂々と住めていない気がします。（女性・50歳代）
- ◇ 男女共同参画とは何ですか？漠然としたぼんやりとしたものしかなく、具体的な事や、これを行う事による目的、目標といったものが分からないので、アンケートにきちんと答える事ができていません。すみません。（男性・50歳代）
- ◇ 育児サポートがあっても、それを利用している人に対する無理解な人、社会があれば、その有意義な制度も利用されず理解も進まない。介護や福祉も同じだし、サポートを受けたい人も等級制度で、支援を受けられず困っている。平等という名の元で、苦しんでいる人がいて、真に支援が必要な人は、グレーゾーンに多く感じる。（女性・40歳代）
- ◇ 達成事項を知りたい。（正直、何をして、何か改善されているか分からない）（女性・40歳代）
- ◇ 若い人達は、呉市が何を行っているのか全く知らないと思うので、こういうアンケートを定期的に行うのは良い事だと思った。（このアンケートを見て自分も知ったので）（女性・18～29歳）
- ◇ アンケートに参加させて頂き男女共同参画等について知らない事が多いと認識しました。これからは情報を知っていきたいと思っております。（男性・60歳代）

<資料> 調査票

男女共同参画市民アンケート調査

アンケートご協力をお願い

市民の皆様には、日ごろから市政へのご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。
呉市では、男女が互いに人権を尊重し、その個性と能力を十分に発揮できる男女共同参画社会の実現に向けて、さまざまな取組みを進めています。

このたびお願いしているアンケート調査は、市民の皆様の男女共同参画に関する考えなどをお伺いし、今後の施策に活かすための基礎資料とすることを目的に実施するものです。

調査は、市内にお住まいの18歳以上の方から無作為に抽出した2,500人の方をお願いしています。ご回答は無記名で、内容はすべて統計的に処理を行いますので、個人が特定されることはありません。また、アンケート結果を他の目的に使用することはありません。

お忙しいところ誠に恐縮ですが、調査の主旨をご理解いただき、ご協力いただきますようお願いいたします。

令和3年7月

呉市

ご記入にあたってのお願い

- このアンケートは、封筒のあて名のご本人が回答してください。
- 回答者様の氏名や住所を記入する必要はありません。
- 質問ごとに、あてはまる回答の番号を選び、○で囲んでください。
「その他」にあてはまる場合は、() 内にその内容を具体的に記入してください。
- 質問によっては、回答していただく方が限られる場合があります。
→ (矢印) や【 】 内に説明がある場合は、その指示にそって記入してください。
- 記入は、調査票に直接、鉛筆、またはボールペンで記入してください。

すべての記入が終わりましたら、お手数ですが、同封の返信用封筒に入れて、
令和3年8月28日(土)までに郵便ポストに投函してください。
※切手を貼る必要はありません。

<問い合わせ先>

呉市 市民部 人権・男女共同参画課
〒737-8501 呉市中央4丁目1番6号
電話：(0823) 25-3476
FAX：(0823) 26-6267
メール：zinken@city.kure.lg.jp

家庭生活における男女共同参画についておたずねします。

問1 「男は仕事，女は家庭」といった性別によって男女の役割を固定する考え方（固定的役割分担意識）についてあなたの考えを教えてください。○は1つだけ

- 1 賛成する 2 どちらかといえば賛成する
3 どちらかといえば賛成しない 4 反対する
5 わからない

【現在結婚している方のみにおたずねします】

問2-1 あなたの家庭の役割分担は，どのようにしていますか。
それぞれについて1～6のいずれかに○

	主に夫	主に妻	夫・妻 で半々	夫・妻 以外の 家族	家族で 協力	該当 しない
ア 食事の支度	1	2	3	4	5	6
イ 食事のかたづけ	1	2	3	4	5	6
ウ 掃除	1	2	3	4	5	6
エ 洗濯	1	2	3	4	5	6
オ 育児・子育て	1	2	3	4	5	6
カ 介護・看護	1	2	3	4	5	6
キ 生活費を得ること	1	2	3	4	5	6
ク 重大事項の決定 (高額な商品や土地・家屋の購入など)	1	2	3	4	5	6
ケ 家計の管理	1	2	3	4	5	6
コ 自治会等の地域活動への参加	1	2	3	4	5	6
サ PTA活動等の学校行事への参加	1	2	3	4	5	6

【現在結婚している方のみにおたずねします】

問2-2 あなたは家庭での役割分担について，どのように感じていますか。○は1つだけ

- 1 満足している 2 どちらかといえば満足している
3 どちらかといえば不満である 4 不満である

問3 あなたは，一般的に女性が職業をもつことについて，どのように思いますか。
○は1つだけ

- 1 女性は職業をもたない方がよい(専業主婦型)
2 結婚するまでは，職業をもつ方がよい(結婚退職型)
3 子どもができるまでは職業をもち，子どもができたなら辞める方がよい(出産退職型)
4 結婚・出産に関わらず，ずっとフルタイムで職業を続ける方がよい(職業継続型)
5 子どもができたなら辞め，大きくなったら再び職業をもつ方がよい(再就職型)
6 家事・育児に影響がない程度で，パートタイマーやアルバイトをする方がよい(家事優先型)
7 その他 ()

【現在、お勤めしている方のみにおたずねします】

問4 あなたの職場の現状にあてはまることは、次のうちどれですか。○はいくつでも

- 1 募集・採用・配属に男女差がある
- 2 仕事の内容・分担に男女差がある
- 3 能力・成果の評価に男女差がある
- 4 教育訓練の機会を男女が平等に与えられていない
- 5 休暇の取りやすさに男女差がある
- 6 女性は、結婚・出産等により早期退職する慣習がある
- 7 お茶くみやコピー等の雑用は、女性の役割という慣習がある
- 8 あてはまるものはない

【現在、お勤めしている方のみにおたずねします】

問5-1 あなたは、管理職に昇進できるのであれば、昇進したいと思いますか。

○は1つだけ

- 1 昇進したい
- 2 どちらかといえば昇進したい
- 3 どちらかといえば昇進したくない
- 4 昇進したくない

問5-2へ

【問5-1で、3または4を選択した方のみ】

問5-2 どのような状況が整えられたら昇進したいと思いますか。○はいくつでも

- 1 給与額が自分の希望に合うなら
- 2 長時間労働がなければ
- 3 管理職の仕事が魅力あるものに思えれば
- 4 休業・休暇がとりやすければ
- 5 育児・介護等が必要なくなれば
- 6 家族の理解・協力があれば
- 7 どのような状況でも昇進したいと思わない
- 8 その他 ()

問6 あなたは、女性が出産後も離職せずに同じ職場で働き続けるために、家庭・社会・職場において必要なことは何だと思えますか。○はいくつでも

- 1 保育所、認定こども園、幼稚園、放課後児童会など、子どもを預けられる環境整備
- 2 介護支援サービスの充実
- 3 家事・育児支援サービスの充実
- 4 男性の家事参加への理解・意識改革
- 5 女性が働き続けることへの周囲の理解・意識改革
- 6 働き続けることへの女性自身の意識改革
- 7 男女双方の長時間労働の改善を含めた働き方改革
- 8 職場における育児・介護との両立支援制度の充実
- 9 短時間勤務制度や在宅勤務（テレワーク）などの実施
- 10 育児や介護による仕事への制約を理由とした昇進などへの不利益な取扱いの禁止
- 11 その他 ()
- 12 特にない

問7 育児・介護休業制度は、男女がともに取得できる制度ですが、男性の利用者が少ないのが現状です。その理由は何だと思えますか。○はいくつでも

- 1 制度利用後の待遇面が心配だから
- 2 取得する必要がないから
- 3 職場に迷惑がかかると思うから
- 4 休業取得に対し、職場の理解が得られないから
- 5 仕事が忙しくて利用できないから
- 6 収入減になるから
- 7 他の休暇で対応できるから
- 8 子育てや介護は、女性の役割だと思うから
- 9 男性が育児・介護休業を取得できることを知らないから
- 10 会社で制度を利用した前例がない、男性が取得した前例がないから
- 11 その他 ()

問8 男女がともに仕事と家庭を両立できる職場環境をつくるために、どのようなことが必要だと思えますか。○は3つまで

- 1 労働時間を短縮すること
- 2 有給休暇等を取得しやすい企業風土をつくること
- 3 育児・介護休業制度を利用しやすくすること
- 4 育児や介護が理由で退職した従業員を再雇用する制度を導入すること
- 5 育児・介護休業中の給付金を充実すること
- 6 在宅勤務やフレックスタイム制度等、柔軟な働き方ができる勤務制度を導入すること
- 7 社内託児所の設置等、子育て支援を充実すること
- 8 経営者や管理職の意識を改革すること
- 9 その他 ()

地域活動、市民活動における男女共同参画についておたずねします。

問9-1 あなたは、地域活動や市民活動に現在参加していますか。○は1つだけ

1 参加している

2 参加していない

問10へ

問9-2へ

【問9-1で「2 参加していない」と回答された方のみにおたずねします】

問9-2 あなたが、現在、活動に参加していない理由は何ですか。○はいくつでも

- 1 情報がないから
- 2 きっかけがないから
- 3 忙しく、時間がとれないから
- 4 家族が協力的ではないから
- 5 関心がないから
- 6 その他 ()

次ページ
へ

問10 あなたは、地域活動等の現状についてどのように思いますか。○はいくつでも

- 1 男性の参加が少ない
- 2 団体の会長に男性がつき、女性は補助的役職につく慣行がある
- 3 活動の準備や後かたづけ等は、女性がやる慣行がある
- 4 会議等で女性が発言しにくい雰囲気がある
- 5 女性は役員等の責任のある仕事につきたがらない
- 6 男女が平等に活動している
- 7 その他 ()

仕事と家庭生活、地域活動・市民活動の両立についておたずねします。

問11 あなたの生活における優先度について、あなたの**現実と理想**にいちばん近いものを、次の中から選んでください。**現実と理想**それぞれについて1～5のいずれかに○

		優先している	どちらかといえば優先している	どちらともいえない	どちらかといえば優先していない	優先していない
「 現実 」の優先度	ア あなたの生活における「仕事」の優先度	1	2	3	4	5
	イ あなたの生活における「家庭生活」の優先度	1	2	3	4	5
	ウ あなたの生活における「個人の時間」の優先度	1	2	3	4	5
	エ あなたの生活における「地域活動やボランティアなどの市民活動での活動時間」の優先度	1	2	3	4	5
「 理想 」の優先度	ア あなたの生活における「仕事」の優先度	1	2	3	4	5
	イ あなたの生活における「家庭生活」の優先度	1	2	3	4	5
	ウ あなたの生活における「個人の時間」の優先度	1	2	3	4	5
	エ あなたの生活における「地域活動やボランティアなどの市民活動での活動時間」の優先度	1	2	3	4	5

問12 あなたは、今後、男性が女性とともに、家事、育児、介護、地域活動やボランティアなどの市民活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。○は3つまで

- 1 男性の家事参加に対して抵抗感をなくすこと
- 2 夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくすること
- 3 まわりの人が、夫・妻の役割分担等について当事者の考え方を尊重すること
- 4 男性が家事等に参加することの社会的評価を高めること
- 5 子どもたちに対して、学校等で男女平等意識を育てる教育を推進すること
- 6 男女の固定的役割分担意識をなくすための啓発活動をさらに進めること
- 7 男性の家事等への関心を高めるよう、啓発や情報提供を行うこと
- 8 講習会や研修等を行い、男性の家事等の技能を高めること
- 9 仕事以外の時間を多く持てるような勤務制度を普及させること
- 10 男性が家事等を行うための仲間（ネットワーク）づくりをすすめること
- 11 男性自身が、働き方を工夫して労働時間の削減をすすめること
- 12 その他（)

子育てについておたずねします。
(お子さまの有無に関わらず、全員がお答えください。)

問13 あなたは、子どもの育て方に関する次のような方針について、どのように考えていますか。それぞれについて1～5のいずれかに○

	賛成	どちらか といえば 賛成	どちらか といえば 反対	反対	わからない
ア 男女とも経済的自立ができるように育てる	1	2	3	4	5
イ 男女とも身の回りの家事ができるように育てる	1	2	3	4	5
ウ 男の子は男らしく、女の子は女らしく育てる	1	2	3	4	5
エ 男は仕事、女は家庭を守るように育てる	1	2	3	4	5
オ 性別に関わらず子どもの個性を大切に育てる	1	2	3	4	5

問14 自分の子どもに受けさせたい教育（最終学歴）についてあてはまるものに○をつけてください。○はそれぞれ1つずつ

① 男の子の場合	1 高校	2 短期大学, 各種学校, 専修学校	3 大学	4 大学院	5 その他 ()
② 女の子の場合	1 高校	2 短期大学, 各種学校, 専修学校	3 大学	4 大学院	5 その他 ()

問15 父親が子育てに関わることについてどのように考えますか。○はいくつでも

- 1 父親も育児を行うことは当然だ
- 2 子どもに良い影響を与える
- 3 父親自身に良い影響を与える
- 4 育児は女性の方が向いている
- 5 仕事と両立させることは、現実として難しい
- 6 母親が育児をしていないと誤解される
- 7 その他 ()
- 8 特にない

男女の人権の尊重についておたずねします。

問16 あなたは、次のような事柄における男女の平等について、どのように感じますか。それぞれについて1～6のいずれかに○

	男性の方が 優遇されている	どちらかといえば 男性の方が 優遇されている	平等である	どちらかといえば 女性の方が 優遇されている	女性の方が 優遇されている	わからない
ア 家庭生活	1	2	3	4	5	6
イ 就職や職場	1	2	3	4	5	6
ウ 地域活動	1	2	3	4	5	6
エ 学校教育	1	2	3	4	5	6
オ 法律や制度	1	2	3	4	5	6
カ 社会の通念や慣習	1	2	3	4	5	6
キ 政治や政策決定の場	1	2	3	4	5	6
ク 社会全体	1	2	3	4	5	6

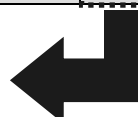
問17 あなたは、配偶者や恋人の間で行われる次のような行為を暴力だと思えますか。
それぞれについて1～3のいずれかに○

	暴力だと思 う	暴力の場合と そうでない 場合がある	暴力だと思 わない
ア 手でぶつ・殴る	1	2	3
イ 足でける	1	2	3
ウ 身体を傷つける可能性のある物等で殴る	1	2	3
エ 殴るふりなどをして脅す	1	2	3
オ 相手が嫌がっているのに、性的な行為を要求する	1	2	3
カ 相手が嫌がっているのに、アダルトビデオやポルノ雑誌を見せる	1	2	3
キ 何を言っても長時間無視し続ける	1	2	3
ク 交友関係や携帯電話等を細かく監視する	1	2	3
ケ 「誰のおかげで生活できているんだ」、「かいしよ うなし」など、相手が傷つくようなことを言う	1	2	3
コ 大声でどなる	1	2	3
サ 生活費を渡さない	1	2	3

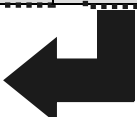
問18-1 あなたは、配偶者や恋人との間で次のような行為を経験したことがありますか。
それぞれについて1～4のいずれかに○

	したことが ある	どちらも ある	されたこと がある	経験は ない
ア 手でぶつ・殴る	1	2	3	4
イ 足でける	1	2	3	4
ウ 身体を傷つける可能性のある物等で殴る	1	2	3	4
エ 殴るふりなどをして脅す	1	2	3	4
オ 相手が嫌がっているのに、性的な行為を要求する	1	2	3	4
カ 相手が嫌がっているのに、アダルトビデオやポルノ雑誌を見せる	1	2	3	4
キ 何を言っても長時間無視し続ける	1	2	3	4
ク 交友関係や携帯電話等を細かく監視する	1	2	3	4
ケ 「誰のおかげで生活できているんだ」、「かいしよ うなし」など、相手が傷つくようなことを言う	1	2	3	4
コ 大声でどなる	1	2	3	4
サ 生活費を渡さない	1	2	3	4

1つでもあったら
問 18-2 へ



すべて4なら
問 19-1 へ



【問 18-1 で1つでも「したことがある」、「どちらもある」、「されたことがある」と回答された方のみにおたずねします】

問 18-2 あなたは、そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。

○はいくつでも

- | | |
|-----------------|---------------------|
| 1 親族に相談した | 2 友人・知人に相談した |
| 3 公的機関に相談した | 4 民間の機関(弁護士会等)に相談した |
| 5 その他 () に相談した | 6 どこ(だれ)にも相談しなかった |

問 19-1 あなたは、これまでに、職場・学校・地域で、次のような経験をしたことがありますか。○はそれぞれ該当するものすべて

	職場	学校	地域	経験はない
ア いやがっているのに卑猥な話を聞かされた	1	2	3	4
イ ヌード写真や卑猥な雑誌を目につくところに置かれたり、はられたりした	1	2	3	4
ウ 「女(男)のくせに」「女(男)だから」と差別的な言い方をされた	1	2	3	4
エ 容姿について傷つくようなことを言われた	1	2	3	4
オ 結婚や異性との交際についてしつこく聞かれた	1	2	3	4
カ 性的な噂を立てられた	1	2	3	4
キ 宴会でお酒やデュエットを強要された	1	2	3	4
ク 身体を触られた、または接触された	1	2	3	4
ケ 帰宅途中などに後をつけられたり、つきまとわれたりした	1	2	3	4
コ 交際を強要された	1	2	3	4
サ 性的行為を強要された	1	2	3	4
シ その他 ()	1	2	3	4

1つでもあったら
問 19-2 へ

すべて4なら
問 20 へ

【問19-1で1つでも「職場」、「学校」、「地域」と回答された方のみにおたずねします】

問 19-2 あなたは、そのことを誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。

○はいくつでも

- | | |
|---------------------|-----------------|
| 1 親族に相談した | 2 上司や同僚に相談した |
| 3 友人・知人に相談した | 4 公的機関に相談した |
| 5 民間の機関(弁護士会等)に相談した | 6 その他 () に相談した |
| 7 どこ(だれ)にも相談していない | |

男女共同参画等についておたずねします。

問 20 あなたは、次の言葉や法律を知っていますか。
それぞれについて1～3のいずれかに○

	内容まで 知っている	聞いたことは あるが内容は 知らない	知らない
ア 男女共同参画社会	1	2	3
イ くれ男女共同参画基本計画	1	2	3
ウ 呉市男女共同参画都市宣言	1	2	3
エ 男女共同参画社会基本法	1	2	3
オ 雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等に関する法律（男女雇用機会均等法）	1	2	3
カ 配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律（DV防止法）	1	2	3
キ ワーク・ライフ・バランス	1	2	3
ク ジェンダー	1	2	3
ケ SDGs ゴール5（ジェンダー平等の達成）	1	2	3
コ LGBT	1	2	3
サ パートナーシップ制度	1	2	3
シ 選択的夫婦別姓	1	2	3

問 21 呉市が男女共同参画を推進する上で、どのようなことに力を入れて取り組むべきだと思いますか。○はいくつでも

- 1 男女共同参画に関する情報の提供
- 2 男女共同参画に関する講演会やセミナーなどの企画・開催
- 3 学校における男女共同参画教育の推進
- 4 ワーク・ライフ・バランスに向けた企業への働きかけ
- 5 配偶者や恋人からの暴力(DV)の根絶に向けた啓発とDV被害者支援
- 6 相談窓口の充実
- 7 子育て支援の充実
- 8 生涯を通じた男女の健康支援
- 9 高齢者や障害のある人への支援の充実
- 10 就職・再就職や起業等による女性の就業支援の充実
- 11 自主的な学習活動, ボランティア団体, NPOの活動支援
- 12 その他 ()

●呉市の男女共同参画に関する施策等について、ご意見やご要望があれば、記入してください。

～ご協力ありがとうございました。～

同封の返信用封筒（切手を貼る必要はありません）に入れて、

令和3年8月28日（土）までに投函してください。

男女共同参画市民アンケート調査
報告書

発行日 令和3年12月

発行 呉市 市民部 人権・男女共同参画課
〒737-8501 呉市中央4丁目1番6号

電話: (0823) 25-3476

FAX: (0823) 26-6267

E-mail: zinken@city.kure.lg.jp